白隱和尚全集（全八卷）總目次

昭和九年九月十日印刷　白隱和尚全集　第四卷
昭和九年九月十五日發行　【奥附】

編纂代表者　後藤光村
東京市赤坂區田町七丁目三番地

發行兼印刷者　草村松雄
東京市芝區田村町六丁目一番地ノ一

印刷所　東洋印刷株式會社

編纂所　白隱和尚全集編纂會
京都市右京區花園妙心寺正法輪社内

發行所　龍吟社
東京市赤坂區田町七丁目三番地
電話赤坂(48)三四〇番
振替東京七〇〇〇番

（第四回配本）

夜中書認候へば、字跡見苦しく、佗見は憚入候。（三河、正宗寺藏）

此の隻手音聲と題するものは、第五卷に收る所の藪柑子と同文のものなりとす。こは岡山侯侍側の女居士に與へて隻手音聲を聞くことを勸めたるものなり。後に篤信の居士の懇請ありて更に書きて與へたり。初の快岩和尙云々の數行多きの異なるのみ。今三河國嵩山正宗寺の秘庫中より此の眞蹟本を發見せるが故に、玻璃版の眞蹟と共に此に收錄して、その眞面目を江湖に呈似することゝせり。見者、その重複を咎ることなくむば則ち好し。　編者記

隻手音聲終

白隱和尙全集第四卷終

拍して失笑す。如何となれば初めは簾（居士）下のために見道入理の至要を書す、書して夜深、人靜かに、半醒半睡の時に到て、覺へず祖道衰滅の悲歎を書する事數十行。熟〱思ふに、市人は道に利を談じ、山人は常に愛して山中の事を説く。老夫亦然り。昨く一僧あり。大唐の寺院一宇も殘らず頽廢する事を告ぐ、老夫聞得て、且驚き且悲しむ、悒々として終日樂まず、終に計らずも其亡る所以の端由を書す。恰も愁人の寤語にも愁思を説く者に似たり。

老夫平生嗟悼し慨念する所以の閑妄想、去りながら皆是讚佛乘の緣にて侍れば、專なき事とな、きらひ玉ひぞ。是を序でに參禪學道の人々の、勇猛精進の一つの助けにもなれかしの寸志斗に候。唯返す〱も、是非〱一回隻手の聲を聞屆け、永劫不退の願輪に鞭ち、菩薩の大行を行じて、法成就に到るべきぞと、間斷なく御精出さるべく候。少分にても隻手の聲を御聞屆けられ候覺へ御座候ば、すておかず書通を以て、仰聞らるべく候。心に浮び來る事ども、前後忘れ、

魚板列り鳴る、喝雷魂をうばひ、棒雨膽を劈く。王侯蓋を列らね、緇素踵をつく、嗟時乎、命乎、未だ二三百年を經ざるに、胡爲ぞ此極に到るや。是天にあらず、是命にあらず、灰心泯智、禪門念佛等の邪黨に傷賊せられ、默照邪禪、無念無心等の魔風に吹倒せられて、遂に此の荒蕪を見る。熟〱思ふに、此等の魔黨は三武の暴逆に過たり。三武は外より責む、是故に久しからずして回復す。七流は内より潰ゆ、是故佛手も醫する事能はず。譬ば傷風と内症との如し、我が日域佛道の壞滅、漸く久しかるべからず。伏して所希ば、英勇傑烈の佛子、義氣憤發の英雄、軀命を惜まず、身財を顧みずして、誓て佛祖不朽の關棙子を蹈飜し、祖師難透の荆棘林を拔却し、禪門向上の堂奧に端踞し、臂に奪命の神符をかけ、口に法窟の爪牙をかみならし、あまねく西東の衲子を惱害して、再び已墜の眞風を挽回し、祖庭孤危の春色を發揚せん事を。

老夫昨夜感ずる處有て、燈下に獨り此法語を書す、書して此に到て覺へず手を

無心の部屬のごとき、老來七旬に近き族に專唱稱名せざるは半箇も又侍らず、然るを特り彼の禪徒を責る事、胡爲ぞ其甚しきや。予が曰く、實に子が言のごとし。原るに、夫我が日域禪門稱名の濫觴は、實に彼其泯水なり、泯水塞がざれば楚江猶ふかし、云ふ事なかれ、鵠林半死の殘喘、何の求る處有てか俄に佗の宗趣を呵すと。予心上裏歎沈鬱忍びざる處有て、驚悲の餘り覺へず此苦言を吐く。譬へば草木の聲なきも、風是を動せば鳴るがごとし。

昨一僧有り。曰く、近頃聞、大唐の禪林、名藍巨刹、徑山、天童、興聖、淨慈、江西、南岳、牛頭、報恩、及び其餘の敎院律寺をさへに、盡く皆頽廢亂壞、一宇も殘らず、寶場は鋤かれて細民の畬となり、聲鐘は鑄られて農父の犁鋤となんぬ。其餘の佛像、經卷、纖塵を留めず。特り慈受の深禪師の遺蹤のみ纔に殘れりといへども、壁壁碎けおち、廊廡傾き頽る。荆棘列り生ひ、藤蔓しげりまどふ、閑神晝る悲しみ、野鬼曉き哭す。嗟古への盛なりし時、鐘鼓遠く傳へて、

決定せしめんがため、如來古へ韋提希獄中の患難を救はんがために、假りにしばらく此一門を設け玉ふがごとし。是故に彼の專唱稱名淨業の宗趣のごときは閣て論せず。儞等身は禪門有て、肩、心宗の法衣を掛け、口に稱名念佛して各々一員の禪徒なりと稱して、却て禪門を汚辱し、宗趣を混亂する事は何ぞや。若し眞正淨業を追慕し、佛名を信受するぞとならば、何ぞ晴やかに淨家に投じて、一員淨業の上人と成て、惣盤を張り、木鉦を居へ、普く四衆を勸メて晝夜に高聲念佛して大事を決定せざる、胡爲ぞ其怪しきや。佗の獅子皮を着て却て野干鳴をなす者とせんか、恰も蝙蝠の鳥にもあらず、鼠にもあらざるがごとし。動もすれば、禪門宗匠の眞似して麈拂を擧揚し、竹篦を拈じ、主丈をひく、是何の用處ぞ。專唱稱名の人一箇の木鉦をすへば足れらくのみ、何ぞ者般の閑家具を用ん。法師の櫛を貯へ、盲母の鏡を愛するがごとしとみんか。

時に管城子なる者あり。曰、近來我が日域に洞濟兩派の禪徒、默照枯坐、無念

肉抹骨磨の苦患、洋銅鐵丸の受難を如何、子細に思念すれば寒毛皆よだつ。此におゐ(い)て即滅無量罪の佛誓を頼んで、袖裏にひそかに念珠をつまぐり、口中竊かに稱名念佛して淨刹の迎生を願ふ、寔に憐むべし。是向きに謂ゆる一點見性の筋力なきの現證なり、是向きに謂ゆる一點透過の氣血なきの靈驗なり、恁麼にして傳傳燈歷代の祖師と稱して可ならむや。見よ、西天の四七、東土の二三及び傳燈七百ケの賢聖、江西、濟北、南泉、長沙、黃檗、汾陽、慈明、楊岐、眞淨、黃龍、息耕、大慧の諸老、其餘の實參實悟の俊英、破口にも往生淨土の事を說かず、專唱稱名、迎生の事を求め玉ふは半ケも又なし。何が故ぞ。初め見道得悟の一刹那に、南隣北舍、總に是七種寶樹の淨刹、張三李四、盡く是無量壽尊、紫摩(磨)金の全身なる事を見徹す、是即開佛智見道の靈證なり、此外更何をか求めん。彼の龍木(樹)大士の如きは、中下の機を誘引し救はんがため、彼が唱へ〳〵て一心不亂の處に到て、いつしか唯心の淨土に投入して、往生の大事を

降しめ、國王、大臣、有力の檀那お(を)して佛法有る事を知しめん。

百年以來一流の禪徒あり。殿堂魂を奪ひ、幡蓋目を驚す、其誦經諷咒の場を望めば、鐘鼓交〱傳へ、唄聲遠く引く、恰も歌舞の場に入るがごとし。文殊の淨土か、普賢の道場か、進んで曲彔、木牀上を望めば、紅羅の大帽を著け、紫錦の方袍を掛く。白拂裊んで煙のごとく、金鴨仰ひで霞を吐く。形容凛々、威儀森々、十力の調御のごとく、四果の聖者に似たり。見者覺へず腰を屈むるあり、掌を合するあり、頭を扣く有り、涙を滴る有りと。財産を聚め取る事は目連の神通あり、在家を諂縛することは滿慈の辯財あり。正眼に見來れば一點見性の筋力なく、一點透過の氣血なし。是故に進むに寂滅の樂しみなく、退くに生死の恐れあり。又聞く、僧と成て理に通ぜざれば身をかへつそふして信施を返へす、長者八十一、其木茸を生ぜずと。今世は種々の境界を現じて世上を誑惑し、在家に追從して許多の禮拜供養を受くといへ共、來生惡種の底に墮して

大凡十方の賢聖、古今の智者、法成就に到らんがために常に願輪に鞭ツ。是故に普賢に七十の願有り、彌陀に四十の願あり、何れも上求菩提のために下化衆生の大法施を行ず。須く知るべし、佛法は海の轉々入れば、轉々深きが如くなる事を。悲しむべし、澆季末代の習らひ、法滅盡時のしるしにや有る、多衆圍繞の宗匠碩德、高名の耆舊も、徒に空しく無念無心、灰心泯智の死法を以て、禪門向上の宗旨とし、寂默枯坐、古廟裏の香爐にし去て、祖師眞修の實處とす。頑空無記、暗鈍昏愚を以て大事了畢底の堂奥とす。點檢し見來れば一丁もまた知らざる底の一枚鄙賤の臭瞎禿、破凡夫、何の力有てか法城を鎭護し、宗乘を扶起し去る事を得ん。又或ひは一般の漢あり、己見に誇り、小智を恃んで佛祖を竝呑し、諸方を罵詈す、恰も狂狗の聲をかぎりに終夜吠るが如し。勾下して把るに把るに足らず、一肩無賴の頑陋奴、賤瞎夫、食堂放て粥飯を貪飡せしむる外、半點の所能なし。何の備有てか識量寬大、智鑑高明の士大夫お(を)して歸

聞屆け玉ひ、一切の音聲を止め得玉ひたりとも、精麤あり、遠近有事に侍れば、老僧が膝下において舊參久しく穿鑿を經し僧を尋ね求め玉ひて、親敷証據し決定し玉ふべし。縱ひ又如上の因緣を証得し了知し玉ひたりとも、以て足れりとして容易に休罷し玉ふべからず。古來出格の見解ありて、智行兼備の智者高僧も、佛國土の因緣を明らめず、菩薩の威儀を知らざる時は、縱ひ五派七流の大事を究めつくしたり共、計らずも二乘小果の舊窠に墮し、或ひは隔生卽忘の故に、舊因にひかれ、新薰に催されて、思ひよらざる受生を引く。斯くいゑ（へ）ばとて、今時諸方、頑空無記の修行者如く、灰心泯智、斷滅空の深坑に陷墜するの謂には侍らず。何をか佛國土の因緣、（脫字）（菩）薩の威儀と云ふぞとならば、大段四弘の誓願是なり、是卽ち二乘小果の空谷を超越して、大乘菩薩の寶所に趣く方便なり。是故に維摩經に曰く、慧なきの方便は足有て目なきが如し、方便なきの慧は目有て足なきが如し、目足互に相扶けて終に寶處に到ると。

把るに足らんや。縦ひまた神仙の齒算有て八萬の歳時を守るも、空華眼を遮り、野馬隙を過ぐ。況や吾が蜚蜉蝣の保ち難き命、水泡の身をや。末への（露）（脱字）本のしづくにも劣りたる物を、いつを待とて、盲驢の足にまかせて行が如く、半日の行持をだにたもたで、空に貴ぶべき月日を徒らに、明かし暮らしもて行くやらむ。何の頼み有りてか、狂猿の心に任せてとびめぐる如く、惜むべき身命お（を）一善の覺へもなくて、空しく老ひ朽ち果つる事ぞと、深く慚愧の心をおこし玉ふべし。熟〱流轉常沒の世の有樣を顧るに、天上に生ずべきには福力足らず、地獄に墮すべきには罪業足らず、誰れ〱も此沙波（娑婆）穢土の受生をひく。是故に尊卑あり、貧富あり、賢愚あり、利鈍あり。須く知るべし、皆是前生作業の影像なる事を。尊貴は天上の福徳足らず、凍餒は地獄の罪業足らず、恐るべしつゝしむべし。各々勤めはげみて、露命消へざる程、身體破れざる間におゐ（い）て、驚き恐れ玉ひて隻手の聲を聞届け玉ふべし。縦ひ隻手の聞音を

本師世尊の如きは、五印土の主じ淨梵大王の太子にてわたらせ玉ひにたるすら、六趣三塗の苦報深く恐れさせ玉ひて、夜輸多羅、倶夷女等の美夫人達を、土塊の如く見すてさせ玉ひ、金輪の寶位をなげうち、萬乘の貴堦を下て、あら〳〵しき仙人に責め使はれさせ玉ひ、あらぬ樣成る艱辛を經させ玉ひ、後ち雪山に入て六年端坐、絲もて瓦をあみたてたる如く瘦せ衰へさせ玉ひ、初て金剛の正眼をひらかせ玉ひ、果して三界の導師とならせ玉ふ。中將姬の如き、御形うるはしく、殿上にも殿下にも、比類もなくあでやかにおはしければ、天子の中宮にかしづき奉らんとて、人々ののめきあへりけるに、玉簾の中も火宅の外ならずと、泣々夜半に帝都を忍び出させ玉ひ、雲雀山に入らせ玉ひ、目もあてられぬ難行を歷させ玉ひ、上もなき法眼をひらかせ玉ふ。其外貴人、公子、英雄、豪富の人々の來生春磨の苦患を恐れて、身命を抛ち恩愛を見すてゝ出家遁世せられけるは、數かぎりもなき事に侍り。然るを我輩ら塵介の微軀鄙賤の殘質、豈

れても恐るべきは六趣三途の苦果、佛法中には因果を信じ、苦報を恐るゝを以て大智慧とす、自心を了知し、自性を見徹するを賢聖佛祖とす。悲むべし、世間多少世智辨聰の癡人、纔に三五卷の書をよみ、三五座の賣講を聞く時は、自ら智者なりとし、自ら俊傑なりと稱して、因果を破し、三世を無みするを以て、自ら賢なりとし、自ら智なりとして、人の因果を信じ、來生有る事を恐れて誦經し作禮し、慈善を行ずるを見て、手を拍して大笑す、嗟是何の心行ぞや。大凡人を萬物の靈と稱して、馬牛犬豕豺狼麞鹿に異なる所以は、三世ある事を信じ、來世有る事を恐るゝを以てなり。儞等が所見に似たらば、馬牛犬豕豺狼麞鹿にして飽き足る者ならんか。古への賢聖、古今の智者、賢臣明主をさへに、因果を信じ、苦報を恐れ玉はざるは半ケもまたなし。若し因果を撥無し、三世毀敗し玉はゞ、普天の下王土にあらずと云ふ事なし、何の佛閣神社をか留めん、率土の濱王臣にあらずと云ふ事なし、何の沙門僧尼お(を)か容るさん。古へ吾が

河を攪ひて酥酪となし、荊棘を變じて栴檀林と成す等の大事、粲然として目前に充塞す、是を清淨の神境通と云ふ。隻手纔に耳に入る時は、自心、佗心、親戚心、佛心、神心、衆生心、一見に見透して疑惑なし、是を清淨の佗心通と云ふ。隻手纔に耳に入る時は、人々本具の心上、一點の無明なく、一點の生死なし、廣大劫、圓明、高閑、虛凝、是を清淨の漏盡通と云ふ。此時に當て百千の法門、無量の妙義、世間所有の功德聚、世間所有の妙莊嚴、盡く自の心上に具足して毫髮ばかりも缺闕なし、初て六度萬行體中に圓なる事を証得す、人間天上の善果何ぞ是に勝らん、三賢四果の歡喜豈是に過んや。嗟其得がたく受け難き者は人身なり、逢ふ事希に聞事まれなる物は佛法なり。今既に受け、今既に聞くといへ共、空しく夢幻の名利を慕ひ、空しく空華の貪愛におぼれて、徒爾として一生を過了つて、懲りもなく、嶮難三途の舊里に歸つて、倶低恒沙の苦患を受く。寔に惜しべく、寔に悲しむべし。厭ひても厭ふべきは娑婆穢土の塵垢、恐

窟宅を劈破す、是を鳳金網を離れ、鶴籠を脫する底の時節と云ふ。此時に當ていつしか心意識情の根盤を擊碎し、流轉沈浮の業海を撥轉す。三身四智の寶漿を運出し、六通三明の神境を超過す。

貴ぶべし、隻手機に耳に入る時は、佛聲、神聲、菩薩聲、聲聞聲、緣覺聲、餓鬼聲、修羅聲、畜生聲、天堂聲、地獄聲、世間所有の一切の音聲、毫釐も聞殘す事なし、是を清淨の天耳通と云ふ。隻手機に耳に入る時は、自界、佗界、佛界、魔宮、十方の淨刹、六種の穢土、一見に見徹して掌果を見るが如し、是清淨の天眼通と云ふ。隻手機に耳に入る時は、廣大劫來、輪轉昇沈の跡、廣大劫後、往復遷流の影、照(昭)々焉として寶鏡に對するが如し、是を清淨の宿明通と云ふ。隻手機に耳に入る時は、喫粥、喫飯、運動、施爲、是修得底にあらず學得底にあらず、人々本具の活三昧なる事お(を)徹了す。此時に當つて華嚴の四種の法界、法華の唯有一乘、及び空手にして鋤頭をとり、步行にして水牛に騎る、長

己に付て疑はしめ、或ひは無の字を擧揚せしめ、種々方便をめぐらし、提携敎喩しけるに、其中間少分相應を得て歡喜を得たる人々は、老幼男女、緇素尊鄙、大凡數十人に及ぶべく覺へ侍り。此五六ケ年來は思ひ付きたる事侍りて、隻手の聲を聞屆け玉ひてよと指南し侍るに、從前の指南と拔群の相違ありて、誰々も格別に疑團起り易く、工夫勵み進みやすき事、雲泥の隔てこれある樣に覺へ侍り。是に依て只今專一に隻手の工夫を勸め侍り。蓋し隻手の工夫とは如何なる事ぞとならば、即今兩手相合せて打つ時は丁々として聲あり、只隻手を揚る時は音もなく臭もなし。是彼の孔夫子の謂ゆる上天の言と云んか、彼の山姥が云けん一丁空敷釜(谿乎)（谷）の響は無生音を聞く便と成るとは、此等の大事にやはある。是全く耳を以て聞べきにべき(重複)にあらず、思量分別を交へず、見聞覺知を離れて、單々に行住坐臥の上において、透間もなく參究しもて行き侍れば、理つき詞究て、技もまた究る處において、忽然として生死の業海を踏飜し、無明の

の說を出ず、最上至極の指南は、見性得悟の眞修に越へたるは、必定決定なき事に侍り。去る程に法華經にも、三世古今の敎主の如來は一切衆生お(を)して、佛智見道の眼をひらかしめんがために出現し玉ふと見へたり。去れば大覺調御も沙波(娑婆)往來八千度の生死を經させ玉ひにたれども、最後雪山に入て開佛智見道の望みを遂させ玉ひて、初て無上正等正覺を唱へさせ玉ふ。是故に三世古今の間に見性せざる佛祖無く、見性せざる賢聖は半箇もまたなし。然らば卽ち無量恒沙の萬善萬行も、此見性の一路に越へたる事はなきぞと、覺悟是レ有るべし。

老夫初め十五歲にして出家、二十二三之間大憤志を發して、晝夜に精彩をつけ、單々に無の字を參究し、二十四歲の春、越の英巖練若におゐ(い)て夜半に鐘聲を聞ひ(い)て、忽然として打發す。夫より今年四十五年が間、親戚朋友を擇らばず、老幼尊卑を捨ず、何とぞ一回大事透脫の力を得られよかしと、或ひは白

齋し、誦經し書寫し、種々の善行を行じ玉へども、多くは天上の善果を得、人界にては、天子、將軍、公家、天上人、乃至大名、高家等の福貴自在の身に生れ玉ふより外、成佛は存じも寄らぬ事に侍り。如何となれば、心の外に淨土なく、心の外に佛なき故に。然るに彼の人間人間（重複）天上の善果も羨しからぬ事の侍り。生天の福は天をあおひで箭をいるが如し、勢力盡ぬれば箭却ておつるに齊しく、福力盡ぬれば果して惡種に墮す、增して人界におゐひ（於）て福貴自在の人々は、過去の善根力に依て、今世の福貴を得たる事は、つゆちり忘れ果てゝ、尊貴を賴み、勢位にほこりて、民を貪りかすめ、物命を苦しめ害し、あらぬ樣なる罪障をつみ重ね、果しもなき惡業を作りそへて、來生は必ず三途八難の惡趣に墮す。然らば卽ち前生の千難萬苦の善行は今生の福貴自在となり、今生の福貴自在は必ず來生の鐵床火坑の苦患と成る。此故に癡福は三世の寃とも申しおかれ侍り。大凡後世菩提の指南は數ずも限りもなき事に侍れど、多くは是方便

黄赤白なりや、内外中間にありや、果して一回分明に見届けずばおく間敷ぞと、十二時辰之四威儀、たけく精彩をつけ、間もなくはげみ進み侍れば、いつしか妄想思量の境ひを打ち越へ、前後際斷底の工夫現前して、男にあらず、女にあらず、賢にあらず、愚にあらず、生有る事を見ず、死有る事をしらず、唯一向心上、空洞々、虚濶々地にして、晝夜の分ちもなく、心身ともにきへうせたる心地は幾度も有之事に候。此時恐怖を生せず、間もなくはげみ進み侍れば、いつしか自性本有の有様を立處に見徹し、眞如實相の尊日は目のあたりに現前して、四十年來未曾て見ず、未曾て聞ざる底の大歡喜は求めざるに是を得ん。是を見性得悟の一刹那とも名づけ、是を往生淨土の一大事とも相傳する事にて、自心の外に佛なく、自性の外に淨刹なく、一念不生、前後際斷の當位を往と云ひ、實相の眞理現前の當位を生と云ふ。此等の眞理に達せず、世間のかずかぎりもなき後生者達の、佛にならん、淨土に生れんと、難行し苦行し、持戒し持

翁御親切之人々には内々にて御讀み爲聞被成候も、法施供養之十分が一にもかなとの寸志斗りに候。縱ひ老僧御望に任せ內典外典を考へ合せ、管々布繰言をも際限もなく書付け進候而も、門より入る物は家珍にあらずと申傳へ侍りて、生死透脫の助けには更ら〳〵ならざる御事に候。唯願くば自性本有之有り樣を、一回分明に見得せらるゝに越へたる事は無之候。彼の自性本有之あり樣は如何して見屆くべきぞとならば、大凡番々出世の如來、三世古今の賢聖智者お(を)さへに、頓漸半滿顯密不定等の法理を、數ずかぎりもなく說きおかれ侍れど、肝心之處は行者勇猛のこゝろざしをはげまし、直ちに進んで退かず、囫地一下の歡喜を得ざらん限りは、必定決定退墮の心を生ずまじきぞと、覺悟有之〵別の子細候はず。蓋し彼の囫地一下之歡喜は如何して得べきぞとならば、大疑のしたに大悟ありと申て、唯今此文ミを披覽し、或ひは笑ひ、或ひは悲しみ、萬緣に應じて夫レ〴〵に働きもて行底、是何物ぞと、是心なりや、是性なりや、青

隻手音聲

某居士に與ふ

快岩和尚御回錫之後、一向便も不承候、增相替事無御座候條、珍重之御事に候。老夫達者に罷在候。然ば前方兩度まで、貴翁相應之法語一章、書認め進候樣にとの御奇特千萬之御所望感入被存候。少も御如在には不存候得ども、彼是取紛只今迄延引に罷過候。

昨五月二十七日は愚母五十年忌に相當候處に、追善之ため何をかなと考へ見申候處に、誦經書寫禮拜恭敬等之佛事も老來叶ひがたく侍れば、是を幸ひに貴翁日頃御望之法語一章書認候は、何より之追福に罷成り可申と存付き、廿五日之夜半より取かかり急に清書いたし牌前へそなへ申候故、處々落等も有之、文字之顛頭(倒)も多く候得共、此度進覽致候、管々敷拙語佗見は憚入候へども、貴

寒林貽寳附刻終

師云。此十門諸人還一一得穩當也未。若只是閉門作活計。獨自要了身。卻不在此限。若欲荷負正宗。紹隆聖種。須盡明此綱要十門。方坐得曲彔木上。受得天下人禮拜。敢與佛祖爲師。若不到恁麼田地。只一向虛頭。他時異日。閻羅老子未放儞在。有麼。出來大家證據。若無不用久立。

佛道垂成。十劫觀樹。如虎之缺。如馬之髴。以有下劣寶几珍御。以有驚異鷙奴白牯。羿以巧力。射中百步。箭鋒相直。巧力何預。木人方歌。石兒起舞。非情識到。寧容思慮。臣奉於君。子順於父。不順非孝。不奉非輔。潛行密用。如愚如魯。但能相續。名主中主。

南堂辨驗十門　出人天眼目上卷

師示衆曰。夫參學至要。不出最初句與末後句。透得過者。平生參學事畢。其或未然。與儞分作十門。各用印證自心看。得穩當也未。

一須信有教外別傳。　二須知有教外別傳。　三須會有情說法與無情說法無二。　四須見性如觀掌上。了了分明一一田地穩密。　五須具擇法眼。　六須行鳥道玄路。　七須文武兼濟。　八須摧邪顯正。　九須大機大用。　十須向異類中行。

寶鏡三昧

如是之法。佛祖密付。汝今得之。宜善保護。銀盌盛雪。明月藏鷺。類之弗齊。混則知處。意不在言。來機亦赴。動成窠臼。差落顧佇。背觸俱非。如大火聚。但形文彩。卽屬染汚。夜半正明。天曉不露。爲物作則。用拔諸苦。雖非有爲。不是無語。如臨寶鏡。形影相覩。汝不是渠渠不是汝。如世嬰兒。五相完具。不去不來。不起不住。婆婆和和。有句無句。終不得物。語未正故。重離六爻。偏正回互。疊而爲三。變盡成五。如荎艸味。如金剛杵。正中妙挾。敲唱雙擧。通宗通途。挾帶挾路。錯然則吉。不可犯忤。天眞而妙。不屬迷悟。因緣時節。寂然照著。細入無間。大絶方所。毫忽之差。不應律品。今有頓漸。緣立宗趣。宗趣分矣。卽是規矩。宗通趣極。眞常流注。外寂中搖。係駒伏鼠。先聖悲之。爲法檀度。隨其顚倒。以緇爲素。顚倒相滅。肯心自許。要合古轍。請觀前古。

決定是有。不見其形。心王亦爾。身內居停。面目出入。應物隨情。自在無礙。所作皆成。了本識心。識心見佛。是心是佛。是佛是心。念念佛心。佛心念佛。欲得早成。戒心自律。淨律淨心。心卽是佛。除此心王。更無別佛。欲求成佛。莫染一物。心性雖空。貪瞋體實。入此法門。端坐成佛。到彼岸已。得波羅密。慕道眞士。自觀自心。知佛在內。不向外尋。卽身卽佛。卽佛卽心。心明識佛。曉了識心。離心非佛。離佛非心。非佛莫測。無所堪任。執空滯寂。於此漂沈。諸佛菩薩。非此安心。明心大士。悟此玄旨。自心性妙。用無更改。是故智者。放心自在。莫言心王。空無體性。能使色身。作邪作正。非有非無。隱顯不定。心性雖空。能凡能聖。是故相勸。好自防愼。刹那造作。還復漂沈。清淨心智。如世黃金。般若法藏。悉在身心。無爲法寶。非淺非深。諸佛菩薩。了此本心。有緣遇者。非古來今。

寒林貽寶附刻

圓頓章

智者大師

圓頓者。初緣實相。造境卽中。無不眞實。繫緣法界。一念法界。一色一香無非中道。己界及佛界衆生界亦然。陰入皆如。無苦可捨。無明塵勞卽菩提。無集可斷。邊邪皆中正。無道可修。生死卽涅槃。無滅可證。無苦無集。故無世間。無道無滅。故無出世間。純一實相。實相之外更無別法。法性寂然名止。寂而常照名觀。雖言初後。無二無明。是名圓頓止觀。

雙林善慧大士心王銘　出會元第二

觀心空王。玄妙難測。無名無相。有大神力。能滅千災。成就萬德。體性雖空。能施法財。觀之無形。呼之有聲。爲大法將。心戒傳經。水中鹽味。色裡膠青。

寒林貽寶終

如何消得。故古德云。爲成道業施將來。道業未成爭消得。山僧這裡不可與汝諸人打粥飯過日也。若是坐消信施諸天不喜。麁茶淡飯亦難消。佗底。如今初學比丘。飽食高眠取信過日。猶嫌不稱意在。然出家人如一塊磨刀石。一切人要刀快便來汝石上磨。張三也來磨。李四也來磨。磨來磨去。別人刀快。自家石漸消薄。有底更嫌他人不來我石上磨。有甚便宜處。進食如進毒。受施如受箭。幣厚言甘者。道人所畏。灼然與道相應。萬兩黃金亦消得。此事不是說了便休。須是實到這箇田地始得。高談大論瞞人自瞞。大不濟事。如今叢林無人說着這般話。莫道焦山老漢說禪全無孔竅。記取珍重。

有氣死人。

且道。如何履踐。努力。今生須了却。莫教永劫受餘殃。

慈受深禪師小參 出諸祖偈頌

此心清淨。猶如虛空。無一點相貌。擧心動念。全乖法體。纔退步便相應。只是不肯退步。纔放下便安樂。只是不肯放下。大都是無始劫來慣習成了也。古人學道先打當貪瞋癡。然後放教一切處冷湫湫地。如臘月裡扇子相似。直是無人覷著。忘得利名。甘得淡薄。世間心輕微。道念自然濃厚。匾擔山和尚一生拾橡子煮喫。永嘉大師不喫钁頭下菜。高僧惠休三十年着一緉鞋。百補千綴。遇軟地行則赤脚。恐損他信施。信心物難消。他總是妻子口中減削將來供養儞了。使要邀福懺罪。儞十二時中種種受用盡出他人力。未飢而食。未寒而衣。未垢而浴。未困而眠。道眼未明。心漏未盡。

林間錄上

歐陽文忠公昔官洛中。一日游嵩山。却去僕吏。放意而往。至一山寺。入門修竹滿軒。霜清鳥啼。風物鮮明。文忠休於殿陛。旁有老僧閱經自若。與語不甚顧答。文忠異之曰。道人住山久如。對曰。甚久也。又問。誦何經。對曰。法華經。文忠曰。古之高僧臨生死之際。類皆談笑脫去。何道致之哉。答云。定慧力耳。又問。今乃寂寥無有何哉。老僧笑云。古之人念念在定慧。臨終安得散亂。今人念念在散亂。臨終何得定。文忠大驚。不自知膝之屈也。

坐禪箴 出無門關　　無門和尙

循規守矩。無繩自縛。縱橫無礙。外道魔軍。存心澄寂。默照邪禪。恣意忘緣。墮落深坑。惺惺不昧。帶鎖擔枷。思善思惡。地獄天堂。佛見法見。二鐵圍山。念起卽覺。弄精魂漢。兀然習定。鬼家活計。進則迷理。退則乖宗。不進不退。

無所依歌

龐居士

昔日在有時。常被有人欺。一相生分別。見聞多是非。已後入無時。復見無人欺。一向看心坐。冥冥無所知。有無俱是執。何處是無爲。有無同一體。諸法悉皆離。心同虛空故。虛空是我師。若論無相理。惟我父王知。

古劍銘

同

余有一寶劍。非是世間鐵。成來更不磨。晶晶白如雪。氣衝浮雲散。光照大千徹。吼作獅子聲。百獸皆腦裂。外國盡歸降。衆生悉磨滅。滅了後還生。還生作金鐍。帶將處處行。樂者卽爲說。

白樂天問惟寬禪師。無修無證何異凡夫。師曰。凡夫無明。二乘執着。離此二病。是謂眞修。眞修不得勤。不得忘。忘則落無明。勤則近執着。是爲眞要。

出會元卷三

因縁修造不識三毒虚假妄執浮沈生老昔時迷日爲晩。今日始覺非早。

拾得偈　出三隠集

井底紅塵生。高山起波浪。石女生石兒。龜毛數寸長。欲覓菩提路。但看此榜樣。

南嶽大師偈二首　出會元卷二

頓悟心源開寶藏。隱顯靈通現眞相。獨行獨坐常巍巍。百億化身無數量。縱令逼塞滿虛空。看時不見微塵相。可笑物分無比況。口吐明珠光晃晃。尋常見說不思議。一語標名言下當。

其二

天不能蓋地不載。無去無來無障礙。無長無短無青黃。不在中間及內外。超群出衆太虛玄。指物傳心人不會。

吾有一軀佛。世人皆不識。不塑亦不裝。不彫亦不刻。無一滴灰泥。無一點彩色。人畫畫不成。賊偷偷不得。體相本自然。淸淨非拂拭。雖然是一軀。分身千百億。

法身偈　　善慧大士

空手把鋤頭。步行騎水牛。人從橋上過。橋流水不流。

無相偈　出會元卷二

夜夜抱佛眠。朝朝還共起。起坐鎭相隨。語默同居止。纖毫不相離。如形影相似。欲識佛去處。祇是語聲是。

菩提煩惱不二頌　出景德傳燈卷二十九　　寶誌和尚

衆生不解修道。便欲斷除煩惱。煩惱本來空寂。將道更欲覓道。一念之心即是。何須別處尋討。大道祇在目前。迷倒愚人不了。佛性天眞自然。復無

無所住歌 出會元卷二

布袋和尚

祇箇心心心是佛。十方世界最靈物。縱橫妙用可憐生。一切不如心眞實。

騰騰自在無所爲。閑閑究竟出家兒。若覩目前眞大道。不見纖毫也太奇。

萬法何殊心何異。何勞更用尋經義。心王本自絕多知。智者祇明無學地。

非聖非凡復若何。不强分別聖情孤。無價心珠本圓淨。凡是異相妄空呼。

人能弘道道分明。無量淸高稱道情。携錫若登故國路。莫愁處處不聞聲。

是非憎愛世偏多。子細思量奈我何。寬却肚腸須忍辱。豁開心地任從佗。

若逢知己須依分。縱遇寃家也共和。若能了此心頭事。自然證得六波羅。

我有一布袋。虛空無罣礙。展開遍十方。入時觀自在。

吾有三寶堂。裡空無色相。不高亦不低。無遮亦無障。學者體不如。來者難得樣。智慧解安禪。千中無一匠。四門四果生。十方盡供養。

作解。誰誇鋪席圖人買。廻光返照便歸來。廓達靈根非向背。遇祖師親訓誨。結草爲菴莫生退。百年拋却任縱橫。擺手便行且無罪。千種言萬般解。只要教君長不昧。欲識菴中不死人。豈離而今遮皮袋。

玩珠吟　同上　丹霞和尚

般若靈珠妙難測。法性海中親認得。隱顯常遊五蘊中。內外光明大神力。

此珠非大亦非小。晝夜光明皆悉照。覓時無物亦無蹤。起坐相隨常了了。

黃帝曾遊於赤水。爭聽爭求都不遂。罔象無心却得珠。能見能聞是虛僞。

吾師權指喩摩尼。采人無數溺春池。爭拈瓦礫將爲寶。智者安然而得之。

森羅萬像光中現。體用如如轉非轉。萬機消遣寸心中。一切時中巧方便。

燒六賊兮爍衆魔。能摧我山竭愛河。龍女靈山親献佛。貧兒衣下幾蹉跎。

又名性兮亦名心。非性非心超古今。全體明時明不得。權時題爲翫珠吟。

世界本性眞如性。亦無本性卽含融。非但諸佛能如是。有情之類普皆同。
四更無滅亦無生。量與虛空法界平。無來無去無起滅。非有非無非暗明。
無起諸見如來見。無名可名眞佛名。唯有悟者應能識。未會衆生由如盲。
五更般若照無邊。不起一念歷三千。欲見眞如平等性。愼勿生心卽目前。
妙理玄奥非心測。不用尋逐令疲極。若能無念卽眞求。更若有求還不識。

草庵歌　出景德傳燈錄卷三十　石頭和尚

吾結草庵無寶貝。飯了從容圖睡快。成時初見茅草新。破後還將茅草蓋。住庵人鎭常在。不屬中間與內外。世人住處我不住。世人愛處吾不愛。庵雖小含法界。方丈老人相體解。上乘菩薩信無疑。中下聞之必生怪。問此庵壞不壞。壞與不壞主元在。不居南北與東西。基上堅牢以爲最。青松下明窓內。玉殿朱樓未爲對。衲被幪頭萬事休。此時山僧都不會。住此庵休

佛言。文殊師利儞入不思議三昧耶。文殊師利言。不也。世尊。我卽不思議。更不見心相有思議者。云何而言入不思議三昧。我初起心欲入此定。而今思惟。實無心相入三昧。譬如人學射。久習則巧也。後雖無心。久習故箭發皆中。我亦如是。初起心學不思議三昧。繫心於一緣。若久習成熟。更雖無心。恒與定俱。

少室夜坐吟　出少室六門集

一更端坐結跏趺。怡神寂照胸同虛。曠劫由來不生滅。何須生滅滅生渠。一切諸法皆如幻。本性自空那用除。若識心性非形像。湛然不動自如々。

二更凝神轉明淨。不起憶想眞如性。森羅萬像並歸空。更執有空還是病。諸法本自非空有。凡夫妄想論邪正。若能不二其居壞。諸道卽凡是非聖。

三更心淨等虛空。遍滿十方無不通。山河石壁無能障。恒沙世界在其中。

寒林貽寶

七佛通戒偈　出涅槃經及阿含經

諸惡莫作。衆善奉行。自淨其意。是諸佛教。

夜叉說半偈　出涅槃經

諸行無常。是生滅法。生滅滅已。寂滅爲樂。

法句經偈

若起精進心。是妄非精進。直心若無妄。精進無有涯。

文殊大士偈言。若人靜坐一須臾。勝造恒沙七寶塔。寶塔畢竟化爲塵。一念靜心成正覺。

大寶積經曰

寒林貽寶

吾聞提翁始在學地時。或市隱或山隱。但以此箇精錬見地參究宗旨。爲骨董篋之不便行履。竊拾古人語句助定慧底。備之座右。自名謂寒林貽寶。或問何謂乎。翁曰。衲僧參到踏斷知解超越言句獨脫無依之時節。是謂寒林耳。貽寶二字。汝自參究去。予侍其傍。參取二十年。始知所以貽寶爲寶。仍題數語以嘉尙大梵主人刊行之志云爾。

明和六年己丑孟正。豆之東嶺慈頭陀書於洛北萬年山中。　花押　印。

寒山詩闡提記聞 大尾

其尋便必無不達渠黃巖人也。　熹再啓。

國淸南公所刊寒山詩。錯誤最多甚。不稱晦庵先生丁寧流布之意。今以江東漕司本參互校定重刻之山間。據詩稱五言五百七字七十九三字二十一。則今所存纔半耳。　寶祐三年乙卯九月旦。住靈鷲山行果謹書。

陸放翁與明老帖

有人兮山陘。雲卷兮霞纓。秉芳兮欲寄。路漫兮難征。心惆悵兮狐疑。蹇獨立兮忠貞。　此寒山子所作楚辭也。今亦在集中。妄人竄改。附置至不可讀。　放翁書寄　天封明公。　或以刻之山中也。

五月十三日熹悚息啓上。久不聞動靜。使至特辱惠書。獲審比日住山安穩。爲慰。天台之勝夙所願游。往歲僅得一過山下。而以方有公事不能登覽。每以爲恨。今又聞故人挂錫其間。想見行住坐臥不離水聲山色之中。尤以不得往同此樂爲念也。新詩見寄。筆勢超精。又非往時所見之比。但稱說之過不敢當耳。二刻亦佳作也。但攙行奪市恐不免夫故步耳。寒山詩彼中有好本否。如未有能爲讎校刊刻。令字畫稍大。便於觀覽亦佳也。寄惠黃精筍乾紫菜多品。尤荷厚意。偶得安樂茶。分去廿鉼并雜碑刻及唐詩三册。謾附回便。幸視。至相望千里無由會面。臨書馳情。千萬自愛。不宣。熹悚息啓上。國清南公禪師方丈。熹再啓。

淸衆各安佳。兒輩附問黃壻歸三山已久時得書也。出師表未暇寫。俟寫得轉寄去。未晩也。寒山詩刻成。幸早見寄。有便。只附至臨安趙節推廳。託

首。拾亦有詩數十首。題石壁間云。按舊序。二人呵叱自執手大笑。閭丘歸郡。遣送衣藥與夫桃鎖子骨等語。乃知不寒山執閭丘手。閭丘未嘗至寒巖。拾得亦出寺門二里許入滅。今傳燈所錄誤矣。因筆及此。以俟百世君子。淳熙十六年歲次己酉。孟春十有九日住山禹穴沙門志南謹記。

傳燈錄。寒山子章曰。寒山復執閭丘手。笑而言曰。豐干饒舌。久而放之。自此寒拾相攜出松門。更不復入寺。閭丘又至寒巖禮謁送衣服藥物。二士高聲喝之曰。賊賊。便縮身入巖石縫中。唯曰。汝諸人各各努力。其石縫忽然而合。閭丘哀慕令僧道翹尋其遺物。於林間得葉上所書辭頌及題村墅人家屋壁。共三百餘首。傳布人間。曹山本寂禪師注釋謂之對寒山子詩。

朱晦庵與南老帖

器呪水噀之。立愈。閭丘異之乞言。示此去安危之兆。師曰。記謁文殊普賢。此二菩薩見之。不識識之。不見若欲見之。不得取相。國淸寺執爨滌器。寒山拾得是也。閭丘到任。三日至國淸。問。此寺有豐干禪師否。寒山拾得復是何人。僧道翹對曰。豐干舊址在經藏後。今閒無人矣。寒山拾得尙處僧廚。閭丘入師房。止見虎迹。復問在此。作何行業。翹曰。唯事負舂供僧。閑則諷詠。入廚尋訪寒拾。見於竈前向火拊手大笑。閭丘致拜。二人連聲呵叱。把手復大笑曰。豐干饒舌饒舌彌陀。不識禮我何爲。相攜出松門。自此不復入寺。閭丘歸郡。送淨衣香藥。到巖。寒高聲喝曰賊賊。遂入巖石縫中。且曰。報爾諸人。各各努力。石縫忽合。後有僧採薪南峯。距寺東南二里。遇一梵儀。持錫入巖。挑鎖子骨。曰。取拾得舍利。乃知入滅于此。因號巖爲拾得。閭丘俾道翹尋訪遺迹。於林間葉上得寒所書辭頌及村墅人家三百餘

麼。住何處。拾置箒叉手而立。主罔測。寒搥胸曰。蒼天蒼天。拾問。汝作甚麼。寒曰。豈不見道東家人死。西家助哀。因作舞笑哭而出。又於莊舍牧牛。歌詠叫天曰。我有一珠埋在陰中。無人別者。衆僧說戒。拾驅牛至。倚門撫掌微笑曰。悠悠哉。聚頭作相。這箇如何。僧怒呵云。下人風狂。破我說戒。拾笑曰。無瞋即是戒。心淨即出家。我性與汝合。一切法無差。驅牛出。乃呼前世僧名。牛即應聲而過。復曰。前生不持戒。人面而畜心。汝今招此咎。怨恨於何人。佛力雖然大。汝孤於佛恩。護伽藍神僧廚下食。每每爲烏所耗。拾杖抶之曰。汝食不能護。安能護伽藍乎。神附夢于合寺僧曰。拾得抶我。詰且說夢一一無差。視神像果有所損。驚異牒申郡縣。郡謂賢士遯迹菩薩應身。號拾得賢士。初閭丘胤將牧丹丘。頭疾醫莫能愈。遇禪師名豐干。言自天台來謁。使君告之病。師曰。身居四大。病從幻生。若欲除之。應須淨水。索

道甚麼。寒拾俱作禮。師謂寒曰。汝與我遊五臺。卽我同流。若不與我去。非我同流。曰。我不去。師曰。汝不是我同流。寒問。汝去五臺作甚麼。曰。我去禮文殊。曰。汝不是我同流。師尋獨入五臺。逢一老翁。問。莫是文殊否。曰。豈有二文殊。及作禮。忽不見。後回天台而化。寒因衆僧炙茄。以茄串打僧背一下。僧回首。寒持串云。是甚麼。僧云。這風顚漢。寒示傍僧曰。儞道。這箇師僧費卻多少鹽醬。趙州到天台。行見牛迹。寒曰。上座還識牛麼。此是五百羅漢遊山。州曰。旣是羅漢。爲甚麼作牛去。寒曰。蒼天蒼天。州呵呵大笑。寒曰。笑作甚麼。州曰。蒼天蒼天。寒曰。這小廝兒。卻有大人之作。潙山來寺受戒。與拾往松門夾道。作虎吼三聲。潙無對。寒曰。自從靈山一別。迄至于今。還相記麼。潙亦無對。拾拈拄杖曰。老兄喚這箇作甚麼。潙又無對。寒曰。休休。不用問他。自從別後。已三生作國王來。總忘卻也。拾掃地。寺主問。姓箇甚

天台山國淸禪寺三隱集記

豐干禪師。唐正觀初。居天台國淸寺。剪髮齊眉。衣布裘。人或問佛理。止答隨時二字。常唱道乘虎出入。衆僧驚畏無誰語。有寒山子拾得者。亦不知其氏族。時謂風狂子。獨與師相親。寒居止唐興縣西七十里寒岩。以是得名。拾因師至赤城。道側聞兒啼聲。問之云。孤棄于此。乃名拾得。攜至寺付庫院。後庫僧靈熠令知食堂香燈。忽登座與佛像對盤而餐。復於聖僧前呼曰。小果。熠告尊宿等。易令廚內滌器。常日齋畢。澄濾殘食菜滓。以筒盛之。寒來即負之去。寒容貌枯悴。布襦零落。以樺皮爲冠。曳大木屐。時至寺。或廊下徐行。或廚內執爨。或混處童牧。或時叫噪。望空慢罵云。咄哉咄哉。三界輪廻。僧以杖逼逐。即拊掌大笑。一日問師。古鏡不磨如何照燭。曰。冰壺無影像。猿猴探水月。曰。此是不照燭也。更請師道。曰。萬德不將來。教我

不レ知而作也。云。雲少謂二一稚子一。雲多謂二衆群群一可也。本二于洞山一則不可也。洞山説二偏正宗旨一者也。

昨夜得二一夢一。夢見二一團空一。朝來擬レ説レ夢。擧レ頭又見レ空。爲當二空是夢一。爲復夢是空。想計浮生裡。還同二一夢中一。

身貧未二是貧一。神貧始是貧。身貧能守レ道。名爲二貧道人一。神貧無二智慧一。果受二餓鬼身一。餓鬼比二貧道一。不レ如二貧道人一。

井底紅塵生。高山起二波浪一。石女生二石兒一。龜毛數寸長。欲レ覓二菩提路一。但看二此牓樣一。

寒山詩闡提記聞　卷第三　終

後嗣。末逾七十年。水消瓦解去。

水浸泥彈丸。思量無道理。浮漚夢幻身。百年能幾幾。不解細思惟。將言長不死。誅剝業千金。留將與妻子。

雲林最幽棲。傍澗枕月谿。松拂盤陀石。甘泉涌淒淒。靜坐偏佳麗。虛巖曚霧迷。怡然居恬地。日斜樹影低。

可笑是林泉。數里勿人煙。雲藏巖嶂起。瀑布水潺潺。猿啼暢道曲。虎嘯滿山間。松風清颯颯。鳥語聲關關。獨步繞石澗。孤陟上峯巒。時坐盤陀石。偃仰攀蘿沿。遙望城隍處。唯聞閙喧喧。

閑自訪高僧。青山與白雲。東家一稚子。西舍衆群群。五峯聳雲漢。碧落水澄澄。師指令歸去。日下一輪燈。

○評曰。此詩本洞山道。青山白雲父。白雲青山兒。白雲終日倚。青山總

待後車者乎。自慚鵠林幾死殘喘。內乏道德仁義。外無潛行密用。而不卑棄且假以爲父。謂有宿因乎。我豈無分甘愛。將其甘乎。苦乎。可中若有所可取。留囊中。時時讀之。若又爲荒唐蕪詞不足取。把附丙丁童亦可也。吾其不可誣。祝。

迢迢山徑峻。萬仭險隘危。石橋莓苔綠。時見白雲飛。瀑布懸如練。月影落潭暉。更登華頂上。猶待孤鶴期。

松月冷颼颼。片片雲霞起。匼匝幾重山。縱目千萬里。谿潭水澄澄。徹底鏡相似。可貴靈臺物。七寶莫能比。

世有多解人。愚癡學閑文。不憂當來果。唯知造惡因。見佛不解禮。覩僧倍生瞋。五逆十惡輩。三毒以爲隣。死去入地獄。未有出頭辰。

人生浮世中。箇箇願富貴。高堂車馬多。一呼百諾至。呑併佗田宅。準擬承

地可愛有何暇費紙墨摩挲老眼打此叨叨哉。古曰。女者爲愛己者粧。士者爲知己者死。今爲知己者改其行。何難之有。治也。愼恐。二三十年癡癡呆呆作頑陋癡呆漢子。養而德。避而禍。水能止渴。恐能止禍。樹能養久。則獻梁棟材。水能養深則救荒旱災。白崖山頭四十年有寂默打坐國師紫野橋下二十年有艱辛刻苦開祖。兒孫綿綿而徧宇宙。布海外。是故明教大師曰。學者愁道德不充乎身。莫愁勢位不在乎己。是萬古龜鏡也。嗚呼。禾黍雖含嘉焞秋。不待熟。無異彼稗稊。松栢雖有棟梁姿。不積年。不及棘薪。昨見吾子憍火熾然。憶跋陵猛切也。縱雖一日二日。有宿因。成師資緣。豈可默止哉。是故。昨告吾子以一兩端。談而不足。夜來挑孤燈滴淚書。書以待吾子回。豈特告吾子哉。托言於吾子。以告多少道流。告以充法施賤志。顧予亦彼前車蹎覆者也。鞭蹎覆前車。以

獸輩縮卻頂恐伏。雖恐伏中心盡憎瞋。願得時裂飡。不遜人王侯不悅爲臣。善人不好爲友。不可室家。不宜鄉黨。不見愛朋友。不見憐鬼神。夫爲自賢者。人此爲愚。自爲智者。人此爲魯。自爲高者。人拗之。是故。憍慢不遜。禍害倉廩也。辭讓謙遜。厚福府庫也。莫道。我平生敖放不羈。橫行四海。遊俠叢林。雖氣岸高凌詞鋒多幾。傷風之患亦無。何愼之有。譬如伐十圍樹非所以一斧斤而倒者。刀刀不怠。則俄然倒。當其倒時。雖傭遠近子弟戮力。不能拄也。如棄六尺身。非所以一不善而亡者。行行不止。則忽乎亡。當其亡時。雖禱上下神祇扣頭。不能救也。所以。易曰。善不積。以不足成名。惡不積。以不足亡身。寔殆哉。我昨見吾子。如赤子赴井。今見少覺知舊非。怡悅溢懷。可謂。叢林再蘇活一箇抱道衲子焉。是所以吾子生生定慧動果未曾滅絕者也。我若見吾子無才器可取。無見

陰陰而去脫暫時恐惶。迺身憔枯髮毛皆白矣。我始見道時憍熖慢火。偶輩非其可及者聞老宿說此古實慚汗如炙轂感膽似受箭憍岳如瓦解。慢幢如麻折若不然。我其爲從上十數箇長魁乎。如跋與猛。立予背後。亦不能。我今雖無可利人智無人所信德安閑而眠草廬下者。皆彼老宿錫也。勉旃。治也。自此誓行常不輕行。以消除而罪障。古世尊行步道路。時園林竹木蓬蒿茅茨盡偃靡。後而如敬送。前頭似謹迎遠近皆然阿難問。其因緣佛言。我生生終不輕賤一切人。祖詔法師有人問曰一切緇素老幼纔見師面。則如對爺孃無不歡喜。因什麼如此。法師曰。我常見一切人時中心敬如佛菩薩想。佗豈憎嫌我。夫以仁伏人者。如鸞鳳於飛禽以威伏人者。如虎狼於走獸。如彼鳳鸞翔長空。飛禽族舉卻目仰望。非仰望已中心全羨敬。願得便親近。如彼虎狼出深林。走

珠尾鵜鳩杖。徐徐牛行而來進告曰。脫爾已哉。不久其墮此部屬。此是自拘妻孫佛之時以來。學道高僧求法碩德也。大凡有憍心慢心。不挾菩提心。懷勝佗心。輕賤佗人者。一箇無不陷墜此中。今爲迎接爾。來聚此處者也。爾今雖無道心。少有慈善心。教人不倦。是故雖累日來窺。不能輙得。所恨不具菩提心故。終失道情。必墮此部類。可恐。一度顚入。則雖歷盡萬劫。不能出離。其苦患記而充龍宮海藏。終不可盡。悲哉。墮我界內者。遙劣地獄衆生。地獄有出離期。我無出離時。常欲妨千佛出世。掩萬經深理。然則何經利我。何佛度我。恨可恨我最初心行。爲求暫時名利。輕忽佗高德。終受多劫苦患。現鬼畜異類身。吞聲慟哭。上人亦悲泣合掌曰。大德大悲。伏願爲我委說菩提心。僧曰。爾若欲成辦菩提心。宜依四弘願行。爾先雖誦菩提心文。只求多聞强記。全不掛懷。寔可悲。

刺不可愉偈今見地悲哉爲一念纔錯了終忘卻道情作墮魔道永劫受苦患可惜其始喫盡多少艱辛寬祖庭藩籬發神俊才成梁棟基有敬者有恐者有慕者有愛者可謂叢林英豪法窟人傑也誰計不能伏憍心故到其死不及馬牛犬豕焉子細點檢其本志欲護殺他人謗倒他人發揮自身名利豈非大錯哉非袈裟下失人身耳多劫入魔壘矣

昔笠置解脫上人入止觀之室鎖靜慮窓燕坐者累日一夜臭煙圍屋腥風拂扉外面大騷嘩焉指窓紙見之有數萬異形充滿菴前僧貌而多著袈裟有梟眼鴿觜者有鵰目象鼻者見其身量或一丈或二丈鳶肩高聳挾羽翼鼴腮其瘦鳴狼牙環眼鉤爪鰐面虎鬚口吐臭焰眼撒惡星自啄身肉瞋拳互擊脫一見牙根戰震寒毛卓豎不覺欲放聲絕叫時有一老僧著桃花衫拄金縷枹霜眉垂掩面雪髮亂滿頭爪水精

罵詈聲奪衆經。有一老僧。把理趣分。欲塞其口。經輙入口中。自此不能言。妖勢漸衰。時山中震搖。聲喧林岳。叫曰。何某在此。何某在此。今夜雖不任懷。佗日必又來取。各報山與姓名。怒叫分散。少焉遠村近里緇素走來滿寺門。問之。答曰。猛火焦天。山皆赫赤也。爲救火走來。自此誦經七日。各滴丹悃。狂者如眠。面色漸如常。嗟不依祕經神咒大威力。何再得復人身。若州上中郡何某住僧是又聰明利智漢也。常逞嘍囉。終打失道情。養其兄女。同室臥。舊隨婆子妬之。殺深埋湖中。婆子弟訟之官。身既見磔。昔濃池田有文秀者菴居。是又打失道情者也。惡漏泄密事。咒詛男女二人。七日斃。不久而發癲。道觸目皆劍樹。狂走死。有殺馬受其祟長老。有拒諫殺。晩年僧被刑學人。有擲佛像於地上。立受重痾。禪客。其餘有所忌有所憚。不筆記者十數輩。箇箇盡是聰明嘍囉。憍慢見

後打失道情道再修堂上古佛化百金往京師買婦人有容色著爲僧。促歸同器食。同牀臥。鎖大櫃安堂上告曰。莊嚴大盡心。佗日設大供。令僞輩瞻禮。誰知古佛向實御畢。別令泥塑彩畫。安著櫃中。不久通身發惡瘡。入馬屋臥。蚊虻皷肌。蒼蠅打面不管。無分人事。終悲泣號哭死。總山梨大龍蘭若有新豐餘晋祖龍長老者。是又平生憍心熾盛。而嘍囉大口無忌憚。寛文十二壬子冬。徒衆容千指。一夜設茶果。招十數輩茶話到更深。舉宗要。品藻古今。罵詈諸方。輕忽當世。乍發大聲叫曰。僞輩見我面乎。此山林葉樹枝一一有我部屬充塞。各把羽扇促招我豈不行。僞輩莫悲予不在。哀號憂惱。不久我其歸來。逐一可迎僞輩行。欲走出。怒眼瞪灑血。慈口裂到耳。有脊力禪客七八輩走前抱留。七狂八顚挐如香象。衝如惡虎。闔山徒衆盡環列誦經諷咒。盡力滴汗。彼又惡口

扉者。扣又窺。窺又扣。少開扉。纔出鼻端。誰何。從尾州赴濃北僧來乞寄宿者也。予則開扉引吹星火。溫殘茶。附予雨中備。彼則架兩臂於膝上貪飧如餓狗。醜陋溢目。臭氣撲鼻。剩自額上到耳畔。有一棒一條痕血點。所所猶未乾。熟視跋上座果打失道情破墮郎落者也。從上辯才多聞悟解了知透底忘卻。終爲一箇乞奴。寔可憐。予曰。我始以儞爲平常僧。熟顧人命在呼吸間。儞若死此乎。夜中見儞今刀瘡。人其以我爲害。儞其速行。行宿山下舊社。來日又來飯。脫破裰附。跋則涕泣出。予亦不覺淚下。可悲非打失道情而已。予面亦不記。其後月餘。而濃北人捉草賊三箇。引出河邊斬之。聞其一者尾州僧。寔可悲也。野州僧有猛上座者。是又跋心友也。利觜惡口。不屑跋後打失道情。爲俗人武陵伎肆掃酒戲場。洗滌酒器。竟乞食街上死。播州何某住山。才藝智見人盡恐畏。

咒秘符。僧尼。巫祝。弋戟香具之間。極備恐怖者。何爲最哉。鬼曰。吾輩受天勅流行何恐之有。特如謙遜慈念人。無數善神晝夜圍遶佐其善心。吾輩醜惡卑賤四十由旬中親近亦不得。況謙下人其福如大地廣厚。何處下手。慈心人其德如大虛寬大。非我輩小鬼所議。如彼憍慢妬害人。無量邪鬼晝夜圍遶。翳彼慢心。是故竊入如入舅姑家。況衆鬼爲公事。走回添我力故。取彼如囊裡探丸。是故。多少憍慢不遜人。無不落吾手。末法澆季佛法漸衰德衰故。人各恃小智。憍心人最多。憍依其智不足。吾輩不得閑暇。不亦宜哉。寔可恐也。予昔在越英巖日。有尾州僧跋上座者。誇管見恃蔑才。呼列刹諸老。多以二字呼流輩。總限一字。其謗徐護鋒終無敵者。予竊謂。如彼後來必失道情矣。三四年後。予行濃東巖流菴居。春雨連日。鎖四面坐。一日有傾破笠引枯藤勃率上來扣柴

聖者。來告宿因。如大陽平侍者。明菴心授上足。而窮五位祕決。盡三種宗要。稱大陽門下隻箭。爲新豐洞裏大絃。後雖住大陽。憍性未罷。終打失道情。常忌出其右者。明菴始既臨示寂。告門人曰。塔若無恙。得十年開塔再供養。既三年而平妬其言。發塔見之。菴定軀嚴然如生。平惛之。積薪燒。經三日。定軀增鮮明也。門人參徒有敬畏。有哀號。有禮拜。有咨嗟。平瞋振钁子。大因一聲。頂骨乍钁破。酒油又燒。宜惡之剗落衣盂。爲俗名黃秀才。終擯出四境。法屬舊友盡憎不容。行乞終蹎臥三叉路口。爲野犬見齩殺。應明菴阿又識矣。嗟憍心賊人。胡爲其如是猛利哉。好箇堂堂叢林英豪。寥廓宇宙間。到無所置五尺軀。是皆憍鬼作祟者也。此鬼常擇聰明俊利人。極百端窺探。終入肺腑中。夫蒼海長百川以下。大凡學道士宜謙下辭讓以助道業。古園成寺僧逢行疫鬼神。問曰。經

隨例盡狼藉。其勢焰不可觸侵。予則輕輕逼撥。推到緊要處痛與三頓徵詰往返。互數次。理盡詞窮。憍柱碎。慢幢折。終稽首作師資禮。且乞安名。予則名之以梵治之字。嗟。治也謹恐。夫憍心强盛之士。往往打失道情。若人打失道情。則醜行惡作無事不行。甚者到鞭笞孃犯姉妹。諸方匡徒領衆須彌座上碩德明師。見備輕忽戲慢垢罵杖辱之日。非悉漏盡羅漢。故三日五日必有不甘食之憂愁。又其參人門徒無不含淚怨恨憂鬱。其罪歸誰身心。夫以戈戟害人者。暫時傷賊虛妄幻質。以言舌害人者。剝落多少德行令名。天神憎嫌。地祇瞋恨。昔有金色鬼。口吐數萬臭蟲。饑苦更甚。佛言。彼是淸淨持戒比丘也。不謹口業故。受此惡報。又有維那罵辱老比丘故。多劫墮地獄。最後生旋陀羅家。胎妊之間臭氣滿室。纔生下來醜惡短少。惡臭蕩人魂。常行厠上。穫糞穢食。有四果

文。記于茲。禪人梵治始入台教密室。徹鎖三觀窻。且探八教頤。一朝憤然而超出教網。驀投入禪海波瀾。不久少喫著彼海水鹹酸。憍心如潮涌。慢情如山聳。於此載破笠。撚瘦藤。窺虎穴。探魔宮。西窮長石肥筑。北限信越能賀。徧跨諸老門閫。逞嘍囉。恣狼藉。凌奪先輩。輕蔑後生。謗殺諸聖。罵辱群賢。列刹耆舊。見其狂燄熾盛不可輙救。顧摩捋以送出爲賢。尋常告諸友曰。教海者我舊小窠。豈足回顧。願欲擇禪林毒樹有惡果苦葉者。且充我蔭涼。一匝四海。拄杖頭未曾一箇似蒿枝底亦拂著。無所向不破。無所觸不碎。已哉。我其買船入大淸乎。大淸亦可知矣。其始走西東日。雖數次抹過我寺門。不屑予寡陋。涕唾亦不吐。若人談及鵠林者裡。慢罵不止。今歲寬保壬戌春見業風吹著。末後錯撞入我闡提窟。袖鐵鞭。握彩畫扇。如惡虎窺狐穴。似饑鵰見跛兎。視予如怨讎。欲

生厭。一墮三途間。始覺前程險。

三途詳于寒山詩二百六十四首。

般若酒冷冷。飲多人易醒。余住天台山。凡愚那見形。常遊深谷洞。終不逐時情。無思亦無慮。無辱也無榮。

自從到此天台寺。經今早已幾多春。山水不移人自老。見卻多少後生人。

平生何所愁。此世隨緣過。日月如逝波。光陰石中火。任他天地移。我暢巖中坐。

嗟見多知漢。終日枉用心。岐路逞嘍囉。欺謾一切人。唯作地獄滓。不修來世因。忽爾無常到。定知亂紛紛。

嘍囉。自負多口義也。

○評曰。師近頃有示梵治禪人數行。初學士可誦之一件也。故不顧褻

若論常快活、唯有隱居人。林花長似錦。四季色常新、或向巖間坐、旋瞻丹
桂輪、雖然身暢逸、卻念世間人。

我見出家人。總愛喫酒肉。此合上天堂。卻沈歸地獄。念得兩卷經。欺佗市
鄽俗。豈知鄽俗士。大有根性熟。

我見頑鈍人。燈心拄須彌。蟻子齧大樹。焉知氣力微。學嚙兩莖菜。言與祖
師齊。火急求懺悔、從今輒莫迷。

君見月光明。照燭四天下。圓輝挂太虛、瑩淨能蕭灑。人道有虧盈。我見無
衰謝。狀似摩尼珠。光明無晝夜。

余住無方所。磅礴無爲理。時陟涅槃山。或玩香林寺。尋常祇是閑。言不干
名利。東海變桑田。我心誰管爾。

左手握驪珠。右手執慧劍。先破無明賊。神珠自吐燄。傷嗟愚癡人。貪愛那

地獄也如炮珠飛見閻老去亦無暇矣。若又似認取見聞覺智證得寂照無記以爲足底自了鬼窟漢子堪作何用。其餘如吟弄詩偈耽著文字底流輩小兒部屬豈足取耶。若人欲辨自見性淺深得力多寡眞僞如何。須著兩處點檢。於動靜二境心無得失否。到佛祖眞正穩密說話見徹無疑惑否。作麼生是佛祖眞正穩密說話。乾峯三種病。疎山壽塔因緣。

常飲三盃酒。昏昏都不知。將錢作夢事。夢事作鐵圍。以苦欲捨苦。捨苦無出期。應須早覺悟。覺悟自歸依。

雲山疊疊幾千重。幽谷路深絕人蹤。碧磵清流多勝境。時來鳥語合人心。

後來出家子。論情入骨癡。本來求解脫。卻見受驅馳。終朝遊俗舍。禮念作威儀。博錢沽酒喫。翻成客作兒。

縱雖留下末代。不得見道分曉智鑑高照助佛爲揚化令教選路行底佛子。則無異充棟蠹殘古紙堆。所以道。道不獨行。得人以弘道。若有一人。三五七年只管究明去。參決來。一旦豁然而貫徹自性佗性法界性。一見見透無餘蘊。是卽眞正見道底端的也。於此把從上佛祖折角諸訛難信難解底話頭一一見。總是自家屋裏事。如萬里異鄉見妻子面。一毫髮許無凝滯。此時游泳龍宮海藏裡來。隨機受用。任手拈弄。出片言也。如大火聚。如熱鐵橛。吐隻字也。如鴆鳥尾。如象王鼻。敷大慈雲。行大法施。經三祇劫無退倦。名之爲眞佛子。寔無比僧寶也。助佛揚化。何畏之有。若又最初莽鹵而眼目不分曉。縱雖暗誦一代時教。記取四章陀論。橫說竪說。感天華亂墜異香薰徹。總是欺誑鼓惑說話邪魔所說。不許稱佛子。況懷勝佗心。挾利名念。亂自行法施乎。名之爲不淨說法。人

○評曰。此詩稱眞正道德智行佛子。呵末法頑空無記默照啞羊屢緇。

師評唱此詩之日。寒餓禪者慨念曰。我出十力調御纔出現於世。則有六種神異。帶八種四音。蓋八萬徒衆演五時妙義。梵釋戴足。龍天委命。擬吾輩。蚊子量亦無。而拾公曰。助佛揚化。是何心哉。顧非欲滴蟭螟眼裏淚扶揚蒼海波浪者乎。有何伎量堪扶佛耶。寔可怪饑凍上座曰。否也。居吾語偏是扶佛本志。播揚雖遐大教之義也。昔調御師降下兜率。出世迦維。六白枯坐八相成道。展開三百六十勝會。利濟四生六凡含識。有頓漸顯密教演偏圓半滿旨。是欲使吾入得佛智見之外。全無他事。全無別旨。心包大虛量周沙界。名之爲佛寶。其薪盡火滅後。畢波羅窟中結集彼所說幻出五千餘編貝葉。其有八萬四千妙義。該羅萬有。包括大千。名之爲法寶。束以留下末代。欲誘引薄福昏愚之勞生者也。

少有文采。故守史職。獼猴騎土牛。又何遲也。

三界如轉輪浮生若流水。蠢蠢諸品類。貪生不覺死儞看朝垂露。能得幾時子。

閑入天台洞。訪人人不知。寒山爲伴侶。松下噉靈芝。每談今古事。嗟見世愚癡。箇箇入地獄。那得出頭時。

古佛路凄凄。愚人到卻迷。祇緣前業重。所以不能知。欲知無爲理。心中不挂絲。生生勤苦學。必定覩吾師。

各有天眞佛。號之爲寶王。珠光日夜照。玄妙卒難量。盲人常兀兀。那肯怕災殃。唯貪婬佚業。此輩實堪傷。

出家求出離。哀念苦衆生。助佛爲揚化。令教選路行。何曾解救苦。恣意亂縱橫。一時同受溺。俱落大深阬。

雙童事。上引十王經。又莊子庚桑楚篇。爲不善於顯明之中者。人得而誅之。爲不善乎幽間之中者。鬼得而誅之。明乎人明乎鬼者。然後能獨行。永嘉證道歌曰。作在心殃在身。不須怨訴更尤人。

悠悠塵裡人。常樂塵中趣。我見塵中人。心多生愍顧。何哉愍此流。念彼塵中苦。

無去無來本湛然。不居內外及中間。一顆水晶絕瑕翳。光明透滿出人天。

少年學書劍。叱馭到荊州。聞伐匈奴盡。婆娑無處遊。歸來翠巖下。席草枕淸流。莊士志未就。獼猴騎土牛。

詩閟宮篇。戎狄是膺。荊舒是懲。又殷武篇。撻彼殷武。奮伐荊楚。事文類聚別集曰。魏周泰爲新城太守。司馬宣王使鍾毓喝曰。君釋褐登宰府。三十六日。擁麾蓋。守兵馬郡。乞兒乘小車。一何駛乎。泰曰。君名公之子。

肉。豈不償。必不可免。儞既捉彼。彼亦果捉儞。捉捉捉依舊殺戮。生殺往復如旋火輪。報應因果等滴油箭。死彼生此。億劫苦果。毎思念。齒牙欲戰落。是故未曾有經說食肉人有十種過失。努力急須出離。縱儞衆善修萬行。總是生死大兆。何日得算澤。若人欲超出此段禍患。先須見性。儞若一回得見性去。千生多少罪纆。徹底脫卻億劫生死業障。和根拔黐。是故。寒公曰。咄咄咄。三界輪回。

銀星釘秤衡。絲絲作秤紐。買人推向前。賣人推向後。不顧佗心怨。唯言我好手。死去見閻王。背後揷掃帚。

龐居士偈曰。枉法取人錢。誇道能計算。

閉門私造罪。準擬免災殃。被佗惡部童。抄得報閻王。縱不入鑊湯。亦須臥鐵牀。不許雇人替。自作自身當。

羱羺一群羊。沿山又入谷。看人貪竹塞。且遭豺狼逐。元不出孳生。便將充口腹。從頭喫至尾。納納無餘肉。

張籍寄李渤詩註。本草。羱羺即杜鵑花。羊食則死見之。羱羺以此得名。竹塞者。寒乎。莊子駢拇篇云。臧與穀二人相與牧羊。而俱亡其羊。問臧奚事。則挾筴讀書。問穀奚事。則博塞以遊。二人者事業不同。其於亡羊均也。詩。鳥獸孳尾。乳化曰孳。

○評曰。此詩拾公見一群羊涉山徑臨溪流。有所感慘然而賦成者也。言彼偶値虞人貪竹塞忘逐羊。幸雖免人禍。終罹獸厄。豈豺狼齒牙。必不遺。寔可憫也。凡一切有情四生含識各一元氣。互分四大。總是孳生一族乳化同類也。而不顧。互相呑噉。強鳴嗔牙。覔弱縮擧體畏強。強弱覔探。殘害無止時。儞今飽彼口腹之。彼亦飽儞必口腹之。烏乎。負命假

註曰。剡縣東南有天台山。嵩禪客。南泉法嗣。洛京嵩山和尚。僧問。如何是嵩山境。師曰。日從東出。月向西傾。見傳燈。淼淼大水貌。雲雲澐澐乎。江水大波謂之澐。

自笑老夫筋力収。偏戀松巖愛獨遊。可歎往年至今日。任運還同不繫舟。

一入雙溪不計春。鍊暴黄精幾許斤。鑪竈石鍋頻煮沸。土甑久蒸氣味珍。誰來幽谷餐仙食。獨向雲泉更勿人。延齡壽盡招手石。此棲終不出山門。

招手石。傳燈二十七。智者大師十五禮佛像。誓志出家。恍然如夢。見大山臨海際。峯頂有僧。招手接入一伽藍。爾當居此。汝當終此。後大建七年乙未。謝遣徒衆。隱天台山佛隴峯。有定光禪師。先居此峯。謂弟子曰。不久當有善知識。領徒至此。俄爾師至。光曰。還憶疇昔擧手招引時否。師即悟禮像之徵。悲喜交懷。乃執手共到菴處。

此義未設一席僧早擬望富貴。

獮猴尚教得。人何不憤發。前車既落坑。後車須改轍。若也不知此。恐君惡合殺。比來是夜叉。變即成菩薩。

徐學老勸童行勸學文曰。且如獮猴獸類也。尚可教以藝解。句鴿禽鳥也。尚可教以歌唱。人爲萬物靈。如不學視禽獸之不若也。出緇門警訓。

君不見三界之中紛擾擾。祇爲無明不了絕。一念不生心澄然。無去無來不生滅。

故林又斬新。剡源溪上人。天姥峽關嶺。通同次海天。灣深曲島間。淼淼水雲雲。借問萬禪客。日輪何處暾。

謝靈運登臨海嶠與惠連詩曰。暝投剡中宿。明登天姥岑。注漢書曰。會稽有剡縣。輿地理志曰。剡中縣名。有天姥山。又孫興公遊天台山賦

處覓。借問有何緣。向道無爲力。

維摩經序曰。眇莽無爲而無不爲。罔知所以然。而能然者不思議也。證道歌曰。有人問我解何宗。報道摩訶般若力。

從來是拾得。不是偶然稱。別無親眷屬。寒山是我兄。兩人心相似。誰能徇俗情。若問年多少。黃河幾度淸。

若解捉老鼠。不在五白猫。若能悟理性。那由錦繡包。眞珠入席袋。佛性止蓬茅。一群取相漢。用意總無交。

退之寄盧仝詩。立召賊曹呼五白。盡取鼠輩尸諸市。管解曰。有說引此以爲五白猫之證。愚謂。韓詩不可爲猫事看之乎。師謂。韓詩實猫事也。捉鼠輩者。非猫而何。

運心常寬廣。此則名爲布。輟己惠於人。方可名爲施。後來人不知。焉能會

男女爲婚嫁俗務是常儀。自量其事力。何用廣張施取債誇人我論情入骨癡。殺他鷄犬命。身死墮阿鼻。

名義集地獄篇梵語阿鼻。此曰無間。

世上一種人。出生常多事。終日傍街衢不離諸酒肆爲他作保見。替他說道理。一朝有乖張。過咎全歸爾。

生異作性。韓文六年至十二三。頭角各相疎。二十漸乖張。

我勸出家輩須知教法深專心求出離輙莫染貪淫。大有俗中士。知非不愛金故知君子志任運聽浮沈。

龐居士偈曰世人重珍寶我貴刹那靜。金多亂人心靜見眞如性。性空法亦空。十八絕行蹤。但自心無礙。何愁神不通。

寒山自寒山。拾得自拾得。凡愚豈見知。豐干御相識。見時不可見覓時何

業次。不能得衣食。頭鑽入於寺。

法華譬喩品。佛爲王子時。棄國捨世榮。

嗟見世間人。永劫在迷津。不省這箇意。修行徒苦辛。

我詩也是詩。有人喚作偈。詩偈總一般。讀時須子細。緩緩細披尋。不得生容易。依此學修行。大有可笑事。

西域記曰。舊曰偈。梵本略也。或曰偈佗。梵音訛也。今從正音。宜云伽陀。唐言頌。

有偈有千萬。卒急述應難。若要相知者。但入天台山。巖中深處坐。說理及談玄。共我不相見。對面似千山。

世間億萬人。面孔不相似。借問何因緣。致令遺如此。各執一般見。互說非兼是。但自修己身。不要言佗己。

六道衆生隨業力所感果報身則有長有短。命則有壽有夭。而皆流轉生死。故名分段生死。同卷出八寒地獄。其三曰。阿吒吒地獄。釋曰。梵語阿吒吒。或曰嚯嚯。謂受罪衆生。由寒苦增極脣不能動。唯於舌中作此聲也。其四曰。阿波波地獄。釋曰。梵語阿波波。或云唬唬婆。謂受罪衆生。寒苦增極。舌不能動。唯於脣間作此聲也。今此曰波吒者。蓋略取阿波波阿吒吒言乎。

佛哀三界子。總是親男女。恐沈黑暗坑。示儀垂化度。盡登無上道。俱證菩提路。教儞擬衆生。慈心勤覺悟。

法華經譬喩品云。今此三界。皆是我有。其中衆生。皆是吾子。黑暗坑。地藏經曰。鐵圍山東西有黑暗處。

佛捨尊榮樂。爲愍諸癡子。早願悟無生。辦集無上事。後來出家者。多緣無

能笑得儞。

班固答賓戲曰。朝爲榮華。夕爲顦顇。

養兒與取妻。養女求媒娉。重重皆是業。更殺衆生命。聚集會親情。總來看盤飣。目下雖稱心。罪簿先注定。

飣。棗。丁定切。置食又貯食也。十王經。爾時世尊告大衆言。諸衆生有同生神。左神記惡。形如羅刹。常隨不離。悉記小惡。右神記善。形如吉祥。常隨不離。皆記微善。捴名雙童。亡人先身若福若罪。諸業。皆書盡持奏與閻羅法王。其王以簿推問亡人。算計所作。隨善隨惡而斷分之。

得此分段身。可笑好形質。面貌似銀盤。心中黑如漆。烹豬又宰羊。誇道甜如蜜。死後受波吒。更莫稱寃屈。

三藏法數出二種生死。其一曰。分段生死。釋曰。分即分限。段即形段。謂

祖庭事苑一曰。建中初蜀相崔寧之女以金茶杯無襯病其熨指。取楪子盛之。既啜而杯傾。乃以蠟環楪子。使其杯遂定。卽遣匠以漆環代蠟進於相國。相奇之。爲製名托子。因行於代。是後傳者更環其底。閻摩羅上引義楚六帖。又瑜伽論曰。問。閻摩王爲能損害。爲能饒益。何故名法王。答由饒益衆生故。若諸衆生執到王所。令憶念。遂爲現彼相似之身。告曰。爾等自作。當受其果。由感那落迦新業更不積集。故業盡已脫那落伽。是由能饒益衆生故名法王。龐居士偈云。婬欲暫時情。長劫入地獄。縱令得出來。異形人不識。左二十五年杜預註。六畜馬牛羊鷄犬豕是也。

出家要淸閑。淸閑卽爲貴。如何塵外人。卻入塵埃裏。一向迷本心。終朝役名利。名利得到身。形容已顦顇。況復不遂者。虛用平生志。可憐無事人。未

采薪。遇一僧似梵儀。持錫入巖。挑鎖子骨而去。乃謂僧曰。取拾得舍利。僧遂白寺衆。衆方委拾得在此巖入滅。乃號爲拾得巖。在寺東南隅登山二里餘地。聊錄如前。貴示後人矣。

拾得詩

諸佛留藏經。祇爲人難化。不唯賢與愚。箇箇心構架。造業大如山。豈解懷憂怕。那肯細尋思。日夜懷姦詐。

維摩經香積佛品曰。以難化之人心如猿猴故。以若干種法制御其心。乃可調伏。

嗟見世間人。箇箇愛喫肉。椀楪不曾乾。長時道不足。昨日設箇齋。今朝宰六畜。都緣業使牽。非干情所欲。一度造天堂。百度造地獄。閻羅使來追。合家盡啼哭。鑪子邊向火。鑊子裡澡浴。更得出頭時。換卻汝衣服。

寒山同爲侶。松風水月間。何事最幽邃。唯有遯居人。

悠悠三界主。

○評曰。首書曰。此五字未穩當。恐衍文乎。明哲者可辨之。鵠林曰。此五字極是奇絶。拾公平生肝膽。一時吐出了也。與寒公所謂咄咄咄三界輪回。以字不成八字非。

古佛路凄凄。無人行至此。企跡誰不踏。旋機滯凡累。

可畏生死輪。輪之未曾息。嗟彼六趣中。茫茫諸迷子。

人懷天眞佛。太寶心珠祕。迷盲沈沈流。汨沒何時出。

智度論五曰。生死輪載人諸煩惱結業。大力自在轉。無人能禁止。何時出。

拾得自閭丘太守拜後。同寒山子把手走出寺跡隱。後因國淸僧登南峯

恢恢大丈夫。堂堂六尺士。枉死埋家閒。可惜孤標物。

不見日光明。照耀於天下。大淸廓落洞。明月可然貴。

余本住無方。磅礴無爲理。時陟涅槃山。徐步香林裡。

磅礴二字。出于寒山詩二百四十一首。

左手握驪珠。右手執摩尼。莫耶未足双。智劍斬六賊。

般若酒淸冷。飮啄澄神思。余閑來天台。尋人人不至。

文選曹子建與楊德祖書曰。當此時人人自謂握靈蛇之珠。家家自謂抱荆山之玉。又莊子列禦寇篇曰河上有家貧恃緯蕭而食者。其子沒於淵。得千金之珠。其父謂其子曰。取石來鍛之。夫千金之珠必在九重之淵而驪龍頷下。子能得珠者。必遭其睡也。使驪龍而寤。子尙奚微之有哉。摩尼事。出寒山詩七言十一首。

頑嚚。左傳僖公二十四年曰。心不則德義之經爲頑。口不道忠信之言爲嚚。

蒸沙豈成飯。磨甎將作鏡。說食終不飽。直須著力行。

蒸沙。楞嚴經第一曰。諸修行人不能得成無上菩提。乃至別成聲聞緣覺。及成外道諸天魔王及魔眷屬。皆由不知二種根本。錯亂修習。猶如煮沙欲成嘉饌。華嚴十三曰。如人設美饍自餓而不食。於法不修行。多聞亦如是。

○許曰。此章大意。見性不明了。入理不眞。認得見聞覺知證取八識無知。以爲菩提底。雖歷三祇劫數。不能得法成就。不覺墮聲聞二乘部類。恰如蒸砂似磨甎。所以謂直須著力行。試問作麼生是著力行底。寒公曰。咄咄咄。三界輪回。此語若見得分明。許儞親著力了。

長養淸淨。故意令半月半月憶所犯事。對無犯人說露。冀改前愆。一則遮現在之更爲。二則懲未來之慢法。故毘尼母論云。何名布薩。答斷名布薩。謂能斷所作。能斷煩惱。能斷一切不善法。故詩雄雉瞻彼日月。悠悠我愁。註。悠悠思長也。勅修淸規。典座。職掌大衆齋粥。一切供養務在淸潔。直歲。按。僧史謂。直一年之務。故立此職。前漢書六十二。司馬遷傳贊曰。不虛美。不隱惡。故謂之實錄。拾得詩。宋高僧傳十九。拾得傳。時道翹纂錄寒山文句。於寺土地神廟壁。見拾得偈詩。附寒山集中。

東洋海水淸。水淸復見底。靈源涌法泉。斫水無刀痕。

楞嚴經九曰。然彼諸魔雖有大怒塵勞內。汝妙覺中。如風吹光。如刀斷水。了不相觸。汝如沸湯。彼如堅氷。煖氣漸隣。不日消殞。

我見頑嚚士。燈心拄須彌。寸樵煮大海。甲抹大地石。

拾得言。我不放牛也。此群牛皆是前生大德知事人咸有法號。喚者皆認。時拾得一一喚牛云。前生律師弘靖出。時一白牛作聲而過。又喚。前生典座光超出。時一黑牛作聲而過。又喚直歲靖本出。時一牯牛作聲而出。又喚云。前生知事法忠出。時一牯牛作聲而出。乃獨來。謂牛曰。前生不持戒。人面而畜心。汝今招此咎怨恨於何人。佛力雖然大。爾孤於佛恩。大衆驚訝忙然。因此又報州縣。使令入州不赴召命。盡代人仰因此顯現。寺衆徬徨咸歎菩薩來於人世。聊纂實錄。貴不除。爾衆於土地堂壁上書語數聯貴示後人。乃集語曰。

四分云。伽藍中立神屋。傳云。中國僧寺立鬼廟。增輝記云。即鬼子母廟也。次立伽藍神廟。護伽藍神者。有十八。次立賓頭盧廟。布薩此律居常式也。此云共住。又云淨住。毘奈耶云。褒洒陀。唐言長養淨。謂除破戒垢。

笥盛。寒山子來負之而去。或發一言。我有一珠。埋在陰中。無人別者。衆謂癡子。寺內山王僧常參奉。及下供養香燈等務。食物多被鳥所耗。忽一夜僧衆同夢見。山王云。拾得打我瞋云。儞是神道。守護伽藍。更受沙門參奉供養。既有靈驗。何以食被鳥殘。今後不要僧參奉供養。至旦僧衆上堂。各說所夢。皆無一差。靈熠亦然。喧喧未止。熠下供養。忽見山王身上。而有杖痕所損。熠乃報衆。衆皆奔看。各云。夜夢斯事。乃知。拾得不是凡間之子。一寺紛紛。具狀申州報縣。符下。賢士遯跡。菩薩化身。宜令號爲拾得賢士。自此後常使淨人直香華供養。又於莊頭牧牛。歌詠叫天。又因半月布薩。衆僧說戒。法事合時。拾得驅牛至堂前。倚門而立。拊掌微笑曰。悠悠哉。聚頭作相。這箇如何。老宿律德怒而呵曰。下人風狂破於說戒。拾得笑而言曰。心無瞋即是戒。心淨即出家。我性與儞合。一切法無差。尊宿出堂打趁拾得。令驅牛出去。

拾得錄

豐干禪師寒山拾得者。在唐太宗貞觀年中。相次垂跡於國淸寺。拾得者豐干禪師因遊松徑。徐步於赤城。道路側偶而聞啼。乃尋其由。見一子。可年十歲。初謂彼村牧牛之子。委問。逗留云。我無舍。無姓。遂引至寺。付庫院候人來認。數旬之間絕其親鞠。乃令事知庫僧靈熠。經于三祀。頗會人言。令知食堂香燈供養。忽於一日與像對坐。佛盤同餐。復于聖僧前云。小果位。喃喃呵俚而言傷哉。

親鞠。周書無遺。鞠子羞註。鞠養也。三祀。棄祥子切。年也。爾雅。商曰祀。取四時祀事一周也。食堂安賓頭盧。始道安法師。詳高僧傳。又食堂文殊爲上座。谷響集可考。呵俚。棄。俚鄙俗也。呵責也。

熠謂老宿等。此子心風。無令下供養。乃令厨內洗滌器物。每澄食滓而以

兀兀沈浪海。漂漂轉三界。可惜一靈物。無始被境埋。電光瞥然起。生死紛塵埃。

寒山特相訪。拾得罕期來。論心話明月。大虛廓無礙。法界即無邊。一法普徧該。

本來無一物。亦無塵可拂。若能了達此。不用坐兀兀。

豐干禪師錄

道者豐干。未窮根裔。古老見之。居于天台山國淸寺。翦髮齊眉。毳裘擁質。緇素問掬。乃云隨時。貌悴昂藏。恢端七尺。唯攻舂米供僧。夜則扃房。吟詠自樂。郡縣詣知。咸謂風僧。或發一言。異於常流。忽爾一日騎虎。松徑來入國淸。巡廊唱道。衆皆驚訝。怕懼怛然。竝欽其德。昔京輦與胤救疾。到任丹丘。跡無追訪。賢人隱遯。示化東甌。唯於房中壁上。書曰。

裔。以側切。末也。胄也。別本云。東甌閩中也。

余自來天台。凡經幾萬回。一身如雲水。悠悠任去來。

逍遙絕無鬧。忘機隆佛道。世途岐路心。衆生多煩惱。

四家錄。黃檗大師曰。祖師門中事。只論息機息見。所以忘機則佛道隆。分別則魔軍熾。

覺先跋有レ之。

哉。

重巖中。足清風。扇不搖。凉氣通明月照。白雲籠。獨自坐。一老翁。

寒山子。長如是。獨自居。不生死。

拾遺二首新添

我見世間人。箇箇爭意氣。一朝忽然死。祇得一片地。闊四尺長丈二。儞若會出來爭意氣。我與儞立碑記。

家有寒山詩。勝儞看經卷。書放屛風上。時時看一徧。

少年懶讀書。三十業由未。白首始得官。不過十鄕尉。不如多種黍。供此伏家費。打酒詠詩眠。百年期髣髴。

髣髴。闘不審貌。又不明貌。

抄。此詩不載舊本。有說檢異本得之。異本。隋州大洪住山慶預序幷劉

天人師。佛世尊。磊磊衆石貌。書禹貢註。隩隈也。善導。法華經序品註。曰導師。謂佛也。良以說法。入定能導於人。故稱導師。相好。謂三十二相八十種好。詳三藏法數及智論。

寒山寒。氷鎖石。藏山靑。現雪白。日出照。一時釋。從茲暖。養老客。

我居山。勿人識。白雲中。常寂寂。

寒山深。稱我心。純白石。勿黃金。泉聲響。撫伯琴。有子期。辨此音。

列子湯問篇曰。伯牙善鼓琴。鍾子期聽。伯牙鼓琴。志在高山。鍾子期曰。善哉峨峨兮。若泰山。志在流水。鍾子期曰。善哉洋洋兮。若江河。伯牙所念。鍾子期必得之。伯牙游於泰山之陰。卒逢暴雨。止於巖下。心悲乃援琴而鼓之。初爲霖雨之操。更造崩山之音曲。每奏鍾子期輙窮其趣。伯牙乃舍琴而歎曰。善哉善哉。子之聽夫。志想象猶吾心也。吾於何逃聲

樺巾木屐沿流步。布裘藜杖繞山廻。自覺浮世幻化事。逍遙快樂實善哉。

丹丘迥聳與雲齊。空裡五峯遙望低。鴈塔高排出靑嶂。禪林古殿入虹蜺。

風搖松葉赤城秀。霧吐中嵒仙路迷。碧落千山萬仞現。藤蘿相接次連谿。

謝玄暉敬亭山詩曰。茲山亘萬里。合沓與雲齊。丹丘赤城見于前。釋氏要覽住處篇曰。西域記昔有比丘。見群鴈飛翔。戲言知時。忽有一鴈投下自殞。衆曰。此鴈垂誡。宜旌厚德。於此瘞鴈建塔。

自從到此天台境。經今早度幾冬春。山水不移人自老。見卻多少後生人。

三字

寒山道。無人到。若能行。稱十號。有蟬鳴。無鴉噪。黃葉落。白雲掃。石磊磊。山隩隩。我獨居。名善導。子細看。何相好。

十號。瓔珞經。如來。應供。正遍知。明行足。善逝。世間解。無上士。調御。丈夫。

丹霞所謂智者安然得者乎。

衆星羅列夜明深。嵓點孤燈月未沈。圓滿光華不磨瑩。掛在青天是我心。

千年石上古人蹤。萬丈嵓前一點空。明月照時常皎潔。不勞尋討問西東。

寒山頂上月輪孤。照見晴空一物無。可貴天然無價寶。埋在五陰溺身軀。

我向前溪照碧流。或向嵓邊坐盤石。心似孤雲無所依。悠悠世事何須覓。

我家本住在寒山。石嵓棲息離煩緣。泯時萬象無痕迹。舒處周流徧大千。

光影騰輝照心地。無有一法當現前。方知摩尼一顆珠。解用無方處處圓。

世人何事可吁嗟。苦樂交煎勿底涯。生死往來多少劫。東西南北是誰家。

張王李趙權時姓。六道三途事似麻。祇爲主人不了絕。遂招遷謝逐迷邪。

張王李趙。非趙高李斯緣。只可見張三李四事。

余家本住在天台。雲路煙深絕客來。千仭巖巒深可遯。萬重谿澗石樓臺。

此寶處。增長威德。又增長論云。摩尼珠多在龍腦中。有福衆生自然得之。亦名如意珠。常出一切寶物衣服飲食。隨意皆得。此珠者。毒不能害。火不能燒。善友太子之事。事苑八載之。智度論十二載。能施太子事。諸教要集等可幷考。

○評曰。此詩親設巧喩。菩薩最初因地時爲挑昏衢之智燈。爲長夜之慧炬。利濟海福昏暗衆生。發起大精進。求阿耨菩提如意珠。恰如商主入海求無價寶珠。龍宮深密處者。指八識賴耶渺茫湛寂之處也。既而積衆善。勤萬行。多拜多禮。長坐不臥。轉求轉遠。轉進轉失。晝夜困苦。主神大憂愁。其法珠難得也。恰如金剛鎖斷海神揮劍。心神憤悶精魂煩亂無手脚可著。伎盡詞窮。放手茫然而坐。何計內外中間八紘四維。總是一顆粲然摩尼寶珠也。初知彼南岳所謂頓悟心源開寶藏也。是亦

伽陀。此云普去。能去衆病。又翻圓藥。華嚴經曰、阿伽陀圓、衆生見者衆病悉除。

千生萬死何時已。生死來去轉迷盲。不識心中無價寶。猶似盲驢信脚行。

老病殘年百有餘。面黃頭白好山居。布裘擁質隨緣過。豈羨人間巧樣模。

心神用盡爲名利。百種貪婪進己軀。浮世幻化如燈燼。冢內埋身是有無。

世間何事最堪嗟。盡是三途造罪楂。不學白雲嵓下客。一條寒衲是生涯。

秋到任佗林落葉。春來從爾樹開花。三界橫眠閑無事。明月淸風是我家。

昔年曾到大海遊。爲采摩尼誓懇求。直到龍宮深密處。金關鎖斷主神愁。

龍王守護安耳裏。劒客星揮無處搜。賈客却歸門內去。明珠元在我心頭。

名義集七寶篇曰。摩尼或云踰摩。應法師云。正云末尼。即珠之總名也。此云離垢。此寶光淨不爲垢穢所染。或加梵字顯其淨也。又翻增長。有

余見僧繇性希奇。巧妙間生梁朝時。道子飄然爲殊特。二公善繪手毫揮。
遺畫圖眞意氣異。龍行鬼走神巍巍。饒貌虛空寫塵跡。無因畫得志公師。
事苑第六。張僧繇吳人也。梁天監中爲武陵王國侍郎直秘閣知畫事。
歷右將軍吳興太守。列僊傳第六。僧繇畫龍點睛。聞雷則破壁飛去。道
子畫龍鱗甲若飛動。佛祖綱目二十七。梁武帝嘗詔畫工僧繇寫誌公
像。僧繇下筆。輒不自定。誌遂以指剺面門分披。出十二面觀音相。或慈
或威。繇竟不能寫。誌曰。毘婆尸佛蚤留心直至而今不得妙。

久住寒山凡幾秋。獨吟歌曲絕無憂。蓬扉不掩常幽寂。泉涌甘漿長自流。
石室地爐砂鼎沸。松黃柏茗乳香甌。飢飡一粒伽陀藥。心地調和倚石頭。

東坡詩集卷三曰。崎嶇食松黃。註曰。本草圖經。松枝上黃粉名松黃。山
人及時拂取作湯點之。本草。乳香。仙方用以辟穀。名義集什物篇曰。阿

丈夫志氣直如鐵。無曲心中道自眞。行密節高霜下竹。方知不枉用心神。

智度論六曰。如談者談以日光風動塵故。曠野中如野馬。無智人初見謂爲水。

汝謂埋頭癡兀兀。愛向無明羅刹窟。再三勸爾早修行。是爾頑癡心恍惚。

不肯信受寒山語。轉轉倍加業汨汨。直待斬首作兩段。方知自身奴賊物。

法華普門品科註。曰羅刹是食人鬼也。又曰。墮見愛境。爲見愛羅刹害。

云云。楊子法言。神心恍惚。恍惚失意也。汨。彙音骨。亂也濁也。

雲山疊疊連天碧。路僻林深無客遊。遠望孤蟾明皎皎。近聞群鳥語啾啾。

老夫獨坐棲靑嶂。少室閑居任白頭。可歎往年與今日。無心還似水東流。

一住寒山萬事休。更無雜念挂心頭。閑於石壁題詩句。任運還同不繫舟。

賈誼鵩鳥賦曰。澹乎若深淵之靜。泛乎若不繫之舟。

好手。若能會我詩。眞是如來母。

劉義慶世說曰。王子猷詣謝公。云詩何七言。子猷曰。昂昂若千里之駒。泛泛若水中之鳥。此語出離騷。東方朔傳曰。漢武在柏梁臺。使羣臣作七言。七言之作起于此也。仁王般若經不思議品曰。此般若波羅密多。是諸佛母。諸菩薩母。不共功德神通生處。

○許曰。此詩算結寒公一生所作詩數。閭丘纔得三百十首。

七字

余曾昔覩聰明士。博達英靈無比倫。一選嘉名喧宇宙。五言詩句越諸人。爲官治化超先輩。直爲無能繼後塵。忽然富貴貪財色。瓦解氷消不可陳。

事苑。天地四方曰宇。古往今來曰宙。後漢書陳寔傳。有繼塵二字。

貪愛有人求快活。不知禍在百年身。但看陽燄浮漚水。便覺無常敗壞人。

戒戒外無心。不傳妙道。傳不傳。衆生度了妙明妙。堂曰。老僧多年求一個遲鈍漢。而未得。海信切要畫餠安滋味。老僧不獲已。無底鐵鞋絆著紅絲線。直過中嵩到中竺。佛祖面前修懺一上。愼勿招爲不信輕慢人被倫卻。斷絕佛祖命脉。滅卻正法之罪。欽哉。則個已上。一心妙戒敎序分也。大略記之。

有人笑我詩。我詩合典雅。不煩鄭氏箋。豈用毛公解。不恨會人稀。祇爲知音寡。若遣趁宮商。余病莫能罷。忽遇明眼人。卽自流天下。

箋。鄭玄箋註也。解。毛萇詩註解也。字彙。箋音煎。表也識也。鄭庚成衍毛氏詩傳之未盡者。名曰箋。張華博物志云。鄭玄卽毛萇郡人。謙敬不敢言註。但表識其不明耳。此說本出於後漢書衞宏傳註。

五言五百篇。七字七十九。三字二十一。都來六百首。一例書巖石。自誇云

信不背願捨身歸命。生生嚴持。堂開示戒本妙訣曰。一心眞如。無上菩提。一身三身。三身一身。一身三心。三心一心。一心心心。佛智圓明。本覺一念。一念一生。無明衆生。一念返照。空中空。中道實相第一義心。斷惡修善。是眞度生。是名妙戒。是佛開示悟入佛子是人天師。中竺中萬涅槃妙心無上菩提一心眞如。

乃拈曰。這個金剛圈。元來無縫罅。佛祖弄來強生節目。的的相承。傳到老僧。我不知其名。不妨喚作一心妙戒。今正付囑于儞。心受身持。卻在儞邊。欽哉。則個師卽從座起百拜。至誠誓結曰。不惜身命財。永劫不違犯。師既傳戒歡喜讚嘆曰。大哉一心。至哉妙戒。從前閑葛藤。奇特玄妙。一刀劃卻。冷湫湫地。鑄出佛祖。把定則上無攀仰。下絕已窮。放行則竪貫三有。橫穿三際。本覺不迷則始覺何立。始本元來無二無別。心外無

放下著。師曰。萬仭懸崖攀躋難。冀放開線路。堂打一拂子曰。過去心不可得。戒體露堂堂。現在心不可得。戒相明歷歷。未來心不可得。戒用月吐雲。毘婆尸佛早留心。直到今未得妙。會麼。師默然。堂曰。三不可得時一心明妙。不可以言宣。當觀第一義。師曰。如何是第一義。堂曰。世尊爲一大事因緣故。出現於世。對衆機一心現萬法。達磨大師赤手收拾萬法。歸一心。冷坐九年。不談禪。不說戒。廓然無聖。誰敢持犯。這個是達磨大師心印單傳的波羅提木叉。儞能持否。師便禮拜曰。海信不肖。願放下身命受持奉行。堂曰。近前來。師便膝行稽首。堂曰。如上木叉一故易受。妙故難持。受不持是犯。持而不行是違。儞不違犯則衆生不違犯。衆生不違犯。則諸天不違犯。諸天不違犯。則諸佛不違犯。一切不違犯時。波羅提木叉眞個爲諸佛本師。海信儞能受持如是戒不。師喜淚曰。海

唱直指見性教外別傳禪萬法歸一心。一亦不立。一切名相。思惟言說。總離卻離亦離。一心妙明。是爲戒本。二祖可大師三拜立。六祖能大師無一物。亦是一模脫出。是爲戒本。後來臨濟喝。德山棒。著著有出身路。涅槃妙心流出於胸襟。是爲戒本。佛滅二千年。魔强法弱。戒本支分。三學鼎立。禪和子滔滔逐末忘本。海信不醒。猶作抵捂會了。可憐生。一心妙戒。何論前後緩急。師禮謝曰。甚深希有。一心妙戒。從前諸祖未恁麼說。菩薩子羅漢僧來恁麼會。伏願慈悲開示。堂曰。咦。世尊八萬法門唯這是。祖師千七百則公案唯這是。盲聾淺。欲得正眼斬卻偷心。偷心死去。眼見耳聞。手提足運。語默動靜。無礙自在。佛法世法。唯是一心。轉轉無礙。師云。過去心不可得。現在心不可得。未來心不可得。轉轉無礙。阿那個是偷心。堂曰。計較三不可得底是。師曰。心本無形。如何斬卻。堂曰。

也。去年元文庚申冬。得無我吾菩薩一心妙戒經。拜披者再三。與正受老人所說直旨悉符契。寔如見老漢嚴冷面。今依吾子親切問端。不覺叨叨。叨叨若有所可把。並彼妙戒經記之。記以得眞正衲子。時附以報佛恩十分之一。至禱。

一心妙戒經　無我菩薩省吾禪師。初名海信。十三歲出家剃染。學顯密法。登壇受具。精修絕倫。側聞達磨宗有安心法。參禮知識。遍求妙悟。或指見紫野宗峯。師問話往返。句下知落處。峯深器重于時。月堂宗規從關右來住京西龍翔。峯差師輔翼。堂命掌竺墳。堂西歸師亦隨朝參暮叩。搜著巴鼻。一日詢堂。佛學無盡。以戒爲先。定慧次之。宗門先定慧。後戒律。奚其抵捂。堂曰。不是。世尊在靈山會上。迦葉微笑傳正法眼藏涅槃妙心實相無相法。是爲戒本。至二十八傳達磨大師。得得西來。首

乾坤大地草木森羅須知皆此戒全身無開遮相無持犯迹不依三師不求七證無能授師無所授者但在當人純工功積實參力盡最後放身捨命底一刹那迷則全圓頓無作純眞戒體爲五濁充滿雜業穢土。會則全五濁充滿雜業穢土爲圓頓無作純眞戒體。一切處純工無間缺名之爲眞正持戒佛子毫釐繫念名之爲波羅夷只要臉崖撒手。絕後再蘇若或以紙授口傳爲得以情謂計度爲證未證謂證未得謂得。是爲增上慢人盡是外魔種族也。向後得眞正參禪見性如見掌上了了分明底漢子必密附之。如上秘訣非中下輩所以可信受備行到其處臨說戒場。上尸羅信受壇莫生輕忽心莫作容易看。內信受此根本性戒。外奉行五重十重戒品誠所謂眞佛子也。我其何言哉。於此予聞未曾有眞訣。稽首頂禮銘心肝鏤肺腑畢矣。實寶永第五五月四日夜

錬四攝善巧名之爲淨人侍者利益一切無困倦名之爲眞正奉律大比丘此外更無佛祖此外更無賢聖人間天上善果何事如之哉只要一回汗流冷暖親自知若不然窮餓交煎餓父無褌裸形窮子非但不能利他自救亦不了是故道先須見性師卽合掌曰無相自性戒體祖庭心授秘訣或名一大事因縁言正法眼藏祖祖相承到今無斷續失之則爲六趣沈沒凡夫了之則爲三界無比大聖昔十力調御師久端坐菩根樹下忽然坐破金剛座魂飛魄散心死意消撞著此無作戒體成就彼無上正覺越灑法雨於四十九年頃行良藥於三百六十會華嚴四種法界法華一乘圓頓皆悉此戒本有妙德八教經緯五時廣略總是此戒性具寶光在凡爲八萬四千種煩惱聚在聖爲八萬四千箇妙義門在彼不減在此不增天堂地獄淨界穢土佛刹魔宮鬼種畜類

不見性。不能夢見此戒。實佛法中死人也。若又有眞正辨道衲子。成辨一片打成純一不退心。於一切處。不間缺。於四威儀。不打失。束千百億須彌山。作一枚脊梁骨。得失是非一齊坐斷畢。透渓徹泉萬里一條金剛座。名之爲尸羅微妙戒境。於此單單參窮。言詞路絕。心行所滅。縱雖有善惡無量境界現在面前。專凝守正念。毫髮許不移易。名此心爲授戒本師。此時不覺身心共打失。如擲摧氷盤。似推倒玉樓。無量劫來業識舊鬼窟。一時震裂。喜識盡。消息盡。是則大死一番底端的。眞正得戒底一刹那也。少焉彷彿蘇息來。依舊眼横鼻直。無一點所得。唯拍手大笑而已。名之爲說戒阿闍梨。既而把從前悟得證得底多少因緣一一看。自知從頭大錯了。且把從上佛祖難透難解難信難入底話頭。擧揚來。在萬里異鄉見妻子面。名之爲證戒阿闍梨。而後游泳四弘願海。薰

佛性外無戒體。是故楞嚴第六曰。佛告阿難。儞常聞我毘柰耶中宣說修行三決定義。所謂攝心爲戒。因戒生定。因定發慧。是則爲三無漏學。從上佛祖的的相承直到老野。非是見性人。則師不能授與。資不得信受。須知無相心地大戒得大難。奉事亦不容易。是即如來知見。三世十方調御師爲傳此戒體。乘願輪。番番出世。若人欲得此戒。先須見性。若未見性。道得此戒體。大妄語人也。儞向後能護持。而如護眼目。如惜命根去。片時不棄廢。寔眞佛子也。譬有大身力鬼王挾儞狂走遶三千大千世界。兩三匝終擲下阿鼻紫煙裏。而不生一念恐怖。無纖毫異念。名之爲眞正持戒人。或墮叫喚衆合黑繩無間裏。受盡無量苦患。一彈指間不打失此戒體。名之爲眞佛子。是故臨濟大師曰。一切處心不異。名之爲活祖。縱儞一食卯齋去。六時行道去。一條白練去。古廟裏香爐去。

衆曰此偏行頭陀能修梵行可得佛道乎衆曰我師精進何故不可。尊者曰偏師與道遠矣。設苦行歷塵劫皆虛妄之本也。衆曰尊者蘊何德行而譏我師尊者曰。我不求道亦不顚倒我不禮佛亦不輕慢。我不長坐亦不懈怠。我不一食亦不雜食我不知足亦不貪欲。一心無所希。名之曰道尊者既說五箇我字。非吾我我非我常我。須知是卽眞正無作戒體又摩訶止觀曰。夫圓頓中道大戒。無戒不備故名具足法與非法。二皆空寂。乃名持戒當知中道妙觀。戒正體。是卽中道第一義諦戒。而止品清淨究竟持戒也。達磨大師曰。若欲見佛須是見性性卽是佛。佛不持戒。不犯戒。是無作妙戒也。前佛後佛只言見性。若不見性。妄言我得阿耨菩提。此是大罪人也。六祖大師曰。夫戒香者。卽自心無非無惡無嫉妬。是卽戒香也。永嘉大師曰。佛性戒珠印心地。須知戒外無佛性。

法滅澆季相歟。寔可恐。師曰。善哉問。吾昔叩此兩端不決者既久矣。爲不得眞正導師。居吾語汝。如眞正導師。則不然。愿夫戒有眞正與相似有爲與無相。蓋寒公所說無相心地戒體也。拾公所呵有爲相似戒業也。輓之推之。唯見車行也。寶永第五戊子春。予在越英巖苦吟者累日。一夜聞鐘聲忽然打破從前疑團。實二月十七日夜也。四月末行信陽。見我正受老人。熱喝瞋拳。喫許多艱嶮。不久請辭行松本受戒。師從容告曰。禪門有無相心地戒體。名之謂金剛寶戒。或言圓頓自性戒。經曰。金剛寶戒是佛本源。一切菩薩本源。佛性種子。又曰。非青黃赤白。非色非心。非有非無。非因果法。諸佛本源不取正戒相。亦無邪念心。是爲淸淨戒。諸佛所稱讚。此是詮說者個因緣者也。昔婆修盤頭尊者常一食不臥。六時禮佛。淸淨無欲。而爲衆所歸敬。闍夜多尊者將度之。先問彼

何管解必依此因緣解者歟。至此吾輩非無少疑矣。夫戒者三世如來同道所讃樞要。而一切衆生出離生死船筏也。所以經曰佛滅度後於像法中。應當尊敬波羅提木叉。此是衆等大師也。佛若住世無異此也。然則寒公此詩寔可貴師解亦可也。若依拾公及管解之說。闡提無慚輩如騎駿足走下坂。脚亦不能制。袒左肩大雷同戒學亦永棄廢。三學亦隨而泯沒。三學既泯沒畢佛法亦拂土滅絕。蓋三學不該錬則三業不調和。三業不調和則與鬼畜無異。不祥無大焉。然則以拾公道波旬黨侶。未可評吾門拾公大行普賢薩埵化現。寒公文殊法王子垂跡。等是非法身大士應機哉。其教示大矛盾隔霄壤何哉。往往嚴淨毘尼士呵參學辨修禪人浪笑垢罵。如野鬼。如波旬參學修禪士亦逢嚴淨毘尼人塊看泥視。如土地。如木偶。同是三學同修人。卻如寃家去何哉。謂

不死哉。豈不見。自古多少羽客釋流。盡埋在青山脚古家間哉。不如飲美酒被服紈與素也。

○評曰。管解意曰。道家者亦休服藥。出家兒亦休持戒。唯須喫美酒被服紈與素。何故也。古今賢哲持戒服藥。一箇不能長壽持。熟顧。道家者閣不論。如出家兒。爲戒體淸白。道業純黑。諸天設供。群生傾心。若不持戒。不行道。粒米亦不能得。淡茶亦不得喫。夫戒者非所以爲長生久視設者。所以生眞正寂滅不生不死道果福田也。然出家者不得長壽而捨戒體可哉。此詩賦得分明。言出家而不持戒。農父而不取犁鋤。出家而不持戒。道士而不服藥。出家而不持戒。漁父而不結網羅。此義也。一僧曰。管解說依師解則大錯了也。雖然見拾得子語。則似少有憑據者。拾公一日驅牛至說戒布薩堂前。撫掌笑曰。悠悠哉。聚頭作相。這箇如

譏誚孤月夜長明圓日常來照虎丘並虎谿不用相呼召世間有王傅莫把同周召我自遯寒巖快活長歌笑。

淨名經註。肇云。利衰毀譽稱譏苦樂八法風不動如來。猶如四風之吹須彌也。虎丘。平江路虎丘山也。晉安西將軍桓溫主簿王珣捨宅爲寺。道生法師說涅槃經於此山有群石首肯蹤虎谿廬山虎谿也。慧遠送客不過虎谿王傅太子大傅少傅等引東海仲翁傅詳見蒙求周召。周公旦召公奭也。不用相呼召者。無漏岩中佳趣豈可換虎丘與虎谿也。

沙門不持戒。道士不服藥自古多少賢盡在青山脚。

列女傳婕妤自傷賦曰。願歸骨於山足兮。依松栢餘休管解曰。智度論二十二曰。亦非持淨戒精進可以脫死賊無憐愍來時無避處云云。此篇意。沙門雖被緇持戒。豈得不老不滅哉。道士雖服藥辟穀。豈得不老

畫棟非我宅。靑林是我家。一生俄爾過。萬事莫言賖。濟度不造筏。漂淪爲采花。善根今未種。何日見生芽。

涅槃經二十日。如欲度水善護船筏。同二十七日。譬如有人貪著妙華採取之時爲水所漂。衆生亦然。貪著五欲。爲生老病死之所漂沒。

出生三十年。當遊千萬里。行江靑草合。入塞紅塵起。鍊藥空求仙。讀書兼詠史。今日歸寒山。枕流兼洗耳。

晉書。孫楚字子荆。大原中都人。才藻卓絶。爽邁不群。多所陵傲。缺鄕曲之譽。年四十餘始參鎭東軍事。終馮翊大守。初楚少時。欲隱居。謂王濟曰。當欲枕石漱流。誤云漱石枕流。濟曰。流非可枕。石非可漱。楚曰。所以枕流。欲洗其耳。所以漱石。欲厲其齒。

寒山無漏岩。其大甚濟要。八風吹不動。萬古人傳妙。寂寂好安居。空空離

我見利智人。觀者便知意。不假尋文字。直入如來地。心不逐諸緣。意根不妄起。心意不生時。內外無餘事。

我今稽首禮無上法中王。慈悲大喜捨。名稱滿十方。衆生作依怙。智慧身金剛。頂禮無所著。我師大法王。

慈悲喜捨謂之四無量心。慈能與樂。悲能拔苦。喜慶彼樂。捨寃親平等。詳涅槃經十四。詩蓼莪。無父何恃。無母何怙。智度論二十一曰。有大名稱遍滿十方。以是故名婆伽婆。涅槃經三。如來之身猶眞金剛。維摩經佛國品曰。稽首如空無所依故。

君看葉裡花。能得幾時好。今日畏人攀。明朝待誰掃。可憐嬌艶情。年多轉成老。將世比於花。紅顏豈長保。

王駕晴景詩。雨前初看花間葉。雨後兼無葉底花。

棲遲寒巖下。偏訝最幽奇。攜籃采山茹。挈籠摘果歸。蔬薺敷茅坐。啜啄食紫芝。淸沼濯瓢鉢。雜和煮稠稀。當陽擁裘坐。閑讀古人詩。

杪。稠稀兩字未詳。有說多少義。稾。稠音酬。多也。稀。音禧。疏也少也。

昔年經行處。今復七十年。故人無來往。埋在古冢間。余今頭已白。猶守片雲山。爲報後來子。何不讀古書。

○評曰。此詩述舊懷以敎喩後昆。何乎。詩中所謂古書。黃卷赤軸謂乎。將又指聖經賢典乎。曰。不然。人人本具心上有一篇無字經卷。竺墳五千四十軸。魯論二萬三千字。盡是自者裡出。若人欲傳寫此書。先須見性。

欲向東巖住。于今無量年。昨來攀葛上。半路困風煙。徑窄衣難進。苔黏履不前。住茲丹桂下。且枕白雲眠。

經。蓋但且自省躬。莫覓他替代。可中作得主。是知無內外。

六祖大師曰。口誦心行。卽是轉經。口誦不行。卽是被經轉。又曰。心迷法華轉。心悟轉法華。

寒山唯白雲。寂寂絕埃塵。草座山家有。孤燈明月輪。石牀臨碧沼。虎鹿每爲鄰。自羨幽居樂。長爲象外人。

文選孫興公遊天台山賦。註。象外謂道也。

鹿生深林中。飮水而食草。伸脚樹下眠。可憐無煩惱。繫之在華堂。餚膳極肥好。終日不肯嘗。形容轉枯槁。

○評曰。此詩述人生不擇其居。則不得安其心。作麼生是其居。

花上黃鶯子。嚶嚶聲可憐。美人顏似玉。對此弄鳴絃。玩之能不足。眷戀在齠年。花悲鳥亦散。灑淚秋風前。

秀才。文士通稱也。事物紀原三。進士爲時所尙久矣。其通稱謂之秀才。詩人玉屑十一曰。詩病有八。其三曰蜂腰。第二字不得與第五字同聲。如聞君愛我甘竊欲自修飾。君甘皆平聲。欲飾皆入聲。其四曰鶴膝。第五字不得與第十五字同聲。如客從遠方來。遺我一書札。上言長相思。下言久離別。來思皆平聲。此說行看。

我住在村鄉。無爺亦無孃。無名無姓第。人喚作張王。並無人敎我。貧賤也尋常。自憐心的實。堅固等金剛。

寒山出此語。此語無人信。蜜甜足人甞。黃連苦難吞。順情生喜悅。逆意多瞋恨。但看木傀儡。弄了一場困。

家語。孔子曰。良藥苦於口而利於病。忠言逆於耳而利於行。

我見人轉經。依佗言語會。口轉心不轉。心口相違背。心眞無委曲。不作諸

生道。勉儞信余言。識取衣中寶。

義楚六帖十六引俱舍論云。梵語閻羅或云琰摩羅。此云息諍。爲能止息罪人諍故。三藏法數曰。火途卽地獄道也。刀途卽餓鬼道也。血途卽畜生道也。衣中寶出法華五百弟子授記品。

世間一等流。誠堪與人笑。出家弊己身。誑俗將爲道。雖著離塵衣。衣中多養蚤。不如歸去來。識取心王好。

釋氏要覽。法衣篇曰。袈裟名離染衣。又名離塵服。

高高峯頂上。四顧極無邊。獨坐無人知。孤月照寒泉。泉中且無月。月自在青天。吟此一曲歌。歌中不是禪。

有箇王秀才。笑我詩多失。云不識蜂腰。仍不會鶴膝。平側不解壓。凡言取次出。我笑儞作詩。如盲徒詠日。

云。幘卑賤執事不冠者所服。或謂之承露。

○評曰。此詩大體用北山移文。呵僞隱輩。

自古諸哲人。不見有長存。生而還復死。盡變作灰塵。積骨如毘富。別淚成海津。唯有空名在。豈免生死輪。

涅槃經二十曰。從昔無數劫來常受苦惱。一一衆生。一劫之中所積身骨如王舍城毘富羅山。

今日巖前坐。坐久煙雲收。一道清谿冷。千尋碧嶂頭。白雲朝影靜。明月夜光浮。身上無塵垢。心中那更憂。

千雲萬水間。中有一閑士。白日遊青山。夜歸巖下睡。倏爾過春秋。寂然無塵累。快哉何所依。靜若秋江水。

勸爾休去來。莫惱佗閻老。失脚入三途。粉骨遭千擣。長爲地獄人。永隔今

事也有一人有大信根有大疑情有大憤志。把一則話頭向自心源參窮。一旦廓然而蹈翻心源掀倒堤防塘子。盡斷正流別派。依舊大地黑漫漫天堂地獄佛國魔界總是無漏眞淨香水海。無內外無中邊。於此綏綏起來敗大慈雲滴大法雨。沽三草。洒二木。蘇活枯荒於大旱。吹滅熾焰於火宅洗滌一切惡種歷塵沙劫不損涓滴者。菩薩杜源也。作麼生是衲僧杜源底。寒公曰。咄咄咄三界輪回。

元非隱逸士自號山林人仕魯蒙幘帛。且愛裹練巾。道有巢許操。耻爲堯舜臣獼猴罩幘子。學人避風塵。

事物紀原三曰。幘。按董巴云起秦人施於武將。初爲絳帕以表貴賤。漢武時。加以高頂孝元額有壯髮。不欲人見。乃始進幘。幘帛帛。當作帕。後漢書禰衡傳曰。衡乃著布單衣練巾。幘。側革切。方言覆髻。謂之幘。漢書

楞嚴經二曰。如人以手指月示人。彼人因指當應看月。

本志慕道倫。道倫當獲親。時逢杜源客。每接話禪賓。談玄月明夜。探理日臨晨。萬機俱泯迹。方識本來人。

法苑珠林云。夫壅其流者。未若杜其源。揚其湯者。未如撲其火。

○評曰。杜源有四種。是又行人預可識破至要也。有一般。竪起骨梁。鼓定牙關。瞠目握拳。百不知去。百不會來。以欲杜絕心源。湛養定水。是今時杜源也。恰如筏上人盡力欲留住河流。特不知。和身流將去。有一般。在陰崖寂默處。觀四種法門。斷見思。空塵沙。欲杜絕心源。是聲聞杜源也。恰如張涼簾欲網住河流。流水依舊滾滾。有一般。死守我空偏眞枯禪。萬緣都不管帶。古廟裡香爐去。槁木死灰去。以欲到無漏。是辟支杜源也。恰如立河中欲遮斷河流。雖脚子且似立定。如何總是生死海中

至道力。宿命力。天眼力。無漏力。六物圖。袈裟或名福田衣。章服儀。且條堤之相事等田疇如畦貯水而養嘉苗。譬服此衣生功德也。智度論十九。問曰。何等是五種邪命。答曰。一者若行者爲利養故。詐現奇特。二者爲利養故自說功德。三者爲利養故占相吉凶爲人說。四者爲利養故高聲現威。令人畏敬。五者爲利養故。稱說所得供養以動人心。邪因緣活命故。是爲邪命。

○評曰。此詩分明說出家邪正。

寒巖深更好。無人行此道。白雲高岫閑。青嶂孤猿嘯。我更何所親。暢志自宜老。影容寒暑遷。心珠甚可保。

巖前獨靜坐。圓月當天耀。萬象影現中。一輪本無照。廓然神自淸。含虛洞玄妙。因指見其月。月是心樞要。

香。苦哉佛陀耶。

法華經序品曰。求名利無厭。多遊族姓家。客春日禮拜。萬善同歸集曰。行導禮拜未具眞修。祖立客春之愆。佛有磨牛之誚。課試也程也。

○評曰。責澆末出家無眞正道心。妄衒賣佛法底履緇。

又見出家兒。有力及無力。上上高節者。鬼神欽道德。君王分輦坐。諸侯拜迎逆。堪爲世福田。世人須保惜。下下低愚者。詐現多求覓。濁濫卽可知。愚癡愛財色。著卻福田衣。種田討衣食。作債稅牛犂。爲事不忠直。朝朝行弊惡。往往痛臀脊。不解善思量。地獄苦無極。一朝著病纏。三年臥牀席。亦有眞佛性。翻作無明賊。南無佛陀耶。遠遠求彌勒。

古語。只是信進念定慧根力同體名不異。五力。定力。通力。大願力。法威德力。借識力。十力。是處非處力。智業力。三味力。智根力。智欲力。智性力。

大七圍以銅爲之。上有仙人掌承露和玉屑飲之。西都賦抗仙掌以承露。擢双立金莖。

○評曰。此詩述求仙不成空老死。

憶得二十年。徐步國清歸。國清寺中人。盡道寒山癡。癡人何用疑。疑不解尋思。我尚自不識。是伊爭得知。低頭不用問。問得復何爲。有人來罵我。分明了了知。雖然不應對。卻是得便宜。

四十二章經。佛言有人聞吾守道行大仁慈故致罵佛。佛默不對。罵止。

龐居士偈曰。耳聞他罵詈。心知口莫對。

語。儞出家輩何名爲出家。奢華求養活。繼綴族姓家。美舌甜脣觜。諂曲心鈎加。終日禮道場。持經置功課。鑪燒神佛香。打鐘高聲和。六時學客舂。晝夜不得臥。祇爲愛錢財。心中不脫灑。見他高道人。卻嫌誹謗罵。驢屎比麝

說。四十里石山有長壽人。百歲過持細耎衣。一來拂拭。令此大石山盡。劫故未盡。八節。立春。春分。立夏。夏至。立秋。秋分。立冬。冬至。

可笑五陰窟。四蛇同共居。黑暗無明燭。三毒遞相驅。伴黨六箇賊。劫掠法財珠。斬卻魔軍輩。安泰湛如蘇。

涅槃經二十二曰。觀身如篋。地水火風如四毒蛇。涅槃經二十一曰。此六塵如六賊。何以故。能劫一切善法故。

常聞漢武帝。爰及秦始皇。俱好神仙術。延年竟不長。金臺既摧折。沙丘遂滅亡。茂陵與驪嶽。今日草茫茫。

一統志三十二西安府武帝茂陵。在興平縣東北七十里。同三十一。西安府。秦始皇陵在驪山下。神仙術。始皇求不死藥。遂並海至平原津病。七月丙寅崩沙丘平臺。金臺恐金莖乎。漢武建章宮有承露盤。二十丈。

食蘇盡身大出瓶不得。長者取蘇。謂是凝結。以火燒瓶。鼠死因爲食。

○評曰。此詩誡食肉苦因。

自從出家後。漸得養生趣。伸縮四肢全。勤聽六根具。褐衣隨春冬。糲食供朝暮。今日懇懇修。願與佛相遇。

褐衣。毛布也。賤者所服。詩無衣無褐。何以卒歲。韓非子五蠹篇曰。堯之王天下也。茅茨不翦。采椽不斲。糲粢之食。藜藿之羹。冬日麑裘。夏日葛衣。

○評曰。此詩述遁世之佳趣。

世事繞悠悠。貪生未肯休。研盡大地石。何時得歇頭。四時周變易。八節急如流。爲報火宅主。露地騎白牛。

傳燈錄。懶瓚和尚歌曰。世事悠悠不如山丘。智度論五曰。劫義佛譬喩

八千丈。上有石橋。廣不盈尺。下臨萬丈深澗。惟忘其身。然後能濟。岧嶢山高貌。

盤陀石上坐。谿磵冷淒淒。靜玩偏嘉麗。虛巖蒙霧迷。怡然憩歇處。日斜樹影低。我自觀心地。蓮華出淤泥。

隱士遁人間。多向山中眠。青蘿疎麓麓。碧澗響聯聯。騰騰且安樂。悠悠自清閑。免有染世事。心靜如白蓮。

四十二章經曰。沙門居濁世。當如蓮華不爲泥汚。

○評曰。此詩二首。說隱遁高勝。

寄語食肉漢。食時無逗留。今生過去種。未來今日修。祇取今日美。不畏來生憂。老鼠入飯瓮。雖飽難出頭。

義楚六帖二十四。甘露道經曰。有長者安蘇瓶在樓。一鼠貪蘇入瓶。而

少里谿澗靜澄澄。快活無窮已。

○評曰。詩中所謂一名山。專指天台山乎。七寶何能比。將又別有之乎。佳逝人治亂不聞榮辱不知飄然而蛻脫世累。到救濁世患難。寔七寶亦不可及乎。雖然脫世累。唯是生死岸頭暫時休息而已。若其見性入得本分一箇名山。乍脫卻生死永劫苦縛。是眞正七寶不及底名山乎。

我見世間人。生而還復死。昨朝猶二八。壯氣胸襟士。如今七十過。力困形憔悴。恰似春日花。朝開夜落爾。

○評曰。此詩專談無常。

迥聳霄漢外。雲裡路岧嶢。瀑布千丈流。如鋪練一條。下有棲心窟。橫安定命橋。雄雄鎭世界。天台名獨超。

駱賓王靈隱寺詩曰。待入天台路。看余度石橋。註。天台赤城山高一萬

也。途道也。卽八萬四千法門。隨機各解。如困魚止小箔。病鳥栖蘆叢。雖各得所安。俱未到大海深林也。釋語解曰。牛領有蟲。駕車則爲軛必被壓殺楞嚴。三生死死生。生生死死如旋火輪。未有休息。法華方便品。如稻麻竹葦。

○評曰。此詩說輪王墮墜。示凡夫虛生浪死。

平野水寬濶。丹丘連四明。仙都最高秀。羣峯聳翠屛。遠遠望何極。矶矶勢相迎。獨標海隅外。處處播嘉聲。

文選。孫興公天台山賦。天台山者。蓋山嶽之神秀也。涉海則有方丈蓬萊。登陸則有四明天台。又曰。仍羽人於丹丘。尋不死之福庭。又曰。陟降信宿。迄于仙都。矶矶。山高拔出貌。

可貴一名山。七寶何能比。松月颼颼冷。雲霞片片起。匼匝幾重山。廻還多

石闕下窺千尺崖。上有雲旁礴。寒月冷颼颼。身似孤飛鶴。

莊子逍遙遊篇云。有旁礴之語。註。周遊無心貌。棄廣被。

我見轉輪王。千子常圍繞。十善化四天。莊嚴多七寶。七寶鎮隨身。莊嚴甚妙好。一朝福報盡。猶若棲蘆鳥。還作牛領蟲。六趣受業道。況復諸凡夫。無常豈長保。生死如旋火。輪迴似麻稻。不解早覺悟。爲人枉虛老。

維摩法供養品云。是時有轉輪聖王。名曰寶蓋。七寶具足主四天下。王有千子。端正勇健。能伏怨敵。華嚴經曰。王得道於其正殿。綵女圍遶。七寶自至。一金輪寶名勝自在。二白象寶名青山。三紺馬寶名勇疾風。四神珠寶名光藏雲。五主藏臣寶名大財。六玉女寶名淨妙德。七主兵臣寶名離垢眼。得此七寶於閻浮提作轉輪王。寶藏論曰。夫進道之由。中有萬途。困魚止泞。病鳥栖蘆。說者曰。此舉事以況漸。言學者進悟之由。

諸事皆成。宜字薩婆頞他委陀。又一日抱太子謁釋迦增上大天神。廟神以石爲像。即起禮太子足。王曰。我子於天神中更爲尊勝。宜名天中天垂裕云。忿恚曰嗔。隱藏自罪曰覆。意識昏迷曰睡。五情暗冥曰眠。嬉游曰戲。三業躁動曰掉。屛處起罪不自羞曰無慚。露處起罪不羞他曰無愧。財法不能惠施曰慳。他榮心生熱惱曰嫉。

無衣自訪覓。莫共狐謀裘。無食自采取。莫共羊謀羞。借皮兼借肉。懷歎復懷愁。皆緣義失所。衣食常不周。

羞。稟。思留切。進也。薦也。大膳也。符子曰。魯欲用孔子。召三桓議之。左丘明曰。周人有爲千金之裘。而與狐講其皮。欲具少牢之珍。而與羊謀其羞。

自羨山間樂。逍遙無倚託。逐日養殘軀。閑思無所作。時披古佛書。往往登

鎔黃金。見祖庭事苑五。玲瓏明貌。

寒山棲隱處。絕得雜人過。時逢林內鳥。相共唱山歌。瑞草聯谿谷。老松枕嵯峨。可觀無事客。憩歇在巖阿。

○評曰。此詩。寒山獨脫風彩。

五嶽俱成粉。須彌一寸山。大海一滴水。吸入其心田。生長菩提子。徧蓋天中天。語偏慕道者。愼莫繞十纏。

五嶽。泰山。華山。恒山。嵩山。衡山。須彌。翻譯名義集。衆山篇曰。蘇迷盧。西域記云。唐言妙高。舊曰須彌。又曰須彌樓。皆訛。毘曇俱舍云。妙高七寶所成故名妙。出七金山故名高。同林木篇西域記云。菩提樹卽畢鉢羅樹也。昔佛在世。高數百丈。屢經殘伐。猶高四五丈。佛坐其下成等正覺。釋氏要覽三寶篇曰。天中天。佛小名也。本行經云。淨飯王云。太子生後。

作麽生是箇中意。若當天萬事空。十方無上下底。認以爲是即是。落空亡底漢作麽生是箇中意。自性離生滅。身心絶去來底爲是。長沙所謂百尺竿頭不動人。作麽生是箇中意。秋天廣野行人斷。馬首西來知是誰。

可歎浮世人。悠悠何日了。朝朝無閑時。年年不覺老。總爲求衣食。令心生煩惱。擾擾百千年。去來三惡道。

異本。世字作生字。

○評曰。此詩呵人耽五欲永劫流轉。

時人尋雲路。雲路杳無蹤。山高多險峻。澗濶少玲瓏。碧嶂前兼後。白雲西復東。欲知雲路處。雲路在虛空。

古詩。九天雲路早須尋。莫使蹉跎歲月深。謝氏有才憐白髮。顏生無意

困退。非是亦大有害道學者歟。是所以我大恐者也。雖然實明調御伽陀。將又別有長所歟。儀凍上座曰。餓也始可與言詩已矣。我始讀此詩。大疑怪久矣。今看來。全是非寒公作。無頼杜選之賊人。効顰於寒公者也。有人縱有子貢舌。握王衍拂。有身子智。具滿慈辯。不能佐講此詩作得寒公作所期在來日師細評而已。

余勸諸稚子。急離火宅中。三車在門外。載你免飄蓬。露地四衢坐。當天萬事空。十方無上下。來去任西東。若得箇中意。縱橫處處通。

法華譬喩品。是時長者見諸子等安穩得出皆於四衢道中露地而坐無復障碍。其心泰然歡喜踊躍。科註四。衢道中譬四諦也。露地者。三界思盡名露地也。

○評曰。此詩全篇法華譬喩品大意。寒公曰。若得箇中意。縱橫處處通。

等學士。是故常無欠十數次看過。無力所及。太半不通曉。特讀到此詩。
或疑或憎。且悲且恐。顧其彼天公也者。何爲者哉。胡爲其如此鬼怪哉。
蓋一名而具百千無量多身者乎。將又一身而有百千無量妙用者乎。
大凡宇宙間有百千無量品類。言其壽夭得失榮辱否泰萬事依天公。
醒之惜之。賢愚好惡必多。差誤隨其機。吐霧吹風。力亦不可定。是所以
我大怪者也。若言不然。是彼造化神也。若果然迷倆醒倆。如妖狐似老
狸。寔可憎。無私造物者。而豈有此事哉。愿夫桀紂幽厲。古之忍人也。而
貴爲天子。富有四海內。何幸此無道人而爲天公被惜。如此尊貴耶。孔
鯉顏淵原憲閔子之徒。古之仁人也。而壽齡不能到不惑。或貧窶凍餒
也。何過。此有道士而爲天公被奪。見此不祥哉。此所以我大悲者也。有
志人誰不以道德仁義爲懷。若彼天公與無道。奪有道。往往懷恐懼必

勤灑恪杭劒林遊講肆轉久積慢心轉高死入魔道永受苦患是爲下等學士恐可恐部屬也有一般放浪而入來擲下册子列坐昨日何句讀而終今自何章亦總不知及佗人開卷開卻何紙面是亦不知廻看左右顧視後面周章尋講緒全不得竟倩傍人開卷皺眉坐他人纔一紙我亦從纔卻講未及二三行放心春睡自傍觀之如推艙舟子似蹈碓傭作頭亦將墜添噇眠去講將畢頃勃然開眼欠伸少裂紙端撚粘蒼蠅脚放之如李花一片翩來往座上惹笑於他人擱下肩股築上肩背或審出小箋朱書一兩行細字撚以寄其部屬裏面即曰講後何某茶店如何何某酒家如何報衆首以何某醫家矣而後立寮舍戸外抛擲册子横煙管走行街市此是最極下等學士也他後化作鳥鳶去耶化作牛豕終耶死屍亦不留底無賴也予常恐墮此流類心竊擬彼上

○評曰、寒餓禪者曰。吾師常道。我昔見彼陪教場遊儒席者。大凡有三等。學人尤爲當辨得之急也。有一般。有丈夫氣。具遠大志。抛下名利。精錬枯淡。鈍工功積。實參力充。超出金棬。透過荊林。見性如見掌上。其後投眞正導師。拗折法窟爪牙。劈破奪命神符了而後。爲依四弘願行。知遺言。語往行。聚法財。達故實。廣行法施。徧利群生。且入講肆。此人精進勇鋭。未臨席。必經十數遍看讀。常守七八絲香縷。纔餘難解難透底一兩行。而後入席。是故煥發超師見地。辨出格外妙理。是全大乘菩薩行也。名爲最尊最貴最上等學士。今也則無。蓋有之矣。我未見之也。有一般。講前看過兩三次。講後歸來復看一兩次。其餘傳寫鈔錄。自謂妙理佗後在陰僻處。閑明了焉。是爲中等學士。若其有見性眼。具利生心底。推擬上等亦可也。有一般。專懷勝佗心。恃强記。誇博覽。常培人我列嶽。

得世世封侯。又欲數代爲天子。又曰。我是司命星也。君下山百步勿反觀。鐘下六十步而回看。爲白鶴飛去。遂於此葬母。家上有氣屬天。鐘後生堅。堅生權。權生亮及體。權孫和生皓。爲歸命侯。精神易繫辭曰。精義入神。

○評曰。此詩專說因果報應之理。

我見黃河水。凡經幾度淸。水流如急箭。人生若浮萍。癡屬根本業。無明煩惱阬。輪廻幾許劫。祇爲造迷盲。

黃河記。於前六十三首。浮萍在前一百四十四首。煩惱。唯識論曰。根本煩惱六。貪瞋癡慢疑惡見。

二儀既開闢。人乃居其中。迷儞即吐霧。醒儞即吹風。惜儞即富貴。奪儞即貧窮。碌碌群漢子。萬事由天公。

無。赤松黃石空有名。患難亦可避兵刃亦可蹈。爵祿亦可辭。特北邙東岱一事。孫吳遁之無良策。扁倉亦空成枯骨。爲之如何。寒公曰。脫體歸山隱。那裏乎。儞所謂山者。楞伽山乎。彌樓巓乎。鷄足嶺乎。熊耳谿乎。縱儞抹過七金山。超越二鐵圍。盡百計潛遁。拔精猛鬼撚鋒如影隨。奪命冥使挾符如響逐。如何廻避得。寔苦哉。那裏耶。寒公脫體隱得底山是故。達磨大師曰。若人欲成佛道。先須見性。

襤褸關前業。莫訶今日身。若言由冢墓。箇是極癡人。到頭君作鬼。豈令男女貧。皎然易解事。作麼無精神。

左傳宣公十二年註。襤褸弊衣。大論曰。復次有人。貧窮無衣。或弊衣襤褸。以佛力故。令其得衣。幽冥錄曰。孫鐘少時家貧種瓜。瓜熟有三人。來乞瓜。鐘引入菴中。設瓜及飯。飯訖。謂鐘曰。蒙君厚惠。今示子于葬地。欲

前因自投樓下而死崇詣東市歎曰奴輩利吾家財收者曰知財致害何不早散之崇不能答被害水碓三十區事文類聚別集十八曰石崇致富不貲水碓三千餘口佗珍寶貨賄稱之

何以長惆悵人生似朝菌那堪數十年新舊凋落盡以此思自哀情不可忍奈何當奈何脫體歸山隱

莊子逍遙遊篇曰朝菌不知晦朔蟪蛄不知春秋文選陸士衡樂府詩曰新友多零落舊齒皆凋喪

○評曰此詩說無常變遷示眞歸處詩中所謂人生似朝菌豈其朝菌耶閃電浮漚隙影石火轉眼卽那邊寔不待呼吸間所以秦皇悲之尋萬里之蓬島於扶桑東漢武恐之構千尺之甘泉於未央北其餘斷糧絕粒吸氣飡霞求長生慕久視底知幾千萬箇哉今求百歲人半箇亦

若能如是辨得。不被境轉。處處用境。

○評曰。此詩說四大虛僞理。以勸可了知本來人。

傳語諸公子。聽說石齊奴。僮僕八百人。水碓三十區。舍下養魚鳥。樓上吹笙竽。伸頭臨白刄。癡心爲綠珠。

韻瑞曰。石崇生于齊州。故小字曰齊奴。事文類聚後集十六。梁氏女有容貌。石季倫以眞珠三斛買之。卽綠珠也。晉書石崇字季倫。渤海南皮人。拜衞尉。有妓曰綠珠。美而艷。善吹笛。中書令孫秀使人求之。崇時在金谷別館。方登涼臺。臨淸流。婦人侍側。使者以告。崇盡出其婢妾數十人以示之。皆蘊蘭麝。被羅縠。曰在所擇。使者曰。受命。指索綠珠。不識孰是。崇勃然曰。綠珠所吾愛也。秀怒。乃勸趙王倫誅崇。遂矯詔收之。崇正宴樓上。介士到門。崇謂綠珠曰。我今爲汝得罪。綠珠泣曰。當致死於君

黃龍曰。一粒粟中藏世界。半升鐺內煮山川。且道。此意如何。龍指曰。這守屍鬼。呂曰爭奈。囊有長生不死藥。龍曰。饒經八萬劫。終是落空亡。書言故事道敎類曰。稱道士曰黃冠子。又曰黃冠師。又後漢書。靈帝中平元年甲子。鉅鹿縣張角奉事黃老。以妖術敎授衆。共神之。其徒衆數十萬凡三十六萬角弟子唐周上書告之。有詔追捕角等。勅諸方俱起。皆著黃巾以爲標幟。故時人謂之黃巾賊。京師爲之震動。

○評曰。此詩演仙道一生困苦無所益。終落空亡。

余鄕有一宅。其宅無正主。地生一寸草。水垂一滴露。火燒六箇賊。風吹黑雲雨。子細尋本人。布裹眞珠爾。

慧照禪師語錄曰問如何是四種無相境。師曰。儞一念心疑被地來礙。儞一念心愛被水來溺。儞一念心嗔被火來燒。儞一念心喜被風來飄。

明。萬像何能比。欲知仙丹術。身內元神是。莫學黃巾公。握愚自守擬。

列仙全傳五曰。桓闓者。不知何許人。役事陶隱君。居茅山十餘年。立性端謹。執役之外。寂然無爲。一日有二青童。一白鶴自空而下集于庭。隱君欣然而接。謂必己當之。青童曰。太上所召者桓先生。隱君默計。門人無姓桓者。頃之云。是執役桓闓。詰其所致曰。常修默朝道。親朝大帝已九年矣。闓乃服天衣。駕白鶴。昇虛而去。又周王子喬好吹笙。後乘白鶴去。事物紀原第三。三代無帔說。有披帛。以縑帛爲之。晉永喜中制絳暈帔子。開元中令三妃以下通服之。是披帛始於秦。帔始於晉。列仙傳琴高善鼓瑟。浮遊冀州添郡間。二百餘年後。於水旁設祠人屋。果乘赤鯉來祠。且有萬人觀之。一月後入水去。證道歌曰。住相布施生天福。猶如仰箭射虛空。勢力盡箭還墜。招得來生不如意。五燈會元八。呂洞賓問

一生慵懶作。憎重祇便輕。佗家學事業。余持一卷經。無心裝標軸。來去省人擎。應病則說藥。方便度衆生。但自心無事。何處不惺惺。

龐居士偈。閙財耳不納。聞聲心不生。不愛有無語。何處不惺惺。

我見出家人。不入出家學。欲知眞出家。心淨無繩索。澄澄絕玄妙。如如無倚託。三界任縱横。四生不可泊。無爲無事人。逍遙實快樂。

逍遙。莊子註。優遊自在也。

○評曰。此詩大助辨道。作麼生是出家學。若人欲入出家學。先須見性。若無見性眼。縱無繩索亦是一條繩索。無倚託亦是一重倚託。

昨到雲霞觀。忽見仙尊士。星冠月帔横。盡云居山水。余問神仙術。云道若爲比。謂言靈無上。妙藥必神祕。守死待鶴來。皆言乘魚去。余乃返窮之。推尋勿道理。但見箭射空。須臾還墜地。饒儞得仙人。恰似守屍鬼。心月自精

末後大事。辨得法窟爪牙。依四弘願行。行大法施利濟一切。爲之圓頓菩薩行。何行而不讃說。作麼生是難透話。牛過窻欞。頭角四蹄總過了。尾巴因什麼過不得。

昔日極貧苦。夜夜數佗寶。今日審思量。自家須營造。掘得一寶藏。純是水晶珠。大有碧眼胡。密擬買將去。余即報渠言。此珠無價數。

華嚴十三頌曰。譬如貧窮人日夜數佗寶自無半錢分。於法不修行。多聞亦如是。涅槃經八曰。如貧女人。舍內多有眞金寶藏。家人大小無有知者。又曰。貧女人者。卽是一切無量衆生。眞金藏者卽佛性也。碧眼胡。初祖。眼有紺青色。故曰碧眼胡。見于事苑三。般若多羅尊者行化到本國。王施無價寶珠等。正宗贊達磨章可見。

○評曰。此詩說廣學多智不如見性人。

貪愛嫉妬憍慢瞋怒底、亦是彼。豈唯兩頭三面耶。千頭萬頭但是彼。須知把捉底亦是彼。所把捉底亦是彼。能所總一般焉。憤起傑烈大志。激發不退道情、猛著精彩。切舉揚話頭。參窮自己一氣卽欲起。此時第六來八萬四千部類憤嗔怒號、盡力惡戰。是則惡罵。恣情掣底時節也。行者卽點精進雄兵。振般若利刄。憤然卽驅。忽乎而魔壘大敗落。上下四維全不見纖塵。寥廓湛然。空洞虛凝。能所共泯。消息乍盡。名之道向無人處行者往往到此爲大悟。爲大得。終錯一生了也。特不知。此是長沙所謂生死大兆。臨濟所謂黑暗深坑。紫陽名之爲狸窠狐窟。應可知。是彼入藕絲孔中。攻不得底半路。如眞正道流則不然。依然執難透話頭。參窮忽爾虛空消殞。鐵山碎、見刺盡。情量空。五欲三毒和命根打失畢。不覺因地一下底大歡喜在。此道錬盡三山鐵。而後見眞正道師究明

八頼耶含藏識是也。阿爺者第七摩那傳送識是也。七八總受伊慢。宜哉不悅。寒餓禪者曰。如阿爺第七傳送識。惡見寔宜也。如第八頼耶阿孃。既稱爲無分別識。既是無分別識。何管彼好惡。寔可怪。又曰。昨被我捉得。惡罵恣情掣。既是六識。梟惡也。捉之底。又是誰。顧夫阿爺與阿孃及六子渾家七八箇外。不可容別人。如五識。各領受五塵而已。全無所知。如七八爺孃。惡見不悅而已。下手脚不得。於此不見捉得底親戚。又是可怪。饑凍上座曰。善哉問。試論之。夫第八頼耶識。名之謂含藏識。以領納一切善惡諸法爲所能。有行人。戒體調和。定慧圓明。則八識田中含攝多少善心。一遍怡悅可知。若又行者三毒未除。八邪猶熾。則含藏多少染汚心。故雖似無分別無所知。田中十分憂愁可知。是故道。阿孃嫌不悅。且夫如第六識一身而具多身。道德仁義禮拜定坐底亦是彼。

婬殺。見好埋頭愛。貪心過羅刹。阿爺惡見伊。阿孃嫌不悅。昨被我捉得。惡罵恣情掣。趁向無人處。一一向伊說。儞今須改行。覆車須改轍。若也不信受。共儞惡合殺。儞受我調伏。我共儞覓活。從此盡和同。如今過菩薩。學業攻鑪冶。鍊盡三山鐵。至今靜恬恬。衆人皆讚說。

晏子春秋諺曰。前車覆。後車戒也。見文選龐居士偈。鍊盡三山鐵。鎔銷五岳銅。

○評曰。此詩以六兄弟比況六根。以說意根可警誡也。六兄弟者。眼耳鼻等六識也。就中一箇惡者。謂第六意識也。有行人工夫不密。保護不嚴。則第六妄識大得力。疾如石火電影。猛如狂風怒濤。貪愛諂曲憍慢嫉妬現無量形。作百千態。五蘊十二處十八界。盡爲伊混亂。處處無奈何。打亦不得。罵亦不得。所以阿爺惡見伊。阿孃嫌不悅。所謂阿孃者。第

大慧答湯丞相書曰。教中說。作癡福是第三生寃。何謂第三生寃。第一生作癡福不見性。第二生受癡福無慚愧。不做好事一向作業。第三生受癡福盡不做好事。脫却殼漏子時。入地獄如箭射。

○評曰。此詩演富貴好道難寔八難所一。

上人心猛利。一聞便知妙。中流心淸淨。審思云甚要。下士鈍暗癡。頑皮最難裂。直得血淋頭。始知自摧滅。看取開眼賊。鬧市集人決。死屍棄如塵。此時向誰說。男兒大丈夫。一刀兩段截。人面禽獸心。造作何時歇。

開眼賊相似龐居士偈。誰家郎君子。開眼造地獄。枉法取人錢。養那一群賊。饒伊家戶大。業成出不得。除非輪廻滿。換形償他力。看君騎底驢。總是如此色。前漢書匈奴傳。夷狄之人貪好利。被髮左袵。人面獸心。

我有六兄弟。就中一箇惡。打伊又不得。罵伊又不著。處處無奈何。耽財好

辨道上士參玄功積。則理盡詞窮。乍大死一番。當此時。無能入心。無所入境。無能見智。無所見理。只是一片虛凝。言語道斷。心行所滅。是道嶮崖撒手底時節。稱之爲根本智。少焉幾蘇息來。初知自己空劫以來實是成佛草木國土同時成道。此道絕後再蘇底時節。稱之爲後得智。於此理智分。能所明。強論詩中所謂前者。所見本具大理也。所謂然燈佛是也。後者能見無師眞智所謂釋迦文佛是也授記作佛者。向所謂絕後再蘇底時節是也。此是非所以葛藤窠裡情解意度輩可夢會了知。

只要一回汗流。眞正冷暖自知。

常聞國大臣。朱紫簪纓祿。富貴百千般。貪榮不知辱。奴馬滿宅舍。金銀盈帑屋。癡福暫時扶。埋頭作地獄。忽死萬事休。男女當頭哭。不知有禍殃。前路何疾速。家破冷颼颼。食無一粒粟。凍餓苦悽悽。良由不覺觸。

大論云。太子生時。一切身邊光如燈。故云然燈。瑞應經云。錠光佛時。我爲菩薩被鹿皮衣。見王家女名曰瞿夷。持七枚青蓮華。菩薩追而呼曰。大姉且止。卽以五百銀錢買五青蓮華等云云。佛知其意。記之曰。爾後九十一劫當得作佛號釋迦文。云云。金剛般若經功德施論曰。若見自身。卽見佛身。若見佛身。卽見自身。見自身淸淨。卽見佛身淸淨。見佛身淸淨。卽見一切智淸淨。見一切智淸淨。卽見一切智智淸淨。此中見淸淨智。是名見佛。我如是見然燈如來。得無生忍一切智。一切智明了現前卽爲受授記。此授記聲不到耳。亦非餘智所能知。我於此時。亦非昏蒙無覺。然無所得。

○評曰。饑凍禪者曰。詩中所謂前後智者。胡爲謂乎。寒餓上座曰。此是學道最後甚深奧義也。自非眞正辨道見性得悟人。不可容易與語矣。

直因忽然無常至。定知亂紛紛。

○評曰。此詩誡無見性眼亂好多智多解底。

寄語諸仁者。復以何爲懷。達道見自性。自性即如來。天眞元具足。修證轉差迴。棄本卻逐末。祇守一場獃。

諸祖偈頌集載此偈。幷前百六十四。以爲龍牙作。

○評曰。此詩誡徒耳修證無見性志底行人。

世有一般人。不惡又不善。不識主人公。隨客處處轉。因循過時光。渾是癡肉團。雖有一靈臺。如同客作漢。

莊子庚桑楚篇註。靈臺心也。

常聞釋迦佛。先受然燈記。然燈與釋迦。祇論前後智。前後體非殊。異中無有異。一佛一切佛。心是如來地。

爲當兀兀過朝夕。都不別賢良。好惡總不識。猶如豬及羊。共語如木石。嫉妬似顚狂。不自見己過。如豬在圈臥。不知自償債。卻笑牛牽磨。

○評曰。惜世間多少人無出離志再歸三途舊里。

人生在塵蒙。恰似盆中蟲。終日行遶遶。不離其盆中。神仙不可得。煩惱計無窮。歲月如流水。須臾作老翁。

○評曰。此詩歎世人往往勞役塵緣無休期。

寒山出此語。復似顚狂漢。有事對面說。所以足人怨。心眞出語直。直心無背面。臨死度柰河。誰是嘍囉漢。冥冥泉臺路。被業相拘絆。

柰河。前七十三首記之。嘍囉。前一百五十五首記之。

○評曰。此詩演道人志氣直如絃。

我見多智漢。終日用心神。岐路逞嘍囉。欺慢一切人。唯作地獄滓。不修正

○評曰。呵世人不知自家本有福田錯行癡福墮地獄。

勸儞三界子莫作勿道理。理短被佗欺。理長不奈儞。世間濁濫人。恰似鼠粘子。不見無事人。獨脫無能比。早須返本源。三界任緣起。清淨入如流。莫飲無明水。

本艸綱目十五曰。惡實或名牛蒡。亦名鼠粘。註曰。實殼多刺。鼠過之則綴惹不可脫。故謂之鼠粘子。

○評曰。此詩說三界出離要路。所謂如流者。自家本有薩婆若海。又謂無漏眞如海。問。如何得入得。曰。兩箇泥牛戰入海。直到今無消息。問。卻有出身路麼。曰。有。作麼生是出身句。曰。兩箇泥牛戰入海。直到今無消息。

三界人蠢蠢。六道人茫茫。貪財愛婬欲。心惡若豺狼。地獄如箭射。極苦若

不快哉。

我見凡愚人。多畜資財穀。飲酒食生命。謂言我富足。莫知地獄深。唯求上天福。罪業如毘富。豈得免災毒。財主忽然死。爭共當頭哭。供僧讀文疏。空是鬼神祿。福田一箇無。虛設一群禿。不如早覺悟。莫作黑暗獄。狂風不動樹。心眞無罪福。寄語冗冗人。叮嚀再三讀。

涅槃經第二十卷德王品。復次菩薩觀諸衆生。一衆生一劫中所積身骨。如王城毘富羅山。所飮乳汁。如四海水。身所出血復多四海水。父母兄弟妻子眷屬命終哭泣所出目涙。多四大海。鬼神祿冥福也。報恩經曰。衆僧出三界之福田也。謂比丘具有戒體。戒爲萬善之根。是故世人歸信供養。種福如沃壤之田能生嘉苗。故號良福田。證道歌。無罪福無損益。寂滅性中莫問覓。

失心。又曰。或求世間尊勝第一。謂前人。言。我今已得須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢道辟支佛乘十地地前諸位菩薩。求彼禮儀。貪供養。

○評曰。此詩責廣學多智未得謂得未證已證底擬人。

如許多寶貝。海中乘壞舸。前頭失卻桅。後頭又無柁。宛轉任風吹。高低隨浪簸。如何得到岸。努力莫端坐。

○評曰。人人本具自性。箇箇圓有佛心。名之髻中眞珠。稱之衣內至寶。爲未見性。所見思雲霧蓋覆。所貪瞋家賊劫奪。外無持律善巧。內乏定慧勳果。生死海中恰如破壞朽舟無桅無柁。所色聲等六塵沈沒。所譏譽等八風漂流。不免永劫苦輪。鎭爲三途八難衆生。幸今受浮木人身。乘此嘉運。須努力。莫坐待亡。前進乍見徹自本源。永免得生死患難。豈

雌黃。書言十二。議論反復曰二口中雌黃一。晉王衍善二玄言一。義理有レ所レ未レ安。隨更改。世號二口中雌黃一。註曰。雌黃者。古人寫レ字有レ誤。以二雌黃一塗而改二正之一。王衍就二口中一改變。不レ待三於紙上改二。儒行。禮記篇名也。律者。律呂。萬法所レ出故。法令謂二之律一。釋名。律累也。累二人心一。使レ不レ得二放肆一也。蟫蟲。書中虫也。帙書衣也。

○評曰。此詩責下無賴後學不レ知レ養二人才一妄好上レ爲二人師一。

心高如二山嶽一。人我不レ伏レ人。解レ講二韋陀典一。能談二三教文一。心中無二慚愧一。破レ戒違二律文一。自言二上人法一。稱爲二第一人一。愚者皆讃歎。智者拊レ掌笑。陽燄虛空華。豈得レ免二生老一。不レ如百不解。靜坐絕二憂惱一。

韋陀者。外道書也。名義集半滿書籍篇。梵語韋陀。此云二智論一。知レ之生レ智。卽邪智論也。上人法。楞嚴經六曰。各自謂。已得二上人法一。眩二惑無識一。恐レ令二

寒山詩闡提記聞　卷第三

大海水無邊。魚龍萬萬千。遞互相食噉。冗冗癡肉團。爲不心了絕。妄想起如煙。性月澄澄朗。廓爾照無邊。

淮南子齊俗訓云。水積則生相食之魚。冗而隴切。忙也雜也。

○評曰。此詩說一切有情類互相噉輪回不止。

目見天台頂。孤高出衆群。風搖松竹韻。月見海潮頻。下望山青際。談玄有白雲。野情便山水。本志慕道倫。

○評曰。此詩述天台境。謂寒公自得的。

三五癡後生。作事不眞實。未讀十卷書。強把雌黃筆。將他儒行篇。喚作賊盜律。脫體似蟫蟲。齩破他書帙。

自樂平生道。烟蘿石洞間。野情多放曠。長伴白雲閑。有路不通世。無心孰可攀。石牀孤夜坐。圓月上寒山。

○評曰。此詩說山居自適境界。

寒山詩闡提記聞　卷第二　終

國以人爲本。猶如樹因地。地厚樹扶疎。地薄樹憔悴。不得露其根。枝枯子先墜。決陂以取魚。是求一朝利。

書。五子之歌曰。民惟邦本。本固邦寧。文選。孟夏艸木長。繞屋樹扶疎。註曰。扶疎所謂枝葉四布貌。

衆生不可說。何意許顚邪。而上兩惡鳥。心中三毒蛇。是渠作障礙。使爾事煩拏。擧手高彈指。南無佛陀耶。

不可說。華嚴經說十大數。其第九曰不可說。兩惡鳥。事文類聚後集四十七。尹吉甫子伯奇。依繼母讒。作伯勞。梟不孝鳥。一名流離。少好而長醜。大則食其母。蓋兩惡鳥伯勞梟。煩拏。宋玉九辨語也。註攘亂也。涅槃經十四。有調達服酥受苦呼南無佛陀事。

○評曰。此詩說衆生爲三惡所役多顚倒。

求友生。

我在村中住。衆推無比方。昨日到城下。仍被狗形相。或嫌袴太窄。或說衫少長。攣卻鷂子眼。雀兒舞堂堂。

袴。苦故切。股衣也。衫。師咸切。小襦也。衫衣無袖端也。鷂弋笑切。耀鷙鳥也。彙。善捉雀故。名負雀。又鶻類也。攣。彙。朗旬切。攣手足曲也。

○此詩。寒公嘆無知己。

死生元有命。富貴本由天。此是古人語。吾今非謬傳。聰明好短命。癡騃卻長年。鈍物豐財實。惺惺漢無錢。

語。顏淵曰。死生有命。富貴在天。

○評曰。此詩演大凡人壽夭貧富智愚尊卑盡有報應之理。此謂天命。世人不識破。故施奇計。設姦謀。求富貴。希利達。終身陷不義。大錯了。

○評曰。寒公曰徒閉蓬門坐試道一把茅底閉却柴扉徒爾坐謂乎。防意除情念杜絕萬緣謂乎。將又彌勒樓閣善財既入得後閣門乍閉謂乎。

時人見寒山。各謂是風顚。貌不起人目。身唯布裘纏。我語他不會。他語我不言。爲報往來者。可來向寒山。

○評曰。此詩似寒公自家一篇眞贊。曰。可來向寒山。何處是寒山。

自在白雲閑。從來非買山。下危須策杖。上險捉藤攀。澗底松常翠。谿邊石自斑。友朋雖阻絕。春至鳥喧喧。

買山。事文類聚前集第十四。戴德山人問襄陽節度于頔。求買山錢。頔與百萬。世說新書。支遁字道林。因人就深公。買隱山。深公曰。未聞巢由買山而隱。入沃州小嶺。友朋詩伐木相彼鳥矣。猶求友聲。矧伊人矣。不

憂於此李斯乃歎曰。人之賢不肖。譬如鼠矣。在所自處耳。乃從荀卿學帝王之術。未考都亭鼠事。薰蕕。左僖公四年曰。一薰一蕕。十年猶有臭。註。薰。香艸。蕕。臭艸。十年有臭。言善易消惡難除。擇朋侶。家語六本篇曰。與善人居。如入芝蘭之室。久而不聞其香。卽與之化矣。與不善人居。如入鮑魚之肆。久而不聞其臭。亦與之化矣。丹之所藏者赤。漆所藏者黑。是以君子必愼其所與處者焉。

○此詩誡爲人父者。

徒閉蓬門坐。頻經石火遷。唯聞人作鬼。不見鶴成仙。念此那堪說。隨緣須自憐。迴瞻郊郭外。古墓犁爲田。

蓬門。出于前二十九首。石火。出一百六十七首。丁令威故事。出前九十一首。文選古詩。出郭門直視。但見丘與墳。古墓犁爲田。松栢摧爲薪。

○此詩。說不見自心性故行人多徒困苦。

我聞天台山。山中有琪樹。永言欲攀之。莫曉石橋路。緣此生悲歎。幸居將已暮。今日觀鏡中。颯颯鬢垂絲。

琪樹。文選孫興公遊天台山賦。建木滅景於千尋。琪樹璀璨而垂珠。駱賓王靈隱寺詩。待入天台路看余度石橋。註。天台赤城山高一萬八千丈。上有石橋。廣不盈尺。下臨萬丈深澗。惟忘其身。然後能濟。

○此詩述世人無憤烈志不遂素志。

養子不經師。不及都亭鼠。何曾見好人。豈聞長者語。爲染在薰蕕。應須擇朋侶。五月販鮮魚。莫教人笑儞。

都亭鼠。史記李斯傳曰。李斯年少時爲郡小吏。見吏舍廁中鼠食不潔。近人犬數驚恐。又斯入倉觀倉中鼠食積粟。居大廡之下。不知人犬之

親了脫黑暗獄。若不然。盡是黑繩衆合人。叫喚泥梨滓。

可畏三界輪。念念未曾息。纔始似出頭。又卻遭沈溺。假使非非想。蓋緣多福力。爭似識眞源。一得卽永得。

名義集。無色界頂天名非有想非無想天。

○此詩。示世間有爲善果不如見性功。

昨日遊峯頂。下窺千尺崖。臨危一株樹。風擺兩枝開。雨漂卽零落。日曬作塵埃。嗟見此茂秀。今爲一聚灰。

涅槃經三十四曰。復次知者觀是壽命。猶如河岸臨峻大樹。

○此詩。述生者必滅理。

自古多少聖。叮嚀教自信。人根性不等。高下有利鈍。眞佛不肯認。置力枉受困。不知淸淨心。便是法王印。

尋覓黑暗獄驢年亦不得了脫學人思念纔收暗昏昏地去。擬黑黑地去處卽是黑暗獄處之本根。而百千無量惡處總是從者裡幻出。淨名之道須彌相世界時人特不知。認得爲本具大道。曰。者裡全無纖毫過患。何處在天堂地獄。寔可憐。譬如人夢挂嶮崖。上下四維。只是一箇嶮崖。當此時。豈可道無嶮崖。譬如人夢陷深谷。上下四維。只是一箇深谷。當此時。豈可道無深谷。一切衆生。日日所爲所行。盡是夢中幻事。當此時。誰知一切衆生無一點痕迹。然則道無天堂可哉。道無地獄可哉。吾子若欲透脫如上惡處。向此黑暗處把一箇話頭看。乾峯和尚示衆曰。法身有三種病二種光。儞等諸人還委悉。看去看來。忽然蹈飜黑暗獄。分明徹見須彌燈王如來。名之爲大圓鏡智。於此再回首一看。雲門出衆云。菴內人因甚麼不知菴外事。此話若得如見掌上了了分明。許儞

爲黃泉冥府。其城隍殿宇專疊鐵石築成。名道閻羅大城。盡挂刀兵戈戟爲莊嚴。其高廣寬大遙超過人間。鐵網結烈火。雖王侯貴介總無漏業鏡蓋長空。雖小罪蛸飛。全無遺。有八大獄。帶三百六十別處有十大王。率八萬四千部屬。鬼卒獄奴各張馬頷牛首。走獸飛禽互磨鐵爪金牙。火車縱橫轟走。如屠家蒼蠅。苦具參差。羅立如廣野蘆葦。有刀葉劍樹嶺。有糞泥膿血川。臭煙四圍猛火頻飛。鑊湯沸迸。如怒濤浸長天。爐炭轟吼。似迅雷劈石壁。熱沙打面。毒風裂肌。造罪緇素悲泣號哭動天環震地軸。若詳說彼土衆生受苦少分。忍土衆生大恐怖。必吐血悶絕。就中有一處。名道黑暗獄。永劫不見日月光。黑火鎭然。受苦無間缺。是盡正法念處瑜伽智論所說也。我每觀此說。如攢毒箭於胸間。彼黑暗獄何日得了脫。饑凍上座曰。不可也。不可也。吾子若向四千由旬下方

佛難。廻心卽是佛。莫向外頭求。

楞嚴經一曰。今日乃知雖有多聞。若不修行。與不聞等。如人說食終不能飽。求字異本作看。

○此詩說食得免饑。衣得免寒。廻得成佛決定理。

可畏輪回苦。往復似蟻巡環未息。六道亂紛紛。改頭換面孔。不離舊時人。速了黑暗獄。無令心性昏。

事文類聚前集一曰。天圓如依蓋。地方如棊局。天旁轉半在地上。半在地下。日月本東行。天西旋入於海。牽之以西。如蟻行磨上。磨左旋蟻右行。磨疾蟻遲。不得不西。

○此詩。述三界流轉苦。以勸識得自性。

○評曰。寒餓禪者曰。我聞。閻浮提下方經四千由旬。有大苦聚世界。名

不見朝垂露。日爍自消除。人身亦如此。閻浮是寄居。切莫因循過。且令三毒祛。菩提即煩惱。盡令無有餘。

涅槃經三十四曰。亦如朝露勢不久停。智度論三十五曰。如閻浮提者。閻浮樹名。其林茂盛。此樹於林中最大。提名爲洲。洲上有此樹林。林中有河。河底有金沙。名爲閻浮檀金。又名閻浮洲。此洲有五百小洲圍繞。通爲閻浮提。寄居。魏文帝樂府曰。人生如寄多憂何爲。見文選。

○此詩。寄朝露演世無常。

水清澄澄瑩。徹底自然見。心中無一事。萬境不能轉。心既不妄起。永劫無改變。若能如是知。是知無背面。

○此詩。寒公老婆說話。已透底士可也。未透底士認之大不可也。

說食終不飽。說衣不免寒。飽喫須是飯。著衣方免寒。不解審思量。祇道求

從佗受肥甘。爲我須莫教閻老判。自揣看如何。臉千廉切。臛也。又力減切。臉臛羹也。

○此詩。呵世人不知苦因。

讀書豈免死。讀書豈免貧。何以好識字。識字勝佗人。丈夫不識字。無處可安身。黃連搵蒜醬。忘計是苦辛。

搵烏困切。溫去聲。手撩物貌。又設也。管修篇曰。一年之計莫如樹穀。十年之計莫如樹木。終身之計莫如樹人。

○此詩。呵一向不窮己事。不修道德。徒耽著文字底癡人。

我見謾人漢。如籃盛水走。一氣將歸家。籃裡何曾有。我見被人謾。一似園中韭。日日被刀傷。天生還自有。

○此詩。說能欺與所欺得失。

鶴脫籠。上下四維。全無纖毫過患。無半點疑惑。動靜一如。逆順不二。生死涅槃。大虛僞禪道佛法閑妄想。臨濟德山誰家老禿奴。爛嚼虛空骨。吸盡乾坤髓。通身是狼毒。涕唾亦鴆酒。氣吞八紘。眼空四海。唾石石、郭亦可裂。吹鐵鐵城亦可流。野鬼恐走。閑神悲哭。百億須彌。一片脊梁骨。盡大千界一枚廣長舌。吐出萬斛毒焰。殺害四生含識。其厚重寬大如彼嵩岱之松柏華岳之檀桐上枝干於青雲下根通於三泉。千秋萬歲不受斧斤痕。佛祖亦挾手不得底瞎臭禿破落戶。是非所以佛法令然。爲從初入處痛快故也。是故。達磨大師曰。若人欲成佛道。先須見性。

怜底衆生病。飡嘗略不厭。蒸豚搵蒜醬。炙鴨點椒鹽。去骨鮮魚膾。兼皮熟肉臉。不知佗命苦。祇取自家甜。

黃山谷詩曰。我肉衆生肉。形殊體不殊。元同一種性。只是隔形軀。苦惱

頼耶藏識以爲本具大道。可憐一生半醒半醉終向寂靜空閑處揩定。空却情念以欲成佛道。其在靜處則渾渾沌沌。而雖似平穩纔向動處。則如游魚離水似飛鳥失翼。無半點氣力。只胸喘肌汗而已。是最初錯認門閭戸庭來爲立處不眞實。基趾不堅牢。故所以内識浪濁亂性海。情波鼓激此岸。常溢突菩提本根。外六塵昏亂胸宇。八風飛氷霜。永戕賊覺樹枝葉。恰如河邊樹浪衝枯朽根。霜凋萎疎葉。選情量凡解爲害法身慧命。恰似千萬刀斧痕。非是佛法令。然爲學人立處不眞故也。是故言。生處當如此。何用怨乾坤。如眞正衲子則不然。其最初憤起傑烈勇猛大志。激發長劫不退道情。執一則難透話頭。十二時辰三四威儀。竪參横窮。窮窮到無可窮處和參窮底心一時打失。氣息亦斷絕。是謂大死一番底時節。於此蹈斷佛道淵源。拔却至理根盤。如鳳離金網似

朽根。生處當如此。何用怨乾坤。

河邊樹。史記蘇秦傳評林引袁淑眞隱傳曰。鬼谷先生不知何許人。隱居韜智。居鬼谷山。因以爲稱。蘇秦張儀師之。遂立功名。先生遺書責之曰。若二君。豈不見河邊之樹乎。僕御折其枝。波浪盪其根。上無經尺之陰。身被數千之痕。此木豈與天地有仇怨。所居然也。子不見嵩岱之松栢華霍之檀桐乎。上枝干於青雲。下根通於三泉。千秋萬歲不受斧斤之痕。此木豈與天地有骨肉哉。蓋所居然也。

〇評曰。昔鬼谷子授與張蘇二子書中。敎諭人生壽夭禍福悉依其所住當否。寒公亦取其書中大意。以呵學人最初錯入處不痛快故修行一生多勞疲。有學人最初莽鹵入理不深邃。見道不著實。聞人說光影邊事。認以爲佛法。或著經教文字中顧覺。向情量意識中承當。捉湛寂

千世界。菩薩不覺。有一天子。名曰悅意。見地生草穿菩薩肉上生至肘。告諸天曰。奇哉。善男子。苦行乃爾不食多時。喚聲不聞。草生不覺。祖庭事苑載之。

○評曰。有身與無身。是我復非我。如是單單體窮觀察。倚巖坐。物我總忘卻。心身共脫落。是間青草生。頂上紅塵積。亦不知此時生佛一如。淨穢不二。忽然突出金剛不壞全身。煥發寂滅實相全身。此爲眞正辨道佛子。若不然。縱備行萬善。集衆德。都是依草附木底野鬼閑鬼。何日免得流轉沈沒苦患。可悲。俗中人。不知有如上佳趣。空靈牀施杯盤酒果。祭以爲足。徒空壇備臭穢犧牲。哭以爲盡。誰知盡是暗上添暗。苦上重苦底夢中幻事。

昨見河邊樹。摧殘不可論。二三餘幹在。千萬斧刀痕。霜凋萎疎葉。波重枯

背出。飽食腹膨脝。箇是癡頑物。

○評曰。此詩。全篇以法華譬喩品意述。法華第三譬喩品曰。爾時長者卽作是念。此舍已爲大火所燒。我及諸子若不時出。必爲所焚。我今當設方便令諸子等得免斯害。父知諸子先心各有所好種種珍玩奇異之物情必樂著。而告之言。汝等所可玩好。希有難得。汝若不取。後必憂悔。如此種種羊車鹿車牛車今在門外。可以遊戲。汝等於此火宅。宜速出來。隨汝所欲。皆當與汝。

有身與無身。是我復非我。如此審思量。遷延倚巖坐。足間青草生。頂上紅塵墮。已見俗中人。靈牀施酒果。

青草生。觀佛三昧海經曰。爾時菩薩坐於樹下入滅意三昧。三昧境界名寂諸根。諸天啼泣淚下如雨。勸請菩薩當起飮食。作是請時。音徧三

般。是故解脫亦有眞正與相似兩般。曾此有一人潛窮密參。理盡詞窮。到彼亦窮處喜識盡消息盡。此謂髑髏那畔。是則拋身捨命懸崖撒手魂飛魄散底時節。少焉蘇息歸來。一斬一切斬。一了一切了。達理本根。徹法淵源。今時那邊無一點疑惑。於祖師難透話頭分明透過了而後。成辨長劫不退願輪與一切含識同共進成就佛道。謂之一鉼鑄金成底眞正行人誠實解脫。茲有一人。信受見聞覺知底光影。認得湛然寂默底賴耶暗谷。來爲眞正無比大道。揩磨淨盡。以欲成佛道。到死精錬刻苦終無一毫利益。謂之一鉼埏泥成底相似解脫虛僞行者未得謂得認賊爲子底癡人。修行在今日。言卽今錯一步了。則千里萬里全錯了。所以。達磨大師曰。欲成佛道先須見性。

摧殘荒草廬。其中煙火蔚。借問群小兒。生來凡幾日。門外有三車。迎之不

老子曰。甘其食。美其服。安其居。樂其俗。隣國相望。鷄狗之聲相聞。民至老死不相往來。又老子曰。大道廢有仁義。智慧出有大僞。枝葉。易繋辭曰。中心疑者。其辭枝。雲梯。戰國策宋景公篇曰。公輸般爲雲梯將以攻宋。

○此詩。說有道士與道混一而無佗伎。

一餅鑄金成。一餅埏泥出。二餅任君看。那箇餅牢實。欲知餅有二。須知業非一。將此驗生因。修行在今日。

埏泥。老子三十輻章。埏埴爲器。註。埏和土也。二餅。涅槃經五曰。譬如瓦餅破而聲鏨。金剛寶餅則不如是。夫解脫者亦無鏨破。金剛寶餅譬眞解脫。

○評曰。此詩設譬喩以比眞僞二種行人。大凡行人有眞正與相似兩

昌。無翼飛、無足走。浮圖。梵語。佛陀。或云浮圖。或云部多。今并譯爲覺。

○此詩上四句。演能笑之語。下四句扶所笑人。

買肉血𣿬𣿬。買魚跳鱍鱍。若身招罪累。妻子成快活。纔死渠便嫁。他人誰敢遏。一朝如破牀。兩箇當頭脫。

𣿬同活。鱍鱍棄。魚動尾貌。

○此詩誡食肉荒色人畢竟重多少罪障。

客難寒山子。君詩無道理。吾觀乎古人。貧賤不爲耻。應之笑此言。談何疎闊矣。願君似今日。錢是急事爾。

○此詩設傍難通意。

從生不往來。至死無仁義。言既有枝葉。心懷便險詖。若其開小道。緣此生大僞。詐說造雲梯。削之成棘刺。

爲童兒。及長凡所經履。莫不諳記。讀書五行并下。虎頭枕。西京雜記曰。李黃與兄遊獵冥山北。見猛虎。一矢斃之。斷其頭爲枕。示服猛。祖庭事苑三載象牙牀。戰國策齊閔王篇曰。孟嘗君出行國。至楚獻象牀。阿堵。書言故事。晉王衍妻郭氏喜聚斂。衍疾其貪鄙。故口未嘗言錢。妻欲試之。令婢以錢遶床。使不得行。衍早起見錢。謂婢曰。擧阿堵物去。註。阿堵眼中也。

○此詩。述能文能武之達士爲無錢受屈之嘆。

笑我田舍兒。頭頰底縶澁。巾子未曾高。腰帶長時急。非是不及時。無錢趁不及。一日有錢財。浮圖頂上立。

頰。古協切音劫面旁。縶質入切音執。絆馬足也。晉書。魯褒字元道。南陽人。好學多聞。以貧素自立。元康後。綱紀大壞。褒傷時貪鄙。乃隱姓名。而著錢神論。以刺之。其略曰。親之如兄。字曰孔方。失之則貧弱。得之則富

植棄。烝職切。音寔。立也置也。栽也。百年屋。涅槃經二十日。譬如朽宅垂崩之屋。我命亦爾。云何起惡。塌。桒託甲切。音塔。地低下也。堅字異本作竪。

○評曰。百年屋者謂四大空華幻質五蘊泡影肉身次第倦疲衰朽。牆壁分散盡者。血肉漸枯竭。骨節盡疼痛。瓶瓦片片落者。髮毛齒牙總謝也。狂風吹蕩塌者。謂無常殺鬼一刹那間奪將去底時節再得完全。大難也。

精神殊爽爽。形貌極堂堂。能射穿七札。讀書覽五行。經眠虎頭枕。昔坐象牙牀。若無阿堵物。不啻冷如霜。

左成十六年曰。潘尫之黨與養由基蹲甲而射之。徹七札焉。戰國策。燕主喻篇註。札牒也甲之革緣如之。五行。後漢書應奉傳曰。奉少聰明。自

○評曰。寒公面前山河大地。草木森羅。行雲流水。秋葉春花。總是自己本有常寂光本土。而黃鶯囀花。紫燕入柳。春蛙夏蜩。皆是紫磨光聚全身。無所回避。又大權菩薩見一切衆生。見徹生生父母世世兄弟所以哀愍猶深。所恨不知觸處湛然全是諸佛淨刹。流轉五趣。牢落三有。今每觀見諸佛刹土常樂。哀念衆生永夜苦患深。哀念衆生永夜苦患深故。追憶諸佛刹土常樂切。故言腸斷憶咸京。咸京擬諸佛刹土者也。作麼生是諸佛刹土。

多少天台人。不識寒山子。莫知眞意度。喚作閑言語。

○此詩述無知音之嘆。

可惜百年屋。左倒右復傾。牆壁分散盡。木植亂差橫。甎瓦片片落。朽爛不堪停。狂風吹驀塌。再竪卒難成。

安樂田地。謹爛皺此話豎皺橫皺嚼。一朝斗皺斷命根。絕後再蘇。從上多少說話。唯是滿面慚惶而已。勉旃。諸子莫待老來涙痕數行滴頷焉。已上係絲孔中錄

寒公曰。叮嚀能保護。莫令有點痕。作麼生得無點痕去。生死涅槃是點痕。心佛衆生是點痕。天堂地獄是點痕。喫茶喫飯是點痕。四大五蘊是點痕。咳唾掉臂是點痕。如何得脫得去。若眞箇要免如上過患。只須見性。所以。達磨大師曰。欲成佛道。先須見性。

去年春鳥鳴。此時思弟兄。今年秋菊爛。此時思發生。綠水千場咽。黃雲四面平。哀哉百年內。腸斷憶咸京。

文選三十謝靈運詩。河洲多沙塵。風悲黃雲起。註。淮南子曰。黃泉之埃。上爲黃雲。崔顥行經華陰詩。註。咸京即咸陽。秦漢建都於此。故曰咸京。

○此詩述舊懷。又是寒公和盤托出底。

勝。乍現大身。八萬四千部衆各等身淺蒼海。狹碧虛。動寶殿。叫喚怒號。礮日月。顚狂憤悶。靈臺爲之震動。丹府爲之碎裂。當此時。行者忽省覺。擧起本參話頭。或向自己本有。則如沸沸湯釜內洒一杓冷水。性海湛寂。心源虛靈。是則帝釋天王大戰勝時也。四王各得處。諸天互歡樂。帝網重重。光光映徹。主伴無盡。正與麼時。彼八萬四千魔軍。一箇不留痕跡。上下四維之間。千回百匝。盡神變搜索不得。於此。行者大歡踊云。天下既定矣。特不知。彼魔種入歡喜細念裏潜伏。全不損一毛。細念者何哉。所謂神識微細流注。難斷思惑也。然則非彼部衆入思惑難斷如藕絲裏藏者歟。既入思惑微細藕絲藏。宜哉。不能攻而退也。爲之如何。祖師有善巧一著。截生死根源。如倚天長劍。摧妄情窠窟。過萬斤鎚子。僧問趙州。狗子還有佛性。又否。州曰。無。此話極有靈驗。學者若欲到眞正

也。予常謂阿修羅有者般大神通。彼既戰敗走時。豈特尋藕絲孔中藏哉。蟭螟眼裏蚊虻鼻孔一微塵裡針鋒頭上隨處自在藏身。縱雖隣虛中。包容八萬四千部屬不爲狹。而特指藕絲孔中何哉。且夫帝釋戰勝。諸天大得力。則多聞廣目疾如石火。增長持國速如飈風。有何暇。得尋蓮池折荷莖拔御藕絲而後藏身。縱亦隱得十成。天眼所照。盡大千界如掌上瑠璃顆何殘纖塵。若又如三春始仲冬後荷錢亦未浮時無所藏身。彼卽敗走郎落。終爲天兵斧鉞者哉。吾大怪之久焉。近頃定中忽爾省覺此事不堪歡喜。記以授二三子。顧夫此義。經中微妙譬喩。而大辨道有益。蓋試論之。嘗鼓有辨道上士。單單端身靜坐時。身心寂滅。萬法虛凝。湛然廓落。自如一片長空。忽然幾幾情念紛起。則如雲霧包大虛。似波浪呑巨嶽。谷吼山怒。臭煙吐氷雹。毒霧籠電雷。是則阿修羅大戰

來。總是生死大兆、而終墮惡種。是只爲不了知人人本具底佛心箇箇圓成底大事故。縱又雖知有箇箇圓成底大事。嶮崖撒手。一回白汗不流。總是閑妄想死學解。堪作何用。寒公曰。呼時歷歷應。隱處不居存。是則欺誑多少癡人。生陷墜底黑暗大深坑、誠可怖畏。其災厄過八難惡處。一回蹟入、終無出期。有行人端然靜坐時。思念纔止情量且治。恰如無一點瑕翳。少觸塵緣。則多少妄情依舊紛紛飛飛。退求靜處。確齩定牙關。則雖且似湛然。纔出頭。依舊又紛紛又飛飛。雖頭白齒黃。終不能出此兩般境致。爲是只不能一回汗流見性了了故也。誰知。彼隱處不居存底。全是陰魔之潛伏窟宅。師向書藕絲孔中辯。少以有所益者。故不顧繁文。并記于此。辯曰。臨濟慧照禪師云。如阿修羅與天帝釋戰時。戰敗領八萬四千眷屬入藕絲孔中藏。故不能攻而退也。是本經中說

鵠林云。此詩甚有親切處。須子細吟玩。往往崑崙去底多。所以。許多葛藤了也。看取下文。

報汝修道者。是數壞好人家男女。鵠林著語曰。事生也。還進求虛勞神。汗流冷暖自知。縱不進鵠林著語曰。若不一回求。也是渾池一場懸。人有精靈物。爭道裏不要箇鬼怪物。鵠林著語曰。若有須吐卻。無字復無文。氏眉。剜好也是泥沌肉生瘡。呼時歷歷應。如麻似粟。弄精魂漢隱處不居存。行人底舊狐窟老狸窠。也是藕絲孔中像設一切叮嚀善保護。爲子。多認賊勿令有玷瑕。則非無屈右手騙狗頭。何日免得。那一瑕著什麼處。握左拳搖佛首。

○許曰。愿夫佛道廣大故。根機不同。根機不同故。法門無量。法門無量故。行人多端。行人多端故。得力千般。得力千般故。有誦經諷咒。有一食卯齋。有長坐不臥。有多拜多禮。有佛像彫刻。有彩畫泥塑。盡是虛妄幻事。而勞役心神。全無利益。縱又誦咒功積。苦修歲久。而咒斃走獸。祝落飛禽。蘇活重病於九死。使役野鬼於千里。荒旱招甘雨。得煩暑呼涼飇

○此詩寒山幽致。

憶昔過逢處。人間逐勝遊。樂山登萬仞。愛水汎千舟。送客琵琶谷。攜琴鸚鵡洲。焉知松樹下。抱膝冷颼颼。

樂山愛水、論語雍也篇曰。知者樂水。仁者樂山。知者動。仁者靜。知者樂。仁者壽。琵琶谷。白樂天琵琶行曰。潯陽江頭夜送客。楓葉荻花秋瑟瑟。別時茫茫江浸月。忽聞水上琵琶聲。鸚鵡洲。崔顥黃鶴樓詩註曰。黃祖殺禰衡。埋於洲上。後人號曰鸚鵡洲。以衡嘗爲鸚鵡賦。抱膝。三國志。諸葛亮長嘯抱膝。

○此詩述舊懷。

報汝修道者。進求虛勞神。人有精靈物。無字復無文。呼時歷歷應。隱處不居存。叮嚀善保護。勿令有點痕。

師。

秉志不可卷。須知我匪席。浪至山林中。獨臥盤陀石。辯士來勸余。速令受

金璧。鑿牆植蓬蒿。若此非有益。

詩栢舟篇曰。我心非石不可轉。我心匪席不可卷也。至字。異本作造。金

璧出前九十九首。莊子庚桑楚篇曰。且夫二子者。又何足以稱揚哉。是

於其辯也。將妄鑿垣牆而殖蓬蒿也。簡髮而櫛。數米而炊。竊竊乎又何

足以濟世哉。

○此詩賦寒公遁居志雖富萬戶不可移。

以我棲遲處。幽深難可論。無風蘿自動。不霧竹長昏。澗水緣誰咽。山雲忽

自屯。午時庵內坐。始覺日頭暾。

陸士衡詩。胡馬如雲屯。見于文選。

敝服。賣卜於市。或寓息客廬。或依宿樹陰。如此十餘年。乃結草室而居焉。所止單陋。有時絕粒。窮居自若。言貌無改。閭里歌之曰。甑中生塵。范史雲。釜中生魚范萊蕪。

○此詩亦是寒公屋裡祕訣。

養女畏大多。已生須訓誘。捺頭遣小心。鞭背令緘口。未解乘機杼。那堪事箕箒。張婆語驢駒。汝大不如母。

詩大明篇曰。維此文王小心。翼翼緘口。家語曰。孔子觀周廟。有金人焉。三緘其口。而銘其背曰。古之愼言人也。書言故事吉事類曰。單父人呂公好相人。見漢高祖狀貌魁梧。重之曰。臣相人多矣。無如季相。臣有弱息女。願爲箕箒妾。

○此詩寒公在深山無人境。能說養女兒心要。寔知元是一切智調御

五人。八人學佛法。對會稽東去岸七萬里云云。如來使法華經法師品曰。說法華經乃至一句。當知是人則如來使。

○此詩。說有爲善業總無所益。以勵眞正見性法門。

吁嗟貧復病。爲人絕友親。甕裡長無飯。甑中屢生塵。蓬菴不免雨。漏榻劣容身。莫怪今顦顇。多愁定損人。

貧復病。莊子讓王篇曰。原憲居魯。環堵之室。茨以生草。蓬戶不全。桑以爲樞。而甕牖二室。褐以爲塞。上漏下濕。匡坐而絃。子貢乘大馬。中紺而表素。軒車不容巷。往見原憲。憲華冠縱履。杖藜而應門。子貢曰。嘻先生何病。原憲應曰。憲聞之。無財謂之貧。學而不能行謂之病。今憲貧也。非病也。子貢逡巡而有愧色。甑中生塵。後漢書獨行傳曰。范冉字史雲。桓帝時。以冉爲萊蕪長。議者欲以爲侍御史。因遁身逃命於梁沛之間。徒行

蘭若樹下住病。以腐爛治。寶誌。釋氏稽古略二之上。寶公大士諱寶誌。世稱寶公。尊之也。手足鷹爪。初建康東陽民朱氏之婦。聞兒啼鷹巢中。梯樹得之。舉以爲子。七歲依鐘山僧儉出家。專修禪觀。至是顯跡。以剪尺拂扇掛杖頭負之行。異跡甚多云云。萬回師。唐高僧傳。梁朝有法雲法師。住光宅寺。又唐有法雲名萬回。此曰梁朝萬回師。則光宅寺法雲有號萬回乎。亦別有所指乎。未之考也。或曰。合作法雲師。錯作萬回。三寫烏焉乎。此說是歟。傅大士。釋氏稽古略一之下。傅大士。齊明帝建武四年五月八日生。生婺州義烏縣雙林傅宣慈家。名翕字玄風。號善慧。四仙。佛祖統紀三十八。華陽眞人陶弘景告化。香氣積日不散。諡貞白眞人。所撰書曰眞誥。有云。淸虛裵眞人弟子三十四人。其十八人學佛道。紫陽周眞人弟子十五人。四人解佛法。桐柏眞人王子喬弟子二十

○此詩呵世間富貴人徒爾過光陰無道心。

自聞梁朝日。四依諸賢士。寶誌萬回師。四仙傅大士。顯揚一代敎。作持如來使。建造僧伽藍。信心歸佛理。雖乃得如斯。有爲多患累。與道殊懸遠。折西補東爾。不達無爲功。損多益少矣。有聲而無形。至今何處是。

四依。三藏法數曰。人四依者。依卽依止也。謂從五品位至等覺菩薩。堪爲世間衆生之所依止。能令衆生聞法開解修行證果。故名人四依。五品十信爲初依。十住爲二依。十行十回向爲三依。十地等覺爲四依。梁朝南史曰。梁高祖武皇帝諱衍字叔達南陵中都人也。姓蕭氏。五世祖仕齊封梁王。受和帝寶融禪。卽皇帝位。改元天監。四依有三種。人四依。法四依。行四依。人四依。上記了。法四依者。依法不依人。依了義經不依不了義經。依義不依文。依智不依識。又行四依者。常住乞食著糞掃衣。

朝裏談崇奉釋氏。妻悍妬。談畏之。嘗曰。妻有可畏者三。少之時視之。如生菩薩。及男女滿前。視之如九子鬼母。安有人不畏九子鬼母。至五六十。薄施粧粉。或青或黑。視之如鳩盤荼。安有人不畏鳩盤荼。

一自遯寒山。養命飡山果。平生何所憂。此世隨緣過。日月如逝川。光陰石中火。任佗天地移。我暢巖中坐。

逝川。出前四十八首。石中火。潘安仁河陽縣作云。人生天地間。百年孰能要。頻如擒石火。瞥若截道飈。見文選。

○此詩。賦寒山自得之處。

我見世間人。茫茫走路塵。不知此中事。將何爲去津。榮華能幾日。春屬片時親。縱有千斤金。不如林下貧。

千斤。漢志。四銖爲兩。十六兩爲斤。

粉膩。金釧鏤銀朶。羅衣緋紅紫。朱顏類神仙。香帶氛氳氣。時人皆顧盼。癡愛染心意。謂言世無雙。魂影隨佗去。狗齩枯骨頭。虛自舐脣齒。不解反思量。與畜何曾異。今成白髮婆。老陋若精魅。無始由狗心。不超解脫地。

儂棄。奴冬切。吾儂。俗謂我爲儂。又渠儂佗也。蜀樣花。古語曰。蜀川十樣錦。添花色轉鮮。本草綱目十五。靑葙下曰。雁來紅。六月葉紅者名十樣錦。燕脂。古今註曰。燕脂草。出西方。葉似薊。花似茜。土人以染粉。爲婦人面色。故名燕脂。氛氳。小補韻會云。氛氳祥氣也。狗齩枯骨頭。智度論十七曰。五欲無益。如狗齩骨。宗鏡錄六十四。引正法念處經云。譬如狗齩離肉之骨。涎汁和合。望得其髓。如是貪狗齒間血出。得其味。已謂是骨汁。不知自血有如是味。以貪味故。不覺次第自食其舌。後貪其味。以貪愛故謂骨汁味。愚癡凡夫亦復如是。白髮婆。事文類聚後集十四。中宗

爲人遺蹤也。不要求佛果。問。一切行人以成佛作祖底爲最後秋成本懷。而寒公曰。不要求佛果。甚可怪。曰。此事自非眞正見道人。難通懷抱。

欲知寒公意。先須見性識取心王主。作麽生是心王主。

粤自居寒山。曾經幾萬載。任運遯林泉。棲遲觀自在。寒巖人不到。白雲常靉靆。細草作臥褥。靑天爲被蓋。快活枕石頭。天地任變改。

懶瓚和尚歌曰。劫石可移動。箇中無改變。又曰。山雲當幕。夜月爲鉤。臥藤蘿下。塊石枕頭。見傳燈錄。

可重是寒山。白雲常自閑。猿啼暢道內。虎嘯出人間。獨步石可履。孤吟藤好攀。松風淸颯颯。鳥語聲喧喧。

喧喧和鳴也。

儂家暫下山。入到城隍裡。逢見一群女。端正容貌美。頭載蜀樣花。燕脂塗

界。見逆順塵緣時。悄惶戰栗如氷凌上驢。是辛苦。見佛祖言教時。處處盡與。自家所見矛盾。心裡不覺懊惱。是辛苦。其初見說破。見授與。見印定。見許可時。自謂大事成辦。天下既定矣。卻來回顧日用。如邯鄲枕上半熟尊貴堆珠玉於左右。槐安國裡暫時封侯族。臣妾於前後。點檢見來。無半錢賑濟。是辛苦。死猧癡地。是辛苦。半醉。是辛苦。枉過一生。被人呼稱默照相似阿師。是辛苦。蓋諺有之。曰。蛇出一寸。知其大小。人出一言。察其賢愚。禪門宗師者。非所以胡說亂破提人陷窠子裡者。只子細勘驗他見性眞僞。得力當否。親爲證據而已。其勘過間。且有言論往來。莫道話頭不足把。自非眞正一回見性底人。縱有鶖子智。有滿慈辯才。如狸奴見金。如鵓鴿對煎茶。夫金有眞僞。且假石以別之。玉有美惡。且假火辨之。水有淺深。且假杖以知之。悟有邪正。且假言以試之。是叢社

而釣佗人歸仰。是邪路。妄現殊勝境界。羅籠無眼學人。是邪路。授與實法。繫綴行人。是邪路。以多衆鬧熱。爲叢林盛事。是邪路。有衆無行。是邪路。有行無眼。是邪路。纔入門閫。以人淸繩索絆倒。不許向佗方參禪。是邪路。宋明末禪徒爲衆態。是邪路。與默照無事死法。使人一生作擬議不來底鈍漢。是邪路。說示賴耶藏識。爲佛祖不傳妙道。截斷衲子慧命。是邪路。行之枉辛苦。問行人錯修習如上僞似禪。見性之眞僞得力當否。蓋有之。闍不論。原夫古人者爲透過難透話頭。窮明難遭宗旨。三二十年誓精錬。可謂多辛苦。今時認口耳相似禪。學枯坐默照行。以爲易行道。爲安樂法門。何辛苦之有哉。曰。彼亦隨分貯相應辛苦。不入其保社。未可知。被眞正衲子輕輕撈著。時眼漆突。口遍擔。虫氣息亦不能放。是辛苦。在寂靜無事僻地裏。痛快快活。寔氣宇如王。縱出來觸差別境

不見天。低頭不見地。在千人萬人中不見有一人。一朝工夫成熟。疑團凝結。忽然而如頓放千仞高架上。打失棧子。似投入百尺鐵圈裡。不見寸繩。回顧心身。如飛蛾陷猛火坑。似片雪投紅爐焰。四面唯有一箇死而已。此道嶮崖撒手底時節。此時不懷恐怖。不爲退因。不生異念。不添方便。單單擧起本參話頭。急切參窮。必有落節底時節。掀飜從上廣大志願海。參透過此嶮處。是道鐵石心。作麼生是菩提道。咳唾掉臂。是菩提道。見性如見掌上。是菩提道。以佛祖不傳妙道。挂在心頭。是菩提道。磨法窟爪牙。提奪命神符。利濟方來衲子。是菩提道。張滿天金網子。撒滿地鐵蒺莉。拔出諸人釘楔。是菩提道。邪路不用行。作麼生是邪路。說自救亦不了底相似禪。妨碍學者悟門。是邪路。鑽腋挾翼。是邪路。嚼飯養嬰兒。是邪路。揠苗以充爲人。是邪路。以悟爲枝葉。是邪路。妄自尊大

一切話頭。使學者漫下語頌出。自亦代語去。別語去。以充佛法。是莽鹵。道我輩非其分。是莽鹵。聞他人久淸苦乍得少分相應。向背地裏譏刺。是莽鹵。道言句必不用會。不會底是參玄極則處。是莽鹵。道祖師故意吐齩不破模不著底言句。使學者妄困苦。是莽鹵。道一切言句不管其諦當不諦當。只臨機卒任彩去。是莽鹵。道會不會總不關。是宗旨。是莽鹵。道會不會總不管。是莽鹵。博學多聞人多是莽鹵。聰明利根人多是莽鹵。世智辨聰人必是莽鹵。機不離位。是莽鹵。棺木裏瞠眼。是莽鹵。死水裡被浸殺。是莽鹵。如一喝會去。又是莽鹵。如鐵橛會去。是莽鹵。勁挺鐵石心。直取菩提路。作麼生是鐵石心。譬於一切善惡境界。恰如鐵牛聽獅子吼。似石人見華鳥。得失是非總不管顧。見生死二字。如惡虎晝夜趕來。見一則話頭。如狹路逢惡寃家。如猫兒於鼠。如鷄母於卵。撞頭

佛祖難透話頭妄玩弄如謎言去以爲得力是莽鹵把難透話頭使學者情解一則了又情解一則恰如老鴟啄紫栗打一顆了又打一顆是莽鹵把千七百則玄旨束崑崙吞棗是莽鹵道話頭是第二義門事我既向大易未彰二儀未分以前坐何可疑言句之有是莽鹵道話頭是奴子婢子事我既今握心王印豈其涉者般鄙陋事哉是莽鹵道我今既到得佛祖未興以前地豈其疑佛祖語哉是莽鹵道一切語言文字皆是歸第一義強白情解是莽鹵道折角諸訛言句是古人賊手脚所施設不子細參窮是莽鹵道話頭是古人爲調伏學者假且所建立故謂之機關正眼看來不祥戈戟不足取是莽鹵道話頭是縛殺己靈葛藤總不顧是莽鹵佛祖愁儞不能見縛殺而還廻避是莽鹵不知話頭是碎情識窠臼之鐵杵截見刺毒樹之金劍漫以妄情安排是莽鹵把

親族捨親族。有田園捨田園。有爵祿捨爵祿。有冠蓋捨冠蓋。一切捨離了時。道此事一回不入地獄不能打發。須誓一回入地獄。道此事不一回趣餓鬼趣不能打發。須誓一回趣餓鬼趣。道此事不墮修羅界不能打發。須誓一回墮修羅界。叫喚衆合黑繩無間亦然。況其餘霜辛雪苦艱難凍餒饑寒辨道哉。是道男兒大丈夫眞箇參玄上士。作事莫莽鹵。作麼生是莽鹵。莽鹵者。擧措無情實也。所謂認得見聞覺知識神。道無所欠少。是莽鹵。認佗人相似說語來。爲自家見性大事。是莽鹵。學口耳禪。以爲得力處。是莽鹵。擔阿樓漆器。於處處衒賣。是莽鹵。默照邪禪。是莽鹵。舂濕穀喫飯。是莽鹵。未證謂證。是莽鹵。古人得罷休時且罷休。今人未得罷休時。强自罷休。是莽鹵。不求凝結疑團。三人五人聚頭取古人葛藤言句。妄判斷。是莽鹵。纔智解一言半句。把提爲見性。是莽鹵。把

敢輕有得。然今時往往說口耳相似禪授皮膚情解法。以胡亂首肯去爲俊。稱容易點頭歸爲賢。於此庸常懦弱儱繃。展怡悅眉阿諛輕薄贋徒。搖歡喜尾。師資互欺賓主交儱稱直示宗旨。爲向上家風。是故。需眞正見道士。半箇亦無。叢林乏人不亦宜哉。嗟吁道澆季魔擾日旣過乎。爲末運法滅數漸充乎。貞觀間禪苑秀茂日。寒公猶道男兒大丈夫作事莫莽鹵。若見今時爲可乎。謂不可乎。我聞縱雖有七尺八尺身財脅力超羣才能拔衆。不能了常住佛性之義。是非男子。不許稱丈夫。縱雖醜陋短小僮下部賤婢子。得了常住佛性之義。名之爲眞正男子究竟丈夫。是卽紫磨金口所說也。今言箇箇是大丈夫。舜何人。我何人。豈甘一生爲下劣賤人休去者哉。奮憤發傑烈大志。有不一回白汗流徹底打發去。死不退底氣概。爲大事了畢。難忍能忍。曠劫刻苦更不染跟。有

功果。終乍遂見性入理本素。初唱無上正覺。須知三世古今間。無不依禪定賢聖。無不見性佛祖。蓋雖有見性。無禪定力。如空華不結實。雖有禪定。無見性眼。似鬼守棺木。依禪定煥發見性正眼。依見性透徹禪定淵源。夫見性直下何佛不現。何道不成。何戒不持。何法不通。何行不具。何德不積。何願不滿。何人不度。是故四七二三賢聖傳此見性法。以報答深恩。大丈夫兒抛軀命宜進修者。此見性法門也。稱之名大事因緣。爲正法眼藏。圓頓具足諸佛心地金剛寶戒也。雖然象兎馬殊禪定有深淺。金鍮銅異見性多眞僞。百錬則麗金離鑛。重琢則崑玉增光。只有行人勤怠宗師賢愚而已。東魯彥聖且不言。人一能之。己百之。人十能之。己千之。况法界無上大寶心王不傳玉璽哉。豈容易哉。是故。達磨大師曰。諸佛無上妙道。曠劫難行。難行能行。難忍能忍。儞等憍心慢心爭

終可寄休島渚亦不得。果而爲風浪見觸破。或又如見放老狗日日竄數村人家徊終無所可依。或似盲驢任脚往。只恐依邪師提携。一生錯作相似禪徒去。邪正難辨。鹽投水中。眞僞誰分。膠占色裏。若人起辨道大志。先須求勝友投明師尋討參禪要路間又竊窺先佛遺言。探列祖往行。時時自觀察。如佗曲彔木牀上和尚縱雖千衆圍繞。說法如雨。證悟人如麻得力人似粟。其所說示。有與佛祖言敎大所乖違。急須遠離。若又雖一把茅底折脚鐺下破墮落魄底瞎禿老爺。見有眞正智見履踐佛祖行李。須拗折杖子三二十年親炙究竟。原夫三藏金文。收藏八萬四千種法財。八敎玉凾。示敎三界二十五含識。其中間竪擇橫擇追尋眞修要路。無勝乎禪定一路。無尊乎見性眞理。夫見性故爲羣生鬼畜。是故大覺調御有八千度來往。經歷五百塵劫。末後幾依六白端坐

男兒大丈夫。作事莫莽鹵。勁挺鐵石心。直取菩提路。邪路不用行。行之枉辛苦。不要求佛果。識取心王主。

孟子滕文公下篇曰。居天下之廣居。立天下之正位。行天下之大道。得志與民由之。不得志獨行其道。富貴不能淫。貧賤不能移。威武不能屈。此之謂大丈夫。莊子則陽篇曰。昔予爲禾耕而鹵莽之。則其實亦鹵莽。而報予芸而滅裂之。其實亦滅裂而報予。陸方壺註曰。鹵莽。土塊大而草根盡也。滅裂。滅善類而地膚折也。

○評曰。大凡一切行人。未上初發心地日。譬如人立十字街頭。以可西可東。只要自家子細點檢。以可進修。蓋差路萬途。派有六度有萬行。巽見紛然。而寔如亂絲頭緒多。學者往往。如扁舟一葉在萬里霧海不能辨西東。空隨渺茫煙波。昨西今東。或南或北。徒日日聽櫓聲軋軋而已。

淺深得力眞僞如何須古人難透話頭一一點檢如眞正透得有力人。必無一點疑惑。所以言。金以石試。玉以火試。人以言試。作麼生是試底言。咄咄咄三界輪回。

余家有一窟。窟中無一物。淸潔空堂堂。光華明日日。蔬食養微軀。布裘遮幻質。任你千聖現。我有天眞佛。

○評曰。大哉天眞佛。纔出頭則枯竭生死幻海。驚覺生佛大夢。所悲往往認見聞覺知底識神提湛寂默照暗窟爲自己屋裡天眞佛。古長沙岑大蟲呵此輩曰。無量劫來生死本。癡人認爲本來人。大可恐。若眞正欲知自性天眞佛底端的明覺大師曰。見聞覺知非一一。山河不在鏡中看。此語見得分明如見掌上。許汝親見得天眞佛。若又錯作昆崙凡解了。作陀羅尼情卜去。如一喝會去底。總是葛藤窟裡癡人。

肝膽。是則祖庭孤危眞風也。澆季末代弊衰。往往有具正信底上士。潛窮密參。進修功積。純工力充。則情念漸止。伎倆既窮。如入金剛圈。如坐瑠璃瓶。進不得退不得。癡癡呆呆。和參究底心。一時打失。氣息亦將絕。特不知。是龜紋將爆底時節。鸞殼將脫底時節。佛法將得人底好消息。可惜。大好善知識乍起婦仁之心。慈婆禪之情。終提撕教喩說種種道理。推智解之窠臼。拽情量窟宅。還以冬瓜印子一印印定曰。汝亦如是。我亦如是。能護持矣。嗟其護持。任汝護持。如何命根不斷祖庭猶隔天涯。是甚如愛之。其實讎之。寔可笑。學人不知毒。祗許多狐涎。搖尾歡喜。掉頭踊躍。終成一生半醒半醉底道人。佛手亦不能醫佗矣。縱雖巫祝匠冶師資。不可瘥瘷漏逗。可惜。捉有棟梁質具神俊才者。終一生爲擬議不來底鈍漢。禪門之衰弊。叢社之荒凉。一依之。若人欲辨自家證悟

受。雖甚信受。如何不能透骨徹髓眞正無疑惑。恰如夢中喫酸油糍。喫酸則甚喫酸。雖甚喫酸。如何不能補胃養腸眞正免飢餒。信受兩字。大難大難。夫佛法大海以信爲能入。蓋信也者無疑惑之義也。生從何處來。未知去處。非無疑惑底人。菴內人因什麼不知菴外事。是說甚麼道理。若擬議不來。非無疑惑底人。詩中所謂獨一無伴侶。非指直心見性無上菩提道哉。既是信受佛祖不傳底心。豈不了知佛祖語路。只要一回白汗流。親冷暖自知。是謂破家散宅底時節。此時佛祖打失佛祖。衆生打失衆生。歸來把佛祖難透話頭一一看。如在萬里異鄉見妻子面。而後自利利佗譬如老龍領一滴硯水蘇活萬里枯荒。譬似鵜鳥落一片毛羽毒殺一江魚鼈。是爲眞正信受人。所以如欒橋大潙象骨眞淨諸老。終不作爲人鑽腋出羽底醜態。問則學者喪亡心魂。答則波旬驚落

擧頭。公曰。何不言拽而非拽。牛墮涙號咷而逝。文殊曰。龍蛇混雜。凡聖同居。見五燈會元無著文喜禪師章。法華方便品曰。止止不須說。我法妙難思。諸增上慢者。聞必不敬信。

身著空花衣。足躡龜毛履。手把兎角弓。擬射無明鬼。

○此詩。述寒山子自受用活三昧。

可貴天然物。獨一無伴侶。覓他不可見。出入無門戶。促之在方寸。延之一切處。儞若不信受。相逢不相遇。

波羅提偈曰。徧現。但該沙界。收攝在一微塵。識者。知是佛性。不識喚作精魂。梁武帝撰達磨碑文曰。嗟乎見之不見。逢之不遇。今之古之。悔之恨之。

○評曰。信受有二種。有依文字勝相。依師友提撕信受者。信受。則甚信

法苑珠林七十一曰。唐汾州孝義縣人路伯達。至永徽年中。負同縣人錢一千文。後乃違契拒諱。及執契作徵。遂共錢主。於佛前爲信誓曰。若我未還公。願吾死後。與公家作牛畜。言訖。未逾一年而死。至二歳時。向錢主家牸牛產一赤犢子。額上生白毛。爲路伯達三字。其子姪等恥之。將錢五千文。求贖。主不肯與。乃施與隰城縣啓福寺僧眞如。助造十五級浮圖。人有見者。發心止惡。競投錢物布施。嘍囉。上郎侯切。下良何切。方言猶黠慧也。靜齊季士曰。聰明不能敵業。富貴豈免輪回。羅漢門前乞趁卻閑和尙者。如前四十二首引智度論故事。䞋。釋氏要覽中食篇曰。梵語達䞋拏。此云財施。今略達拏。但云䞋。雲光好法師林泉虛堂集第八十六則評曰。雲光法師坦率自怡。不事戒律。誌公謂。出家何爲。光云。吾不齋而齋。食而不食。後招報作牛。拽車於泥中。誌公召曰。雲光。牛

○評曰。斑猫兒。謂寒公五百劫來四誓二利願行不退堅固心也。此心勇健推伏思念情量衆魔。恰如猫兒於偸鼠飛蟲類。蠢爾目前物皆盡被呑噉。今言貧困窮餓。寔如把一切病惱疾攢上一身。無從上堅固道情似彼斑猫兒。必爲妄想偸鼠被偸卻菩提資粮也。

我見世間人。堂堂好儀相。不報父母恩。方寸底模樣。欠負他人錢。蹄穿始惆悵。箇箇惜妻兒。爺孃不供養。兄弟似冤家。心中常悵怏。憶昔少年時。求神願成長。今爲不孝子。世間多此樣。買肉自家噇。抹觜道我暢。自逞說嘍囉。聰明無益當。牛頭努目瞋。出去始時晩。擇佛燒好香。揀僧歸供養。羅漢門前乞。趁卻閑和尚。不悟無爲人。從來無相狀。封疏請名僧。嚫錢兩三樣。雲光好法師。安角在頭上。汝無平等心。聖賢俱不降。凡聖皆混然。勸君休取相。我法妙難思。天龍盡迴向。

智慧劍₂破煩惱賊₁。

有₃人畏₂白首₁不₃肯捨₂朱紱₁采₂藥空求₁仙。根苗亂挑掘。數年無₂効驗₁。擬意嗔怫鬱。獵師披₂袈裟₁。元非₂汝使₁物。

紱音拂。印組也。朱紱朱裳也。易困九二。朱紱方來。文選古詩曰。服食求₂神仙₁。多爲₂藥所₁誤。涅槃經七日。譬如₂獵師身服₁法衣。

昔時可可貧。今朝最貧凍。作事不₂諧和₁。觸途成₂倥偬₁。行泥屢脚屈。坐社頻腹痛。失₂卻斑猫兒₁。老鼠圍₂飯瓮₁。

貧凍。傳燈錄仰山章曰。仰山問₂香嚴₁。師弟近日見處如何。嚴曰。某甲卒說不₂得。乃有₂偈曰。去年貧未₁是貧。今年貧始是貧。去年貧無₂卓錐之地₁。今年貧錐也無。坐社。社禮祭法爲₂群姓₁立₂社曰₁大社。韻會社字註。二十五家爲₂一社₁。而民或五家十家共爲₂田社₁。是私社也。

○評曰。此詩寒公自言也。言寒公家山一株無影樹也。林者。衆生生死稠林也。計年逾一倍者。此樹先生死。先涅槃生。是故實無知其始者。今計年逾一倍者。一者。絕對之一。非一之一。而超出算數表。是故言。逾一陪。根遭陵谷變者。寒公初見理入道日。十方虛空同時消殞。是時和本根驀地打失了。此言陵谷變。葉被風霜改者。其後三大劫來歷精錬眞修霜辛雪苦。煩惱枝葉智見華果盡枯竭了也。今既本色山形拄杖子全不加外粉飾。是故言。皮膚脫落盡。唯有眞實在。

寒山有躶蟲。身白而頭黑。手把兩卷書。一道將一德。住不安釜竈。行不齎衣裓。常持智慧劍。擬破煩惱賊。

躶蟲事。具於前百十三首。老子翼註曰。玄宗既註老子。始改定章句。爲道德經。凡言道者。類之上卷。言德者。類之下卷。維摩經菩薩行品曰。以

鮮。甚虛靈。雖然迷中不得登臨。髑髏那畔識盡詞窮。理還窮時。忽然而覺得佛界魔界淨刹穢土透漢徹泉純晴絕點鎖寥廓。此時初知自威音已前親住居此山。呵呵。

有樹先林生。計年逾一倍。根遭陵谷變。葉被風霜改。咸笑外凋零。不憐內紋綵。皮膚脫落盡。唯有眞實在。

涅槃經三十五曰。富樓那言。欲說一喩。唯願聽採。佛言。善哉善哉。隨意說之。世尊如大林外有娑羅林。中有一樹。先林而生。足一百年。是時林主灌之以水。隨時修治。其樹陳朽。皮膚枝葉悉皆脫落。唯眞實在。如來亦爾。所有陳故悉已除盡。唯有一切眞實法在。詩十月之交篇曰。高岸爲谷。深谷爲陵。五燈會元藥山章曰。馬祖問。子近日見處作麼生。藥山曰。皮膚脫落盡。唯有一眞實。

此篇目頌示其成者張伯松。伯松曰。是懸諸日月。不刊之書也。又曰。此言書傳之後世如如日月懸於天永不朽也。

寒山多幽奇。登者皆恒懾。月照水澄澄。風吹草獵獵。凋梅雪作花。杌木雲充葉。觸雨轉鮮靈。非晴不可涉。

獵獵風聲也。杌五忽切。木無枝也。

○評曰。寒山多幽奇。登者皆恒懾。作麼生是寒山幽奇處。頭上無方寸虛空。脚下無一撮土。虛空消殞鐵船摧。蓋覆無天地。照臨無日月。火失熱。水失冷。柳失綠。花失紅。非只是鬼神潛迹。佛祖亦乞命。是道納僧本分家山。卽今在何處。切忌向外尋覓。月照水澄澄。風吹草獵獵。凋梅雪作花。杌木雲充葉。歲暮雪昏昏。窻明鴉噪噪。直下更無地囘避。或時鐵樹抽枝。或時石樹開花。正與麼時。生死流轉迷雲沈沒。業海踈雨甚新

十五幷涅槃經二十五。永嘉證道歌曰。師子吼無畏説。百獸聞之皆腦裂

○評曰。獼猴心者。謂憎愛取捨生滅妄心也。此心不休罷故。永不能入道。常歷二十五有苦輪。恰如獼猴貪求果實攀緣諸樹。無片時安閑。欲休罷此心。須聞大師子吼。若得聞獅子吼。如彼狸狢野干部屬頭腦乍華裂和性命一時打失。情量窠窟煩惱本根。直下滅盡。是謂伏獼猴心底時節。如何是獅子吼。僧問趙州。萬法歸一。一何處歸。我在青州作一領布衫。重七斤。

教汝數般事。思量知我賢。極貧忍賣屋。纔富須買田。空腹不得走。枕頭須莫眠。此言則衆見。挂在日東邊。

文選任彦升齊竟陵文宣王行狀曰。懸諸日月。註曰。楊雄方言曰。雄以

諭詖。不平言。又姦言也。嵽嵲。彙。山高貌。嵽徒結切。嵲魚列切。杜工部詩。
御榻在嵽嵲。瀧凍沾漬貌。

是我有錢日。恒爲汝貸將。汝今既飽暖。見我不分張。須憶汝欲得。似我今
承望。有無更代事。勸汝熟思量。

貸。彙。借也施也。將。彙。師古云。將有其意。又送。

人生一百年。佛說十二部。慈悲如野鹿。瞋忿似家狗。家狗趁不去。野鹿常
好走。欲伏獼猴心。須聽師子吼。

十二部經詳于涅槃經十四幷三藏法數。家狗。涅槃經十四曰。又如家
犬不畏於人。山林野鹿見人怖走。瞋恚難去如守家狗。慈心易失如彼
野鹿。獼猴。同二十七曰。衆生心性猶若獼猴。獼猴之性捨一取一。衆生
心性亦復如是取著色聲香味觸法。無暫住時。師子吼詳于智度論二

劉伯倫酒德頌曰。俯觀萬物擾擾焉。如江漢之浮萍。詩伯兮篇曰。首如飛蓬。月令。賜貧窮。註。疏無親曰窮。又吳氏云。長無謂之貧窮。暫無謂之乏絕。

佗賢君即受。不賢君莫與。君賢佗見容。不賢佗亦拒。嘉善矜不能。仁徒方得所。勸逐子張言。拋卻卜商語。

論語子張篇曰。子夏之門人問交於子張。子張曰。子夏云。何。對曰。可者與之。其不可者拒之。子張曰。異乎吾所聞。君子尊賢而容衆。嘉善而矜不能。我之大賢與。於人何所不容。我之不賢與。人將拒我。如之何其拒人也。卜商。家語七十二弟子解篇曰。卜商字子夏。

俗薄眞成薄。人心箇不同。殷翁笑柳老。柳老笑殷翁。何故兩相笑。俱行諂詐中。裝車競嵽嵲。翻被各澌凍。

有樂且須樂。時哉不可失。雖云一百年。豈滿三萬日。寄世是須臾。論錢莫啾唧。孝經末後章。委曲陳情畢。

尙書泰誓篇曰。時哉弗可失。百年三萬日。李白襄陽歌曰。百年三萬六千日。一日須傾三百盃。孝經終章曰。服美不安。聞樂不樂。食旨不甘。此哀戚之情。

獨坐常忽忽。情懷何悠悠。山腰雲漫漫。谷口風颼颼。猿來樹嫋嫋。鳥入林啾啾。時催鬢颯颯。歲盡老惆惆。

古詩曰。春花落處恨忽忽。卓氏藻林曰。忽忽不安貌。文選謝玄暉敬亭山詩曰。渫雲已漫漫。注曰。漫漫雲布貌。

一人好頭肚。六藝盡皆通。南見驅歸北。西逢趁向東。長漂如汎萍。不息似蜚蓬。問是何等色。姓貧名曰窮。

尋酒家公然而啐是彼緣歌啐者也今我日域立門外有鷽歌謠者有鷽經咒者有鷽佛名者鷽華毬鷽竹枝是皆慕寒公古風者乎。

我行經古墳涙盡嗟存沒塚破壓黃腸棺穿露白骨。欹斜有瓮瓶振撥無簪笏風至攪其中。灰塵亂埣埣。

黃腸後漢書梁商傳曰梁商薨賜以銀鏤黃腸。註曰。以柏木黃心爲槨。曰黃腸也。

夕陽下西山草木光曄曄。復有朦朧處松蘿相連接。此中多伏虎見我奮迅鬣。手中無寸刃爭不懼懾懾。

出身既擾擾世事非一狀。未能捨流俗所以相追訪昨弔徐五死。今送劉三葬。日日不得閑爲此心悽愴。

徐劉事出于文選魏文帝與吳質書。

○評曰。寒餓禪者曰。寒公舊布衫。縱雖不動不舞。其破壞穿裂不言可知。至道酒盡緣歌啐。大可怪。顧其如豪家富人居貴介公子室。有貴賓高客。時設美酒。列佳肴。賓主獻酬。到半酣。令皓齒歌。令明眸絃。賞之爲肴核。如寒公。無提榼攜壺來訪底親友。無敷筵設席招請底良朋。非命脉既在拾公竹筒裡者哉。何有燕會張絃歌底榮耀哉。既是酒盡有歌。何啐。既是緣歌啐。不可言酒盡。既是酒盡。不可言緣歌啐。是亦大可怪。饑凍上座曰。此語自非寒公潑家風親徹見者。不可輙解。所謂酒盡者。非道有樽榼壺甕所貯酒盡。寒公腸胃間。酒氣久不通。則渴頻鳴。此道酒盡底時節。於此行到市上。跨佗門闥。里歌村歌放野聲長嘯。是効彼韓娥行齊鬻歌技者也。張垢喉傾飢腸。轉不與轉歌。鷄犬駭吠。幼孩恐走。梁塵飛迴。器皿震落。於此主家皺眉擲著一錢走入。家家皆然。而後

人笑。喫佗盃羹者。何太冷心腹。

歷代小志曰。文翁姓文名黨字仲翁。景帝時爲蜀郡大守。

下愚讀我詩。不解却嗤誚。中庸讀我詩。思量云甚要。上賢讀我詩。把著滿面笑。楊脩見幼婦。一覽便知妙。

老子曰。上士聞道。勤而行之。中士聞道。若存若亡。下士聞道大笑之語林曰。楊脩與曹操。至江南。讀曹娥碑。碑背題有八字曰。黃絹幼婦。外孫齏臼。操不解問脩。脩曰。知之。操曰。卿勿言。待孤思之。行三十里。令脩解曰。黃絹爲色絲。絕字也。幼婦爲少女。妙字也。

自有慳惜人。我非慳惜輩。衣單爲舞穿。酒盡緣歌啐。當取一腹飽。莫令兩脚儽。蓬蒿鑽髑髏。此日君應悔。

鑽髑髏。莊子至樂篇曰。列子行食於道。從見百歲髑髏。攓蓬而指之。

人以身爲本。本以心爲柄。本在心莫邪。心邪喪本命。未能免此殃。何言懶照鏡。不念金剛經。却命菩薩病。

照鏡。涅槃經三十四卷迦葉品。善男子是經卽是毀戒衆生之明鏡也。如世間鏡見諸色像。

○評曰。根未熟菩薩。眞修功不積。禪定力不全。則直心道場不能堅剛。道場不堅剛。則動損害法身慧命。初心菩薩常以失慧命爲憂惱。以損法身爲禍殃。若知未能免此禍殃。須時時古鏡照眞。古鏡照眞者。謂讀誦了義諸大乘經及金剛般若一四句偈等也。蓋了義大乘及金剛般若者。畢竟謂自己本有眞性。行人若向自己眞性反照。則一切生死禍殃頓滅盡。所以。達磨大師曰。欲學佛道。先須見性。

城北仲家翁。渠家多酒肉。仲翁婦死時。弔客滿堂屋。仲翁自身亡。能無一

董郎年少時。出入帝京裡。衫作嫩鵝黃。容儀畫相似。常騎踏雪馬。拂拂紅塵起。觀者滿路傍。箇是誰家子。

董郎前漢書佞幸傳曰。董賢字聖卿。爲人美麗自喜。哀帝望見說其儀貌。賢寵愛日甚。出則參乘。入御左右。常與上臥起。嘗晝寢。偏籍上褏。上欲起。賢未覺。不欲動賢。迺斷褏而起。其恩愛至此。踏雪馬海錄碎事馬驢門曰。踏雪馬。四蹄皆白也。古樂府曰。黃金絡馬頭。觀者滿道旁。見事文類聚別集二十九。拂拂。颯貪。塵起貌。誰家子。曹子建樂府詩曰。白馬飾金羈。連翩西北馳。借問誰家子。幽幷遊俠兒。見文選。

箇是誰家子。爲人大被憎。癡心常憤憤。肉眼醉瞢瞢。見佛不禮佛。逢僧不施僧。唯知打大臠。除此百無能。

瞢瞢目不明貌。臠。欒切。肉塊也。

外歸。卻有所得麼。僧曰、和尚不知。如某甲親參決數員善知識。透徹二祖安心法門。全無疑惑。困睡飢飡。痛快活哉。大安樂大解脫。火暖水冷。何有所求。雖如師評唱語錄玩弄詩偈。我總不得。是復固吾所不取。師曰。作麼生是二祖安心法。僧曰。求心不可得。師曰。背手而搔佛面。儞非無。屈左臂觸狗頭。何日免得。僧茫然。師曰。五祖和尚曰。牛過窗櫺。頭角四蹄都過了。尾巴因甚麼過不得。是說甚麼道理。僧又茫然。師曰、汝向道。火暖水冷。古人云、柳不翠花不紅、聻。僧又茫然。師曰。澆末濁亂日、掠虛不實癡人。如麻似粟。汝恁麼而痛快活哉。大解脫大安樂哉。欺誑無智賤人卽得。恐佗後大有事在。其僧面色如土、目瞠口結。雖手上一碗茶冷卻欲結氷。頭亦動不得。恰如溝中萬解船。師卽指語傍人曰。是彼寒公所謂子細推尋著、茫然一場愁、

不求子細推尋著茫然一場愁。

○評曰。有一般無智頑陋底癡人認得心源湛寂不動不搖底黑暗塹坑來終世死守。悠悠而過日。恰似一塊木頭。木頭者木偶人也。言深山古廟裡無轉智大王類也。而後公然自言。我舊於何某導師所信受此大事。備來大安樂大解脫。寔無半點憂愁。只以一切總不管爲心要。所以言。無事是貴人。佛是無事人也。見撥草參玄霜辛雪苦底眞正衲子。微微譏刺曰。彼是見惡知識欺誑底狂見解邪黨也。汝輩莫入此保社。只日日喝茶喫飯總恁麼去。大事了畢而已。見其對徒弟所教諭。暗鈍寡陋。只是一箇剃頭下賤頑凡也。佛亦不知。法亦不會。全是自救亦不了底迷人。寔茫茫一場愁乎。

師元文辛酉春在甲富春日。有一僧來謁。言。九國僧。師曰。聞久遊歷關

毒川難可飮。呑者立癲狂故也。問。魂歸去來食我家園葚。如何得歸去來。家園葚子如何得喫著。曰。吾子若欲免如上禍患。先須見性。見性如見掌上。捨去一句參難透話頭。纔透過得。見眞正導師。十年五載親炙究竟而後採摘寒公家園葚子。來任手行大法施。自利利佗能事了畢。寔非眞正佛子哉。呵呵。

昨夜夢還家。見婦機中織。駐梭如有思。擎梭似無力。呼之迴面視。怳復不相識。應是別多年。鬢毛非舊色。

人生不滿百。常懷千載憂。自身病始可。又爲子孫愁。下視禾根下。上看桑樹頭。秤鎚落東海。到底始知休。

不滿百。文選古詩曰。生年不滿百。常懷千歲憂。

世有一等流。悠悠似木頭。出語無知解。云我百不憂。問道道不會。問佛佛

儀淡薄枯槁。或此謂二乘聲聞部族。是則北方強也。長者無禪窮子居之也。其敗棄道種。壞滅善芽。恰如三冬風霜戕賊萬物。凍損百卉。急須遠離。有一人。認得見聞覺知底虛妄識神。來認賊爲子。背地裏強抗曰。佛祖亦見柳則翠。見花則紅。我亦見鴉則黑。見鷺則白。佛祖火暖水寒。我亦呼驢不爲馬。快活脫灑。脫灑自在。有什麼所欠少。尋佛覓祖。是則荒陬強也。而來謚謂謚憍慢不羈狂者居之。祖關不透。棘林猶深。稱之爲佛法中夷狄。寔可惡矣。有一人。一朝年頭墮寂滅無相平等不生見泥獄曰。也太奇也太奇。上不見諸佛。下不見衆生。大地山河全無纖塵。言我是大徹了事衲僧。不參知識。不屈朋友。見辦道實參底衲子。抱腹大笑。逢德行修善者。喬切齒罵辱。是則彼毒川強也。而偏見無智賤人。居之。如何夢曾不知有難透向上宗旨。祖庭遙隔。天涯寔可笑。所以道。

風流藴藉。李杜王許謝元駱賈諸家窮衆體吐衆妙。豈特寒公云哉。我總不見所以可貴。搔首。饑凍上座曰。美玉在此。雖含祥光。師曠終日把玩全不視。偏是非和氏之厲王耶。寒公此詩。恰如如意寶含畜衆光。且聽我叩叩。之子何惶惶。卜居須自審者。之子指一切學道人也。惶惶粂。胡光切。惑也。倉惶貌也。言大凡辦道士。恐惶疑惑。心火熠熠。至死不能休罷。爲不逢明師鉗鎚。不徹自心淵源。認得信受佗相似底禪來以爲得。故到死有此災厄。譬有一人。廣窮經論。徧探諸史。積多智多解。以欲得菩提。是南方强也。而一聰明凡夫居之。理智傷害眞性。多聞困倦自心。恰如南方瘴癘氣煩悶心肺浸害皮肉。急須抛捨。有一人認得八識頼耶無智暗窟。爲眞正菩提寶處。徒日日寂默而以一切總不管爲眞修。在道場不能現威儀。以動用爲魔境。不知佛國土高妙。不學菩薩威

之子何惶惶。卜居須自審。南方瘴癘多。北地風霜甚。荒陬不可居。毒川難可飲。魂兮歸去來。食我家園葚。

詩桃夭篇曰。之子于歸。註曰。之子是子也。瘴癘。後漢書公孫瓚傳曰。日南多瘴氣。魂兮。楚辭宋玉招魂篇曰。魂兮歸來。北方不可以止些。增冰峨峨飛雪千里些。歸來歸來不可以久些。家園葚。詩氓篇曰。桑之未落。其葉沃若。于嗟鳩兮。無食桑葚。

○評曰。寒餓禪者曰。或曰。此詩宋玉招魂體哉。有多少情思。寒公大才寔可貴。子竊謂雖大才可貴。總不見所以利我。大凡一切衆生至命終中有日。各隨其作業。分離苦趣。如飈風捲。馳散惡處。似石火疾。有何暇應寒公招。得食彼家園葚。是恰似欲招飛禽與粟。擬呼走獸授飯者。然則非是無義荒唐詞而無所把者哉。古人云。言不利人。不如無言。若稱

三明六通八音四辨隨機應現。任手受用。度三界衆無乏。經八大劫無盡。謂之積數無窮已。直是功同金仙氏。德等阿逸多。是故言。寄語陶朱公。富與君相似。

閑自訪高僧。烟山萬萬層。師親指歸路。月挂一輪燈。

閑遊華頂上。日朗晝光輝。四顧晴空裡。白雲同鶴飛。

世有多事人。廣學諸知見。不識本眞性。與道轉懸遠。若能明實相。豈用陳虛願。一念了用心。開佛之知見。

用字恐明字乎。所謂淸淨明之心開佛知見。詳于法華方便品。

寒山有一宅。宅中無闌隔。六門左右通。堂中見天碧。房房虛索索。東壁打西壁。其中一物無。免被人來借。寒到燒輭火。飢來煮菜喫。不學田舍翁。廣置牛莊宅。盡作地獄業。一入何曾極。好好善思量。思量知軌則。

○評曰。寒餓禪者聽受此詩。了憤然不悅曰。寒公常訶人狂走財利。惡視如惡臭。今復假教喩世利下賤捷徑何哉。大凡一切賢聖乘願輪來。纔出頭。則以下化衆生爲本志。所以設諸善巧種種言教。只患彼出離晚而已。今若隨寒公作醜拙鄙陋態。當同猗頓財齊陶朱去。依舊暗鈍昏愚。賤人增長多少生死重罪。永沈沒阿毘泥犁源底。塵劫亦無出期。此道菩薩利生敎化可乎。雖在家塵累士庶。不出者般醜陋無義之語。大可怪。饑凍上座曰。佳哉吾子不隨語輕作解。寒公此詩大有譬喩。丈夫莫守困者。言箇箇總是具有如來智慧德相底大丈夫兒。豈空癡守貧困。作長者無褌窮子。受永劫不如意者哉。須養一牸牛者。牸牛。自己本具自性也。因者。此言水牯牛。果者言之露地白牛。若人親辨得親養得。則五根五力次第成辨。終證五智最後妙果。是謂生得五犢子。於此

瘢痕。今非言鑽皮與洗垢二物。只毛羽者取恩顧之義而已。言此人必賢達高明士。逢聖德至善君。飽受盡寵遇恩榮。歸來遁居鄉里。養衰晚者歟。

丈夫莫守困。無錢須經紀。養得一牸牛。生得五犢子。犢子又生兒。積數無窮已。寄語陶朱公。富與君相似。

經紀。輟畊錄十九曰。今人以善能營生者爲經紀。韓昌黎作柳子厚墓誌云。舅弟盧遵又將經紀其家。則自唐已有此言。一牸牛。史記猗頓傳註。引孔叢子曰。頓。魯之窮士也。耕則常飢。桑則常寒。聞朱公富。往而問術焉。朱公告之曰。子欲速富。當畜五牸。於是乃適西河。大畜牛羊于猗氏之南。十年之間其息不可計。貲擬王公。馳名天下。以興富於猗氏。故曰猗頓。

昨日何悠悠。場中可憐許。上爲桃李徑。下作蘭蓀渚。復有綺維人。舍中翠毛羽。相逢欲相喚。脈脈不能語。

桃李徑。前漢書李廣傳贊曰。李將軍恂恂如鄙人。口不能出辭。及死之日。天下知與不知。皆爲流涕。彼其中心誠信於士大夫也。諺曰。桃李不言。下自成蹊。註曰。蹊謂徑道也。言桃李以其華實之故。非有所召呼。而人爭歸趣。來往不絕。蘭蓀渚。文選傅長虞贈何邵三濟詩曰。吾兄旣鳳翔。王子亦龍飛。雙鸞游蘭渚。二離揚清暉。註曰。蘭渚。比中書雀。脈脈。文選古詩曰。河漢清且淺。相去復幾許。盈盈一水間。脈脈不得語。注曰。脈。莫白切。五臣作脈脈。又曰。脈脈相視貌。

○評曰。此詩風水閑雅。宝家高貴人物蘊藉摸寫得如一片妙畫。舍中翠毛羽者。後漢書趙壹傳曰。所好則鑽皮出其毛羽。所惡則洗垢求其

彌高。其和彌寡。

老翁娶二少婦一。髮白婦不レ耐。老婆嫁二少夫一。面黃夫不レ耐。老翁娶二老婆一。一一無二棄背一。少婦嫁二少夫一。兩兩相憐態。

晏子辭二宅婚一篇曰。景公有二愛女一。請レ嫁二晏子一。晏子辭曰。我得二少婦一我老彌可二以倍一。不レ受矣。

雍容美少年。博覽二諸經史一。盡號曰二先生一。皆稱爲二學士一。未レ能レ得二官職一。不レ解レ秉二耒耜一。冬披二破布衫一。蓋是書誤レ己。

史記司馬相如傳曰。雍容閑雅甚都。

鳥語情不レ堪。其時臥二草菴一。櫻桃紅爍爍。楊柳正毿毿。旭日銜二青嶂一。晴雲洗二綠潭一。誰知出二塵俗一。馭上二寒山南一。

馭。韻會御。古作レ馭。進也。

大有好笑事。略陳三五箇。張公富奢華。孟子貧轗軻。祇取侏儒飽。不憐方朔饑。巴歌唱者多。白雪無人和。

張公。史記貨殖傳曰。賣漿小業也。而張氏千萬。又前漢書貨殖傳曰。張氏以賣漿而踰侈。轗軻。字彙。轗字註曰。轗軻。車行不利。故人不得志。謂之轗軻。又曰。按史記。孟子名軻字子輿。是取軻軸之義。當从平聲。廣韻箇韻內注云。孟子居貧轗軻。故名軻字子輿。則文當音去聲。侏儒。前漢書東方朔傳曰。侏儒長三尺餘。奉一囊粟錢二百四十。臣朔長九尺餘。亦奉一囊粟錢二百四十。侏儒飽欲死。臣朔飢欲死。巴歌白雪。文選宋玉對楚王問曰。客有歌於郢中者。其始曰下里巴人。國中屬而和者數千人。其爲陽阿薤露。國中屬而和者數百人。其爲陽春白雪。國中屬和者數十人。引商刻羽。雜以流徵。國中屬而和者不過數人而已。是其曲

於子也。子之於父母也。此之謂骨肉之親。招賢閣。戰國策燕昭王篇曰。燕昭王卽位。卑身厚幣以招賢者。朱雀。天台四敎儀集解下卷曰。帝王南門名爲朱雀。門外百姓往還無碍。

我見一癡漢。仍居三兩婦。養得八九兒。總是隨宜手。丁防是新差。資財非舊有。黃蘗作驢鞦。始知苦在後。

仍。時往切。音成。重也。頻也。丁防。左傳襄公二十五年曰。町原防。注曰。廣平曰原。防隄也。隄防間地。不得方正如井田。別爲小頃町。由是考之丁字疑町乎。差。初佳切。貳也。貳副益也。

新穀尙未熟。舊穀今已無。就貸二斗許。門外立踟蹰。夫出敎問婦。婦出敎問夫。慳惜不救乏。財多爲累愚。

前漢書疏廣傳曰。賢而多財。則損其志。愚而多財。則益其過。

家語六本篇曰孔子見羅雀者所得皆黃口小雀夫子問之曰大雀獨不得何也羅者曰大雀善驚而難得黃口貪食而易得黃口從大雀則不得大雀從黃口亦不得孔子顧謂弟子曰善驚以遠害利食而忘患自其心矣而獨以所從爲禍福故君子愼其所從以長者之慮則有全身之階隨小者之戇而有危亡之敗也戇桀直降切音撞愚也端似箭

論語衛靈公篇曰子曰直哉史魚邦有道如矢邦無道如矢又維摩經曰直心道場端心靜坐後漢書五行志一曰順帝之末京都童謠曰直如絃死道邊曲如鉤反封侯

富貴踈親聚祇爲多錢米貧賤骨肉離非關少兄弟急須歸去來招賢閣未啓浪行朱雀街踏破皮鞋底

文選曹顏遠感舊詩曰富貴他人合貧賤親戚離呂氏春秋曰父母之

以救寒暑而已。是天錫我於良佐者歟。將又所以宿福令然乎。寵遇轉加。誰知。彼愛敬。意元出慳吝。大凡以利附合者。以利必離。夫既衰邁困倦。目眇臂澁。從前敏黠次第用不能。寵賞亦隨衰。終見推下竈下。剩放荒山頭。於此雖吞涙恨哭嚼臍愁悔。終無及。是所謂亡羊補牢者乎。向所謂到卷中最上秘訣。我亦不能了知。待可畏之寒士。

浪造凌霄閣。虛登百尺樓。養生仍夭命。誘讀詎封侯。不用從黄口。何須厭白頭。未能端似箭。且莫曲如鉤。

排韶。魏明帝立凌雲觀。誤先釘榜。以籠盛韋中將書扁。轆轤引之。去地二十五丈既下。鬚髮白。唐貞觀中。太宗嘗畫功臣李靖等二十四人於凌烟閣。見釋氏稽古略。前漢書夏侯勝傳曰。勝常謂諸生曰。士病不明經術。苟明。其取青紫如俛拾地芥耳。學經不明。不如歸耕。此誘讀事也。

亦大錯會了也。是寒公語言三昧中把諸史百子六經四書及佛經祖書中未嘗說及底鄙賤最下擬淺、分明頌出。誠卷中最上秘訣也。顧夫非自賊軍隊裡來、不察賊兒奇計。非自鄙賤中出、不見鄙賤所志。古今碩德明師不點檢得出。寔宜也。嘗茲有一夫。性敏點而多能鄙事。常食客一豪家。補紙障、綴破器。或漆布、或泥壁。羹和菜調。里歌村舞。隨其所使令。如伸猿臂搔痒處。每事篩情實。富家甚愛之。同器食、交衣著。夫竊心謂彼今寵遇如是。縱我異日衰邁老疲、他豈捨我哉。與育養好兒十箇、不如得心於一豪家。是寔謂廁上窺鼠乍入廩庾乎。將又爲涸轍枯魚俄領江湖乎。嗚呼天錫我於晩暮備者乎。夙起夜寢。待命於豪家。豪家亦心竊謂。大凡于工于匠率類彼者傭作數日算決傭賃與許多錢財。如彼則不然。縱歷多少歲時、只二時家常而足。其餘稀投舊葛古裘

接相公。淩晨淨室以待。至晩見一窮措大著黃道服。乃無盡也。引困學紀聞卷十九曰。俗語皆有所本。措大出五代東漢世家。靑蚨。書言故事金寶類曰。常稱錢曰靑蚨。搜神記曰。靑蚨似蟬而稍大。生子艸間。如蠶。取其子。母卽飛來。以母血塗錢八十一文。以子血塗錢八十一文。母市物。先用母錢。或先用子錢。皆復飛歸。輪環無已。黃絹。同文章類曰。稱絕妙之文。曰黃絹幼婦云云。

爲人常喫用。愛意須慳惜。老去不自由。漸被佗推斥。送向荒山頭。一生願虛擲。亡羊罷補牢。失意終無極。

亡羊罷補牢。戰國策楚項襄王篇曰。莊辛曰。見兎而顧犬。未爲晩也。亡羊而補牢。未爲遲也。

○評曰。此詩全篇極難透過。古人呼爲寒山詩中最上一區難處。管解

徧界觸目盡是實相無相供具。薦荐蕉葉著著皆親。於此飽喫般若智酒。搭頤坐。須彌小彈丸。天堂亦須彌小彈丸。地獄亦須彌小彈丸。佛界亦須彌小彈丸。魔界亦須彌小彈丸。僧亦須彌小彈丸。寒公亦須彌小彈丸。此時與寒公好把手呵呵大笑有分。若不然。酒家門外口流涎底剃頭死人。夢曾知寒公哉。時窮乏道者立背後。微微而匿笑曰。餓也甚不及。饑凍雖解得巧過也。夫寒公此作如老龍騰玄珠拋向面前。所恨不免提左拳咬指頭而已。

箇是何措大。時來省南院。年可三十餘。曾經四五選。囊裡無青蚨。篋中有黃絹。行到食店前。不敢暫迴面。

措大。祖庭事苑六曰。倉故切。置也。言措置天下之大者。又大慧武庫上之二。張無盡丞相十九歲應舉入京。經由向家。向家夜夢。人報曰。明日

小彈丸。遠村近里箇箇盡是物外不羈大人。殊不知、酒氣混亂儞心肺間。尊卑不辨。小大不知。鵶鴉畫出。瞋目不見丘山。立彼劉令背後。合掌底癡人終飢倒道路乎。顛死溝壑乎。堪作何用。且其如須彌峯。縱橫七千由旬。上頭有善現大城、周匝一萬由旬。中央有金城。是帝釋所居。周一千由旬也。其高厚嚴麗。以凡心思算。氣索魂蕩。豈依酒力化作小彈丸者哉。昔如盧至長者。片言輕忽帝釋。乍化作貧鬼。衆苦逼惱。寔可恐。況酒有三十五失。殊不知。此詩設善巧譬喩。親談般若眞空妙理。田家避暑月者。田家者。言本分田地眞空家舍也。暑者。則貪愛火氣執著熱惱也。衆生欲避此煩悶、雖窮百端。不能除滅。依善友提攜。纔入得自己本分家舍。則唯有菩薩淸涼月。無一點熱惱。斗酒共誰歡。斗酒。般若淸涼智酒。此中不見第二月。乾坤只一人。所以言。共誰歡。無能見。無所見。

依什麼過不得。還是說那箇道理。此時如野干聽師子吼。牙戰股震。膽裂腸碎。平生勢威瓦氷消解。無異彼鉛鑛入鑪冶。是故。世尊有偈曰。野狐憍慢。盛欲求其眷屬。行到迦夷城。自稱是獸王。人憍亦如是。領梲於徒衆。在摩竭之國。法王以自號。

田家避暑月。斗酒共誰歡。雜雜排山果。疎疎圍酒罇。蘆莆將代席。蕉葉且充盤。醉後搘頤坐。須彌小彈丸。

○評曰。師提唱此詩曰。寒餓禪者勃然拍手朗吟曰。醉後搘頤坐。須彌小彈丸。寔痛快活哉。寒公微妙制作。模寫眞正物外不羈大人。來拋向諸人面前。王買吐舌。李杜拍手而已。吟弄不休。儼凍上座曰。不可也。不可也。吾子其大錯乎。佗日隨吾子遊者。物外不羈大人。將其多乎。纔得一村醪二三椀。搘頤叫曰。須彌小彈丸。南隣亦須彌小彈丸。北舍亦須彌

可レ悲矣。所謂羅刹共二賢人一言二五濁濫漫惡時世相似邪師部屬多偏小一。履縉奸黨大。而異見列起。傍行爭湧。竊譏二刺古人眞正家風一。妄立二自家胸臆鄙宗一。教三壞二參玄英伶後學一。拔二黐千歲蔭凉靈苗一。蔭二蔽佛日於木末殘影一。戕二賊慧命於澆運懸絲一。其毒害實過二羅刹一。剩假二古佛千歲遺風餘烈一。偷二諸祖萬苦精錬眞修一。飾二殊勝好樣模一。說二相似瞎死法一。賤二賣佛號一。戒帖諂二鬻下火道號一。名聲普聞勢威遠震。千衆圍遶四事豐滿。將レ謂與レ歷世賢聖傳燈列祖同一舌演。同一口唱。毫釐無二差殊一。寔法中王者也。所レ悲到二彼佛祖不傳妙道衲僧難透話頭一。如二暗中取一レ物。等二齊人見一レ楚人一。茫洋而無レ所レ知。甚醜拙。甚濶疎。而祖庭杳隔二天涯一。恰如下野干逞二奇籌一來且稱二獸王一立取中誅滅上。乍若下有二不レ顧二危亡一底漢子上。人天衆前公然而出來曰。玉以レ火試。金以レ石試。人以レ言試。試言。牛過二窓櫺一。頭角四蹄總過了。尾巴

國之所恃唯賴象馬。我有象馬。彼有師子。象馬聞氣。惶怖伏地。戰必不如。爲獸所滅何惜一女。而喪一國。時一大臣聰容遠略。而白王言。臣觀古今。未曾聞見人王之女與下賤獸。臣雖弱昧。要殺此狐。使諸群獸散走。王卽問言。何計將兵馬出。大臣答言。王但剋期戰日。先當從彼求索一願。願令師子先戰後吼。彼謂吾畏。必令師子先吼後戰。王至戰日。當勅城內。皆令塞耳。王用其語。遣使共求上願。至于戰日。復遣信求。然後出軍。軍鋒欲交。野狐果令師子先吼。野狐聞之。心破七分。便於象上墜落于地。於是群獸一時散走。佛以是事而說偈言。野狐憍慢盛。欲求其眷屬。行到迦夷城。自稱是獸王。人憍亦如是。領統於徒衆。在摩竭之國。法王以自號。涅槃經十三曰。譬如眞金三種試已知其眞。謂燒打磨。

○評曰此詩嘆末法弊衰混亂。若見今時。寒公如何悲嘆。如何頌去。寔

稱珍。鉛礦入鑪冶。方知金不眞。

法苑珠林六十七引五分律云。佛告諸比丘。乃往古昔有一摩納。在山窟中誦剎利書。有野狐住其左右。專聞誦書、心有所解。作是念言。我解此書語。足堪作諸獸中王。作是念已便起遊行、逢羸瘦野狐。便欲殺之。彼言何故殺我。答言、我是獸王。汝不伏我、是以相殺。彼言願莫殺我。當隨從。於是二狐便共遊行。復逢一狐。又欲殺之、問答如上。亦言隨從。如是展轉。伏一切狐。便以群狐伏一切象。復以衆象伏一切虎。復以衆虎伏一切師子。遂權得爲王。既作王已復作是念。我今爲獸中王。不應以獸爲婦。便乘白象率諸群獸。不可稱數。圍迦夷城數百千匝。王遣使問。汝諸群獸。何故如是。野狐答言。我是獸王。應娶汝女。與我者善。若不與我當滅汝國。還白如此。王集群臣共議。唯除一臣。皆云應與。所以者何。

一束草。三輔決錄。孫晨字元公。家貧織席爲業。明詩書。爲京兆功曹。冬月無被。有藁一束。暮臥朝收。見蒙求。

赫赫誰顧肆。其酒甚濃厚。可怜高幡幟。目極平升斗。何意訝不售。其家多猛狗。童子欲來沽。狗齩便是走。

赫赫盛貌。顧酒瓶也。猛狗。韓非子外儲篇曰。宋人有酤酒者。升概甚平。遇客甚謹。爲酒甚美。懸幟甚高著。然不售。酒酸。怪其故。問其所知長者楊倩。倩曰。汝狗猛耶。曰。狗猛則酒何故而不售。曰。人畏焉。或令孺子懷錢挈壺甕而往酤。而狗迓而齕之。此酒所以酸而不售也。夫國亦有狗。有道之士懷其術而欲以明萬乘之主。大臣爲猛狗。迎而齕之。此人主之所以蔽脇。而有道之士所以不用也。此故事又見劉向說苑。

吁嗟濁濫處。羅刹共賢人。謂是等流類。焉知道不親。狐假師子勢。詐妄卻

婠妠。屢見二枯楊荑一。常遭二青女殺一。

狡猾。左傳。昭二十六年有二狡猾二字一。彙曰。狡猾也。猾亂。詩斯干篇曰。乃生二男子一。載寢二之牀一。載衣二之裳一。載弄二之璋一。又曰。乃生二女子一。載寢二之地一。載衣二之裼一。載弄二之瓦一。詳二于書言故事一。烏覦。彙曰。楚人謂レ虎爲二烏覦一。左傳宣四年。有二姓鬪名穀於菟者一。婠妠。彙曰。小兒肥貌。枯楊荑。易大過卦曰。九二枯楊生レ稊。老夫得二其女妻一。無レ不レ利。象曰。老夫女妻過以相與也。青女。淮南子天文訓曰。青女乃出降二霜雪一。注曰。青女天神青扶。玉女主二霜雪一也。或說曰。八十二與二一十八一合レ之爲二百年一。故曰二夫妻共百年一。枯楊謂二八十二之柳郎一也。青女指二一十八之藍嫂一也。

大有二飢寒客一。生將二獸魚殊一。長存二廟石下一。時哭二路邊隅一。屢日空思レ飯。終冬不レ識レ襦。唯齎二一束草一。并帶二五升麩一。

帝羿有窮氏與吳賀北遊。賀使羿射雀。羿曰。生之乎。殺之乎。賀曰。射其左目。羿引弓射之。誤中右目。羿抑首而媿。終身不忘。故羿之善射至今稱之。見文選鮑明遠擬古詩註。識疑試乎。

貧驢欠一尺。富狗剩三寸。若分貧不平。中半富與困。始取驢飽足。却令狗飢頓。爲汝熟思量。令我也愁悶。

分貧。左傳昭公十四年曰。分貧振窮。註曰。分與也。振救也。頓。世說羅友曰欲乞一頓食。棄都困切。下首至地也。又拜頭叩地也。或說。此篇意謂。爰有二尺食。中分之。而一尺與驢。一尺與狗。狗富而飽。故喫七寸而餘三寸。驢貧而飢。故喫了一尺。而言一尺不足。若二尺共與驢。則又無七寸之可喫。而令狗飢頓也。

柳郎八十二。藍嫂一十八。夫妻共百年。相憐情狡猾。弄璋字烏㜸。擲瓦名

變化。易上彖傳。乾道變化各正性命。荀子註。改其舊質。謂之變。馴致於
善。謂之化。己。羣居里切。音鷄。上聲身也。人之對也。羖羺。羣。胡羊名。騄駬。
羣駿馬也。

書判全非弱。嫌身不得官。銓曹被拗折。洗垢覓瘡瘢。必也關天命。今年更
識看。盲兒射雀目。偶中亦非難。

書判。唐宗記。定銓註。法身言書判。是唐之選法取人術也。一曰。身體豐
偉。二曰言辭辨正。三曰書法諧遒美。四曰判文優長。四事皆可取。嫌。羣。
胡兼切。音賢。不平於心也。又疑也。憎也。女子多嫌疑故。从女。銓。且緣切。
音詮。量也。三詮唐選法。尚書詮掌七品以上選。侍郎詮掌八品以下選。
流外謂之小選。拗。於巧切。音凹。上聲。手拉折也。覓瘡瘢。後漢書趙壹傳
曰。所好則鑽皮。出其毛羽。所惡則洗垢求其瘢痕。射雀目。帝王世紀曰。

雖在田野相敬如賓。見蒙求。被自妻疎。前漢書曰。朱買臣家貧好讀書。不治產業。常艾薪樵賣以給食。妻羞之求去。買臣笑曰。汝苦日久。待我富貴報汝功。妻恚怒曰。如公等終餓死溝中耳。買臣不能留。卽聽去。轍中魚。莊子外物篇曰。莊周家貧。故往貸粟於監河侯。監河侯曰。諾。我將得邑金。將貸子三百金可乎。莊周忿然作色曰。周昨來有中道而呼者。周顧視。車轍中有鮒魚焉。周問之曰。鮒魚來。子何爲者耶。對曰。我東海之波臣也。君豈有斗升之水而活我哉。周曰。諾。我且南遊吳越之王。激西江之水迎子可乎。鮒魚忿然作色曰。吾失我常與。我無所處。吾得斗升之水然活耳。君乃言此。曾不如早索我於枯魚之肆。

變化計無窮。生死竟不止。三途鳥雀身。五嶽龍魚已。世濁作猊羺。時清爲騄駬。前廻是富兒。今度成貧士。

牀。幡蓋奪目。供具心蕩。衆心竊擬龍華勝會。如何向所謂湛然寂默。湛入合湛賴耶自體。而呼猪呼狗者。虛妄生滅識神。雲門大師曰。困風霜於十七年間。涉南北於數千里外。佗何不學僞寂默。而向外馳求如此醜拙哉。是唯非恐被眞正衲子撈著。縄牽不行。錐刺不動。彼如羊公鶴者哉。趙州和尙曰。我在靑州作一領布衫。重七斤。此語若不見徹分明。莫言神通無恥千佛。羅山和尙曰。若匠人與兩文錢。和尙與匠人出隻手。此語若不透過諦當。莫言妙用無羨萬祖。學者其擇焉。

少小帶經鋤。本將兄共居。緣遭佗輩責。剩被自妻疎。抛絕紅塵境。常遊好閱書。誰能借斗水。活取轍中魚。

帶經鋤。魏志。常林字伯槐。河內溫人。避地上黨。耕種山阿。魏略曰。林少單貧。自非手力不取之於人。性好學。漢末爲諸生。帶經耕鋤。其妻餉之。

中滴麟血居龍肝。鳳髓狐臍集而大成。把一微塵投之於人。則起九死。救重痾。野鬼悲哭。閉神通窟。盧扁執鞭步後塵。華陀走庭看水薪。我非求利者。我種德者也。求焉諸子。我其久在哉。莫貽後悔矣。於此群集競求。箇箇歸來。尋重痾人。試投之。橘皮所能亦不能得。空白市上切齒而已。世間往往多此黨。寒公豈衒賣君子衒賣僞藥底云哉。風刺履緇之徒衒賣佛法底者歟。須子細吟翫矣。古來有一流禪道佛法。恣荷負相似重痾來。放懷教示曰。儞輩一生湛然寂默去。無爲高閑去。謹莫生心。一心不生處。眞正佛祖也。休毫釐錯向外馳求。佛祖呼鹿不爲豬。我亦呼馬不稱狗。寔無一點欠少。至要在儞一念馳求心歇得而已。須知。神通不恥千佛。妙用無羨萬祖。於此緇素歸仰。尊信抛錢財如蝗飛。束絹帛似雲湧。攢莊觀於堂宇。遶尊貴於謦咳。龍鳳翔滿補帷。珠玉栽溢猊

○評曰。予評唱此詩曰。有一菴主告予曰。我隣邑五六里而有一老夫遁居。聞舊西京老儒。而才不愧周召。能無羨管樂。有白丁一短葛老僕。居黃茅兩三間破屋。有巾謂華陽巾乎。楮皮以裁之。有衣爲鶴氅衣乎。葛布以縫之。席不正不居。割不正不食。首容直。目容端。口容正。寒折膠。暑鑠金。不越戶限。常攝膝危坐。如對大賓。若與神明爲伍。鄕黨盡敬服。而師尊如神。予希顏其操履。慕藺其聲名。密行趨謁如見木牀上老師。所恨無智鑑可貴。無才識可愛。目擊道不存。似捉彼劉遵置庾公榻上。予索爾而謂。是街賣君子賤人。似在十字街頭賣卻僞藥底老奴。以辭出爲遲。街上有老奴。張宏藥店。並列器皿。設蜀織帳幃。懸晉樣楷聯。穿輪巾著道袍。把羽扇投岐伯眸。握倉公鬚。操楚音。交魯文。公公然而告曰。大凡有血氣者無不有病。所以。先聖憐之設不死靈劑。蓋夫如吾囊

右掩左雄。左掩右雌。生處。五代史唐昭宗曰。紇千山頭凍死雀。何不飛去生處樂。見韻瑞。鳳凰池。事物紀原六曰。晉荀勗爲中書監。遷尚書令。勗久在中書。失之甚悲。有賀之者。怒曰。奪我鳳凰池。何賀。

或有衒行人。才藝過周孔。見罷頭兀兀。看時身倜倜。繩牽未肯行。錐刺猶不動。恰似羊公鶴。可憐生毿毿。

衒。棄千眷切。音眩。說文。自矜也。人媒也。又賣也。兀兀不動貌。倜倜增韻長也。又未成器也。論語泰伯篇注。侗無知貌。錐刺。涅槃經梵行品曰。善男子譬如豌豆乾時錐刺不可著。諸煩惱堅亦復如是。羊公鶴。五車韻瑞。劉遵祖。殷浩中軍稱之于庾公。既見坐獨榻上。與語不稱。遂目劉爲羊公鶴。注。羊叔子稱鶴善舞。客試驅來。乃不肯舞。恰。離呈切。俗作憐愛憐非也。毿毿。字彙毛散貌。

若賴兵權滅亡可待矣。若全而歸之。適於他國爲吾之患不輕矣。遂刖之而還諸魯。旣反。孟氏之父子叩胸而讓施氏。施氏曰。凡得時者昌。失時者亡。子道與吾同。而功與吾異。失時者也。非行之謬也。且天下理無常是。事無常非。先日所用。今或棄之。今之所棄。後或用之。此用與不用。無定是非也。投隙抵時。應事無方。屬乎智。智苟不足。使若博如孔丘術如呂尙。焉往而不窮哉。孟氏父子舍然無慍容。曰。吾知之矣。子勿重言。

託身謝靈運擬鄴中詠曰。天下昔未定。託身早得所。見文選。齟齬。具於前四十四首。

止宿鴛鴦鳥。一雄兼一雌。銜花相共食。刷羽每相隨。戲入烟霄裏。宿歸沙岸湄。自怜生處樂。不奪鳳凰池。

雌雄。小補韻會。飛曰雌雄。走曰牝牡。爾雅。鳥之雌雄不可以別者。以翼

時還安著那處。左右且置。中間底又作麼生。者裡分明點檢得出。許儞親看寒公。咄咄咄。三界輪回。

施家有兩兒。以藝干齊楚。文武各自備。託身爲得所。孟公問其術。我子親教汝秦衛兩不成。失時成齟齬。

施家孟公。列子說符篇曰。魯施氏有二子。其一好學。其一好兵。好學者以術干齊侯。齊侯納之以爲諸公子之傅。好兵者之楚以法干楚王。王悅之以爲軍正。祿富其家。爵榮其親。施氏之隣人孟子同有二子。所業亦同。而窘於貧。羨施氏之有。因從請進趣之方。二子以實告孟氏。孟氏之一子之秦以術干秦王。秦王曰。當今諸侯力爭所務兵食而已。若用仁義治吾國。是滅亡之道。遂宮而放之。其一子之衛以法干衛侯。衛侯曰。吾弱國也。而攝乎大國之間。大國吾事之。小國吾撫之。是求安之道。

常照寂而圓融無碍。透過者邊了。卻來利益一切者。菩薩箇中也。作麼生是衲僧箇中意。兎角龜毛過別山。

層層山水秀。烟霞鎖翠微。嵐拂紗巾濕。露霑蓑草衣。足躡遊方履。手執古藤枝。更觀塵世外。夢境復何爲。

翠微。爾雅。山未及上曰翠微。一曰山腰。

滿卷才子詩。溢壺聖人酒。行愛觀牛犢。坐不離左右。霜露入茅檐。月華明瓮牖。此時吸兩甌。吟詩三兩首。

聖人酒。古文眞寶前集李太白獨酌詩曰。已聞淸比聖。復道濁如賢。注。酒之淸爲聖人。濁爲賢人。瓮牖。禮記儒行篇。有蓬戶甕牖語。

○評曰。寒公曰。坐不離左右。試道。不離底是什麼。才子詩乎。聖人酒乎。謂霜露入茅檐乎。指月華明瓮牖乎。將又別有長處乎。坐不離左右。行

以貧獨不屬之故。起常先息常後灑掃。陳席以待來者。自與敝薄坐常處下。凡爲貧獨不屬故也。夫一室之中益一人。獨不爲暗。損一人。獨不爲明。何愛東壁之餘光。不使貧妾得蒙見哀之恩。長爲妾役之事。使諸君常有惠施于妾。不亦可乎。李吾莫能應。遂復與夜終無後言。

世有聰明士。勤苦探幽文。三端自孤立。六藝越諸君。神氣卓然異。精彩超衆群。不識箇中意。逐境亂紛紛。

三端。韓詩外傳曰。君子宜避三端。文士筆端。武士鋒端。辯士舌端。見韻瑞。六藝禮樂射御書數。箇中意。懶瓚頌。削除人我本。冥合箇中意。

○評曰。認計我不實妄心。爲箇中者凡夫也。認賴耶湛寂暗窟。欲空盡思想者。聲聞箇中也。認我空偏眞空穴。要一切都不管者。辟支箇中也。認得見聞覺知光影。爲佛心者相似禪徒箇中也。理事不二。凡聖一如。

交淺。聞茲若念茲。小兒當自見。

攻人惡。論語顏淵篇攻其惡無攻人之惡。非修慝與。伐己善。論語公冶長篇曰。顏淵曰。願無伐善。行之則可行。同述而篇子謂顏淵曰。用之則行。舍之則藏。惟我與爾有是夫。卷之則可卷。同衞靈公篇曰。子曰。君子哉。蘧伯玉。邦有道則仕。邦無道則可卷而懷之。後漢書崔駰傳曰。交淺而言深者愚也。書大禹謨曰。念茲在茲。

富兒會高堂。華燈何煒煌。此時無燭者。心願處其傍。不意遭排遣。還歸暗處藏。益人明詎損。頓訝惜餘光。

千字文曰。銀燭煒煌。注曰。煒煌言燭之光也。列女傳曰。齊女徐吾者。齊東海上貧婦人也。與鄰婦李吾之屬。會燭相從夜績。徐吾最貧。而燭數不屬。李吾與其屬曰。徐吾燭數不屬。請無與夜也。徐吾曰。是何言與。妾

尋思少年日。遊獵向平陵。國使職非願。神仙未足稱。聯翩騎白馬。喝兎放蒼鷹。不覺大流落。皤皤誰見矜。

聯翩。謝靈運擬鄴中詠曰。金羈相馳逐。聯翩何窮已。注曰。馳逐聯翩。皆馬奔走之貌。見文選。皤皤。文選辟雍詩曰。皤皤國老乃父乃兄。善曰。說文曰。皤老人貌也。

偃息深林下。從生是農夫。立身既質直。出語無諂諛。保我不鑑璧。信君方得珠。焉能同汎灩。極目波上鳬。

韓詩外傳曰。楚襄王遣使者持金千斤白璧百雙聘莊子以爲相。莊子不許。楚辭屈原卜居篇曰。寧昂昂若千里之駒乎。將氾氾若水中之鳬與波上下。偷以全吾軀乎。

不須攻人惡。何用伐己善。行之則可行。卷之則可卷。祿厚憂責大。言深慮

彼長夜苦果何。熟顧。與隨寒公有樂於其前。孰若隨賢聖無憂於其後。寔知。寒公此語。非但無益于我耳。似大有害于我者。爲可乎。爲不可乎。原夫寒公者往昔非北方歡喜世界歡喜藏摩尼寶如來哉。豈其出無義語。欺誑我輩者哉。於此狐疑不前。鳩摑轉加。師兄大慈大悲審辨之。飢凍上座曰。善哉問。是此學道人專爲可薦取之急也。嗚呼。生死雙美者。寒公雙美。而非吾子雙美。而吾子妄把爲雙美。則佗後大有事乎。夫疑惑不決者。爲根本無明未曾照破故也。吾子若欲了知此大事。先須見性。見性如見掌上。豈其生死而已。佛魔亦雙美。淨穢亦雙美。地獄亦雙美。天堂亦雙美。若也未然。縱備百千無量文殊。說雙美兩字。歷拂石劫。毫釐其無利益。此事究不容易。所以。達磨大師云。若人欲學佛道。先須見性。

復死氷水不相傷。生死還雙美。

氷水。撈攏三如氷成氷水還爲水。

○評曰。師評唱此詩之日。寒餓禪者哀吟曰。世尊四十九年強善巧、三百六十會權實、有五千四十經卷、留八萬四千法門。其本志爲欲使一切衆生出離六趣生死、成辨十力妙果也。所以三世賢聖一同精錬、十方緇素萬種刻苦。各以生死大事、頓放面前。一日日一時時、只恐前進抽出離雖。是古今樣子也、而寒公御道。生死還雙美、顧夫恐生死浪落。毘尼其身、禪寂其心者。一切賢聖是也、美生死變遷、野舞村歌者。一箇寒公是也。是一箇寒公、則一切賢聖底大非矣。是一切賢聖、則一箇寒公底大非矣。隨一切賢聖精進苦吟、則若乃成辨出離本志。有敢家本有大歡喜。隨一箇寒公、癲吟狂歌去。雙美者。卽止矣。若果而不美。則如

道人不識眞。只爲從前認識神。無量劫來生死本。癡人呼爲本來人。是則是。寒公斯言拾金擔艸。言蒸沙作飯。言磨甎求鏡光底死人。狗亦不喫者也。昔南嶽祖師在馬祖庵前磨甎者。此斯謂也。學者須子細點檢矣。

推尋世間事。子細總皆知。凡事莫容易。盡愛討便宜。護即弊成好。毀即是成非。故知雜濫口。背面總由伊。冷暖我自量。不信奴唇皮。

蹭蹬諸貧士。飢寒成至極。閑居好作詩。札札用心力。賤人言孰采。勸君休嘆息。題安餬餅上。乞狗也不喫。

蹭蹬。文選木玄虛海賦。有蹭蹬語。註曰。失勢貌。禮部韻。失道不遂其志也。札札。彙乙甲切。音鴨。車輾也。

欲識生死譬。且將氷水比。水結即成氷。氷消返成水。已死必應生。出生還

轉而著阿含方便麤弊垢膩衣。且設我空偏眞陝矮短小化城。喝驅四衆入彼隍塹裡。令指磨淨盡。大凡向二十年。名此輩爲長者無種窮子二乘聲聞部類。其後到方等彈呵時。淨名立門外切齒罵辱。世尊在內晝夜呵責。爲拚癩野干種類。一破摧彼城壘。埋卻彼隍塹。越四衆俄打失其所窟托。喪盡其所逝窟。仰天悲泣懊惱。而後提攜教喩。遂推上法華一乘圓頓不思議寶處。淳然藥病相治。世尊出世本懷盡成辦畢。其殘黨餘屬潛逝蜂房。竄伏蝸殼。其餘波陰陰而周流月支。彌漫漢土。似水乳難分者。自稱爲最上微妙宗趣。爲祖師不傳妙道。然則今時所珍重者淨名所以呵責者也。今時所護惜者。調御所以敗棄者也。胡爲其大錯哉。所以長沙韶石佛果息耕妙喜諸老雖舐排盡力。不能拔病根。蟠屈次第深寃佛祖亦不能醫治。扁倉亦皺眉底重痾也。古長沙曰。學

底本分家舍。至死珍重護惜。殊不知。此是八識頼耶暗窟。似如上禿奴輩。到台教法將三諦證得之遊履密乘碩德阿字透過之境致。夢亦不能量其邊表。況復祖庭孤危眞風。可笑。諸佛頂上禪徒不特不及教家學者。二乘聲聞遙優之。此病始遍五印。中滿眞丹。流到扶桑。到不可起。寔可悲。我昔聞唐宋諸祖往往悲嘆曰時當澆末佛祖慧命如懸絲如一髮曳千鈞等語言。予竊謂。怪哉。大唐國裏禪門宗匠。建法幢立宗旨。如碁布如星列。豈謂澆末。豈有懸絲憂。是必警策後昆親切。後來日域諸祖亦往往有此嘆。如大圓國師卽言。二十四流日本禪。惜哉大半失其傳。予聞之。大怪大恐久矣。向後聞明師說。從上疑惑頓解。悲法門危嶮甚切也。熟憶。此病根遠從金仙氏起。到今終到不可拔。金仙初成道後。恣著華嚴圓頓珍御寶聚衣。一切衆生恐怖不前。驚走無返。所以一

外中間。單單研究。至打成一片純一無雜行不知行坐不知坐底時節。心頭時時熱悶。是眞箇參窮底好消息也。必莫生恐怖。依舊參窮。廓然而無量劫來業識種子生死根盤和身心脫落。大圓鏡光乍煥發。天堂地獄。十方法界。一毫髮許不見佗物。是即見性底端的也。如祖師門下得之不爲足。呼爲寒潭死水狐窠鬼窟。總不顧振精神前進。終踏飜最後重關。如何是最後重關。南泉遷化話。疎山壽塔話。趙州勘婆因緣等是也。有一般底。認得自家見聞覺知底妄心。曰。佛祖見柳則綠。見花則紅。我亦見柳則綠。見花則紅。佛祖火暖水寒。呼鴉不作鷺。呼驢不作馬。是即與佛祖不隔毫釐。現證也。只要不染汚者般見解。此即是寒公所謂盡力磨瓴甎底癡漢。殊不知是即是生死大兆而認賊爲子。有一般底。認得心源湛寂不動不搖底無分別識。爲佛心最上禪。爲祖庭不傳

嶮酸。嗟呼。夏懸繿縷。懸又大不難。奈何彼命終苦患。嗟呼冬纏葛布。纏又大不難。奈何彼捺落伽嶮酸。其行則齎糧囊丸。寢則顧戸養火。姙則綴襁縫褓。乘則執鞭見鞍。是非事預而爲不蹶備者哉。特至不免命終不遁來生。安然不顧。何哉。佗日至萬死競來日孤燈獨照時。俄爾七狂八顚。是所謂臨渴掘井者也。用力磨甗甎者。昔有玉人。擇石含明珠者。重日磨。磨礱功積。則寶光隨手湧。愚夫羨之。擔一怪石來。盡力磨。磨來磨去。石體銷磨盡。終雖至粟粒芥顆大。如魚目光輝者亦不得。竟垂悔淚憂惱。是無佗最初大錯故也。行人亦如此。不本自心源。亂自行萬行。欲成就菩提。是與彼怪石磨底愚夫無異。問。如何得本心源。曰。欲本心源。先須見性。問。如何得見性。曰。若要見性。就自心源參窮。卽今見聞覺知底是何物。又卽今要了知見聞覺知主底心在何處。行住坐臥於內

妙體盡是誑欺戲論事。而雖歷無量劫不能成就菩提。恰如蒸砂作飯。終不能救饑餒。臨渴始掘井者。言人臨必死命終時悲泣哀號而求出離底癡愚也。夫人閑暇時鑿開池井者爲救渴乏急。夫人春暄日耕破水田者爲免饑餒苦。閑暇不鑿春暄不耕任冉過了。佗日臨饑渴時俄掘井。俄耕田爲知乎。道不知乎。渴沒饑死數時可待矣。大凡千室邑三家村有女。夏日緝縕縷。縕縷非夏日急。非急緝爲救三冬苦寒。大凡千室邑。三家村。有女。冬日織葛布。葛布非冬日急。非急織爲備九夏煩暑。冬不織夏不緝。苦寒日共纏葛布乎。煩暑日共懸縕縷乎。且夫歲而無三冬者或有之。人而無命終者未曾有實知。不能無命終則何不營命終備。且夫歲而無九夏者或有之。人而無來生者。未曾有實知。不能無來生則何不辨來生資。命終往往有斷抹磨苦患。來生往往有捺落伽

蒸砂擬作飯。臨渴始掘井。用力磨瓴甎。那堪將作鏡。佛說元平等。總有眞如性。但自審思量。不用閑爭競。

蒸砂。楞嚴經六曰。如蒸砂石欲其成飯。經百千劫祇名熱砂。何以故。此非飯本砂石成故。臨渴。曹植文曰。渴而後穿井。饑而後植。見韻瑞。磨瓴甎。禪林類聚南岳讓禪師居南嶽時。馬祖在彼住庵。日唯坐禪。師因往問云。在此何爲。祖曰。坐禪。師曰。坐禪何所圖。祖曰。圖作佛。師一日將甎一片於庵前磨。祖曰。磨此何爲。師曰。要作鏡。祖曰。磨甎豈得成鏡。師曰。坐禪豈得成佛。祖曰。如何即是。師曰。如人駕車。車若不行。打車即是。打牛即是。祖於是悟旨於言下。遂印心傳法。

○評曰。此詩述不見性成佛道大難意。此句取楞嚴第一大意頌。言若有行人一食卯齋去。長坐不臥得。縱雖錬身臂指。不了知自己元淸淨

度。棄金擔草。涅槃經九曰。譬如癡賊棄捨眞寶擔負艸木。圭峯圓覺疏云。擔麻棄金。蒸砂。古詩曰。親友如搏沙。放手還自散。

○評曰。禪有相似禪。道有相似道。涅槃有相似涅槃。何故。只依見性不分明故也。若欲得眞正底。先須見性。見性即是眞正道。見性即是眞正禪。見性即是眞正涅槃也。汝若不見性。呼爲禪亦是相似禪。呼爲道亦是相似道。然則不見性論禪說道。豈是不相似僧。所以達磨大師曰。欲成佛道。先須見性。寔知。不見性修行佛道底人。與把椿樹作白栴檀呼楚鷄爲丹山鳳者一般底大癡人。縱有恒沙行人。皆是相似行人。而一箇無得眞正涅槃者。須知。不見性行種種善道佛法底。總是棄金擔草慢佗自慢底鈍魔。縱雖經塵劫精鍊刻苦。恰似蒸砂成飯。何日得成佛道。

有陶朱猗頓亦不足羨。於是怡悅忘蹈舞。終行而不知行。雖然無得之計。空搔首過而已。

嗔嗔買魚肉。擔歸餧妻子。何須殺佗命。將來活汝己。此非天堂緣。純是地獄滓。徐六語破堆。始知沒道理。

嗔字疑囂字歟。字彙。吁驕切。音鴞。喧也。又市曰囂。猶後世名市曰墟也。交易市合則囂。市散則墟也。

○評曰。徐六語破堆。堆字疑作碓可乎。此五字形容沒道理之三字。

有人把椿樹。喚作白梅檀。學道多沙數。幾箇得泥洹。棄金卻擔草。謾佗亦自謾。似聚砂一處。成團也大難。

椿樹。梅檀。古德歌曰。所嗟世上岐途者。終日崎嶇枉用心。平垣梅檀不肯取。要須登涉訪椿林。見宗鏡錄九。泥洹梵語涅槃。或曰泥洹。此曰滅

賢士不貪婪。癡人好鑪冶。麥地占他家。竹園皆我者。努膊覓錢財。切齒驅奴馬。須看郭門外。壘壘松柏下。

貪婪。漢書南夷傳云。豐獸心貪婪。難率以禮。鑪冶。後漢書五日。出鐵多者置鐵官主鼓鑄。注曰。鑄銅爲器械。當鑄冶之時。扇熾其火。謂之鼓鑄。戰國策魏哀王篇有瞋目切齒語。壘壘列仙傳曰。丁令威本遼東人。學道於雲居山。後化鶴歸集華表。而吟曰。有鳥有鳥丁令威。去家千歲今來歸。城郭如故人民非。何不學仙塚壘壘。

○評曰。此詩呵貪求專不知無常迅速。麥地占他家者。譬玆有貪婪士。一日行過豪家門。絃歌遠聞。水碓列鳴。一呼百諾至。一笑萬人賀。屋影壓山光。家鴉滿水溝。士熟視默計曰。我若得此地與竹園。毀屋宅以爲麥田。下種何十斛。得穀何百車。竹亦歲伐放何千竿。得金何十斤。其富

克女之美。乃定婚。鍾家。事文類聚前集二十曰。鍾離春者。齊無鹽邑之女也。爲人極醜。自詣宣王。願乞一見。宣王召見之。乃擧手拊膝曰。殆哉殆哉。宣王曰。願聞命。對曰。今西有橫秦之患。南有强楚之讎。春秋四十。壯勇不立。一殆也。漸臺五層。萬民疲困。二殆也。賢者伏匿山林。諂諛强於左右。三殆也。酒漿流湎。以日繼夜。女樂俳優縱橫大笑。四殆也。宣王喟然而嘆。拜無鹽女以爲王后。黃老者。應是指老子。雖然考史記曰。老子之子名宗。既有子則當有婦。今所謂黃老元無婦者。未之考也。集中是例多。猶謂張三李四。强不可論也。

〇評曰。人生天地間。各依宿福淺深善行多寡。有娟有醜。有窮有富。不知宿因所致。亂自愛憎取捨。彼西我東。大錯了也。願貴其賢。不執形模。自賢者多不肖者少乎。宣王愛鍾離春。寔賢明之君也。可貴也。

食。又曰。以人食羊。羊死爲人。人死爲羊。如是乃至四生之類。死死生生。互來相噉。盲兒。涅槃經十三曰。如生盲人不識乳色。便問他言。乳色何似。他人答曰。色白如貝。盲人復問。是乳色者如貝聲耶。答言。不也。復問。貝色爲何似耶。答曰。如稻米抹。盲人復問。乳色柔輭。如稻米抹耶。稻米抹者。復何所似。答言。如雪。盲人復言。彼稻米抹者冷如雪耶。雪復何似。答言。猶如白鶴。是生盲人雖聞如是四種譬喩。終不能得識乳眞色。

天下幾種人。論時色數有。賈婆如許夫。黃老元無婦。衞氏兒可憐。鍾家女極醜。渠若向西行。我便東邊走。

賈婆。衞氏。蒙求中卷曰。晉惠帝賈皇后。名南風。父充。而位三公。初武帝欲爲太子取衞瓘女。曰。衞公女有五可。賈公女有五不可。衞家種賢而多子。美而長白。賈家種妬而少子。醜而短黑。元后固請。荀顗荀勗並稱

五逆十惡三毒共見三藏法數。鎭庫銀。或曰。異域人爲鎭護府庫災。布銀於柱礎下。此說可也。雖然未見本據。

天高高不窮。地厚厚無極。動物在其中。憑茲造化力。爭頭覓飽暖。作計相噉食。因果都未詳。盲兒問乳色。

天高地厚。詩正月篇曰。謂天蓋高。不敢不局。謂地蓋厚。不敢不蹐。作計相噉食。列子說符篇曰。齊田氏祖於庭。食客千人。中坐有獻魚鴈者。田氏視之乃歎曰。天之於民厚矣。殖五穀生魚鴈以爲之用。衆客和之如響。鮑氏子年十二預於次。進曰。不如君言。天地萬物與我並生類也。類無貴賤。徒以小大智力而相制。迭相食。非相爲而生之。人取可食者而食之。豈天本爲人生之。是蚊蚋噆膚。虎狼食肉。非天本爲蚊蚋生人爲虎狼生肉者哉。又楞嚴經四曰。則諸世間卵化濕胎隨力强弱。遞相吞

可傷。勸君求出離。認取法中王。

列子力命篇曰。彭祖壽八百歲。

○評曰。王有多種。有梵王。有帝釋天王。有四王。有轉輪聖王。有神王。有閻羅法王及大力鬼王。有八龍王。有乾達婆王乃至摩睺羅王等。就中最尊最貴最大最上者。無越心王。是道法中王。人人具有無一箇欠少底人。如何得認取。曰。倘只於一切處。時時點檢。即今聽法底是何物。恁麼尋覓底又誰。靜中鬧處點檢無間斷。不日朝謁法中王。纔出現則梵釋四王日月星辰艸木國土有情非情同時打失渾身。佛祖亦須乞命。何故如此。佗會燈下不截爪。所以道。釋迦彌勒猶是伊奴。且道伊是誰。

世有多解人。愚癡徒苦辛。不求當來善。唯知造惡因。五逆十惡輩。三毒以爲親。一死入地獄。長如鎖庫銀。

○評曰。以不貪兩字爲主意。不貪兩字可子細吟玩。

瞋是心中火。能燒功德林。欲行菩薩道。忍辱護眞心。

遺教經曰。汝等比丘若有人來節節支解。當自攝心無令瞋恨。亦當護口勿出惡言。若縱恚心。則自妨道。失功德利。忍之爲德。持戒苦行所不能及。能行忍者。乃可爲有力大人。若其不能歡喜忍受惡罵之毒如飲甘露者。不名入道智慧人也。所以者何。瞋恚之害則破諸善法。壞好名聞。今世後世人不喜見。當知瞋心甚於猛火。常當防護勿令得入。劫功德賊。無過瞋恚。白衣愛欲非行道人。無法自制。瞋猶可恕。出家行道無欲人而懷瞋恚。甚不可也。譬如青冷雲中霹靂起火。非所應也。忍辱六波羅蜜經。寃親平等罵詈打擲瞋恚不起曰是忍辱。

惡趣甚茫茫。冥冥無日光。人間八百歲。未抵半宵長。此等諸癡子。論情甚

寒山詩闡提記聞　卷第二

貪人好聚財。恰如梟愛子。子大而食母。財多還害己。散之即福生。聚之即禍起。無財亦無禍。鼓翼青雲裡。

梟愛子。楞嚴第七。如破鏡鳥以毒樹果抱爲其子。子成父母皆遭其食。或在史孝武本紀。

○評曰。此詩責富貴害人。示清貧樂己。

去家一萬里。提劍擊匈奴。得利渠即死。失利汝即殂。渠命既不惜。汝命有何辜。教汝百勝術。不貪爲上謀。

謀字。一本作謨字。通鑑註。外夷傳歷代名以異。夏曰獯鬻。殷曰鬼方。周曰玁狁。秦漢曰匈奴。唐曰突厥。宋曰契丹。元曰蒙古。明曰韃靼。

去塵。時時方丈內。將用指迷人。

○此詩。須子細吟弄。

多少般數人。百計求名利。心貪覓榮華。經營圖富貴。心未片時歇。奔突如烟氣。家眷寔團圓。一呼百諾至。不過七十年。氷消瓦解置。死了萬事休。誰人承後嗣。水浸泥彈丸。方知無意智。

百諾。韓詩外傳曰。當前決意。一呼再諾者。人穎也。見韻瑞。七十年。杜詩曰。人生七十古來稀。瓦解置。前漢鄒陽傳。有瓦解土崩語。無意智。六祖大師曰。下下人有上上智。上上人有沒意智。圓異作圖。

○評曰。此詩呵不義富且貴竟歸壞滅。

寒山詩闡提記聞　卷第一終

騶以曲轅分。驪騾連蹇而齊足。見楚辭後語。虛危星惡星也。左傳云。玄武之宿虛危之星也。群玉府。虛危。北方星也。大明三藏法數四十八。北方七宿內。虛宿主那遮羅國。危宿主昔華冠云云。

○評曰。此詩嘲侍博文設願官祿。示禍福緣因果。

碧澗泉水清。寒山月華白。默知神自明。觀空境逾寂。

○評曰。此詩賦寒山境致。示眞心現成。

我今有一襦。非羅復非綺。借問作何色。不紅亦不紫。夏天將作衫。冬天將作被。冬夏遞互用。長年秖這是。

○評曰。此詩示窮劫以前窮劫以後唯此一襦而足。所謂珍御服也。襦說文短也。

白拂栴檀柄。馨香竟日聞。柔和如卷霧。搖拽似行雲。禮奉宜當暑。高提復

辨法身眞僞如何。寒公曰。咄咄三界輪回。又乾峯和尙示衆曰。法身有三種病二種光。儞等諸人還委悉麼。時雲門出衆云。菴內人因甚麼不知菴外事。二尊宿語甚大難。若人見得如萬里異鄉見妻子面。許儞親見得法身。全無餘蘊。若不然。縱會得分明。總是意識逼逗。

徒勞說三史。浪自看五經。泪老檢黃籍。依前注白丁。筮遭連蹇卦。生主虛危星。不及河邊樹。年年一度靑。

三史。韻府曰。史記及前後漢書爲三史。五經。詩書易春秋禮記爲五經。黃籍。黃。書帙之色也。文選序。詞人才子則名溢於縹囊。飛文染翰則卷盈乎緗帙。註曰。縹。靑白色。緗。淺黃色。白丁。前漢書鄒陽傳曰。毆白徒之衆。師古注曰。白徒言素非軍旅之人。若今言白丁矣。註。韻會註通作注。識也。蹇艮下坎上之卦也。易曰。蹇難也。險在前也。楊雄反離騷曰。騁驊

病患不用藥餌不假鍼灸任運除遣。非特治病而已。從前挾手脚不得。下齒牙不得底難信難解難透難入底一著子。徹底透得。得大歡喜者兩三回。其佗省覺怡悅忘蹈舞者大凡數次。古雖重著二三兩襪。足心常如氷者。今雖九冬嚴寒日不襪不爐。且雖馬齒既隣古稀。無可指病患者。彼方術餘勳乎。莫道鶴林記取多少無義荒唐妄談。以誑惑佗上流。是非爲宿有靈骨一鍛既成底俊流。設擬鈍如予病患類予底看讀。子細觀察有小補乎。只恐別人把著拍手大笑矣。已上夜船閑話終。

易其形者。言百鍊功積。千鍛果熟。乍得換骨尸解等妙術。轉得凡骨得仙骨。羽化登仙者。卽喚爲上仙籍者又不然。直免得死亡。縱又免得。一箇頑鈍守屍鬼。終歸流轉。不如捨去成辨無漏眞淨不生不滅底法身。先虛空後天地。萬劫千生乘願輪來。利益一切群生。同與成無上菩提。若人欲知成

心降下。如水就下。歷歷而有聲。周流遍身。溫潤雙脚。到足心即止。行者再應作此想。彼浸浸所潤下餘流積湛暖蒸。恰如世良醫聚種種妙香藥物煎湯之。以盛湛浴盤中漬蘸我臍輪以下。作此觀時。唯心所現故。鼻根聞希有香氣。身根受妙好輭觸。身心調適。此時消融積聚調和腸胃。肌膚生光澤。大增氣力。不怠何病不治。何仙不成。何悳不積。何道不充。其効驗遲速在行人勤與怠而已。走始丱歲頃。多病十倍公患也。既到衆醫不顧。乍得聞輭酥術綿綿修。未期月。衆病大半銷除。今向此山中無人所。放枯稿一具骨。大布破袍纔挂兩三片。雖三冬寒威折綿夜。終不到凍損枯腸。山粒既絕不受穀氣動雖及數旬。終不知饑餒者。皆此觀力也。我今既告公以一生用不盡底秘訣。我更何謂哉。收目坐。予亦含涙辭。徐徐而下洞口。木末纔懸殘陽。歸來時時潛修。既三年。從前

出。目無所見。心無所思。如此則寒暑不能侵。蜂蠆不能毒。壽三百六十歲。此隣於眞人也。又蘇内翰曰。已飢方食。未飽先止。散步逍遙。務令腹空。當腹空時。卽入靜室。端坐默念。數出入息。從一數至十。從十數至百。從百數至數百。此身兀然。此心寂然。與虛空等。如是久之。一息自住。不出不入時。覺此息從毛竅中八萬四千雲蒸霧起。無始已來諸病自除。諸障消滅。自然明悟。譬如盲人忽然有眼。爾時不用尋人指路也。只要常省略言語。長養爾元氣。所以道。養目力者常瞑。養耳根者常飽。養心氣者常默。予曰。用酥之術可得而聞哉。幽曰。行者定中覺四大不調和。或身心勞疲。應起心作此想。譬有色香淸淨軟酥如鴨卵大。頓在頂上。其氣味微妙。而遍潤頭顱間。浸浸潤下來。兩肩及雙臂兩乳胸膈之間。肺肝腸胃脊梁臀骨次第沾注將去。此時胸中五積六聚疝癖塊痛隨

也。說治法亦盡。有十二種之息。能治病。有緣臍輪見豆子之法。大意以降下心火置丹田及足心爲至要。非但治病而已。大助禪觀。蓋天台有繫緣諦眞二止。諦眞者實相圓觀也。繫緣者謂繫心於臍輪氣海間。乃至置膝上足心間也。行者用之大有利矣。古我朝永平道元祖師入大宋。拜如淨於天童。師一日入密室請益。淨曰。元子坐禪時須置心於左掌上。是彼顗師所謂繫緣止大槩也。白雲和尚曰。我常使心充腔子中。匡徒領衆。接賓應機之間。用之無盡。是蓋依素問。所謂恬澹虛無。眞氣從之。精神內守。病安從來語者歟。且內守之要。令元氣充塞一身之中。要令三百六十骨節八萬四千毛竅一毫髮許無欠缺處。是亦養生秘訣也。彭祖曰。和神導氣之法。當得密室閉戶安牀煖席枕高二寸半。正身偃臥瞑目閉氣於胸膈中。以鴻毛著鼻上而不動。經三百息。耳無所

君火者居乎上而主靜。相火者處乎下而主動。君火者惟一心主也。相火者宰補也。蓋相火有兩般。乃腎與肝也。肝比雷。腎比龍。故曰。但使龍歸海底。必無迅發之雷。但使雷藏澤中。必無飛騰之龍。海也澤也莫非水也。莫非下也。是非制相火易上語哉。又曰。心煩勞則虛而心熱。心虛則補之下心。以交于腎之謂補。既濟之道也。公先心火逆上。遂受此重病。若不降下心。何日得治。且夫以我形模類道家者。爲大異釋者歟。是禪也。佗日覺得有大可笑事。大凡觀以無觀爲正觀。多觀者爲邪觀。向公以多觀見此症。今救之以無觀。不亦可乎。公若收平生心炎意火。置丹田及足心之間。則胸膈自然清凉。而無一點計較思想。無一滴識浪情波。是眞正清淨觀也。豈言拋下禪觀哉。佛言。收心於足心。能治百一之病。又阿含有用酥之法。救心之勞疲尤妙。天台止觀論病因甚精密

虛空不死。眞箇長生久視底大神仙。是爲眞正丹竈功成底時節。豈以御風跨霞縮地躡水等鎖末幻事爲懷者耶。攪大洋爲酥酪。變厚土爲黃金矣。是故。前賢曰。丹。丹田液者。肺液也。以肺液還于丹田。故曰金液還丹。白玉蟾曰。養生之要。先不若鍊形。鍊形之妙。在乎凝神。神凝則氣聚。氣聚則丹成。丹成則形固。形固則神全。須知丹也果而非外物。千萬只在降下心火令充丹田氣海及腰脚之間而已也。予曰。謹聞命。且拋下禪觀。努力以治爲期。所恐非李士才所謂偏淸降者乎。制心於一處。無氣血滯碍乎。幽微微而笑曰。不然。李氏不言哉。火性炎上。故宜使之下。水性就下。故宜使之上。水上火下。名之曰交。交則爲既濟。不交則爲未濟。交者生之象。不交者死之象也。李家所謂偏淸降者。救過學丹溪者弊也。古人云。相火易上。身中所苦。補水所以制火。蓋火有君相二義。

受春化之澤。至人便元氣充於下之象。人得之則營衛充寒。氣力勇壯。
五陰居下。一陽止上。謂之山地剝。九月之候也。天得之則林苑失色。百
卉荒落。是衆人之息。息之以喉之象。人得之則形容枯槁。齒牙搖落。所
以。延壽書曰。六陽共盡。則是全陰人易死。須知使元氣常充下。是養生
樞機矣。昔吳契初見石泰先生。齋戒問鍊丹術。先生曰。我有元玄眞丹
神秘。非上上器。得不可傳。古黃成子以之傳黃帝。帝三七齋戒受之。夫
大道外無眞丹、眞丹外無大道。蓋有五無漏法。去爾六欲。五官各忘其
職。則混然本原眞氣彷彿而充目前。是彼大白道人所謂以我之天而
合所事之天者也。又孟軻氏所謂浩然之氣是也。引之藏臍輪氣海丹
田之間。重歲月守之。守一去。養之無適去。一朝乍掀鍊丹竈。則內外中
間八紘四維總是一枚大還丹。此時始覺得自己即是先天地不生。後

粟。女有餘布。群賢來屬。諸侯恐服。民肥國强。無違令臣民。無侵境敵國。國無聞刁斗聲。民不知戈戟名。人身亦然。至人常使心氣充下。是故。無七凶動于內。四邪亦不能自外窺。營衛充心神健。口終不知藥餌甘酸。身終不受鍼灸疼痛。庸流常使心氣恣上。恣上則左寸火尅右寸金。五官縮疲。六親苦恨。所以。漆園曰。眞人之息。息之以踵。衆人之息。息之以喉。許浚曰。蓋氣在下焦。則其息遠。氣在上焦。則其息促。上陽子曰。人有眞一之氣。降下丹田中。則一陽又復矣。人欲知始陽初復之候。當以煖氣爲之信。大凡養生之道。上部常要清凉。下部常要溫煖。夫經脈十二配支十二。應月十二。合時十二。如六爻變化再周全一歲。五陰居上。一陽占下。謂之地雷復。冬至之候也。眞人息。息之以踵之謂歟。三陽位下。三陰居上。謂之地天泰。孟正之候也。天得之則萬物含發生之氣。百卉

先天原氣默運中間。五臟列經脉行衛氣營血幷昇降循環者晝夜大凡五十度肺金牝藏而浮膈上。肝木牡藏而沈膈下。心火大陽而位上部。腎水大陰而占下部。五臟有七神。脾腎各藏二神。呼出心肺。吸入腎肝。一呼脉行三寸。一吸脉行三寸。晝夜有一萬三千五百之氣息。脉巡行周身者五十次。火輕浮而常好騰昇。水沈重而常務下流。若人不察。觀照或失節。思念或過度。則心火熾衝而肺金焦薄。金母苦則水子衰減。母子互疲傷。五位困倦。六屬凌奪。四大增殞。各生百一病。百藥不能立功。衆醫總束手終到無所告矣。蓋養生如守國。聖主常專心於下。庸主常恣心於上。恣上則九卿傲権。百僚恃寵曾無顧民間窮枯。野多菜色。國多餓莩。賢良潛竄。臣民瞋恨。諸侯離叛。衆夷競起。終到塗炭民庶。國脉永斷。専心於下則九卿守儉。百僚勤約常無忘民間勞疲。農有餘

畏鞠躬望簾子中。忽見幽收目端坐。蒼髮垂到膝。朱顏麗如棗。挂太布袍。坐輭艸席。窟中纔方五六笏。全無資生具。机上只置中庸老子與金剛般若。予則盡禮。悉告病因。且乞救。少焉幽開眼熟視。徐徐告曰。我是山中半死陳人。拾樝栗食。伴麋鹿睡。此外更何知哉。自慚遠勞上人來望。予則轉咨叩不休也。恬如捉予手。精察九候。深窺五内。爪甲長半寸。慘乎而攢顙告曰。已哉。觀理過度。終發此重症。實難醫治者公病也。若恃針灸藥三物而後欲救。則雖扁倉不能發其功。公今爲内觀害。勤不積内觀功。終不能起。是起倒依地之謂也。予曰。願聞内觀之要。力以修之。幽肅肅爾而搖容曰。嗚呼。如公好問之士也。以我昔所聞微告公乎。是養生秘訣而人知少也。公若不怠。必見奇功。久視亦可期。愼莫謾告。告則非唯無益公。大有害我矣。夫大道分而兩儀在。陰陽交和人物生。

枯雙脚如浸氷雪底。兩耳似行溪聲間。肝膽怯弱。而擧措多恐怖。心神困倦。而寤寐見種種境界。兩腋鎭生汗。雙眼常帶淚。於此雖遍投明師廣探名醫。衆方不能救。百藥總無驗。或人曰。城之白川山裏有巖居者。名曰白幽。壽算閱三四甲子。人居隔三四里程。見之如狎似愚。不好見人。行則走必避。人無辨其賢愚。里人專稱爲仙人。聞故常山氏之師範。而精達天文。深通醫道。有人盡禮咨叩。則希吐微言。退而考之。大利人矣。於此寶永第七庚寅孟正中。竊著行纏。發濃東。越黑谷。到白川邑。卸包於茶店。直入山谿。行二里餘。而乍失樵徑。有老父。杳指雲煙間。有黃白而方寸餘者。隨山氣或顯或隱。言是幽之洞口所垂下蘆簾也。予則褰裳上。沿溪流。陟巉巖。氷雪咬鞋。雲露壓衣。辛苦漸到彼簾子處。風致清絕。實非人間。心魂震怖。肌膚戰栗。且傍巖根數息者數百。衣振正襟

○評曰。此詩呵道士學錬鍜術終無益。益其精者。精所謂精神也。素問云。恬憺虛無。眞氣從是。精神內守。病何從來。今言平生守一無適去。專養本元氣。使精神充於內。則寔所謂益其精者也。師近頃見爲初心辨道。諸子進止不節。急緩不中。卻結病因。往往困苦。有數行葛藤。甚助進修。大救禪病。看讀得益者寔多。從前困倦懊惱。當向勞死底。十之八九蘇。諸子爭傳寫。名道夜船閑話。今與寒公益精詩。大意相類。故不顧繁文。記于此。閑話云。山野初見道頃。纔苦吟者兩三霜。乍一夜忽然落節。從前多少疑惑和根氷融。曠劫生死業根。徹底漚滅。自謂。道去人寔不遠。古人三二十歲是何揑怪矣。怡悅忘蹈舞者數月。向後回顧日用動靜二境全不調和。去就兩邊總不脫洒。自謂。猛著精彩重一回捨命去。越咬定牙關。瞪開眼睛。欲寢食俱廢。既而未亘期月。心火逆上。肺金焦

惡鬼神畏之云云。又事物紀原八桃版桃符說當并看森殼翻譯名義
集十物篇曰。五辛。一葱。二薤。三韮。四蒜。五興渠。茱萸酒群玉府曰。費長
房謂桓景曰。汝家九日當有災厄。急宜去令家多作絳囊盛茱萸以繫
臂登高飲菊花酒。此禍可消景如言。舉家登山。夕還見鷄狗牛羊一時
暴死云云。帶虎睛事迹未詳。狗杞事文類聚後集二十九。朱孺子幼事
道士王元成。居大若巖。一日汲于溪見二華犬。因逐之。入于狗杞叢下。
掘之根形如二犬烹食之忽覺身輕。飛千峯上。雲氣擁之而去。
卜擇幽居地。天台更莫言。猿啼谿霧冷。獄色草門連。折葉覆松室。開池引
澗泉。已甘休萬事。采蕨度殘年。
益者益其精。可名爲有益。易者易其形。是名爲有易。能益復能易。當得上
仙籍。無益復無易。終不免死厄。

貪婬狀若豬。義楚六帖二十四引雜阿含云。有行欲豬。貪糞豬。糞中眠立自樂爲餘不知。人亦如是。自行惡欲爲餘。不知險巇。莊子列禦寇篇曰。孔子曰凡人心險於山川難於知天。

有漢姓傲慢。名貪字不廉。一身無所解。百事被佗嫌。死惡黃連苦。生怜白蜜甜。喫魚猶未止。食肉更無厭。

黃連。本艸綱目十三黃連下注曰。黃連性寒味苦。白蜜。同三十九。有蜂蜜或名石蜜說。

縱儞居犀角。饒君帶虎睛。桃枝將辟穢。蒜殼取爲瓔。暖腹茱萸酒。空心枸杞虀。終歸不免死。浪自覓長生。

犀角。本艸犀能避邪精鬼魅中惡毒氣。或說辟塵犀辟邪犀辟寒犀。桃枝。禮記檀弓下篇曰。君臨臣喪。以巫祝桃茢執戈惡之也。注曰。桃性辟

行曳履也。躧所綺切。說文舞履也。徐曰。躧履謂足跟不正納履也。引史記邯鄲女子跕躧履舞者。足踵不正納也。前漢雋不疑傳。躧履起迎。師古曰。履不著跟曳之而行。言其遽也。史記貨殖傳。拈抹取撚也。

不行眞正道。隨邪號行婆。口慙神佛少。心懷嫉妬多。背後噇魚肉。人前念佛陀。如此修身處。難應避奈河。

行婆。禪書之中婆子之行道者名爲行婆。或爲道婆。如龐行婆。陳道婆。稜行婆類。嫉妬。楚辭註。害賢曰嫉。害色曰妬。修身。涅槃經二十九曰。若不能攝五情諸根。名不修身。不能受持七種淨戒。名不修戒。奈河。地獄也。翻譯名義集云。捺落迦。此云不可樂。亦云苦具。或曰那落迦。

世有一等愚。茫茫恰似驢。還解人言語。貪婬狀若豬。險巇難可測。實語卻成虛。誰能共伊語。令教莫此居。

淚如珠子顆。蒙求上卷曰。淵客泣珠。舊注引博物志云。鮫人從水中出向人家寄住。積日賣絹。臨去從主人索器。泣而出珠滿盤。以與主人。別離。楚辭九歌曰。悲莫悲兮生別離。

○評曰。此詩聞人啼哭聲卒然而述者也。六道不干我者。言生死輪轉皆盡安心假我所爲。而本有自性眞我上者。毫釐不相干也。

婦女慵經織。男夫懶耨田。輕浮耽挾彈。跕躧拈抹絃。凍骨衣應急。充腸食在先。今誰念於汝。苦痛哭蒼天。

輕浮。阮嗣宗詠懷詩曰。平生少年時。輕薄好絃歌。見文選。挾彈。說苑曰。吳王欲重刑。諫者死。舍人曰。園有蟬。悲鳴飲露。不知螗蜋之在其後。螗蜋捕蟬。不知黃雀之在其後。臣挾彈丸。欲取黃雀。不覺露沾衣。如此皆務欲得其前。不顧其後。吳王乃罷。跕躧。韻會跕的協切。一曰徐行也。又

混沌。莊子應帝王篇曰。南海之帝爲儵。北海之帝爲忽。中央之帝爲渾沌。儵與忽時相與遇於渾沌之地。渾沌待之甚善。儵與忽謀報渾沌之德。曰。人皆有七竅。以視聽食息。此獨無有。嘗試鑿之。日鑿一竅。七日而渾沌死。租調。後漢書明帝本紀曰。勿收今年租調。租宗蘇切。音租上聲。田賦也。又聚也。詩豳風予所畜租。唐武德二年初定租庸調法。注曰。有田則有租。有家有調。有身有庸。租出穀。庸出絹。調出綿云云。爭一錢。事文類聚前集二十六曰。曹子建樂府曰。巢許蔑四海。商賈爭一錢。亡命。史記張耳傳曰。張耳嘗亡命游外黃。注。崔浩曰。亡無也。命名也。逃匿則削除名籍。故以逃爲亡命。外黃處名也。

啼哭緣。何事淚如珠子顆。應當有別離。復是遭喪禍。所爲在貧窮。未能了因果。冢間瞻死屍。六道不干我。

岳。培㠐慢林樹。終難救濟也。是故或惆悵。或狐疑。斯蹇者。寒山子今窮巷凍饑貧士。而不見信受教化底一人。是故。人皆雖冷笑輕忽。誰知乾坤大地寒公一箇全身。萬象森羅日月星彩總是寒山萬德瑞相好。此時無不度盡底衆生。無漏聖化底品類。是故言。獨立兮忠貞。

豬喫死人肉。人喫死豬腸。豬不嫌人臭。人返道豬香。豬死拋水內。人死掘土藏。彼此莫相噉。蓮花生沸湯。

蓮華佛劫禪師戒殺文曰。貪他一臠。又還佗一臠。古聖留言終不僞。若能戒殺勤念佛。決到蓮臺上品會。必矣。

○評曰。此詩呵四生互相噉食而生死無究。

快哉混沌身。不飮復不尿。遭得誰鑽鑿。因茲立九竅。朝朝爲衣食。歲歲愁租調。千箇爭一錢。聚頭亡命叫。

山阿。被薜茘帶女羅。乘芳。文選古詩曰。涉江采芙蓉。蘭澤多芳艸。采之欲遺誰。所思在遠道。路漫同古詩曰。還顧望舊鄉。長路漫浩浩。心惆悵狐疑。同曹子建洛神賦曰。感交甫之棄言兮。悵猶豫而狐疑。惆悵。玉篇悲愁也。增韻失志望恨貌。無成。楚辭遠遊篇曰。聊仿佯而逍遙兮。永歷年而無成。斯蹇。宋玉九辨曰。蹇淹留而無成。又九章曰。何獨樂斯之蹇蹇兮。願蓀美之可完。喔咿。屈原卜居篇曰。喔咿儒兒。註云。強語笑。獨立。文選李蕭遠運命論曰。夫忠直之迕主。獨立之負俗。理勢然也。

○評曰。此詩述賢才在野不逢聖明之君。嘆有楚辭體裁。有人坐山陘者。寒公自言也。言寒山子既入得大道。坐斷本分家山。雲卷兮霞纓者。自是人迹不到底妙峯頂也。乘芳兮欲寄。以此道德餘薰。施與一切人。欲利益人天。路漫相隔絕也。是非寒山子捨隔世人。人人自築人我山

樹。歲暮可言飯。

○評曰。此詩賦鍊鍛道士終無所益。山客者谷飲岩棲求長生底道士也。悄悄。常懷憂愁。不安不樂也。因何如此。今千辛萬苦雖求久視術。歲序隨日遷流。形骸逐歲困衰。雖尋覓伏苓葛根等藥物。耕破山徑。鑿開林藪。擯斥擇拾。不見一箇成得仙道底漢魏之時人。庭廓雲初卷者。人人本具底寒山。寔不老不死鄉國。霧盡雲收。洞然明白。寥廓虛靈。只一輪明月而已也。因何不歸入人人具有底家山。徒辛苦求丹竈功歷。皆盡老死而道士舊棲修鍊場者。山月而已。桂子發天香。依舊留連也。

有人坐山陘。雲卷兮霞纓。秉芳兮欲寄。路漫兮難征。心惆悵狐疑年老已無成。衆喔咿斯蹇。獨立兮忠貞。

陘。奚輕切。音刑。廣韻連山中絕也。有人坐山陘。楚辭九歌曰。若有人兮

能逢慧日照耀。故其凍餒饑寒不可忍。是非今日如此而已。未來永劫貧困可知。杳嶂恒凝雪者。杳。渠。遠合切。重疊也。言人我重疊深山一點。不能觸般若智火。故慳貪執著氷雪鎖堅剛。而諂曲阿諛稠林晝夜吐烟。苦聚可知。艸生芒種後者。根本所見顚倒。故萬境皆顚倒。此有沈迷客者。此中長者子。迷中添迷。暗上重暗。何日得見阿字不生慧日。

山客心悄悄。常嗟歳序遷。辛勤采芝朮。披斥詎成仙。庭廓雲初卷。林明月正圓。不歸何所爲。桂樹相留連。

悄。說文憂也。詩。憂心悄悄。芝朮。三體詩許渾詩曰。更欲尋芝朮商山便寄家。注。芝瑞草。本草。有赤白黑青黃等芝。朮。本草。一名山薊。一名山姜。一名山連。並久服。輕身延年不飢。披。柴。疏鳩切。晋寬案也。求也。桂樹。文選。劉安招隱士曰。攀援桂枝聊淹留。沈休文學省愁臥詩曰。山中有桂

謂。雖末運澆季。佛法未墜地在。佗後大有可觀事。常不堪歡喜。既而今回顧西東。寥寥而無聲。無臭。何哉。得力當否乎。將又別有端由乎。夫絲者非搦人淚袋。非袋壘淚滴千行。岐非斷人腸刄。非刄籍腸痛九回。禪非刺人心肝戟。非戟我心肝碎欲落。有志人見此文喪盡。誰無此嘆。所恨。我嘆果而亡羊補牢之類乎。寔可悲矣。

山中何太冷。自古非今年。沓嶂恒凝雪。幽林每吐煙。草生芒種後。葉落立秋前。此有沈迷客。窺窺不見天。

沓嶂。文選註。重山也。芒種。五月節。立秋。七月節。曆書。五月節曰芒種。沈迷客。劉從益詩。陰魄沈迷終鬼錄。陽精飛鍊即心仝。三山縹紗誰能到。日下身安亦是仙。

○評曰。此詩賦無明長夜境界。山中何太冷者。言無明人我山中終不

年擁葉不展臥單國師有一生涯煨芋咽糞火老骨紫野二十年入乞者隊裏精錬華園許多年爲細民奴僕淸苦。如北甲靈嶺古佛每禪坐或五日或七日。氣息必絕。人見以爲逝。果而其得處照耀古今。如東奥瑞岩開祖。初在徑山打坐僧堂後架者三年。臂骨破。頭腦腫爛。蟲湧一寸。如由良導師。在大宋九年。常帶涙坐。其餘古聖苦修不暇枚擧。每思念如上芳躅。雖仲冬嚴寒日。背後必有汗矣。我輩何人哉。怪哉。古者大難。今時甚易。取易乎。取難乎。雖不及我取難矣。何故。夫今時易幸易。甘而從之則空。認得光影。不能及小果聲聞。恰如狐狸在舊窠。自救亦不了。古難忘難從之。則果而徹法淵源。爲眞正賢聖佛祖。佗後利濟群生。恰如老龍行雲雨。寔痛快也。大丈夫見其擇之。山野初在叢林日。一堂四五十輩。盡道堂中大半是抱道得力上士也。處處叢林類皆然。予竊

鄉歡喜哉。不見經中曰、太子次到苦行林中尼蓮禪河側、安禪定坐。苦修六年。瘦如枯木。終閻浮樹下在吉祥草褥上、霍然大悟。自思惟。我所得法甚深難解。衆生不能信受。生誹謗當墮惡道。迦葉尊者十二行淸苦非今人可及。如脇尊者。聖壽八十。脇終不到席。二祖大師少室峯臘雪埋腰。常禪師結艸菴於大梅絕頂。荷葉衣松華食。三十年戴八寸鐵塔。警睡眠。趙州和尙結燼木爲禪牀脚。專窮明大事。楊岐和尙破屋二十年。滿牀吹雪眞珠。百丈大師一日不作一日不食。大醫禪師攝心無寐凡六十年。玄沙和尙食纔接氣。常終日定坐。靈祐禪師在大潙峯頂。四十年精修。無堂宇。無常住。如慈明和尙。寔祖庭精進幢也。在汾陽。不顧河東苦寒。辨道刺錐於股不眠。其得力果而爲西河獅子王。已哉一掃四海。今其有誰哉。實志和尙一座十日。象骨老師打坐七日。有四十

亦不好親近佗。以待俊逸豪邁宿挾靈骨底衲子、施惡毒鉗鎚、垂辛辣
手脚。驅耕奪飢、拔釘除楔。管打出一箇半箇、挑慧日於澆季。留眞風於
末運。以報答佛祖莫大深恩焉。是我黨懷素。當家古實也。今時即不然。
盡道。求心罷處即是菩提。一念不生即是佛。於此不知一丁底瞎禿、不
堪一炷底癡奴、懶產業。不能養妻子。剃頭入寺底懦父、簇簇幷圍。大口
雌辯。恣打雜話來。纔上蒲團乍眷睡。頭亦將落。恰似舟子幷列一等推
櫓。堂外窺望漢見、合掌讃歎曰、可貴滿堂盡是禪定成熟諸大士。寔希
有一會。其中見未能睡底、即浪笑指曰、彼是求心未休底、嗟似即似。任
佗睡得十成、儞若未一回見性。許儞和睡未睡、總是一箇無明革囊也。
大錯了。夫求心休者、參玄功畢、棘林透過後、依舊眼橫鼻直。火煖水冷。
名之眞正大休罷底時節。若未然、如客路人強自勤拗息歸心。豈如還

羽妨學者悟門者。禪門者非所以按牛頭喫艸塗糊佗面門者。禪門者非所以未得謂得未證謂證欺誑佗人者。禪門者非所以憎違自家所見厭惡佛經祖錄者。禪門者非所以認得見聞覺知識神以爲直指者。禪門者非所以認八識賴耶闇窟爲佛心者。禪門者非所以認佗人胡亂所說爲自得力者。禪門者非所以入授死法爲一生擬議不來底鈍漢者。禪門者非所以舐入涎唾以爲見性者。禪門者非所以認無事窠臼日日打睡空消信施者。禪門者非所以衒販自店阿魏謗抑佗藥功者。只願追慕南泉長沙黃檗首山石霜韶石黃龍楊岐眞淨東山息耕妙喜遺韻。再挽囘眞正參玄古風。只單單以佛祖不傳妙道挂在胸間。水亦不受佗一滴。三二十年精錬刻苦。見刺盡滲漏脫。遂透徹祖師最後因緣。敷參天荊棘。鎖向上牢關。如饑鷹窺尖兎。似惡虎嘯丘壑。佛祖

貪求功德者、禪門非所以誦神呪唱秘文希望奇驗者、禪門非所以行衆善期佛果者、禪門非所以枯坐泯智歸斷滅者、禪門非所以多拜多禮扣多少神佛貪禱福德者、禪門非所以死守規矩準繩以爲極則者。禪門者非所以撚亂棒放胡喝張勢威者、禪門者非所以爪水精珠擎金香爐衒殊勝者、禪門者非所以繰人情繩索羅寵學者者。禪門者非所以諛權勢阿貴顯種利用者、禪門者非所以莊嚴佛像飾堂閣以當佛法者、禪門者非所以恃博覽強記高抗自負者。禪門者非所以瞎問盲答好勝負者、禪門者非所以嗜文藻綴詩偈釣聲名者、禪門者非所以鬧熱多衆徒消信施者。禪門者非所以寂默靜慮偸安閑終世者。禪門者非所以不淨說法貪財施者。禪門者非所以衒賣下火道號積錢帛者、禪門者非所以說相似禪瞎卻他人眼者。禪門者非所以鑽腋出

彼昨所見其與其今初來那。何某衰邁來著爐。何某邑長先坐上頭。莫恐怖。莫隔碍。我見公輩。如佛菩薩相。何故。人人具有不劣佛不異祖底佛性故。知火熱了水冷底物是也。我有不轉肉身卽坐成佛法。居吾語儞於此傾心腸。洗肝膽。莫說穢話。自午時說到晡時。張三亦悟去。李四亦會了。於此老幼奔波擬靈鷲一會。稱龍華三會。抛錢財如飛蝗。積束帛如蒸雲。動人心有滿慈辨財。聚信施有目連神通。是道不淨說法。任佗玉饌溢器鬪蟲。珍饈堆盤生毛。如眞正辨道上士。縱雖饑眼暗渴倒死。總所不顧也。專慈念。以清淨心行。依四弘願行。誘引敎化。是爲小施。禪門卽不然。專行大施。以之爲報恩。所謂大施者。片言不放。點滴不施。學者水亦不請佗一滴。是爲心要。夫禪門非所以恐生死勤求涅槃者。禪門非所以厭穢土志念淨土者。禪門非所以行禮拜恭敬以爲究竟

世中身得安樂衆生聞法除瞋癡心。以是因緣未來世中得無碍辯衆生聞法信心無碍以是因緣未來世中信心明了。戒施聞慧亦如是。故知法施殊勝過於財施鶴林曰海藏龍宮一切經卷序正流通間。無不演法施功德。寔知法施可貴勝因雖然。纔交名聞利養心。挾憍慢勝行心。則名之爲不淨說法卻是爲地獄惡果是故法施寔可貴。法施寔可恐也。淨名曰莫以生滅心說實相法又曰。不具眞正智見。不能辨人根機。妄莫說法。莫對大乘機說小乘法。信哉。邪人說正法。正法成邪法。蓋施有大施有小施。往往學佗人口頭三昧纔取一兩卷經書胡亂臆覺情解來聚。無智男女打杜選雜話了。自道行法施是何心行。一等有賤賣僧部屬諂贋緇流類。到處誑唬閭閻。聚多少瞎老婆跛臭婦足亦不洗底賤人纔見一人則召召招喚閙閙和笑。善來諸善士疾來坐彼與

間法。佛說施中法施爲第一。財施有量。法施無量。財施欲界報。法施出三界報。財施不能斷滿。法施淸昇彼岸。財施感天人報。法施通感三乘果。財施智愚俱用。法施唯屬智人。財施能得福。法施益能所。財施益色身。法施利心神。財施增貪病。法施除三毒。大集經曰。施寶雖多。不如至心誦持一偈。法施最妙。勝過飮食。優婆塞戒經曰。若有比丘比丘尼優婆塞優婆夷。能敎化人。具足戒施多聞智慧。若以紙墨令人書寫。若自書寫如來正典。然後施人令得讀誦。是名法施。如此施人者。未來世中天上得好上色。何以故。衆生聞法。斷除瞋心。以是因緣。未來世中得成上色。衆生聞法。慈心不殺。以此因緣。未來世中得成上色。得壽命長。衆生聞法。不盜他財寶。以是因緣。未來世中多饒財寶。衆生聞法。開心樂施。以是因緣。未來世中。身得大力。衆生聞法。離諸放逸。以是因緣。未來

能見也。況彼燕不拜穗秋成哉。是比二乘偏眞行者終不能得菩提妙果。蓋夫如眞正佛子。則不然。憤起傑烈勇猛信心。激發長劫不退大志。潛行密參。終刺瞎娘生雙眼睛。踏斷生死罪累根。窮決祖師最後因緣。跨跛盲驢。鞭瞎死虎。普惱害方來衲子。以充大法施。所以大丈夫論曰。財施在人道中。法施在大悲中。財施除衆生身苦。法施除衆生心苦。財施作無盡錢財。法施作無盡智財。財施爲得身樂。法施爲得心樂。財施爲衆生所愛。法施爲世間所敬。財施爲愚人所愛。法施爲智者所愛。財施與現樂。法施與天堂涅槃樂。偈云。佛智處虛空。大慈爲密雲。法施如甘雨。充滿陰界地。四攝爲方便。安樂解脫因。修治八正道。得涅槃果。又未曾有經天帝問野干曰。施食施法有何功德。曰。布施飮食者。濟一日命。布施珍寶者。濟一世乏。增繫縛。說法敎化爲法施。能令衆生生出世

循之義故。若又以彼默坐爲窮竟。循行之。則有五箇門人。五箇死獦獺。有八箇弟子。八箇死獦獺。非唯不能利佗。自救亦不了而已。恁麼默默在林藪陋巷地。重歲月。依然不能出離從前智境窠宅。智境者。以欲空盡思念而成道果。爲能趣智。以寂默昏湛處爲所趣境。是不覺陷墜偏小空果邪坑者也。枯槁。非堅衞者。言大凡出家者訪明師。隨良友。成辨自家屋裡金剛不壞正體得。作法城金湯。永留佛祖慧命。是大丈夫兒能事。而出家兒懷素。可謂法門堅固衞護也。豈空如槁木死灰去。消信施者哉。者般漢子以枯竭思念摧殘情念爲懷。恰如仲冬風刀嚴寒霜刀。竟爲自己天然固疾自然重痾。佛祖亦不能治醫。土牛耕石田者。夫牛性遲鈍者也。況夫土牛乎。其狼滯癡澁寔可知。石田者。四面悉沙石。而徹底無一滴膏土者也。鞭彼土牛。耕彼石田。縱歷驢年。寸草青亦不

小乘偏執窠子。錯爲佛法底默照邪黨。詩所謂默默永無言。後生何所述言學道人豈夫一向無靜坐耶。夫如眞正衲子。其初且凝定兀坐。起大疑團。奮大精神。沈吟純工。一朝乍寂滅現前。瞎却凡聖不二正眼。打失魔佛同時眞理。而後觸作眞正明眼宗師。拔却千尺劍樹爪牙。擊碎萬斛雜毒命符。蹈翻佛界。遊戲魔界。建通上孤危法幢。開徹下險峻爐鞴。斬奪人天命脈。刺害佛祖慧眼。而以爲報恩。是應將搏者。先揖。蠖將伸者先屈義也。豈効彼我空偏枯流類。一生空守槁木去者哉。有一般。外無訪師求道大志。內無自性圓頓正見。徒空盡自家生滅心。終灰心泯智如古廟裏香爐去而後。欲成大道。徒日日默坐。今年恁麼死猲獺地去。明年亦恁麼死猲獺地去。十年五歲終到頭白齒黃眼枯耳凋。依舊只是一箇死猲獺地。縱有後生門徒。呼什麼爲我師教示。述行之。述

碍。終隔三千萬里波浪。永流轉三界二十五有苦趣。因什麽如是者。諸苦所因貪欲爲本故。以苦因結苦果。譬如紙婆果。何時有休期。寔可悲也。

默默永無言。後生何所述。隱居在林藪。智境何由出。枯槁非堅衛。風霜成天疾。土牛耕石田。未有得稻日。

無言。論語陽貨篇曰。予欲無言。子貢曰。子如不言則小子何述焉。子曰。天何言哉。四時行焉。百物生焉。天何言哉。枯槁。莊子齊物論篇曰。形固可使如槁木。而心固可使如死灰乎。今之隱几者。非昔之隱几者也。石田。史記子胥曰。猶石田無所用。注。石田不可耕也。述。棗。食律切。音術。循也。又紀人之事。纂人之言。皆曰述。

○評曰。此詩賦方等彈呵大旨。以責緘默枯坐一生糞盧屠地而學彼

惡煩惱所生煩惱。又名爲惡。如是煩惱。則有二種。一因。二果。因惡故果惡。果惡故子惡。如紝婆果。其子苦故。華果莖葉一切皆苦。猶如毒樹其子毒故果亦是毒云云。同第二十九卷云。如紝婆蟲樂紝婆樹。迷惑愛著。生死臭穢。又俱舍頌疏第十八卷。從賃婆種賃婆果生。其果大小如苦楝子。其味極苦。

○評曰。此詩說人世危殆朽木船者。五蘊形質也。紝婆子者苦果也。言人人乘四大假合幻化敗壞漏船。錯作堅固安逸思。恣五欲貪求五塵苦果。永在生死苦海中。是故。利衰譏譽八風碎四山。怒吼貪瞋癡慢萬浪浸九天。漲激。永夜長劫苦聚無間斷。齎一宿糧者。言只一念希望貪求妄心而已。寔一點無菩提資糧貯。去岸三千里者。言涅槃常樂彼岸。雖湛然而不離當處。觸目皆是而塵塵刹刹寂光本土。被三毒電影障

年一燒。黃河千年一淸。左傳襄八年曰。子駟曰。周詩有之曰。俟河之淸。人壽幾何。注曰。言人壽促而河淸遲。後漢書趙壹傳云。有秦客者。乃爲詩曰。河淸不可俟。人命不可延。曷何也。鬒。詩君子偕老篇曰。鬒髮如雲。注曰。鬒黑也。又稠髮。黑髮也。努力。文選古樂府曰。少壯不努力。老大徒傷悲。

○評曰。此詩專賦遷流無常。問。鬒髮時須努力。如何努力得成菩提。答。若眞箇努欲得菩提。須見性一回。若無見性眼。行萬行。縱歷僧祇劫數。捴是生死大兆。

乘茲朽木船。采彼紕婆子。行至大海中。波濤復不止。唯齎一宿糧。去岸三千里。煩惱從何生。愁哉緣苦起。

煩惱。涅槃經第三十四迦葉品迦葉菩薩白佛言。煩惱者。所謂惡也。從

化無窮。爲何鬼魅祟。呼彼名。思議尋討間。必爲彼驚落心魂。諺曰。心動則鬼神振鐵杖。又曰。驚怖妄起。主心不定故。然便呼名者。返照自心謂乎。返照自心。則是喚起自己本來人者也。自己本來人纔出頭。則柳失綠。花失紅。火失熱。水失冷。其光明盛大。而透淡徹泉。名之爲毘盧全身。名之爲金剛正眼。十方法界不見佛不見祖。上下四維。一團寶光聚。閑神野鬼乞命無暇。何處留痕跡。問。自心如何喚起。曰。行路若見瑞岩老。低頭合掌。子細問訊。五燈會元潙山章曰。蚊子上鐵牛。無汝下觜處。蓋謂潙山本於寒公語乎。

浩浩黃河水。東流長不息。悠悠不見清。人人壽有極。苟欲乘白雲。曷由生羽翼。唯當鬒髮時。行住須努力。

浩浩。水廣流貌。黃河。事文類聚前集十六。引王子年拾遺記曰。丹丘千

家或有髑髏呼。或有釜鳴。是何怪乎。對曰。昔軒轅黃帝問白澤曰。天下寧靜見何怪乎。白澤乃曰。若要解怪。但將白澤圖於堂上挂之。雖有妖怪。不能成災。赤蛇落地鬼名大扶。鷄生輭子鬼名彩女。見蛇相交鬼名神通。霄間鷄聲鬼名賊吏。蛇入人家鬼名孔禽。鳥屎汚衣鬼名飛遊。狗上人屋鬼名春女。雌作雄聲鬼名死龍。狗行反耳鬼名大陽。野鳥入屋鬼名不穴。狗上屋上臥鬼名神霞。狐狸作聲鬼名懷珠。鼠耕破地鬼名金光。血汚人衣鬼名遊幾。飯甑作聲鬼名歛女。夜夢不祥鬼名臨月。鼠聲喞喞鬼名金曹。竈前生飯菜鬼名水淡。予謂。呼名自當去。呼名衆說甚不諦當。有人常受持神咒。語得白澤語底。見鬼魅時。或誦呪或呼名。避彼災害。雖然擇千百人求誦呪人。七八箇亦難得。擇千百人求憶持白澤語底。二三箇亦難得。縱復有語得白澤語底人。鬼若現殊形異貌。變

滿路香。開元遺事曰。都中名姬楚蓮香者。國色無雙。時貴門子弟相詣之。蓮香每出處之間。則蜂蝶相隨。蓋慕其香也。角婢。謂了角小婢也。績。韻會結也。絲穗也。閣奴。謂閣豎乎。惶胡光切音黃。惑也恐也。

○此詩。毀刺自省。

若人逢鬼魅。第一莫驚懅。捺硬莫采渠。呼名自當去。燒香請佛力。禮拜求僧助。蚊子釘鐵牛。無渠下觜處。

鬼魅。法華文句十陀羅尼品釋曰。咒者是鬼神王名也。稱其王名。部落敬主不敢爲非。故能降伏一切魍魎。

○評曰。此詩欠二時粥飯。世有稱白澤圖者。雖未詳來故。戶戶有之。故且玆記。其圖曰。黃帝巡狩到於東海濱。時白澤出。能言語以足知萬物情。除民時害。賢君明則顯。天地祥瑞也。涉世錄二十一日。李子問曰。人

馬頭金匼匝。睥睨。文選注曰。睥睨含喜微笑以竊視義也。流盼貌。又中庸注。睨邪視也。醦。彙。所斬切。酢味也。夫壻。詩格十四許褒詩。自家夫壻無消息。卻恨橋頭賣卜人。

○此詩全體提起。

春女衒容儀。相將南陌陲。看花愁日晩。隱樹怕風吹。年少從傍來。白馬黃金羈。何須久相弄。兒家夫壻知。

衒。韻會音眩。自矜也。法華經安樂行品曰。衒賣女色。文選曹子建求自試表註。引越絕書曰。衒女不貞。衒士不信。陌梁。武帝河中之水歌曰。十四採桑南陌頭。韻會。阡陌田間道。南北曰阡。東西曰陌。又市中街曰陌。

羣女戲夕陽。風來滿路香。綴裙金蛺蝶。插髻玉鴛鴦。角婢紅羅縝。閹奴紫錦裳。爲觀失道者。鬢白心惶惶。

張㬠齧齒也。

○評曰。此詩比也。呵世人爲小利鬪爭困苦。

極目兮長望。白雲四茫茫。鵄鴉飽腲脮。鸞鳳飢徬徨。駿馬放石磧。蹇驢能至堂。天高不可問。鷦鷯在滄浪。

腲脮肥貌。文選善注曰。阿那腲脮舒遲貌。鸞鳳賈誼弔屈原賦曰。鸞鳳伏竄兮鵄鴞翺翔。徬徨。徘徊也。文選向曰。徬徨心不安也。蹇驢賈誼屈原賦曰。騰駕罷牛驂蹇驢兮。驥垂兩耳服鹽車兮。

洛陽多女兒。春日逞華麗。共折路邊花。各持插高髻。髻高花匼匝。人見皆睥睨。別求醃醃憐。將歸見夫壻。

華麗。文選陸士衡擬古詩曰。京洛多妖麗。高髻。後漢書列傳十四馬廖傳曰。長安語曰。城中好高髻。四方高一尺。匼匝。當作匼匝。周繞也。杜詩。

○評曰。此詩呵世癡福人。常行憍奢。恣打不善。一朝福力盡禍害聚日。百計亦不可救。是畢竟依不知因果。紙袴瓦作褌。夫紙不可作袴。而把裁袴著。夫瓦不宜褌。而把綴褌帶。其落魄鬼怪驚目之形模。郎當破墮反常之體裁。如展一幅巧畫。是自寒公超過人意之表遊戲文字之外出格脫洒活達微妙三昧力。唱出者也。但恨無知音抱腹大笑。

我見百千狗。箇箇毛鬇鬡。臥者渠自臥。行者渠自行。投之一塊骨。相與啀喍爭。良由爲骨少。狗多分不平。

一塊骨。大般若論曰。有擲塊於犬。犬逐塊也終不止。戰國策昭襄王篇曰。秦相應候曰。見大王之狗。臥者臥。起者起。止者止。毋相與鬭者。投之一骨。輕起相牙者。何則有爭意也。鬇鬡髮亂上士行切。下女耕切。啀喍狗欲嚙也。法華譬喩品科註。啀喍嘷吠者。發言論決是非之理也。啀喍

復爲陵乎。方平曰。東海行復揚塵耳。々々

我見東家女。年可有十八。西舍競來問。願姻夫妻佸。烹羊煮衆命。聚頭作婬殺。含笑樂呵呵。啼哭受殃抉。

東家女。文選宋玉登徒子好色賦曰。天下之佳人莫若楚國。楚國之麗者莫若臣里。臣里之美者。莫若臣東家之女。佸。詩君子于役篇曰。君子于役。不日不月。曷其有佸。注佸會也。殃。左傳襄公二十八年穆子曰。善人富。謂之賞。淫人富謂之殃。天其殃之也。其將聚而殲旃。

○評曰。此詩訶世人婚姻日往往害物命作慶會。是盡地獄因。

田舍多桑園。牛犢滿廐轍。肯信有因果。頑皮早晩裂。眼看消磨盡。當頭各自活。紙袴瓦作褌。到頭凍餓殺。

頑皮。智度論云。譬如牛皮未柔不可屈折。無信人亦如是。

在賢聖錙銖不增添。淸淨圓明妙明虛靈。了之則爲賢聖佛祖。失之則爲凡愚鬼畜。在凡謂之心火。執置此於道德仁義之上。則陰陰熠熠而將泯沒。置此於好醜五欲之上。則光耀熾盛。而周流十虛。收歸微細。憎愛欣厭。片時無休罷。貪焰瞋火。焦爛諸根。燼滅法財。終化阿毘紫焰。成無間鑊湯。在聖謂之智光。含容大千。全不見纖塵。歸入隣虛。廣於十虛。行法施於三祇無乏。傳靈照於萬有無盡。夫斯謂之無盡燈。

桃華欲經夏。風月催不待。訪覓漢時人。能無一箇在。朝朝花遷落。歲歲人移改。今日揚塵處。昔時爲大海。

桃花。古文前集宋之問有所思詩曰。洛陽城東桃李花。飛來飛去落誰家。又曰。年年歲歲花相似。歲歲年年人不同。揚塵處。列仙傳云。麻姑謂王方平曰。自接待以來。見東海三變爲桑田。向到蓬萊山。水略半也。豈

威曰。按春秋後漢書樂恢傳曰。富於春秋。注曰。春秋謂年也。金羈逐俠客。文選曹子建樂府詩曰。白馬飾金羈。連翩西北馳。借問誰家子。幽幷遊俠兒。祖庭事苑。俠音叶。挾之言俠也。以權力俠輔人也。荀悅曰。立氣齊作威福。結私交。以立彊於世者。謂之遊俠。史曰。今遊俠。其行雖不軌於正儀。然其言必信。其行必果。已諾必誠。不愛其軀。赴士之阨困。既已存亡死生矣。而不矜其能。羞伐其德。蓋亦有足多者焉。玉饌猶珍饈。良朋仲長統樂志論曰。良朋萃止。則陳酒肴以娛之。嘉時吉日。則烹羔豚以奉之。無盡燈。維摩經第四曰。譬如一燈然百千燈。冥者皆明。明終不盡。如是諸姉夫一菩薩開導百千衆生。令發阿耨多羅三藐三菩提心。於其道意亦不滅盡。隨所說法。而自增益一切善法。是名無盡燈。

○評曰。人人有家裡常住不生不滅底一段冷焰。在凡愚毫釐不欠缺。

歎有餘哀。注曰、高樓思婦見月而思切也。雙蜚鷰。文選古詩曰。思爲雙蜚鷰銜泥巣君屋。

○此詩。又是寒山紫羅帳裏眞珠

有酒相招飮。有肉相呼喫。黃泉前後人。少壯須努力。玉帶暫時華。金釵非久飾。張翁與鄭婆。一去無消息。

有酒相招飮。陶淵明雜詩曰。得歡當作樂。斗酒聚北隣。少壯。文選古樂府曰。少壯不努力。老大徒傷悲。金釵。文選曹子建樂府詩曰。頭上金爵釵。腰佩翠琅玕。

可憐好丈夫。身體極棱棱。春秋未三十。才藝百般能。金羈逐俠客。玉饌集良朋。唯有一般惡。不傳無盡燈。

棱棱。韻會棱亦作稜。漢書李廣傳曰。威稜憺乎鄰國。注。李奇曰。神靈之

水中鸂鶒。爭如我破底鸑鷟。鸂鶒五色尾。有如船柁。小於鴨。見于書言。

○評曰。此詩寒山和盤托出底驪珠。

吾心似秋月。碧潭清皎潔。無物堪比倫。教我如何說。

○評曰。此詩賦寒山得力之處絕等比。言吾禪心高閑圓明。恰如秋月十分光輝無一點瑕翳。雖秋月無瑕翳。中間有銀盤昇沈底物。所以棄。棄去比碧潭徹底皎潔明淨。雖碧潭皎潔。四面有椀丘際涯底物。所以棄棄去望西東。無物可比況。所以言。使我如何說。

垂柳暗如烟。蜚花飄似霰。夫居離婦州。婦住思夫縣。各在天一涯。何時得相見寄語明月樓。莫貯雙蜚鷰。

天一涯。文選古詩曰。行行重行行。與君生別離。相去萬餘里。各在天一涯。明月樓。曹子建七哀詩曰。明月照高樓。流光正徘徊。上有愁思婦。悲

淹留。左傳注。淹久也。太半。漢書音義曰。韋昭曰。凡數三分有二爲太半。如殘燭。涅槃經十一曰。譬如燈炷賴膏油。膏油既盡。勢不久停。人亦如是。唯賴壯膏。壯膏既盡。衰老之炷何得久停。逝川。論語子罕篇曰。子在川上曰。逝者如斯。夫不舍晝夜。孤影。文選潘安仁寡婦賦曰。廓孤立兮顧影。塊獨言兮聽響。注曰。丁儀妻寡婦賦曰。賤妾煢煢顧影爲儔。淚雙懸。杜詩曰。素交零落盡。白首淚雙垂。

相喚採芙蓉。可憐淸江裡。遊戲不覺暮。屢見狂風起。浪捧鴛鴦兒。波搖鸂鶒子。此時居舟楫。浩蕩情無已。

淸江。杜子美題江村詩曰。淸江一曲抱村流。鴛鴦鸂鶒。天寶遺事曰。五月五日。明皇避暑遊興慶池。與妃子晝寢於水殿中。宮嬪輩凭欄倚檻爭看雌雄二鸂鶒戲於水中。帝時擁貴妃於綃帳內。謂宮嬪曰。爾等愛

如醉。詩黍離篇曰。中心如醉。蓬蒿。祖庭事苑六曰。漢田横死。門人傷之。遂爲悲歌。言人命如薤上露。易晞滅也。亦謂。人死精魂歸於蒿里。冥冥。後漢書張奐傳曰。奐光和四年卒。年七十八。遺命曰。地底冥冥長無曉期。遮莫。事文類聚別集六曰。終死雌黃曰。遮莫。蓋俚語。猶言儘教也。皺銕佛祖三經注曰。世諦之樂。盡爲苦本。虛受信施。負債何疑。喞銕負鞍。猶是經經之報。老經。老子經也。

〇評曰。此詩述無常。讀老經者。彼經雖委說。示谷神不死之大道。一度陷泉下。則不能再讀也。雖然今所謂老經者。非特指李聃留下底陳編而已矣。

一向寒山坐淹留三十年。昨來訪親友。太半入黃泉。漸減如殘燭。長流似逝川。今朝對孤影。不覺淚雙懸

長保。但看北邙山。箇是蓬萊嶋。

美少年。文選阮嗣宗詠懷詩曰、朝爲二媚少年一。夕暮成二醜老一。自レ非二王子晉一。

誰能常美好。蓬萊嶋。釋曇鸞法師初學二仙術一。後謁二菩提流支三藏一。受二無量壽經一擲二丹經一燒棄。假使隔二弱水三萬里蓬萊嶋一。猶有二身裡蓬萊十二樓一。韻府呂洞賓拋二袖裡青蛇一。參二黃龍禪師一。以二海外蓬萊嶋一。換二唯心淨土一者也。

○評曰、此詩述二入人竟歸二遷流一。示二不二之寶處一。北邙是死屍拋向之地。蓬萊是神仙長生之境。寒山子依二什麼一今指二北邙一道二蓬萊嶋一哉。若人見徹徹底分明。許レ汝自稱二長生久視神仙一。若未レ然。依艸附木、野鬼閑鬼。

竟日常如レ醉。流年不二暫停一。埋二著蓬蒿下一。曉月何冥冥。骨肉消散盡。魂魄幾凋零。遮莫齩レ鐵口。無レ因レ讀二老經一。

圓鑿其孔也謂工人斲木以方笱而內之圓孔。不可入也。故楚詞云以方枘而納圓鑿者。吾知其齟齬而不入爾爲王仲宣詠史詩曰。秦穆殺三良惜哉空爾爲見于文選。驊騮莊子秋水篇曰。騏驥驊騮一日而馳千里。捕鼠不如狸狌。

○評曰。此詩述物各隨其性而可用之意。

誰家長不死死事舊來均。始憶八尺漢。俄成一聚塵。黃泉無曉日。青草有時春。行到傷心處。松風愁殺人。

誰家長不死。左傳子產曰。人誰不死。始憶八尺漢。文選陸子詩曰。昔居四民宅。今託萬鬼隣。昔爲七尺軀。今成灰與塵。漢。稱漢說見事物紀原第十。傷心處。北邙地也。

驊馬珊瑚鞭。驅馳洛陽道。自矜美少年。不信有衰老。白髮會應生。紅顏豈

衣故得在此坐。得種種好食。實是衣故得之。故以與衣。䴺𪍓餅也。

○評曰。此詩託言於貧富。示人情冷暖。

獨臥重巖下。烝雲晝不消。室中雖暡曖。心裡絕喧囂。夢去遊金闕。魂歸度石橋。拋除鬧我者。歷歷樹間瓢。

暡曖暗貌。石橋在天台山。樹間瓢。逸士傳。許由隱箕山。無盃器。以手捧水飲之。人遺一瓢。得以操飲。飲訖挂於木上。風吹瀝瀝有聲。由以爲煩。遂去之。

○評曰。此詩述淸閑獨脫竟界。

夫物有所用。用之各有宜。用之若失所。一闕復一虧。圓鑿而方枘。悲哉空爾爲。驊騮將捕鼠。不及跛猫兒。

圓鑿方枘。史記孟子傳。持方枘欲內圓鑿。其能入乎。索隱曰。方枘筍也。

傍採蓮女。笑隔荷花共人語。見古文前集。綠熊席。事文類聚十一曰。衛靈公天寒鑿池。宛春諫曰。天寒起土。恐傷民。公曰天寒乎。宛春曰。公衣狐裘。坐熊席。是以不寒也。青鳳。韻瑞引拾遺記曰。周昭王以青鳳毛爲裘。歸山丘。者。文選曹子建詩曰。生在花屋處。零落歸山丘。先民誰不死。知命復何憂。

氐眼鄒公妻。邯鄲杜生母。二人同老少。一種好面首。昨日會客場。惡衣排在後。祇爲著破裙。喫他殘餺飥。

惡衣排在後。智度論十四曰。譬如罽賓三藏比丘。行阿蘭若法。至一王寺。寺設大會。守門人見其衣服麤弊。遮門不前。如是數數。以衣服弊故不得前。便作方便假借好衣而來。門家見之聽前不禁。既至會坐。得種種好食。先以與衣。衆人問言。何以爾也。答曰。我比數來。每不得入。今以

時。薩波若海中最妙最玄底大法雨。滴滴圓明滴滴窮竟。洒沾三草根莖。滴資六趣饑渴。歷三大劫無盡時。度一切衆無乏時。其斯之源究。水不窮矣。

生前太愚癡。不爲今日悟。今日如許貧。揔是前生作。今日又不修。來生還如故。兩岸各無船。渺渺難濟渡。

璨璨盧家女。舊來名莫愁。貪乘摘花馬。樂搒采蓮舟。膝坐綠熊席。身披靑鳳裘。哀傷百年內。不免歸山丘。

璨璨。文選注。衣服鮮明貌。莫愁。圓機活法曰。石城有女子名莫愁。善歌謠。若人聞之有忘愁之聲。故名莫愁也。摘花馬。天寶遺事曰。長安俠少每至春時。結朋聯黨。各置矮馬。飾以錦韉金絡。並轡於花木下。往來使僕從執酒盃隨之。遇好酒則駐馬而飲。采蓮。李太白採蓮曲曰。若耶溪

歸老死以令緩進眞修人者也。

慣居隱幽處。乍向國淸中。時訪豐干道。仍來看拾公。獨廻上寒巖。無人話

合同。尋究無源水。源窮水不窮。

○評曰。此詩賦寒山自得底佳趣。仍來。來。仍頻也。尋究無源水。此兩句

一篇主意也。無源水者。人人心上生滅忘心。如霧浮。似烟曳。晝夜相續。

譬如溪間一脈流水袞袞四序無間歇。二乘者汲之盡。得其枯竭日。以

欲成菩提。所以晝夜困苦歷三僧祇劫。菩薩直向本根究竟大事。作麼

生究竟者。辨道人憤起得精神。親向彼起處尋。此水自何處起。何處爲

本根。豎尋橫窮。尋窮終和尋覓底心。一時打失。此即虛空銷殞。鐵山摧

底時節。嶮崖撒手。絕後再蘇底好消息也。是道窮盡無源水。雖窮盡。水

依舊袞袞而無間歇。未徹見本源以前者。生滅無明妄心。既徹見得出

結レ口眇レ目。竪擇横擇。擇擇漸得二十數軸一。令二之包裹一。自印二上頭一了。且令二商記二其價直一搭上印懷レ之告曰。主家必要。今明之間送二金與一レ予手書以取レ之。出矣。商家亦走出。兩手托二履頭一送レ之。夫行三五步而還來告曰。與二好絹二匹一。是亦予室家需。而金空二予囊中一量也。擲二出金囊一。擇レ金取レ之。商出二好絹二匹一落二其價直三分之一一以與レ之。亦送如レ始。是但欲レ得二心於彼快賣一卻彼向擇底上者也。其後雖レ向二期月一。寂無二消息一。終使二商家空搔一レ頭。實可レ惡矣。

白鶴銜二苦桃一。千里作二一息一。欲レ往二蓬萊山一。將レ此充二糧食一。未レ達毛摧落。離レ群心慘惻。卻歸二舊來巢一。妻子不二相識一。

離レ群。禮記檀弓上篇。子夏曰。吾離レ群而索居亦已久矣。

○評曰。此詩賦下多少學二仙鍛一求二久視一人上古來一箇無二成就得一。空困苦終

不忍貸人一錢。情知積粟朽倉而不忍貸人一斗。骨肉怨望於家。細人謗讟於道。鉤距。多智。計較曰鉤距。漢趙廣漢爲京兆尹。善爲鉤距以得事情。設欲問馬價。則先問狗。次問羊。又問牛。然後及馬。參伍其價。以類相準。則知馬之貴賤。不失實矣。是謂鉤距。注。距如鉤。鉤倒掛也。呑之則順。吐之則逆。使人入其術中而不能出。以索鉤其隱情也。見于書言第五卷。又詳蒙求中卷。

○評曰。此詩彈呵世鉤距人也。鉤距設知計穫利者也。買絹先擇綾者。譬玆有一夫。常施姦計以欺人爲賢。一日。整衣正襟從一奴。直行市上。行擇巨商家。謦咳入。商家亦調聲迎入。夫曰。有使命。命予擇綾及綺羅何軸。有其精好者麼。商家曰。有。寔有極精好者。請且入擇焉。越設席。延酒果以饗之。少焉。抱綺羅驚目底數十軸。來推出。夫乃公公然飲噉了。

是寒山家舍。何處是勝處。須是子細參窮。見得分明者。見寒山處處佳境。

東家一老婆。富來三五年。昔日貧於我。今笑我無錢。渠笑我在後。我笑渠在前。相笑儻不止。東邊復西邊。

○評曰。此詩亦是寒山一處好風景。

富兒多鞅掌。觸事難祇承。倉米已赫赤。不貸人斗升。轉懷鉤距意。買絹先揀綾。若至臨終日。弔客有蒼蠅。

鞅掌。莊子在宥篇。遊者鞅掌以觀無妄。注。鞅掌紛泊也。詩。或王事鞅掌。鞅掌失容也。言事煩勞不暇爲儀容也。祇承。彙章衫切。支適也。但也。蓋祇字有兩音。音岐者。神祇之祇。大也。音支者適也。但也。書大禹謨。祇承于帝。不貸人斗升。事文類聚別集第十八卷。王符傳。寧見朽貫千萬。而

○評曰。此詩。賦初心菩薩根力微時以教諭行人。龜古來爲智慧。正宗贊石頭傳云。石頭和尚一日夢。與六祖乘一龜游泳深池。覺原之曰。靈龜智也。池。聖海也。又兩龜定慧二法及二利願行也。今言。根熟之菩薩依二利願行。乘大白牛車。利一切衆生。今根未熟菩薩故。言乘積車。出路頭者。入鄽垂手之義也。一蓋從傍來者。一點客塵緣也。行人正受之力微故。不能觀照彼。轉得領納損道情。是被沈累也。行恩卻遭刺者。譬欲救錯投水人。力微故。卻共溺死之義也。

三月蠶猶小。女人來采花。隈牆弄蝴蝶。臨水擲蝦蟆。羅袖盛梅子。金篦挑筍芽。鬬論多物色。此地勝余家。

金篦。魏武帝患目。華陀以金篦刮之。遂愈。

○評曰。此詩亦是寒山九虎關鎖。學者必莫崑崙去。此地勝余家。何處

更新。誰知席帽下。元是昔愁人。

席帽席字。當作蓆。本羌人首服。以羊毛爲之謂氈帽。秦漢競服之。後以蓆爲骨而鞔之。謂之蓆帽。

○評曰。此詩稱贊菩薩利佗之悲願。愁者。指度生大慈。今言新發意菩薩初聞諸佛菩薩度生願海深廣而不忍棄置苦趣。常生疑悔。後隨大事成辨了。次第悲願厚重。所謂似衆生界未空我心終不飽者。所以道。年新愁更新。誰知席帽下者。言我愁思切非唯今日。曠劫以來切二利願行底愁人也。

兩龜乘犢車。驀出路頭戯。一蠆從傍來。苦死欲求寄。不載爽人情。始載被沈累。彈指不可論。行恩卻遭刺。

蠆。彙丑介切。長尾爲蠆。短尾爲蝎。蜂蠆垂芒。其爲毒在後。

樂者。聽笛聲以攢額。聞棹歌以落淚處。有多少感情。有多少佳趣。是詩家抛身捨命處。所謂誰謂歌聲無意。何以令我愁思多。

杳杳寒山道。落落冷澗濱。啾啾常有鳥。寂寂更無人。淅淅風吹面。紛紛雪積身。朝朝不見日。歲歲不知春。

落落。葉雜合也。啾啾鳥鳴聲也。淅淅風聲也。

少年何所愁。愁見鬢毛白。白更何所愁。愁見日逼迫。移向東岱居。配守北邙宅。何忍出此言。此言傷老客。

東岱。文選古詩。常恐游岱宗。不復見故人。注。岱宗。太山也。人命屬之。樂天詩。東岳前後魂。北邙新舊骨。北邙宅。訓解註。老經卜其宅兆。注。塚穴曰宅。墓域曰兆。

聞道愁難遣。斯言謂不真。昨朝曾趁卻。今日又纏身。月盡愁難盡。年新愁

不足看。只箇不思善不思惡之處即佛法樞要祖庭玄機。閉目切齒。今日亦暗昏昏地去。明日亦暗昏昏地去。終一生爲黑暗鬼窟守屍。寔可悲也。日上巖猶暗。言雖寒山面前阿字不生慧日透霄漢徹黃泉。甚洞然甚明白。如上輩者不能見。煙消谷猶昏。夫三界夢幻火宅。雖毒火既消臭煙永滅爲娑婆即寂光淨刹。爲如上輩爲黑暗長夜牢獄。所以言。

其中長者子。箇箇摠無褌。

白雲高嵯峨。綠水蕩潭波。此處聞漁父。時時皷棹歌。聲聲不可聽。令我愁思多。誰謂雀無角。其如穿屋何。

棹歌。文選善注。棹歌。發棹而歌也。誰謂。詩行露篇曰。誰謂雀無角。何以穿我屋。

○評曰。愁思多者。世稱文人詩夫者。非所以以明眸皓齒朝歌夜絃爲

仲蔚博物善文。好詩賦。常居窮素。所居蓬蒿沒門。長者窮子出法華第

三譬喩品。

○評曰。此篇比也。賦可受五福之賢人在野困六極。然九疇等書經皆

閑事乎哉。以比行人多在邪路不能入眞正道。所謂六極者。第六意識

也。極不祥之極也。九維者。指行人最後證果第九淸淨識也。言雖人人

具有本有圓成自性。含容十虛不爲陝。歸收微塵不爲廣。本來明妙本

來淸淨。不了知心源故。意識恣混亂纏縛。種種困苦懊惱。九維徒自論

者。蹈破第八賴耶暗窟則第九淸淨眞識乍煥發。到大解脫之田地。雖

諸佛苦教諭。無人趣此眞修。似諸佛只自徒論說。縱又有具聰明强記

之才德底之人。永陷墮經論文字草窠。終爲吟艸澤底窮兒。無才閑蓬

門或又一文不知昏愚鈍漢者。死執一般癡禪道文字者不足把。話頭

○評曰。此詩見野人淸閑居處。卒然述。

登涉寒山道。寒山路不窮。谿長石磊磊。澗闊草濛濛。苔滑非關雨。松鳴不假風。誰能超世累。共坐白雲中。

文選古詩。青青陵上柏。磊磊澗中石。韻會。磊衆也。

六極常嬰困。九維徒自論。有才遺草澤。無藝閉蓬門。日上巖猶暗。煙消谷尙昏。其中長者子。箇箇捴無褌。

六極。書洪範。一曰。凶短折。二曰。疾。三曰。憂。四曰。貧。五曰。惡。六曰。弱。注曰。凶者不得其死也。短折者橫夭也。九維曰。九疇乎。書洪範曰。天乃錫禹洪範九疇。一曰。五行。二敬用五事。三農用八政。四協用五紀。五建用皇極。六入用三德。七明用稽疑。八念用庶徵。九曰。嚮用五福。威用六極。遺草澤。文選左太冲詠史詩。何世無奇才。遺之在草澤。閉蓬門。高士傳張

今詩中所謂智者君者。指分別知見思議也。愚者我者。指根本大智不思議也。思議捨不思議而思議。不思議捨思議而不思議也。故言互相拋。不覺一朝契當非思議非不思議底本有。歡喜不足。使曉歌入夜舞。

有鳥五色文。棲梧桐食竹實。徐動合禮儀。和鳴中音律。昨來何以至。爲吾暫時出。儻聞絃歌聲。作舞欣今日。

山海經曰。丹穴之山有鳥焉。其狀如鶴。五采名曰鳳鳥。飲食自歌自舞。見則天下安寧。韓子外傳曰。鳳鳥止黃帝東園。集梧桐。食竹實。

○評曰。此詩山中不圖見希有珍禽。偶爾而賦。

茅棟埜人居。門前車馬疎。林幽偏聚鳥。谿闊本藏魚。山果攜兒摘。皐田共婦鋤。家中何所有。唯有一牀書。

茅棟白屋也。谿艸廬也。

白雲。焉能拱口手端坐鬢紛紛。

○評曰。此詩賦寒公到法成就快樂境界。所謂智者君拋我。言在眞空寂滅空理人者。恐有爲差別假諦。在有爲差別假諦人者。捨眞空寂滅空諦。智指假諦。愚指空諦。寒公今既得眞俗不二空假同時中道純圓聖諦。其快樂不可言。豈其與證我空偏眞假城癡坐鬢紛紛底。可同日語哉。若欲眞正知寒公意。大寶積經文應再三熟讀。寶積經曰。佛言文殊師利儞入不思議三昧耶。文殊言不也。世尊我即不思議。更不見有心相思議者。云何而言入不思議三昧。我初起心欲入此定。而今思惟。實無心相入三昧。譬如人學射。久習則巧也。後雖無心。久習故。箭發皆中。我亦如此。初起心學不思議三昧。繫心於一緣。若久習成熟。更雖無心。恒與定倶。　已上經之文也。

快搒三翼舟。善乘千里馬。莫能造我家。謂言最幽野。巖岫深嶂裏。雲雷竟日下。自非孔丘公。無能相救者。

三翼。文選浮三翼戲中沚。注。三翼船也。沚池也。越絶書伍子胥內經。大翼一艘廣一丈五尺三寸。長十丈。中翼廣一丈三尺。長五丈六尺。小翼廣一丈二尺。長五丈。孔丘公語。先進子曰。先進於禮樂野人也。後進於禮樂君子也。如用之則吾從先進。程子曰。先進於禮樂文質得宜。今反謂之質朴而以爲野人。後進於禮樂。文過其質。今反謂之彬彬而以爲君子。

○評曰。此詩賢人在野之嘆也。言我先進幽野人也。終身無顧問。只孔子一人。我從先進野人。故知己乎。

智者君拋我。愚者我拋君。非愚亦非智。從此斷相聞。入夜歌明月。侵晨舞

疎。既醉。晉書謝安列傳四十九。羊曇。大山人。知名士也。爲謝公所愛重。太傅亡後。羊輟樂彌年。行不由西門路。嘗因石頭大醉。扶路不覺至州門。左右曰。此西州門。羊悲感不已。以馬策扣扉。詠曹子建詩曰。生在華屋處。飄零歸山丘。慟哭而去。

○評曰。此詩專演接引懷妄者。寒公自言也。邯鄲者。指自家本有家鄉。歌聲亦抑揚者。唯有一乘圓音。應上下根機唱出。其巧妙如歌聲隨意而抑揚。此曲。舊來長者從過去威音王以來番番出世如來全無別調也。既醉莫言歸者一切衆生沈醉五濁惡酒。諸佛百計誘引無出離意。在火宅內。留著以長夜苦患。猶爲半日看。不知四火來也。寢宿處者。菩提堂奧。本具家舍。百味具足。羅綺千重也。銀床者。白一色露地白牛車也。

是智者爲甘露。愚而不知佛性服者爲毒。

○評曰。此詩呵無慚年少令發學道心。柳楊謂衒賣妖色也。不作梯航者。謂沈沒生死海中不求出世船筏也。

有一餐霞子。其居諱俗遊。論時實蕭爽。在夏亦如秋。幽澗常瀝瀝。高松風颼颼。其中半日坐。忘卻百年愁。

餐霞。顏延年詠嵇中散詩曰。中散不偶世。本自餐霞人。註。餐霞謂仙也。

論時。時時運也。滕王閣序。時運不等命途多違。瀝瀝水鳴貌。

妾在邯鄲住。歌聲亦抑揚。賴我安居處。此曲舊來長。既醉莫言歸。留連日未央。兒家寢宿處。繡被滿銀床。

邯鄲。文選舞鶴賦。邯鄲善爲歌曲。詩有駜曰。皷咽咽。醉言歸。又庭燎夜如何。其夜未央。注。央中也。兒家。張文成遊仙窟。兒家堂舍賤陋。供給單

死底實相眞觀。長時不休罷之謂也。十年歸不得。忘却來時路。十年者。謂法成就之時也。修行人最初有眞諦。有俗諦。有空理。有假觀。薫錬日入。則眞俗不二。假空一馬。途中與家舍。二共打失。是則中道寶處。忘却彼來時道底十年也。學者須努力。

俊傑馬上郎。揮鞭指柳楊。謂言無死日。終不作梯航。四運花自好。一朝成萎黃。醍醐與石蜜。至死不能嘗。

俊傑。朱子曰。才德之異於衆者也。四運者。運氣論曰。春木運爲初運。夏火運爲二運。土用運爲三運。秋金運爲四運。萎黃。涅槃經十一曰。猶如秋月所有蓮華皆爲一切所愛見。及其萎黃。人所惡賤。盛年壯色亦復如是。石蜜。涅槃經八曰。無碍智甘露。所謂大乘典如是。大乘典亦名雜毒藥。如酥酪醍醐等及以諸石蜜。服消則爲藥。不消則爲毒。方等亦如

道滅德消。坑。黜儒術。四皓於是退而作歌曰莫莫高山。深谷逶迤。曄曄紫芝。可以療飢。唐虞世遠。吾將何歸。駟馬高蓋。其憂甚大。富貴之畏人兮不如貧賤之肆志。乃共入商洛。隱地肺山。

○評曰。此詩演雖千英萬傑之士終爲黃泉人之嘆。

欲得安身處。寒山可長保。微風吹幽松。近聽聲愈好。下有斑白人。喃喃讀黃老。十年歸不得。忘卻來時道。

喃喃。棄那含切。音男。呢喃言不了。又燕語也。

○評曰。此詩意味幽長也。不可鹽吟去。謂得安身處。謂寒山可長保。是亦返照前護淨與卜居二評可委悉也。微風吹幽松。近聽聲愈好。近聽底作麼生。不可崑崙去。讀黃老。黃老道書而論長生久視大道者也。玆所謂讀黃老者。非所以張吾伊聲看讀者。菩薩深入不生不滅不老不

四時無止息。年去又年來。萬物有代謝。九天無朽摧。東明又西暗。花落復花開。唯有黄泉客。冥冥去不廻。

九天。大玄經曰。九天。一曰。中天。二曰。羨天。三曰。從天。四曰。更天。五曰。睟天。六曰。廓天。七曰。咸天。八曰。沈天。九曰。成天。冥冥去不回。曹子建三良詩曰。攬涕登君墓。臨穴仰天歎。長夜何冥冥。一往不復還。見于文選。

歳去換愁年。春來物色鮮。山花笑綠水。巖樹舞青煙。蜂蝶自云樂。禽魚更可憐。朋遊情未已。徹曉不能眠。

〇評曰。此詩賦山中逸樂不可換世營。

手筆太縱横。身才極瓌瑋。生爲有限身。死作無名鬼。自古如此多。君今爭奈何。可來白雲裡。教爾紫芝歌。

瓌瑋。廣雅琦玩也。徐曰。人才傀偉。傀大貌。紫芝歌。皇甫謐高士傳。秦世

禦寇放句也。三時而足而已。

父母績經多。田園不羨佗。婦搖機軋軋。兒弄口嘍嘍。拍手催花舞。搘頤聽鳥歌。誰當來歎賀。樵客屢經過。

績經猶經營。與次下經紀之字義同。軋葉乙點切。車聲也。軋軋冠來公詩。幽窓軋軋度寒梭。嘍古禾切。音戈。小兒應聲。

○此詩賦山家郎事。寒山詩中深密之秘訣。學者若熟讀一回得拍手。卷中多少險處。同時氷融。

家住綠巖下。庭蕪更不芟。新藤垂繚繞。古石豎巉嵒。山果獮猴摘。池魚白鷺銜。仙書一兩卷。樹下讀喃喃。

巉巖。韻會高貌。又尖銳貌。獮猴摘。異作青猿摘。

○評曰。此詩賦山居幽邃。又是九虎關鎖。

弗去。過逆旅。逆旅人辱之。韓娥因曼聲哀哭。一里老幼悲愁垂涕。相對三日不食。遽而追之。娥還復爲曼聲長歌。一里老幼喜躍抃舞。弗能自禁。忘向之悲也。乃厚賂發之。故雍門之人至今善歌聲效娥之遺聲也。由是考之。月字當作日字乎。以上管解。

○評曰。管解以月字當作日字。說未盡善歟。予謂。月字而甚可而已。論語述而曰。子在齊聞韶。三月不知肉味。曰。不圖爲樂之至於斯也。三月之字本于此者乎。夫子聞韶時。四維八荒。唯是一片簫韶。豈肉味而已。和身心共忘。其意味。夫子亦不能知。不得說矣。且謂之忘者也。是自非聖德至善。豈得而有至此哉。小人反之。若聞美人絃歌聲。則其音韻薰染心肝之間。魂蕩魄漾。眷戀之餘。如嫋嫋充耳根。豈但三月哉。甚者期年而猶不能忘。且謂之三月響者也。彼韓娥歌聲遶梁欐三日不絕者。

風起。更過二三十年。還成甘蔗滓。

容華。文選曹子建詩曰。南國有美人。容華若桃李。甘蔗。涅槃會疏第一聖行品云。譬如甘蔗。既被壓已滓無復味。壯年盛色亦復如是。既被老壓無三種味。一出家味。二讀誦味。三坐禪味。

○評曰。此詩賦香花不鎖香美人不永美。以示有老死。

城中蛾眉女。珠珮珂珊瑚。鸚鵡花前弄。琵琶月下彈。長歌三月響。短舞萬人看。未必長如此。芙蓉不耐寒。

蛾眉。陸佃云。蛾似黃蝶而小。其眉勾曲如畫。故詩譬莊姜螓首蛾眉。珂。丘何切。音軻。石次玉。一云。瑪瑙潔白如雪。一云。螺屬生海中。爾雅翼貝大者珂。黃黑色。其骨白。可飾馬具。三月響。列子湯問篇曰。昔韓娥東之齊。匱糧過雍門。鬻歌假食。既去而餘音遶梁欐。三日不絕。左右以其人

○評曰。此詩賦荒城敗落墳墓之傾頽。使人憤起道情。

鸚鵡宅西國。虞羅捕得歸。美人朝夕弄。出入在庭幃。賜以金籠貯。扃哉損羽衣。不如鴻與鶴。飄颻入雲飛。

鸚鵡。晉郭璞曰。鸚鵡鳥舌如小兒。背似金色。腹如馬腦石。山海經曰。黃山有鳥。其狀如鴞。青羽赤喙。人舌能言。名鸚鵡。又文選賦類。有鸚鵡賦。可見。虞羅者。虞人網羅也。虞人司山澤者也。周禮曰。虞人數獸。

○評曰。此詩比也。譬見世纏縛世榮關鎖爵祿人。恰如鸚鵡在金籠。雖形似福貴。中心常憂惱。如遁居樂道者。似飛鳥在野。雖欠見寵撫。身心常快樂也。大論三曰。孔雀雖有色嚴身。不如鴻雁能遠飛。白衣雖有富貴力。不如出家功德勝。本此語乎。

玉堂挂珠簾。中有嬋娟子。其貌勝神仙。容華若桃李。東家春霧合。西舍秋

是故道。堪拄馬屋。是專依方等彈呵淘汰意述者也。

驅馬度荒城。荒城動客情。高低舊雉堞。大小古墳塋。自振孤蓬影。長凝拱木聲。所嗟皆俗骨。仙史更無名。

雉堞。左傳隱公元年。都城過百雉。國之害也。注。方丈曰堵。三堵曰雉。一雉之墻長三丈高一丈。又字彙。堞雉城上女垣也。以白堊之。故又曰粉堞。墳塋。墳墳墓也。塋。彙廣雅曰。塋城葬地也。孤蓬影。鮑明遠蕪城賦曰。孤蓬自振驚沙坐飛。拱木。左傳僖公三十二年曰。蹇叔哭之曰。孟子吾見師之出而不見其入也。公使謂之曰。爾何知中壽。爾墓之拱木矣。注。合手曰拱。又文選恨賦曰。試望平原。蔓草縈骨。拱木歛鬼。註曰。合拱之木縈繞死人骸骨義也。史。彙師止切。音使。籍也。記事者也。又史官。世本。黃帝始立史官。倉頡居其職。異作吏。爲指城主非也。

○評曰。此詩似賦賢人在野之嘆。而底意呵二乘偏眞之枯槁。天生百尺樹者。人人本具底自性箇箇圓成底佛心。若人辨取得。依四弘願行長養去。則七覺八正四無畏無盡法門。體中圓備。譬如長樹華果枝條盡具有。佛暫爲攝取中下之機。演四諦十二等法門。謂之二漸敎法。於玆覺我空偏眞理。證得有餘涅槃小果。不欲學菩薩威儀。無心淨佛土。是則剪成長條木者也。擬神仙婆羅門外道凡夫等所爲道。則雖似好箇長條良木。若比菩薩二利之願行。則蔭深幽谷一片枯槁底朽木也。是故有可惜嘆。年多心尙勁者。佗既經歷三生六十劫艱辛。不生退困。信心堅牢。譬如老樹歷歲月中心猶堅實。日久皮漸禿者。佗既日久退休拂拭故。見思盡滲漏空。恰如朽樹皮膚脫落盡眞實存。佗日縱人天推出轂。使伊代佛揚化。爲守閑淡制伏意馬心猿底窮子主長得而已。

栖去。破衣浪落去。蓬頭垢面去。憔悴枯槁去。爭敢得到此中。何故。與君心不同。君所爲心者。逐聲色取捨底識神。隨好醜愛憎底妄心。是名生滅之心。是爲生死本根。豈其夢亦得見寒山哉。吾所謂心者。則不然。心佛衆生。平等不二。佛界魔界。淨刹穢土。有情非情。艸木森羅。盡是一箇佛心。無處非寒山。不須入得。總是其中人。是則一片無陰陽田地。夏天氷未消。名之爲妙峯孤頂。名常寂光土。或名謂寒山。上下四維全不覩纖塵。到此無入得底賢聖。無出頭底佛祖。是故道。寒山路不通。所恨君向心生滅門往著。我向心眞如門遊履。是故心不同。到亦不能而已。

天生百尺樹。剪作長條木。可惜棟梁材。拋之在幽谷。年多心尚勁。日久皮漸禿。識者取將來。猶堪拄馬屋。

長條木。書禹貢厥木惟條。易說卦曰。坎爲水。其於木也爲堅多心。

也。見于莊子列禦寇。棺槨。禮記註。附身曰棺。附棺曰槨。有底曰棺。無底曰槨。青蠅。吳虞翻放棄南方。自恨疏節骨體不媚。犯上獲罪。當長沒海隅。生無可與語。死以青蠅爲弔客。使天下無一人知己者。足以不恨。見于活法。白鶴。晉陶侃爲江夏太守。母憂去職。有二客來弔。既去化爲雙鶴。冲天。見活法。生廉。孟子萬章聞伯夷之風者頑夫廉。

○評曰。此詩見世間葬儀之煩鬧。卒然賦乎。畢竟呵非菩提資料策勵者也。首陽即謂潔白廉耻胸宇也。畢竟謂自家本有家山乎。

人問寒山道。寒山路不通。夏天氷未釋。日出霧朦朧。似我何由屆。與君心不同。君心若似我。還得到其中。

宋玉九辨曰。君之心兮與余異。車既駕兮揭而歸。

○評曰。此詩述寒山高勝。以嘆人無入得。縱儞學得寒山形模。谷飲岩

翁歸。獨伏不肯起。對曰。翁歸文武兼備。惟所施設。書言故事壽考類曰。
顏駟。漢文帝時爲郞。至武帝輦過郞署。見駟龐眉皓髮。上問曰。叟何時爲郞。何其老也。答曰。臣文帝時爲郞。文帝好文。而臣好武。景帝好美。而臣貌醜。陛下好少而臣已老。是以三世不遇。上擢會稽都尉。

○評曰。此詩賦世榮難求。縱求得亦暫時夢境而畢竟苦果所因。以勸發出離大志。詩意可解。

莊子說送終。天地爲棺槨。凡歸此有時。唯須一番笻。死將餧青蠅。弔不勞白鶴。餓著首陽山。生廉死亦樂。

莊子將死。弟子欲厚葬之。莊子曰。吾以天地爲棺槨。以日月爲連璧。星辰爲珠璣。萬物爲齎送。吾葬具豈不備耶。何以加此。弟子曰。吾恐烏鳶之食夫子也。莊子曰。在上爲烏鳶食。在下爲螻蟻食。奪彼與此。何其偏

州者。具有法身般若解脫三德底常寂光本貫。而法王天然貴胤也。不圖今作傭賃客作賤人。進無寂滅樂。退有生死恐。是故欲學長生久視術免老死。飛鳧白兎靈瓜神橘四者。丹竈功成底暫時功果也。直饒恁麽去。閱百千歲時了。如閃電拂。似石火照。終歸遷流。所悲常樂我淨鄉國。不生本有家山。迢遞隔絕。無出離心。譬如小魚依宅小水流派不知滄溟浩渺。寔危哉。

一爲書劍客。二遇聖明君。東守文不賞。西征武不勳。學文兼學武。學武兼學文。今日既老矣。餘生不足云。

項羽本紀。籍少時學書不成。去學劍。又不成。項梁怒之。籍曰。書足以記姓名而已。劍一人敵。不足學。學萬人敵。東守等本傳云。尹翁歸河東守田延年行縣至平陽。召故吏。令有文者東。令有武者西。閱數十人。次到

來於是候鳧至。舉羅張之。但得一雙舃焉。後天下玉棺於堂前。喬曰。天帝獨召我耶。乃沐浴服飾寢其中。蓋便立覆。葬於城東。百姓爲立廟。號葉君祠。見于蒙求。白兎。三體詩註。抱朴子云。白兎公。彭祖弟子也。白兎公或云。赤松之師也。常乘白兎。往來人間。靈瓜。韻府群玉曰。東方朔嘗以朱陵山靈瓜獻武帝。帝嘗之以爲美。神橘。幽冥錄云。巴園人收兩大橘。其大如二斗盎。剖之中有二叟。相對身長尺餘而象戲。一叟曰。橘中之樂不減商山。但恨不得深根固蔕。

○評曰。此詩嘆意識之浪落。使人發起出離大志。弟兄同五郡者。暗指第六意識者也。五郡者。眼耳鼻舌身等前五識也。下我有六兄弟之詩一般也。言五識各領一郡。功勳封賞互相同。獨意識流落。故五郡各混亂。五子各失處。父亦隨困苦。父子本三州者。父者第八阿賴耶識也。三

志不倦。太守連召請。恐不得免乃詐與寡嫂訟田。後擧直言至公車。託病隱身於漁釣。見于蒙求。沃魚池。吳越春秋曰。范蠡功成名遂。隱居而養魚。其池在會稽山下。水中有三江四瀆之流九溪六谷之模樣。娛之。鷦鷯。莊子逍遙遊篇曰。鷦鷯巢於深林。不過一枝。輦。說文輓車也。投。韻會弃也擲也。

○評曰。此詩述古賢各愛淸閑樂枯淡守道養德底高風。以誡浮華世人。

弟兄同五郡。父子本三州。欲驗飛鳧集。須旌白兎遊。靈瓜夢裡受。神橘座中收。鄕國何迢遞。同魚寄水流。

飛鳧。後漢王喬河東人。爲葉令。喬有神術。每月朔望。常自詣臺朝。顯宗怪其來數而不見車騎。密令太中伺望之。言其臨至。輙有雙鳧自南飛

魚池。常念鷦鷯鳥。安身在一枝。

古列女傳曰。楚王聞於陵子終賢。欲以爲相。使使者持金百鎰往聘迎之。子終入謂妻曰。王欲以我爲相。今日爲相。明日結駟連騎食方丈於前可乎。妻曰。夫子織屨以爲食。非與物無治也。左琴右書。樂亦在其中矣。夫結駟連騎。所安不過容膝。食方丈於前。所甘不過一肉。今以容膝之安一肉之味。而懷楚國之憂。其可哉。亂世多害。妾恐先生之不保命也。於是子終出謝使者。遂相與逃。而爲人灌園。巾車孝兒。南史隱傳曰。陶潛嘗往廬山。潛故人龐通之齎酒具貽之。半途遇之。潛有脚疾。使一門生二兒舉籃輿至。欣然共飲燕。曝麥。後漢高鳳字文通。南陽葉人。家以農爲業。鳳專精誦讀。晝夜不息。妻嘗之田。曝麥於庭。令鳳護鷄。天雨暴至。而鳳持竿誦經。不覺潦水流麥。妻還怪問方悟。後爲名儒。年老執

條華果大茂盛矣。以根本無明爲種子。以實相爲心髓。以寂滅爲麤皮。依心地生。以十二緣爲命脈。以六塵爲膏壤。灑生死海水爲資潤。枝柯六處分一帶。各帶二十五葉。其上昇者爲三十餘樂所。其垂下者爲三所惡趣。諸天見之爲瑠璃寶聚。修羅見之爲刀兵戈戟。餓鬼見之爲膿血焰火。地獄見之爲苦具鑊湯。凡夫見之爲五濁穢土。聲聞恐爲生死枝蔓。辟支證爲偏眞枯樹。菩薩覺爲常寂光樹。所見不同而有衆多假名。具無量名義。大凡四生八萬四千種含識共蠢蠢樹間。菩薩乘願輪。度盡衆生。則唯有一乘菩提樹而已。所恨菩薩雖願海深廣。不能空衆生界。依舊蔭深娑婆樹。何日見彼朽枯。故今菩薩有此嘆息。幾年爲一春。

琴書須自隨。祿位用何爲。投輦從賢婦。巾車有孝兒。風吹曝麥地。水溢沃

舊九虎關鎖。永是葛藤窟裡癡漢。多閙門外風狂。

吾家好隱淪。居處絕囂塵。踐草成三徑。瞻雲成四隣。助歌聲有鳥。問法語無人。今日娑婆樹。幾年爲一春。

隱淪。淪棄。龍吞切。倫沒也。又小波曰淪。桓譚新論云。天下神人五。一曰。神仙。二曰。隱淪。三曰。使鬼物。四曰。先知。五曰。鑄凝。淵明歸去來辭曰。三徑就荒。松菊猶存。娑婆樹詩。東門之枌篇曰。東門之枌。宛丘之栩。子仲之子。婆娑其下。注。婆娑舞貌。或曰。娑婆樹作婆娑樹可也。莊子逍遙遊篇曰。楚之南有冥靈者。以五百歲爲春。以五百歲爲秋。上古有大椿者。以八千歲爲春。以八千歲爲秋。

○評曰。娑婆樹兩字。可上下之說大不可也。失名子曰。當法界中央有娑婆樹。或謂閻浮樹。或名無明樹。淨名說爲香樹。黃梅此謂菩提樹。枝

可ㇾ笑寒山路。而無車馬蹤。聯溪難ㇾ記ㇾ曲。疊嶂不ㇾ知ㇾ重。泣ㇾ露千般草。吟ㇾ風一樣松。此時迷ㇾ徑處。形問ㇾ影何從。

車馬蹤。淵明詩。結ㇾ廬在二人境一。而無二車馬喧一。形問ㇾ影。李令伯陳情表曰。煢煢孑立。形影相訪。又淵明集一。有二形問ㇾ影詩一。何從。左傳僖公五年曰。一國三公。吾誰適從。

○評曰。此詩。述二山中幽邃遁居佳趣一。就ㇾ中奇絶也。泣ㇾ露千般草。吟ㇾ風一樣松。此一聯。寒山一區佳境。而寒山九虎嶮關也。是趙州所ㇾ謂易ㇾ見難ㇾ透者也。若也透得過。大難ㇾ見矣。往往作二風光看一了。作二實相會一了。作二崑崙會一了。作二陀羅尼判一了。特不ㇾ知ㇾ隔二天涯一。若又不ㇾ作二如上諸見一。恰如二老婆咬一鐵橛一。無二半點氣味一。不ㇾ生二倦怠一。竪咬去横咬來。忽乎而和二牙齦一咬破了。滿口一團滋味。必消二萬劫饑一。寒山秘訣。一見卽徹了。若又未ㇾ然。一字字依

詩。白雲抱幽石。綠篠媚清漣。鍾鼎家。選西京賦。張里家擊鍾食鼎。虛名。
古詩。良無盤石堅。虛名復何益。省心詮要曰。虛名久不立。謬旨終有失。
○評曰。此詩。賦山居幽致隱棲高閑。以教誡浮世利名人。卜居有三種。
隔生死溟渤。築偏執海嶋。滑無明晴谷。深愛惡隍塹。列憍慢毒樹。浴邪見深泥。四火迸八風吹。衆苦逼迫。終陷墜泥犂者。凡夫卜居也。根三有牢落。恐四生患難。入我空幽谷。堅偏眞基趾。耕高原瘠土。栽焦茅菽麥。開陸地石田。稼敗種稗稊。搆思念屎尿。浴靜慮淤泥。磨八識賴耶片瓦。閲三生多劫壽算者。小乘卜居也。常游泳四弘願海。夙認得寂光本土。占斷實相佳境。聚集空華聖財。架上求高堂。深下化隍塹。培萬善園林。洒平等法雨。與群生俱遊同成佛道者。大乘卜居也。作麼生是衲僧卜居處。熱鐵九重城。

淨名經曰。欲淨佛土。先須淨心。心淨淨土淨。蓋護淨有四種。一者。欣上厭下。專挾勝佗心。有精錬刻苦者。是外道護淨也。二者。厭生死求涅槃。久觀四諦法門。嫌喧求靜。以灰心泯智爲最後寶處者。聲聞護淨也。三者。外感飛華墜葉。內觀十二緣起。覺我空偏眞理。以爲所證者。緣覺護淨也。四者。常游泳四弘願海。深達我法二空眞理。大成夢中佛事。廣度如化群有者。菩薩護淨也。作麼生是衲僧護淨處。咄哉咄哉。三界輪囘。

又曰。牛過窻櫺。頭角四蹄都過了。因甚麼尾巴過不得。

重巖我卜居。鳥道絕人迹。庭際何所有。白雲抱幽石。住茲凡幾年。屢見春冬易。寄語鐘鼎家。虛名定無益。

卜居。楚辭。有卜居篇。鳥道。李白詩。西當大白有鳥道。註。道徑微窄。止可容鳥過而已。何所有。陶弘景詩。山中何所有。嶺上多白雲。文選謝靈運

廉者。文中子云。廉者。常樂無求。貪者常憂不足。箋曰。二字出孟子離婁。眞性。箋例二。眞謂揀非僞妄。獨顯圓成。性謂自體常住。不變不異。卽揀諸空性。急急如律令。事文類聚前集第三十八曰。律令是雷邊捷鬼也。此鬼善走。與雷相疾速。故云如此鬼之疾走也。此詩冠卷首。實有深意。勸讀我詩。故卷中序分也。道翹采集之時。隨得隨錄。其所述前後不可知。有勸發之意。故此記乎。

○評曰。此詩以勸發爲皮膚。以護淨爲骨肉。以見性爲心髓。言大凡賢愚緇素及四果三賢人讀我詩。雖諳誦去背諷了。內無保護淨盡志操。只一場見底而已。若又且讀且護淨得。阿字不生慧日朗然而發生。日光所照。慳貪屑氷。諂曲積雪。乍消除了。無量億劫生死罪業。卽時寂滅。不移步歸入眞淨無漏性海。不轉肉身而成就佛身。迅速似律令者乎。

谷或時侍晦堂而道話之次。晦堂云。庭堅今以詩律鳴天下也。如寒山詩者。賡韻得和否。魯直答曰。昔杜少陵一覽寒山詩結舌耳。吾今豈敢容易可和韻哉。直饒雖經一生二生而作詩吟。難到老杜境界。矧亦寒山詩哉。晦堂俛首之。五言。事物紀原四。李翰蒙求曰。李陵初詩。陵始變其體作五言格也。其始亦本於詩佌佌彼有屋。蔌蔌方有穀之類。六帖曰。谷永始作六言。亦詩公尸來燕來寧之類也。

凡讀我詩者。心中須護淨。慳貪繼日廉。諂曲登時正。驅遣除惡業。歸依受眞性。今日得佛身。急急如律令。

凡者。廣韻常也。皆也。或摠計也。今所謂凡者。在出智愚三賢四果共相兼也。護淨者。護持淨盡之義也。諂。丑剡切。音調。諂諛面從曰諛。佞言曰諂。曲。兵六切。麴不直也。登。都騰切。等平聲。躋也。進也。進業曰登。又得也。

寒山詩闡提記聞 卷第一

一本作三隱詩集。本志南記乎。寒山子自言。五言五百篇。七字七十九。三字三十一。都来六百首。而今考之。五言二百八十五首。七言二十首。三言六首。都三百十一首有之。然則漏落于道翹之所采集者可知矣。林間錄曰。寒山子詩曰。人是黒頭虫。剛作千年調。鑄鐵作門限。鬼見拍手笑。考之於此集。無所見焉。此是二百八十五首之外之逸者而得之乎。編年通論第二十卷曰。昔寶覺禪師嘗命太史山谷道人。和寒山詩。山谷諾之。及淹旬不得一辭。後見寶覺曰。更讀書作文十年。或可比陶淵明。若寒山子者。雖再世亦莫能及。寶覺以謂知言。山谷吾宋少陵也。所言如此。大凡聖賢造意深妙玄遠。自非達識洞然。亦莫能辨。又黄山

遠之遠矣。君子易レ事而難レ令レ說也、小人難レ事而易レ令レ說也。

聊中二讚歎一。

相罵許レ儞。接レ觜相唾、許レ儞洒レ水。

咄。蝦跳不レ出レ斗。擬二超出何處去一。病眼可レ憐見二空華一。病猿終

願超二生死一。

夜扣二金鎖一。窮鳥終朝數二竹籠一。

打一偈曰

讚辭分明數十字。　無レ限塵沙當面撒。

爲報台州胤大夫。　與レ佗殺二不レ如二自殺一。

時來此地。
佗終不來此地。普婆畫作飛禽跡。高聲呼曰。胤大夫。胤應諾。曰。是什麼。人迹板橋霜。

稽首文殊。
歷劫無名。錯安著名字。好無裩窮官人。自家屋裡物總不認取。挪咄東觸西觸。

寒山之士。
箭過新羅。苦屈苦屈。塗糊佗別人面門。向道莫行山下路。果然猿叫斷腸聲。

南無普賢。
即今在什麼處。特不知大行普賢大士著草鞋向儞肚裏。橫三竪四。珊瑚枕上兩行淚。

拾得定是。
不可向虛空裏釘橛去。弄光影漢有何限。非險崖撒手絕後再穌驢年也不能夢見。

是故國清

幻人狂走幻人嗔。幻人在側叫蒼天。一事更堪腸斷在。又隨月色過前州。好與三十拄杖趕出山。

圖寫儀軌。

依稀上巳。彷彿重陽。如何得圖寫去。普化往日飜筋斗。可惜畫蛇親添足。咦。長沙云底。

永劫供養。

作麽生是供具。天東南高地西北傾。三日下廚下。洗手作羹湯。未諳姑食性。先遣小姑嘗。

長爲弟子。

良禽擇樹棲。貞臣擇主佐。寶處在近。更進一步。咦。埋沒己靈漢去儞我不要。

昔居寒山。

佗終不居寒山。擧心擬向過新羅。衆盲摸象何日得全身。鷄聲茅店月。

時人自恥。

好不大丈夫。昨日明窗下。喫幾枚䴵麨。白鷺下田千點雪。黃鶯上樹一枝春。

作用自在。

誰是不自在底人。沒意知漢有什麼境界。咳唾掉臂終不倩別人。誰家竈裡火無煙。

凡愚難値。

道什麼。用値爲什麼。者裡無第二人。若値罪過彌天。一字不著畫。八字無兩ノ。

卽出一言。

佗道什麼。弄泥團漢。有什麼限。闘事不眞。呼鐘作甕。莫謗寒公好。佗終不出片言。

頓袪塵累。

特不知惹多少塵累來。拳左手搔佛手。卽非無。屈右手觸狗頭。何日免得。

所食廚中。

母在一子寒。母去三子寒。耳頭口目卻生内。更將黃金積一堆。昨夜風扣門外竹。又知賊不打貧家。

殘餘菜滓。

君子亦有窮乎。君子固窮。好常喜世界教主。墜葉雖憐疎雨感。黃粱爭如暮雲親。

吟偈悲哀。

波斯説夢入市中。和和婆婆人不會。二桃殺三士。阿誰爲此謀。誰知席帽下。元是昔愁人。

僧俗咄捶。

衣架走飯嚢嗔甚活哉。將謂國淸寺裡活衲僧一箇還無。正恁麼應初得。正好明窻下安排。

都不動搖。

恰是羊公鶴。或如張婆耳。又似李母肩。彈指堪悲舜若多。莫動著。動著三十棒。

入國淸寺。

天台山中佳趣只在箇竹筒裡。射工含沙待影過。燈籠躍入露柱。佛殿走出山門。

徐步長廊。

我今還家否。還莫我爲我。我若未還家。須以我爲我。

呵呵拊指。

夜行莫踏白。非水即是石。咄者風狂。疑殺滿船人。聞見覺知非一一。山河在鏡中不見。

或走或立。

前不到村。後不入店。拳左手。咬中指。出身甚易脫。脫體道卻難。東山下左邊底。

喃喃獨語。

德雲閑古錐。幾下妙峯頂。呼花癡聖人。擔雪共塡井。子細點撿。還是趙州東壁胡盧。

出言成章。

入海擇浮漚。漢漁唱薪歌著何處。咦。書安胡餅上。與狗亦不喫。莫謗寒公好。

諦宲至理。

劈百合尋中心。漢剜好肉求精底。呼奴呵婢。叱狗驅驢。那處是不諦實底。

凡人不測。

用測爲什麼。一掃四海。求一箇凡愚人。終不得我凡佗聖。瞎屢生著什麼死急。

謂風狂子。

如何謂得即可。我謂風狂子。君子愛財。取之有道。風吹柳絮毛毬走。雨打梨花蛺蝶飛。

時來天台。

盡大地一箇寒上座。莫道時時來天台。跛鼈奔波追野禽。達磨不來唐土。

示貧同士。

仁者見之言之仁。貧士見之言之貧。試道。佗欠少箇什麼。不依劉毅書信。爭得到洞庭湖。

獨居寒山。

道什麼。將謂。第二人。富嫌千口少。貧厭一身多。

自樂其志。

咄又是鬼家活計。有什麼長處。作麼生是寒公生平所志。當什麼臭皮襪。有所志須吐卻。

貌悴形枯。

何處憫恤免饑凍。是非分外事。願來年蠶麥熟。羅睺羅兒與一錢。離妻行處浪滔天。

布裘弊止。

轉覆前車。一日計在雞鳴。一生計在少年。行行且止。避驄馬御史。

書文句三百餘首。及拾得於土地堂壁上書言偈。并纂集成卷。但胤棲心佛理。幸逢道人。乃爲讚曰。

徐師曾文體明辨曰。狀下按。劉勰云。狀者貌也。取其事。先賢表謚并有行狀。廳。佗徑切。音汀。屋也。古治官處。謂之聽事。毛氏曰。聽事謂受事察訟。漢書皆作聽。六朝以來始加广。偈。彙。釋氏之詩詞也。讚。文體明辨曰。贊稱美也。昔漢司馬相如初贊荊軻。荊軻之事詳史記等也。

鵠林著語曰。又是渾沌氏肴。白實頭官人恐有認楚鷄去。是非巫祝越樽俎者哉。

乃爲讚曰。

可惜許。壓良爲賤。莫以己不欲施人。看佗走何處去。儞言。

菩薩遯世。

佗是何處本貫。

呵大笑叫喚乃云。豐干饒舌。饒舌彌陀不識禮。我何爲。僧徒奔集遞相驚訝。何故。尊官禮二貧士。時二人乃把手走出寺。乃令逐之。急走而去。即歸寒巖。胤乃重問僧曰。此二人肯止此寺否。乃令覓房。喚歸寺安置。胤乃歸郡遂製淨衣二對。香藥等特送供養。時二人更不返寺。使乃就巖送上。而見寒山子。乃高聲喝曰。賊賊。退入巖穴。乃云。報汝諸人。各各努力。入穴而去。其穴自合。莫可追之。其拾得迹沈無所。

竈前見二人。竈。棄。則倒切。遺炊竈。淮南子曰。炎帝善火。死而爲竈。後漢書。李尤竈銘曰。燧人造火竈。豐干饒舌。書言故事。多言曰饒舌。阿彌陀此言無量壽。又曰無量光。又稱讚淨土經曰。清淨平等覺位。譯無量壽佛。高聲喝喝。棄。許葛功。漢入聲。

乃令僧道翹尋其往日行狀。唯於竹木石壁書詩。并村墅人家廳壁上所

老禪耆宿之義也。行者。要覽之上善見行云。有善男子。欲求出家。未得衣鉢。欲依寺中住者。名畔頭波羅沙。未見譯語。今詳此方行者也乎。經中多呼修行人爲行者。自晉時已有此人。如東林遠大師下有辟蛇行者。

時僧道翹答曰。豐干禪師院在經藏後。卽今無人住得。每有一虎。時來此吼。寒山拾得二人見在廚中。僧引胤至豐干禪師院。乃開房唯見虎迹。乃問僧寶德道翹。禪師在日有何行業。僧曰。豐干在日。唯攻舂米供養。夜乃唱歌自樂。

舂。舂。諸容切。擣米也。黃帝臣雍父作舂。曲禮隣有喪。舂不相。供養。弘決四。薦上曰供。以卑資尊曰養。

遂至廚中。竈前見二人向火大笑。胤便禮拜。二人連聲喝胤。自相把手。呵

名篇邠輪跋陀或三曼陀此云普賢法華第八普賢菩薩勸發品云爾時普賢菩薩以自在神通力威德名聞與大菩薩無量無邊不可稱數從東方來所經諸國普皆震動雨寶蓮華作無量百千萬億種種伎樂云云庫院庫貯物府藏院屋舍也廚者烹飪之處也孟子君子遠庖廚註庖者宰殺之處

胤乃進途至任台州不忘其事到任三日後親往寺院躬問禪宿果合師言乃令勸唐興縣有寒山拾得也否時縣中稱當縣界西七十里內有一巖巖中自古老見有貧士頻往國清寺止宿寺庫中有一行者名曰拾得胤乃特往禮拜到國清寺乃問寺衆此寺先有豐干禪師院在何處并拾得寒山子見在何處

進途乇任任棄如深切說文保也信朋友曰保人保任也又堪也禪宿

家。若未得見。當誦持首楞嚴。稱文殊師利名。一日至七日。文殊必來至其人所。若有宿業障者。夢中得見。夢中見者。於現在身若求聲聞。以見文殊師利故。得須陀洹乃至阿那含。若出家人見者。以得見故。一日一夜成阿羅漢。若有深信方等經典。是法王子於禪定中爲說深法。亂心多者。於夢中爲說實義。令其堅固入無上道。得不退轉。我滅度後。一切衆生其有得聞文殊師利名者見形像者。百千劫中不墮惡道。若有受持讀誦文殊師利名者。設有重障不墮阿鼻極惡猛火。常生他方淸淨國土。値佛聞法。得無生忍。又八字文殊經曰。世尊言。我滅度後。贍部洲東北方有國。名大振那。其國中間有山。名爲五頂。文殊師利童子遊行居住爲諸衆生。於中說法。八部圍繞。西域記曰。曼殊室利。唐言妙吉祥。舊曰濡首。名義集。菩薩別名篇。文殊師利此云妙德。拾得普賢菩薩別

切。穰也。遣也。殄。徒典切。田上聲絕也。盡也。滅也。見之不識。淮南子說山訓魂曰。凡得道者形不可得而見。名不可得而揚。寒山文殊。文殊師利般涅槃經曰。佛告跋陀婆羅菩薩言。此文殊師利有大慈悲。生於此國多羅聚落梵德婆羅門家。其生時家內屋宅化如蓮華。從母右脇出。身紫金色。墮地能語。如天童子。有七寶蓋。隨覆其上。九十五種諸論議師無能酬對。唯於佛處出家學道。住首楞嚴三昧。佛涅槃後。四五百十歲至雪山。爲五百仙人。宣十二部經。教化令住不退。已至本生地。於空野澤尼拘樓陀樹下結跏趺坐入首楞嚴三昧。身諸毛孔。出金色光。遍照十方世界。度有緣者。身如紫金山。正長丈六。圓光嚴顯。面各一尋。於圓光內有五百化佛。一一化佛有五化菩薩。以爲侍者。佛告跋陀婆羅。是文殊師利有無量神通變現。不可具說。若禮拜供養者。生生處常生佛

天子所問經曰。天子問文殊師利言。何等比丘得言禪師。文殊師利言。天子。此禪師者。於一切法。一行思量。所謂不生。若如是知得言禪師。乃至無有少法可取。得名禪師。

身居四大。病從幻生。若欲除之。應須淨水。時乃持淨水上師。師乃噀之。須臾袪殄。乃謂胤曰。台州海嶋嵐毒。到日必須保護。胤乃問曰。未審。彼地當有何賢堪爲師仰。師曰。見之不識。識之不見。若欲見之不得取相。乃可見之。寒山文殊。遯跡國淸。拾得普賢。狀如貧子。又似風狂。或去或來。在國淸寺庫院。走使廚中著火。言訖辭去。

四大。大論五十二曰。如佛說。無處不有。故名爲大。噀。彙。與潠同。蘇困切。噀含水噴也。六書正譌別作噀。非也。須臾。名義集二。摩睺羅毘曇爲須臾。一日一夜共有三十須臾。中庸道也者不可須臾離也。袪殄。袪丘於

寒山詩中甚深密意盡。若人欲讀寒山詩。必先參此語。必定開看經眼。

且久參上士・一見即了。若又情解意度輩者。驢年不能夢見。

或於村墅與牧牛子而歌笑。或逆或順。自樂其情。非哲者安可識之矣。閭丘受丹丘薄宦。臨途之日。乃縈頭痛。遂召日者醫治轉重。乃遇一禪師。名豐干。言從天台國清寺來。特此相訪。乃命救疾。師乃舒容而笑曰。

村墅。墅音承與切。墅田廬也。又圃墅也。晉謝安圍棊於別墅。又古野字也。哲。音之列切。音浙。明也。智也。說文。智也。書之曰。明哲。謂知道。又謂知人也。書。知人則哲也。宋高僧傳閭丘胤出牧丹丘。薄宦。事物紀原第六曰。至隋大業中。諸縣始置主簿。掌勾稽簿籍。糾正縣內非違。日者。史記日者傳註・古人通卜筮則謂之日者。其事則周大卜之職也。醫。帝王世紀曰。黃帝使岐伯主典醫藥以療疾・說文曰・巫彭初作醫。禪師善住意

爲冠布裘破弊。木屐履地。

大笑良久。是非叉手良久。謂枯悴。彙悴秦醉切。音萃。憂也。劉向九嘆曰。顧僕憔悴。理合其意。言質直隨意吐露去也。況道情。況。彙。虛放切。譬擬也。又滋也。詩大雅。況斯削。又臨望曰來況。今言增益道情之義乎。玄默。言語道斷之義也。樺皮爲冠。樺。彙。胡卦切。話木名。可貼弓。多識論加和左久羅布裘破弊。裘。彙。渠尤切。求皮衣也。徐曰。獸皮毛作之以助女工也。木屐履地。屐。彙。竭戟切。木履也。

是故至人遯跡同類化物。或長廊唱詠。唯言咄哉咄哉三界輪回。

至人莊子一逍遙遊篇。至人無己。又不離眞。謂此至人。

○評曰。咄哉咄哉。三界輪回。此語極難信難解。不可容易去崑崙了。若人見徹如見掌上。則直下邂逅寒山子去。徹底出離三界畢。立地了知

寒巖者、廣輿記、台州府下、寒石山。在天台。唐寒山拾得二僧居此傍。有隱身岩。

時還國淸寺。寺有拾得。知食堂。尋常收貯餘殘菜滓於竹筒內。寒山若來即負而去。或長廊徐行、叫喚快活。獨言獨笑。

國淸寺者。在台州天台縣北六十里。按智者別傳云、智者初嘗宿於石橋。有一老僧曰、今非其時。三國成一、有大勢力人。能起此寺。寺若成。國即淸。當呼爲國淸寺。註云、三國、其時北齊高氏宇文氏陳氏鼎立。皆爲隋滅。故成一統。大師滅後。煬帝造國淸寺。菜滓、棄。滓祖此切。子澱也。濁也。志南記作澄澱殘食菜滓。以筒盛之。長廊、棄。廊。殿下外屋曰廊。

時僧逐捉罵。打趁乃駐立。撫掌呵呵大笑良久而去。且狀如貧子。形貌枯悴。一言一話。理合其意。沈而思之隱況道情。凡所啓言。洞該玄默。乃樺皮

南方有眞隱。非市非山、靠非相山。潛無聲谷。入不朽林。結無住室。頻走無所有市。常鬻不思議薪。大利如化含識。高唱無生薪歌。巢許不能儔。夷齊不見迹。依何如此。彼常不於三界現心意故也。不起滅定。現諸威儀。其斯是云大隱矣。今寒公蓬頭垢面、斷衫破衣。是非佗寂滅定中威儀哉。將其人乎。將又非其人乎。

朝儀大夫使持節台州諸軍主刺史上柱國

賜緋魚袋　　閭丘胤選

詳夫寒山子者、不知何許人也。自古老見之。皆謂貧人風狂之士、隱居天台唐興縣西七十里。號爲寒巖。每於此地。

古老者。詩正月篇、召彼古老。風狂者。韓詩百載如風狂。天台者。廣輿記十一。台州府下天台山。道書謂。上應台星。高一萬八千丈、周匝八百里。

三隱詩集序闡提記聞

此集者。唐太宗貞觀之間。台州主簿朝儀大夫閭丘胤所編集也。三隱者。所謂豐干寒山拾得子也。傳載傳燈會元等僧史。與此集有大同少異。隱者。棄於謹切。因上聲蔽也安也藏也。詩者。棄中之切。志發言也。釋名。詩者之也。志之所之也。集者。秦入切。尋入聲雜也聚也。說文。鳥在樹上也。故从隹从木。

○三隱評曰。蓋有之曰。小隱隱於山。大隱隱於市。予熟思之。是膚淺皮薄之言。而非論之精密者也。嗚呼隱乎隱乎。寔難得。寔難辨者隱也。夫隱也者。所以韜德晦光者也。縱被荷杖藜。負瓢攜卷。枯立石上。鼻吟樹間。內無道德可貴。外無才器可取。是徒衒隱欺誑流輩底癡奴。縱擔鋤握鍬。妄自稱隱者于市于山。總是困寒餓夫。寔可笑。何足稱隱者。吾聞

寛保第一辛酉歳仲冬下澣

闡提窟中困學寒士飢凍布衲炷香稽首題

被禾蓊坐。常如老鶴在鷄群。以窮明爲懷。凜乎而柴立而破衲如薜蘿垂。面如霜後菜。眼如巖下電。戞然而告曰。悠悠哉諸子。西東英豪有後生大可畏者。各有梁棟才帶神俊氣。彼盡忘飢寒坐。拋軀命修。佛法大欲得人。寔寸陰寸璧日也、我輩欲足拭目待彼打發來。若盡効諸子傳寫記誦、棄擲團蒲。舐筆墨歟。恁麼去。到解制賞勞日。有蟲氣息底漢子亦不能得。彼亦人之子也、欲推靑草窠裡乎。欲拽白魚隊裡乎。請且捲懷之。見奚氏之僧祕之、逢周氏僧庾之、見張氏之子附之、逢呂氏之子寄之。草稿若有所可取。龍天豈舍損之哉、他日必有人壽于梓。其時放小錢一箇箇背手而探得把之。此日竪擲横撒、恣行大法施。豈不痛快哉。是則本根固而華果可飡者也、今又有何暇擧扶疎蔓葛廢道業者哉。其苦諫如刺如縛如剁。似一鍋沸湯洒半酌水。堂中大冷、諸子收眸居。結手坐矣、

唱、得聞未聞、衆心大悅可有少解文字僧七八輩、憂雖遺微言、未離席悉忘失。隨師講演密筆記焉、講畢日各會一處、互相校讎、解陳篇背、繼裏面、書之、終分得三軼。各欲傳寫以秘重焉、時有寒餓禪者、且沈思而言。依諸君勤勞。未聞高論、永留下後世、定爲林下貽寶乎。謂窟中美器乎、雖然席上暫時口授、恐多暗記失。往往有捨金擔草底之漢子。不能賞高明之智鑑、徒泥文證字據、惹刁刀之謗、願歴師電照、一掃而後以證分。不亦佳哉、諸子低頭云。公言然。公言寔善。是萬全一擧也。隨議于公矣。別有高聲笑者曰。不可也不可也。必廢此盛事、見來者飢凍上座者也。勃如而攢顙曰。師一顧而命管城子訂正之、諸君各開懷歡喜矣。若一瞬而喚丙丁童斷送之、諸君必嚙臍懊惱焉、與拂正烏焉之死灰、孰若多魚魯之微言留焉。諸子愛凍餒點抑飢腸、一笑時有窮乏道者、是亦高踏之士也、蒸麥麩食。

此二之間。我輩今入窮巷陋區。借破屋坐。藉枯薪臥。上漏下濕。東邊頹落。西邊顚側。晴星彩滿屋。雨無地移破蒲。氷雪亦必無心矣。人向到其不可住捨。今借其捨居。人若可居。人其舍諸。豈得入吾膝。偶向煙霞之村。欲擎瓢鉢。有乞兒會長。右手握短木楯。左手。逼塞行路叫曰。今歲蝗蟲入境。無當官租粒米。所以家家恐諸乞如疫鬼。若强需供養我手中短木。張眼呵。高聲叫。其勢欲裂食。於此低頭過別村。村村皆然。終懸寒囊帶夕陽。郎當歸破屋。縮頂坐。空華亂飛。飢腸頻鳴。雖鳴無可颺煙寸薪。無可投口粒米。擧頭望西東。不見嗽餘菜滓。國清寺無授與竹筒拾得子。有孫吳才。兼良平能。無不飢死奇計。夫如侏儒鬪長。以矮爲勝。今吾輩若擇師。佛亦不可。祖亦不可。特寒山子足以爲師。雖詩不會禪不知。彼必爲貧過師。爲證據。伏冀評唱彼癲吟。以隼旦坐茶。吾輩擬點心以忘飢凍而已。越師慘然評

寒山詩闡提記聞序

寛保辛酉秋。同參百餘員破衲子。拗折杖子。觀參鵠林闡提窟。窟中枯白而不能容稠衆。各走西東五六里之間。舊舍廢宅老院破廟。借以爲安居之處。屹屹而凝坐。其艱辛刻苦。見者皺眉。聞者浮淚。今歲十月望。各聚會闡提窟中參禮。參禮亦但有禮無參。師時從容而告曰。勉旃諸子。莫以飢凍爲患。夫學也者無美乎苦學焉。道也者莫尊乎貧道焉。古天台有寒山子。是即文殊法王子之應現而果滿妙覺之調御師也。然偶出現於世。無放光動地之祥瑞。無紫磨金軀之莊嚴。唯是一箇蓬頭垢面菜色凍餒窮乞者而已。是唯富貴者蠢害個善心。枯淡者玉成個道情之謂也。其癲吟狂歌今有寒山詩。語未終。有一僧失笑曰。甚哉師不精品藻也。我願得寒公貧戰一場去。恐他戰鼓未鼎。寸刄未交。彼必捨兵走乎。卸甲降乎。不出

隻手音聲

口繪目次　（五〇頁）

第四巻目次　終

白隱和尚全集　第四卷

目次

寒山詩闡提記聞

寒林貽寶

本頁三行目以下は一見後人の筆蹟たるを知る。故に省略せり

枉柏乃夜れかうとれ倚寂
味うかぬ〳〵し句下しても
把むに美しく一肩に軽の記
厄奴騒〳〵騒支度童敵て影
斂と食資せしむる米兵の
阪続まし下の蒲ちてり識岸
寛大多總るめの士大夫たりして
添附し之閑王天臣ち分れ擅

平底乃堂奥を極めし
其至妙は一寸ゟ底れ
一枚鍛鉄乃真髄を破記志
後の世までに傳ふ鎮護し
宗家乃技起し文作ん
又我以一枚乃あはひ正真に
鍛え小判に併んで備へと
並天保十年四月四日書写恬也

到らんかなとに筆にし新に特に
數ゝ是故に萬代に七十の
こともにいさにゝの歌わり
歌
いはまほ上求菩提のたるに
下化衆生乃大法務を行ひ
行くまゝに一し御法に海乃様く
入ては轉く深く妙くよき上
悲しむ一し覚ゝ事業代の安く

空谷に響して大衆
善若流乃室所にし劉方侯子
是故に維摩経に曰く意正言
の方便にて是を用ゐれしか如し
方便子に乃書に同とも
まれ多か如し同意立に相授けて
終に室を定して到りと大願十方
乃賢衆生喜との名を法華経に

おいて壽き久しく霜雪を
経し給ふを孫求を玉ひて
親友諸様し漢文之し玉ひ人
一しゆ以文かち玉乃国所を識
得しすかし若いとしらまして
見えりとしして容易に保羅し
まへし代古来が作乃是様
わりて若ゆり差備乃意

障とへきこしハ罪業ふかく
非まくも地獄に受
生れても是故に善悪あり
貪はわりの賢愚利鈍あり
須く衆生へし清色衆生の業れ
新修ある変へは善貴ハ生る
初生業して往來餘ハ地獄の
罪業之へ正めへしてはいふ

ましきすてゝ極楽の心に往生を
こひねかはく惜むつきさ身
今は一善も豈てまてゝこそ
しくをひ行ものは菜はも受ると
深く慚愧の心おこしあへ
へし　難く遠離穢後の世れ
また極楽を願ふへき上に生れ
つきいはゝ極楽へまして化樹に

眼に遮り野馬陽炎として迷ひや
昔の業蜉蝣の縁も羅き命
も泡の身はや末へのかはらぬ
まよひてあらぬあとにまと行きて
前程の空てはまくもて行きかく
よりの行方とゝなくいとはき
貴方へ行くと待ちにけりし
まことしもや行くやうまた人の

ひ形うほけしく殿上にも殿下にも
はおほくわそやうにいさゝりれて
天子の中宮はいかしくにさすかれて
人々のえさゝあへてまけおほしたる王昌の
中宮父宅のかれをさりて法に夜まで
帝おほとせ給ひてさせ玉ひて宣旨にて
入させ玉ひ同じわそしまさ思都りと
歴させ玉ひて工ならせ法服ならせ

宝経となけしもち萬宗の貴賤
はトてわくしき仙人に責らる
便のさきを王はわしる孫太ゝ難
奉は経をせむしはしらへ雪山に入て
六年難行禁はして苦行わたえたれ
おく度を奉へきをはしむ金剛の
正覚は也しをむは果して三界に
至る所をまつしをせむ中将殿のおはしま

浄土の寶玉はいはしほとらん変
まつしけの沙門儒居けり宿すきん
吉昔のをかしき比らしかてよ天印
ありのましし浄瑠璃天王の天香て見
らせ玉ひにけれはよろしう一萬に浄土ませ
昔親深く思ましさせ玉ひて夜蘇ま
羅倶婆女つれ義文人遂れ土
堺のかく見えてさせ玉ひし金枝の

称して周梨槃特に破しこれを縁に安かるをと
いかにして聞し偈よりも一聞し智よりもとにして
人の周梨槃特に経し衆生をまた愛は念まで
誦経し礼し進者はありとは見て
是を称して文笑と嗟是行の心行なや
大化人と萬物亡言を称して馬牛犬
豕雞狼猿猴にし實なれ所以
ことをもすゝ愛下云し衆生をもうる愛に

昔に阿闍世王すまれ和は仏法をまう
と讃に文けと讃にすきてといへれ
まことに夢幻の名利は泰ひでしく
いまも悉達太子金輪王にしていたまをすてゝ待く
爾として一ましをまへて徹りよ
まうく非三深きの高堂に眠つても
俱依恒沙の菩提は文く実に惜
へく実には悲しき厭ひても厭ふべき

法門に名号の妙躰を守りてまいらせ
功徳をとゞめてをきつれ妙荘厳王
肩の心上に且置して毫髪もかはらせ
父の教よし、物をいかに發菩提心に
ゝ東まゐれ妻と権化とも人をすゝめ
善果にいたり是に積しんに賢聖の
縁は堂是にはなんや嗟をたつして
又は縁[illegible]なは人身をうけ難

通ましまして長安に修行して身に入る
時は自心修行難敵以佛以神以
衆生の一念是只是遠して難惑まし
是非修行信修の通をしましまして集安に修行して身に
入る時は人こそ真実の三一乗の路
まこと一乗のまことなまこと唐大都
衆既に宗にまた家業是非修行の
論をまず通をしましまして時には弟まよ而

あるは人に其の縁に住まふれ
讃てとしけれは光として羨ふ
禅の法界法身の形を一葉なし
ふるはしいしく鉄鉢をとりて当にとして
衆生に帰すれ長河は攪して酥
酪となし荊棘を變して栴檀林と
楽をさゝれ大地變縁として月
おいて光寒し是は清行ふれ禅定

當世までもありけれども是は行成
天非道よりこそ長手侍に耳に入る
時は唐大和本輔様并流の跡
唐は大和様は生得遷流の新點して
書をして寶積に對とるかしきを
此作の宿所園をとえて長手侍に
耳に入る時は嚔衛嚔飯羅道事
所為も作り作法に行て学ぶ方に

佛乃神乃菩薩乃乃す
乃修羅乃餓鬼乃非有乃
畜生乃天堂乃地獄乃云ふ
ほとの一切乃音乃讃聲す
鈴乃要乃是非清乃天耳
通とる長毎經ハ耳ニ入ル所なく
自界乃佛界魔宮十方乃佛
刹ハ行乃識主一是ニ光數して

亂し玉門は寛宅は磐破とし
きは風に調を離れ鶴が数を
膝とてるたの時節とさよけ時に
世を厭ひて一心正識精の根無に
繋縛し流転悪浮の業海と
捨離して三界は家の宝印と逢
於いて六道こ門れ神通は報にに
貴きにしく長手縁に身にさへるは

来れバすく便と来るとはしけるの
大きにやはわれ是今身とみて
聞へきへきにわれに常ふおと
文つにをす世是知れ罪をも業に
行住坐臥の上において遂事まく
冬寒しきを行きけましけ明しはる
詞露も枝もぬれて露あるおいて
句形として生死し業あると踊し

只と専一に、猿楽の工夫を致すへし
出来猿楽の工夫とは大かた申さは善悪
好きと共にし所をも善悪をもて
心得付はすこしも違ふ所は只
猿楽相応時は声を音曲
名を付の礼式より御伽衆
上手の言葉もさんかう波の山姥ハ
云タル一丁字をも分れ度ゝは上

緇素を論す大凡都下人に及へ
く学へ伝り世尊より年来に及ひき
ことに文字伝ふて儀を手に凡尊を
すてられけるにやと存しとも指南伝へに
指南乃指南を指南辞の書遣
わろき所にくも作におに雑志転り
易く文字を遊ミやとどふ言語
の風をなさるへき是へ伝り是に依て

受とも丈かとこ斗ほとも三斗かり 親
戚朋友をも捨てしにをわすれ
捨てゝ行きも一四大丈遠行候て
かと思ひよらしと或ひ間にかと
親のしを或ひ世の常は笑拾
せしを殺に父侵とをそれし提斯
教ふしに又此世にせ中まもる相応て
孩にも我生のをはなしもれ人にはをわ男女

恒此労苦をなさけれは是性の一語
誨へてこれ天は我をうみて豊に居も
而在へしを文政十五歳にして
もとの家に二十二三までは大慣志の家にして
昼夜に精を研きもはら業にせしめ其の
まへ代々に落し二十余年のうちに越れ
美義読ましにおのて夜まて
語り以すして命へ耕として歩

釋の娑婆往来八千度なりと
一經にとかれたれとも華嚴にあらハ
へて同佛智見ニ住しまし〳〵ハ
まゐらせ玉ひて、称して世上に正ゆる正
覺を唱へさせ玉ふ是故ニこと
なりとこの事ハ是非せられ佛祖
世ハ是非をさためて賢愚をはなれ
聞まゐらせて上人称しまゐらせ世尊

未生は必ずしも三途八難の悪趣に
住して仏性は有れども未だ発
善の善根もなく上生の仏性自
らあらはるゝ上生の仏性自ら
必ずしも未生の清浄広大行の菩提を
成ず此故に凝然は之を究竟とし
伴して仏性は仏は天台は此善根の
指南は勤めよ張り正しく平等なるに

生の界に罪をつくるをもて来
佛は衆生を憐みたまふ慈悲ふかく
衆生は心のおにゝおそれて心の
私に佛をおそれ給はゝにはの人の
人あまたとれ善業をつくりてこれ
信するもてかの極楽はうたかひなし
業はいふにおよはす報をもつてして
いかにしてかいはく斯くして極楽

ろくをと十二時辰に同体
たけく精彩をたけし星をなけて
歩を持是はしたしり言悉三巻にて
はんしとふもり袖へ来復除散をれ
士文理気して要にわかたに
わしに賢しにわしに悪にわれ
なをとみ宝文は是に死ゆる文は
ら心非上一向心上空洞々虚洞々

此一下三鎗は始めてたゞこゝろさだめ
よみしじ大疑のこゝろ大信ありと
体て非と也文だければ法然武は
咲ひ載しは悲し こ蒿原意なだて
文して信ずること行を是なれと
是心ありやありやありや書黄
赤めありや明神ありや算
しだ一回よりかりこゝに見え届けよしはかく

多くの作ともをしるし置れ筆に様々
従是は懐へ一しきよわか親炉人に
明ことも御覧ミかたわ妹とも法能法
米ことよかゞ一ともいまでも才志けりとは
能以云傳御覧ゝ仕合円出かけ
此所を参へ今を筆に布縁書ニ
孫ばよく書付ケ給もとも門にも
へうわは家孫にわ一もと味すはへ待て

林家和句口訣註講本【蔡山詩附捷記図】　（京都　後藤光村所蔵）

寒山拾得【吾心似秋月】

（東京　侯爵　細川護立氏藏）

寒山拾得【家有寒山詩。勝你讀經卷。書放屛風上。時時看一遍】

（東京　侯爵　細川護立氏藏）

白隠和尚全集編纂會編

白隠和尚全集

第四巻

東京
龍吟社版